

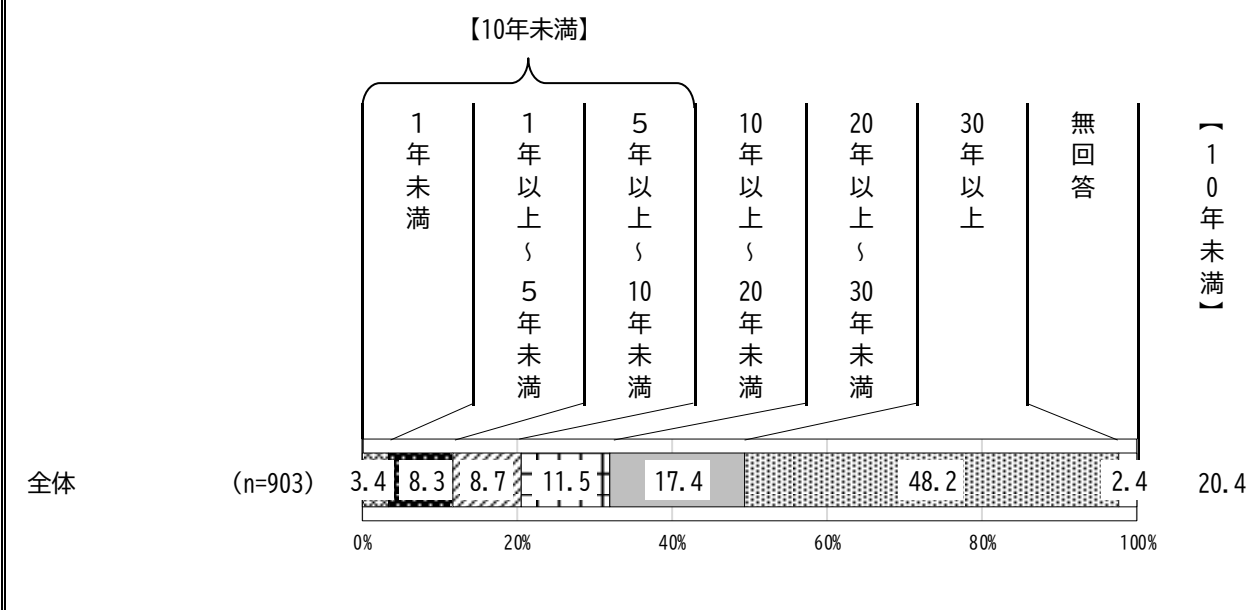
Ⅲ 結果の分析

1 定住意識と住みやすさ

(1) 居住年数

問1 あなたは、福生市に住んで何年になりますか。(○は1つ)

<図表1-1>居住年数

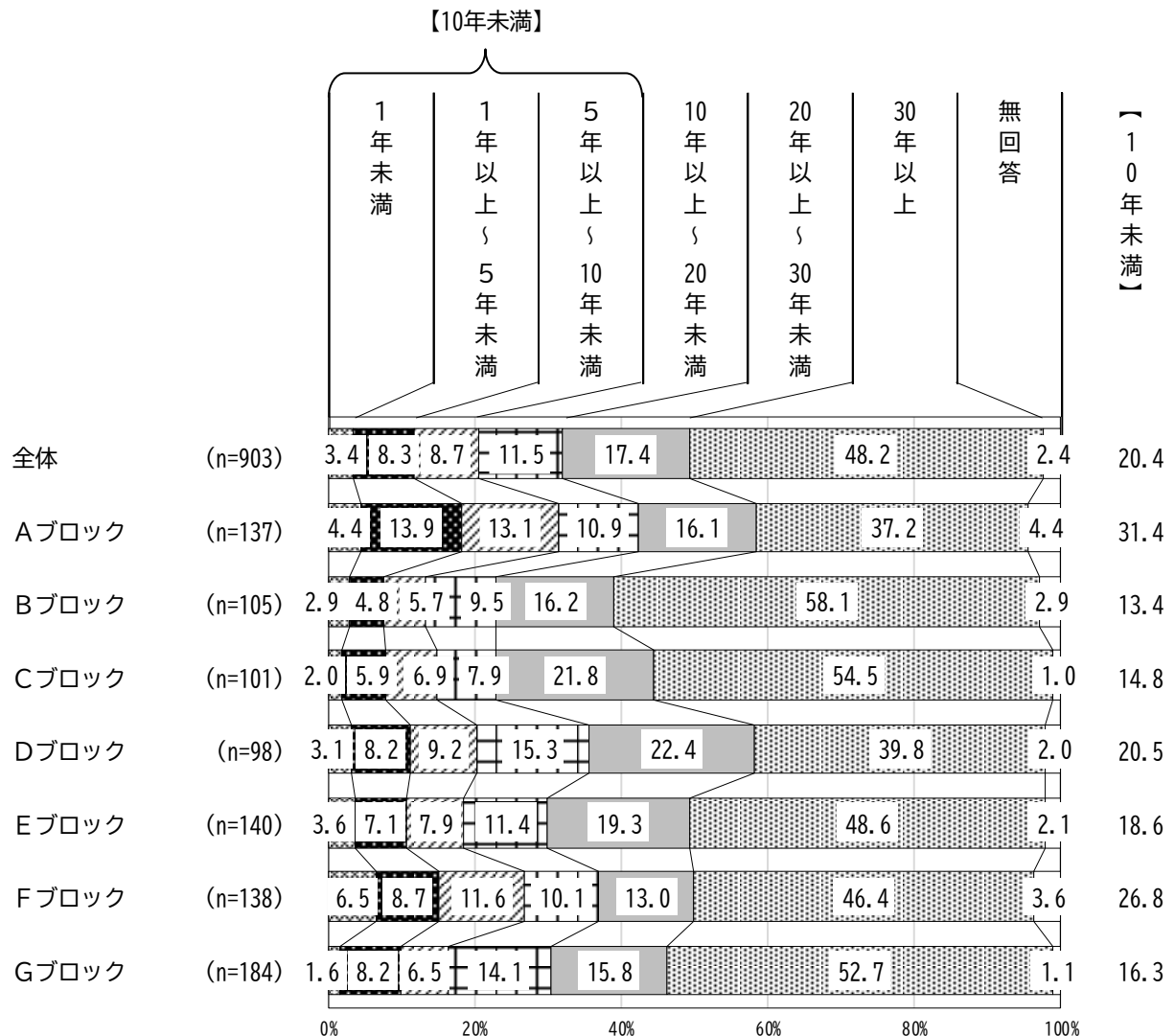


<調査結果>

居住年数について聞いたところ、「30 年以上」(48.2%) が5 割近くと最も高く、次いで、「20 年以上～30 年未満」(17.4%)、「10 年以上～20 年未満」(11.5%) となっています。

「1 年未満」(3.4%)、「1 年以上～5 年未満」(8.3%)、「5 年以上～10 年未満」(8.7%) を合計した【10 年未満】(20.4%) が約 2 割となっています。

<図表1-2> 居住年数／ブロック別

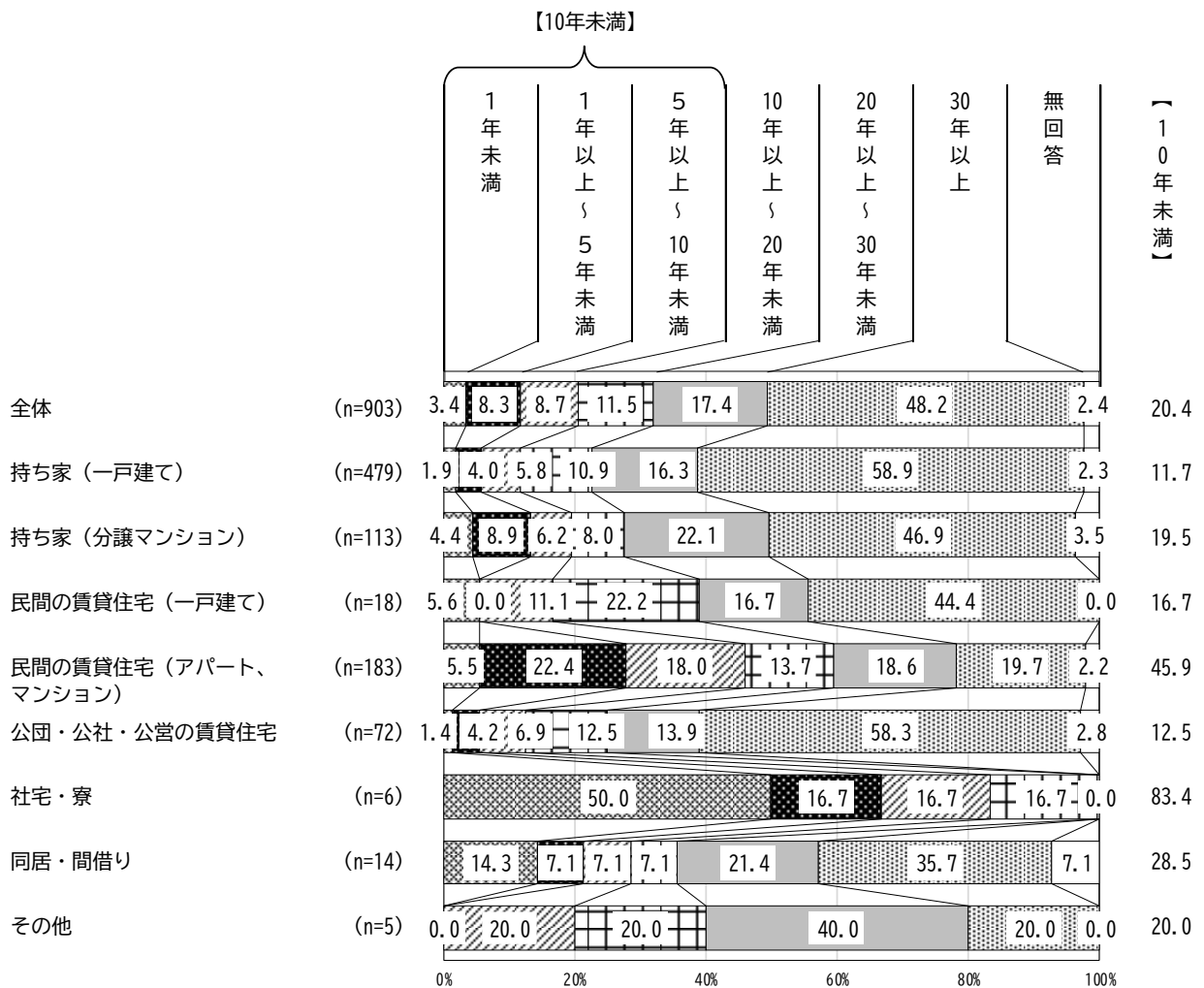


<調査結果>

居住年数についてブロック別に見ると、居住年数が30年以上の割合は、Bブロック（58.1%）が最も高く6割近くとなっています。一方で、Aブロック（37.2%）とDブロック（39.8%）は、いずれも3割台となっています。

【10年未満】の割合は、Aブロック（31.4%）が最も高く3割を超えています。一方で、Bブロック（13.4%）が1割を超えています。

<図表1-3> 居住年数／住居形態別



<調査結果>

居住年数について住居形態別に見ると、【10年未満】の割合は、社宅・寮（83.4%）が最も高く8割を超えています。また、民間の賃貸住宅（アパート、マンション）（45.9%）が4割半ばとなっています。

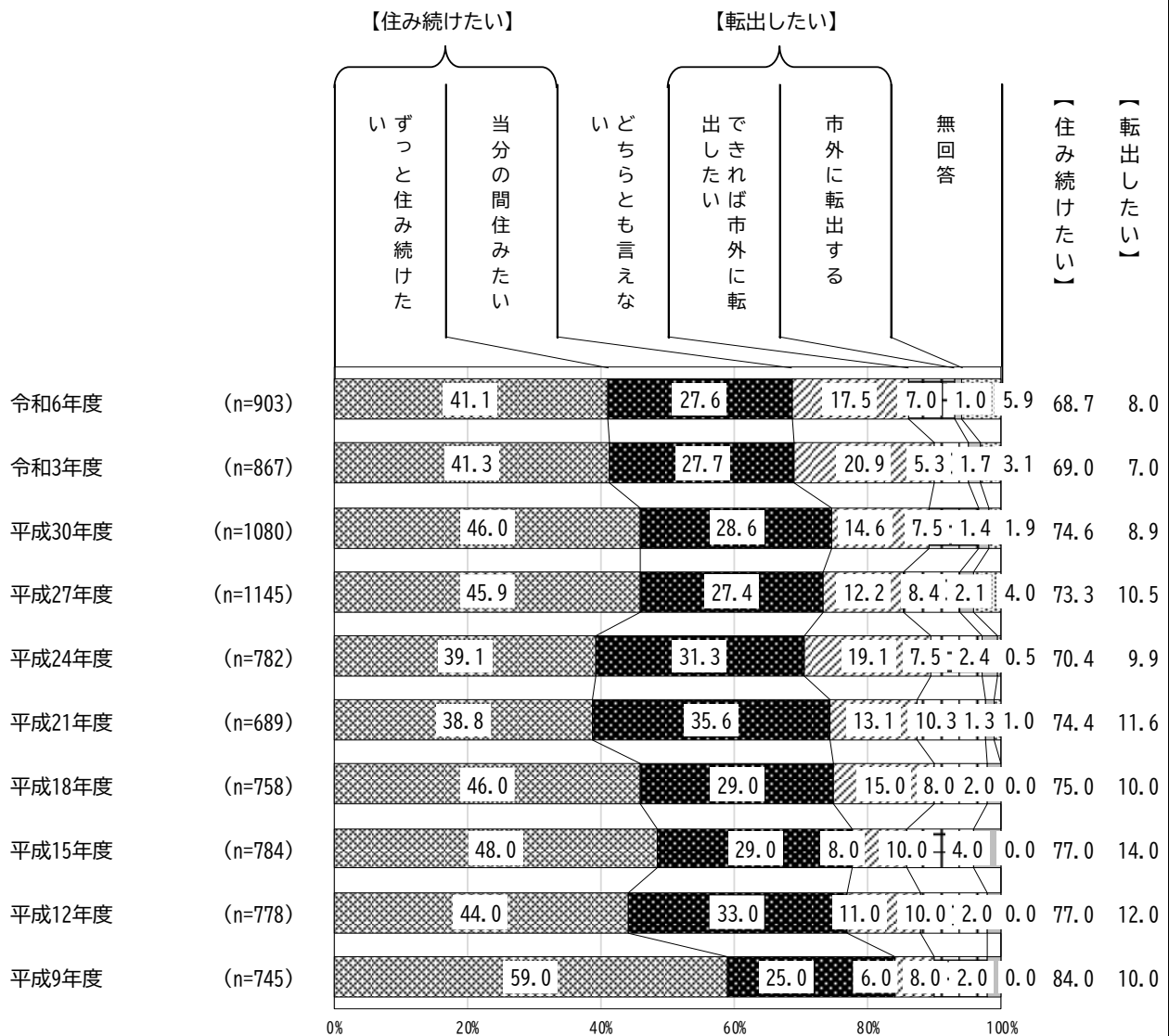
持ち家の方は、一戸建て、分譲マンションともに、【10年未満】の割合（一戸建て 11.7%）（分譲マンション 19.5%）が1割台となっています。

居住年数が30年以上の割合は、持ち家（一戸建て）（58.9%）、公団・公社・公営の賃貸住宅（58.3%）が6割近くとなっています。

(2) 定住意向

問2 あなたは、今後も福生市に住み続けたいと思いますか。それとも市外に転出したいと思いますか。(○は1つ)

<図表2-1>定住意向

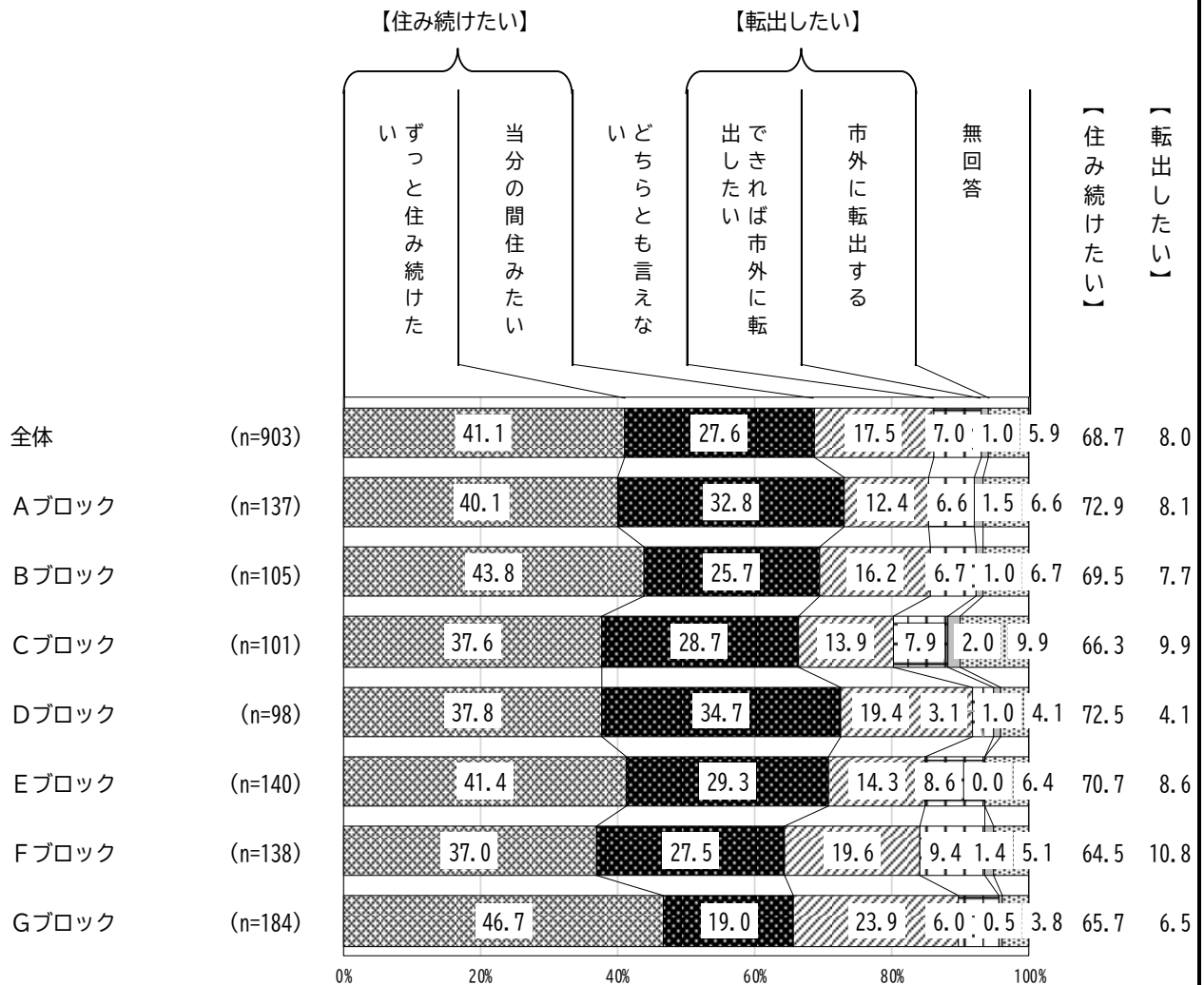


<調査結果>

定住意向について聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(41.1%)が4割を超え最も高くなっています。

また、「ずっと住み続けたい」(41.1%)と「当分の間住みたい」(27.6%)を合計した【住み続けたい】(68.7%)が7割近くとなっています。一方で、「できれば市外に転出したい」(7.0%)と「市外に転出する」(1.0%)を合計した【転出したい】(8.0%)が1割未満となっており、【住み続けたい】が大きく上回っています。

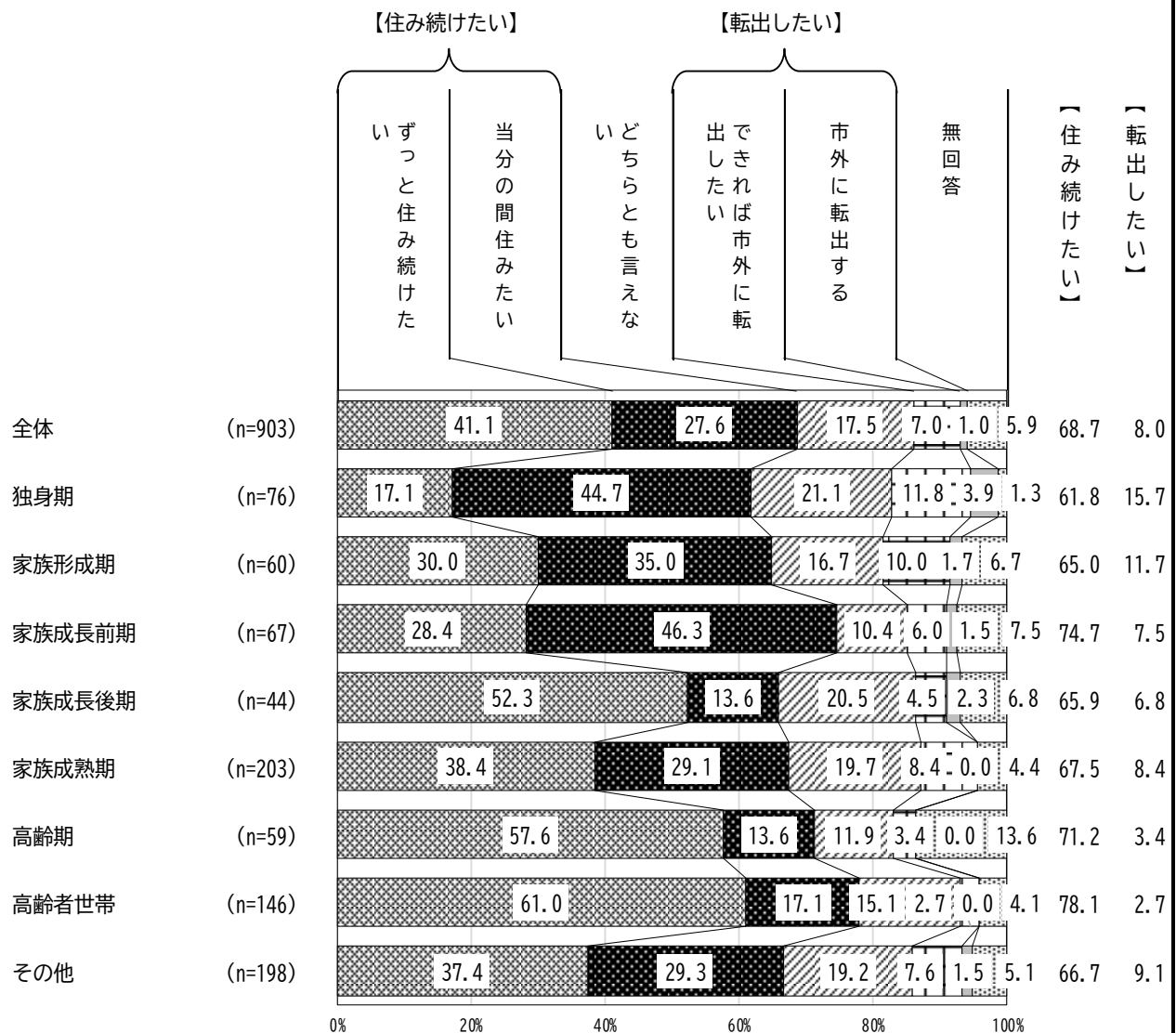
<図表2-2> 定住意向／ブロック別



<調査結果>

定住意向についてブロック別に見ると、【住み続けたい】の割合は、Aブロック（72.9%）が最も高く7割を超えています。一方で、Fブロック（64.5%）が6割半ばとなっています。最も高いブロックと最も低いブロックでは8.4ポイント差が開いています。

<図表2-3> 定住意向／ライフステージ別



<調査結果>

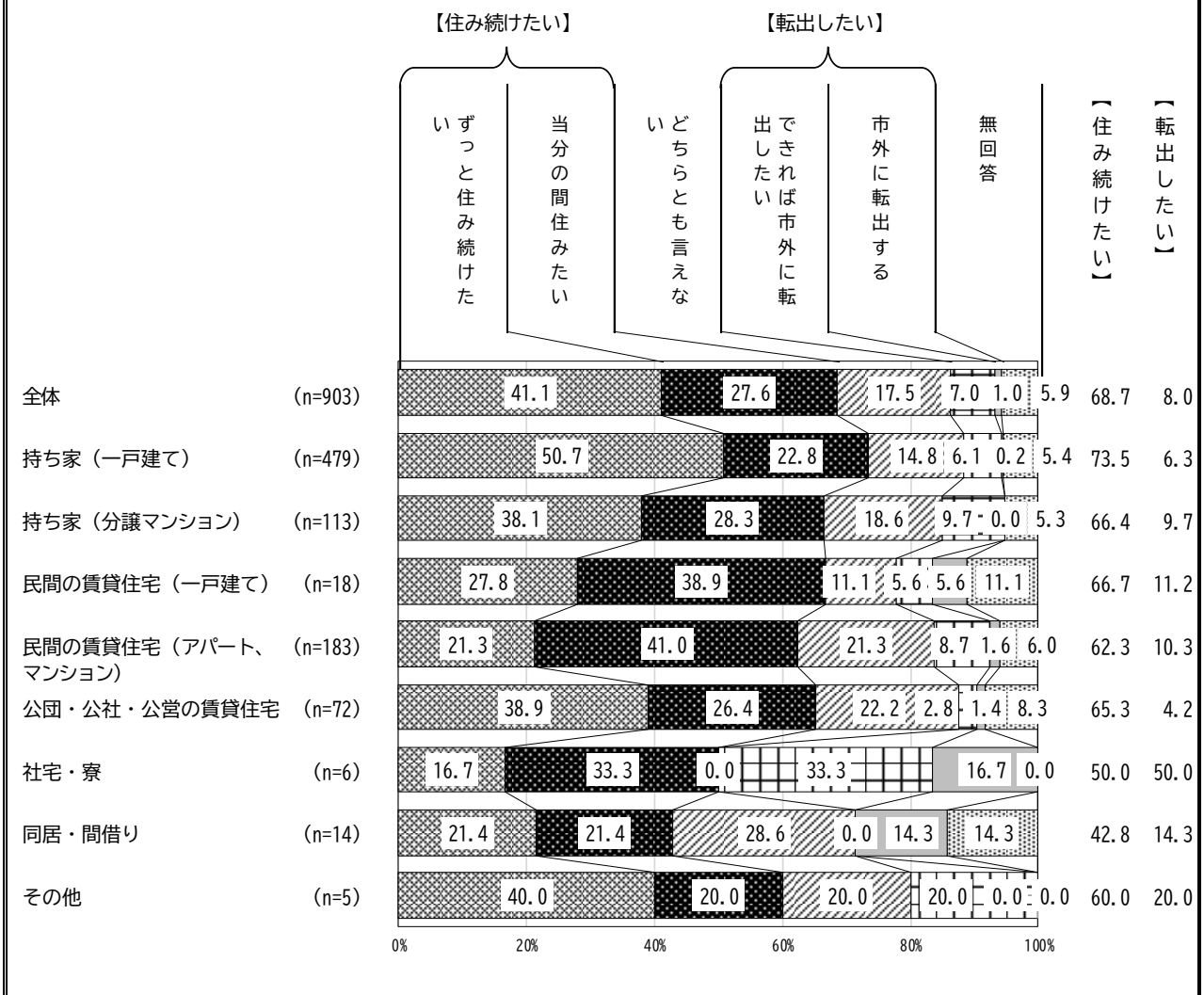
定住意向についてライフステージ別に見ると、【住みたい】の割合は、高齢者世帯（78.1%）が最も高く8割近くとなっています。一方で、独身期（61.8%）が最も低く6割台となっています。最も高い高齢者世帯（78.1%）と最も低い独身期（61.8%）では、16.3ポイント差が開いています。

【住みたい】は、高齢者世帯（78.1%）が8割近く、高齢期（71.2%）が7割を超えており、ライフステージが高齢層で定住意向が高くなっています。

【転出したい】の割合は、独身期（15.7%）、家族形成期（11.7%）が1割台となっており、ライフステージが若年層で高い傾向が見られます。

※ライフステージ区分については、15、16 頁参照

<図表2-4> 定住意向／住居形態別



<調査結果>

定住意向について住居形態別に見ると、【住み続けたい】の割合は、持ち家（一戸建て）（73.5%）が最も高く7割を超えています。また、持ち家（分譲マンション）（66.4%）、民間の賃貸住宅（一戸建て）（66.7%）、民間の賃貸住宅（アパート、マンション）（62.3%）、公団・公社・公営の賃貸住宅（65.3%）が6割台となっています。

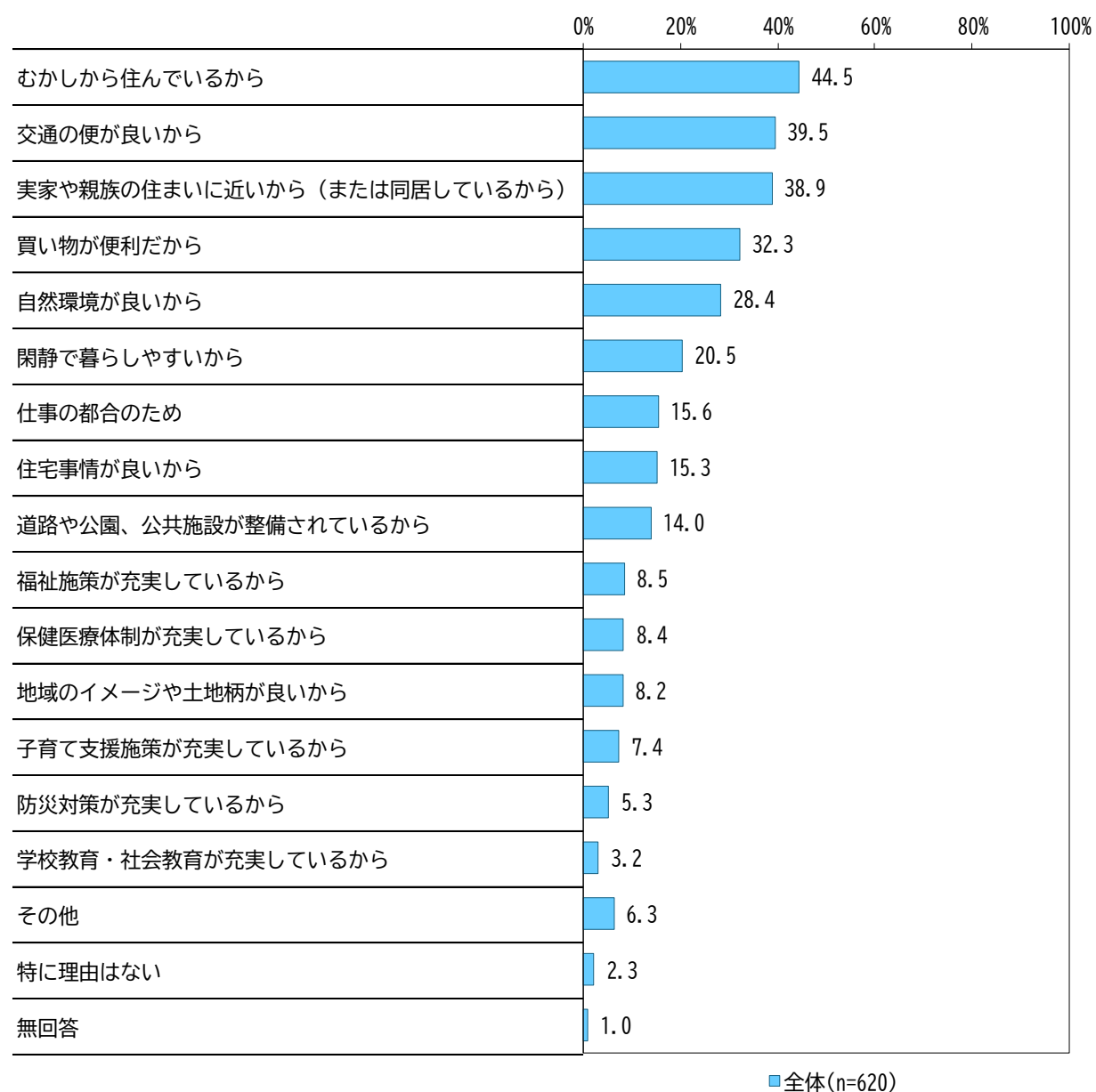
【転出したい】の割合は、民間の賃貸住宅（一戸建て）（11.2%）、民間の賃貸住宅（アパート、マンション）（10.3%）がいずれも1割台となっており、持ち家よりも【転出したい】の割合が上回っています。

(2-1) 定住したい理由

問2で「1 ずっと住み続けたい」「2 当分の間住みたい」と回答した方に伺います。

問2-1 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

<図表 2-1-1> 定住したい理由



<調査結果>

定住したい理由について聞いたところ、「むかしから住んでいるから」(44.5%) が4割半ばで最も高く、次いで、「交通の便が良いから」(39.5%)、「実家や親族の住まいに近いから (または同居しているから)」(38.9%) となっています。

<図表 2-1-2> 定住したい理由(上位 10 項目)／ブロック別

		n	むかしから住んでいるから	交通の便が良いから	実家や親族の住まいに近いから（または同居しているから）	買い物が便利だから	自然環境が良いから	閑静で暮らしやすいから	仕事の都合のため	住宅事情が良いから	道路や公園、公共施設が整備されているから	福祉施策が充実しているから
	全体	620	44.5	39.5	38.9	32.3	28.4	20.5	15.6	15.3	14.0	8.5
ブロック別	Aブロック	100	35.0	54.0	33.0	13.0	32.0	19.0	19.0	24.0	17.0	6.0
	Bブロック	73	64.4	35.6	46.6	6.8	24.7	12.3	8.2	9.6	0.0	4.1
	Cブロック	67	50.7	23.9	32.8	20.9	47.8	31.3	16.4	10.4	23.9	10.4
	Dブロック	71	36.6	47.9	40.8	50.7	29.6	21.1	16.9	12.7	14.1	8.5
	Eブロック	99	46.5	43.4	40.4	48.5	17.2	16.2	16.2	12.1	14.1	9.1
	Fブロック	89	43.8	25.8	37.1	32.6	31.5	25.8	20.2	13.5	10.1	7.9
	Gブロック	121	40.5	40.5	41.3	45.5	23.1	19.8	12.4	19.8	17.4	12.4

<調査結果>

定住したい理由について、「交通の便が良いから」の割合をブロック別に見ると、Aブロック（54.0%）が全体よりやや高くなっています。一方で、Cブロック（23.9%）が全体より低く、Fブロック（25.8%）が全体よりやや低くなっています。

「買い物が便利だから」の割合をブロック別に見ると、Dブロック（50.7%）、Eブロック（48.5%）が全体より高く、Gブロック（45.5%）が全体よりやや高くなっています。一方で、Bブロック（6.8%）が全体よりとても低くなっています。

「自然環境が良いから」の割合をブロック別に見ると、Cブロック（47.8%）が全体より高くなっています。一方で、Eブロック（17.2%）が全体よりやや低くなっています。

「閑静で暮らしやすいから」の割合をブロック別に見ると、Cブロック（31.3%）が全体よりやや高くなっています。

<図表 2-1-3> 定住したい理由(上位 10 項目)／ライフステージ別

		n	むかしから住んでいるから	交通の便が良いから	実家や親族の住まいに近いから（または同居しているから）	買い物が便利だから	自然環境が良いから	閑静で暮らしやすいから	仕事の都合のため	住宅事情が良いから	道路や公園、公共施設が整備されているから	福祉施策が充実しているから
全体		620	44.5	39.5	38.9	32.3	28.4	20.5	15.6	15.3	14.0	8.5
ライフステージ別	独身期	47	51.1	29.8	61.7	27.7	17.0	19.1	21.3	19.1	10.6	6.4
	家族形成期	39	25.6	33.3	51.3	17.9	23.1	23.1	41.0	12.8	17.9	12.8
	家族成長前期	50	16.0	38.0	56.0	34.0	32.0	14.0	16.0	8.0	16.0	6.0
	家族成長後期	29	37.9	41.4	37.9	13.8	34.5	34.5	24.1	13.8	17.2	6.9
	家族成熟期	137	45.3	35.0	33.6	27.7	27.0	19.7	16.8	19.0	10.2	3.6
	高齢期	42	54.8	45.2	31.0	28.6	11.9	19.0	0.0	7.1	11.9	9.5
	高齢者世帯	114	50.0	55.3	32.5	46.5	37.7	23.7	6.1	16.7	19.3	13.2
	その他	132	47.7	34.1	39.4	33.3	30.3	19.7	17.4	16.7	11.4	6.8

<調査結果>

定住したい理由について、「交通の便が良いから」の割合をライフステージ別に見ると、高齢者世帯（55.3%）が全体より高くなっています。

「実家や親族の住まいに近いから（または同居しているから）」の割合をライフステージ別に見ると、独身期（61.7%）、家族成長前期（56.0%）が全体より高く、家族形成期（51.3%）が全体よりやや高くなっています。

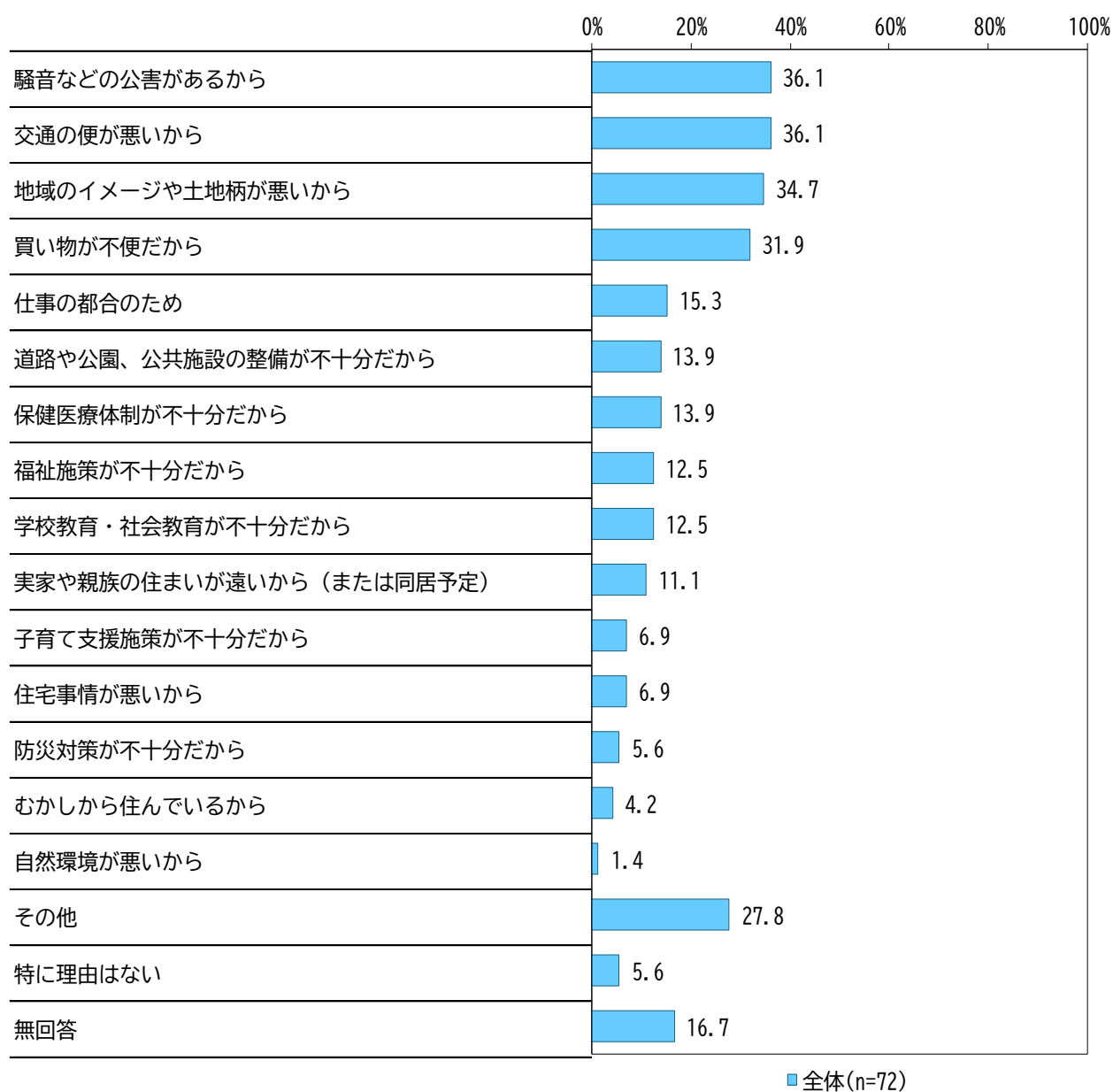
「仕事の都合のため」の割合をライフステージ別に見ると、家族形成期（41.0%）が全体よりとても高くなっています。

(2-2) 移転したい理由

問2で「4 できれば市外に転出したい」「5 市外に転出する」と回答した方に伺います。

問2-2 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

<図表 2-2-1> 移転したい理由



<調査結果>

移転したい理由について聞いたところ、「騒音などの公害があるから」(36.1%)、「交通の便が悪いから」(36.1%)、「地域のイメージや土地柄が悪いから」(34.7%)が3割半ばとなっています。

<図表 2-2-2>移転したい理由(上位 10 項目)／ブロック別

		n	騒音などの公害があるから	交通の便が悪いから	地域のイメージや土地柄が悪いから	買い物が不便だから	仕事の都合のため	道路や公園、公共施設の整備が不十分だから	保健医療体制が不十分だから	福祉施策が不十分だから	学校教育・社会教育が不十分だから	実家や親族の住まいが遠いから（または同居予定）
全体		72	36.1	36.1	34.7	31.9	15.3	13.9	13.9	12.5	12.5	11.1
ブロック別	Aブロック	11	36.4	9.1	27.3	54.5	18.2	27.3	27.3	0.0	9.1	18.2
	Bブロック	8	62.5	37.5	37.5	50.0	12.5	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5
	Cブロック	10	30.0	40.0	20.0	30.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	20.0
	Dブロック	4	25.0	0.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0
	Eブロック	12	25.0	50.0	50.0	8.3	16.7	16.7	16.7	25.0	8.3	8.3
	Fブロック	15	46.7	26.7	26.7	26.7	6.7	20.0	6.7	6.7	20.0	13.3
	Gブロック	12	25.0	66.7	50.0	33.3	25.0	8.3	8.3	16.7	16.7	0.0

<調査結果>

移転したい理由について、「騒音などの公害があるから」の割合をブロック別に見ると、Bブロック（62.5%）が全体よりもとても高く、Fブロック（46.7%）が全体よりやや高くなっています。一方で、Dブロック（25.0%）、Eブロック（25.0%）、Gブロック（25.0%）が全体よりやや低くなっています。

「買い物が不便だから」の割合をブロック別に見ると、Aブロック（54.5%）、Bブロック（50.0%）が全体より高くなっています。

※いずれも n 数（サンプル数）が少ないため、参考値となります。

<図表 2-2-3>移転したい理由(上位 10 項目)/ライフステージ別

		騒音などの公害があるから	交通の便が悪いから	地域のイメージや土地柄が悪いから	買い物が不便だから	仕事の都合のため	道路や公園、公共施設の整備が不十分だから	保健医療体制が不十分だから	福祉施策が不十分だから	学校教育・社会教育が不十分だから	実家や親族の住まいが遠いから（または同居予定）
	n										
全体	72	36.1	36.1	34.7	31.9	15.3	13.9	13.9	12.5	12.5	11.1
ライフステージ別	独身期	12	25.0	41.7	33.3	8.3	25.0	8.3	8.3	16.7	0.0
	家族形成期	7	0.0	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3
	家族成長前期	5	20.0	40.0	60.0	60.0	20.0	20.0	20.0	60.0	20.0
	家族成長後期	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0
	家族成熟期	17	52.9	47.1	47.1	17.6	11.8	5.9	23.5	5.9	11.8
	高齢期	2	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	高齢者世帯	4	50.0	50.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	その他	18	50.0	27.8	22.2	50.0	16.7	16.7	16.7	5.6	22.2

<調査結果>

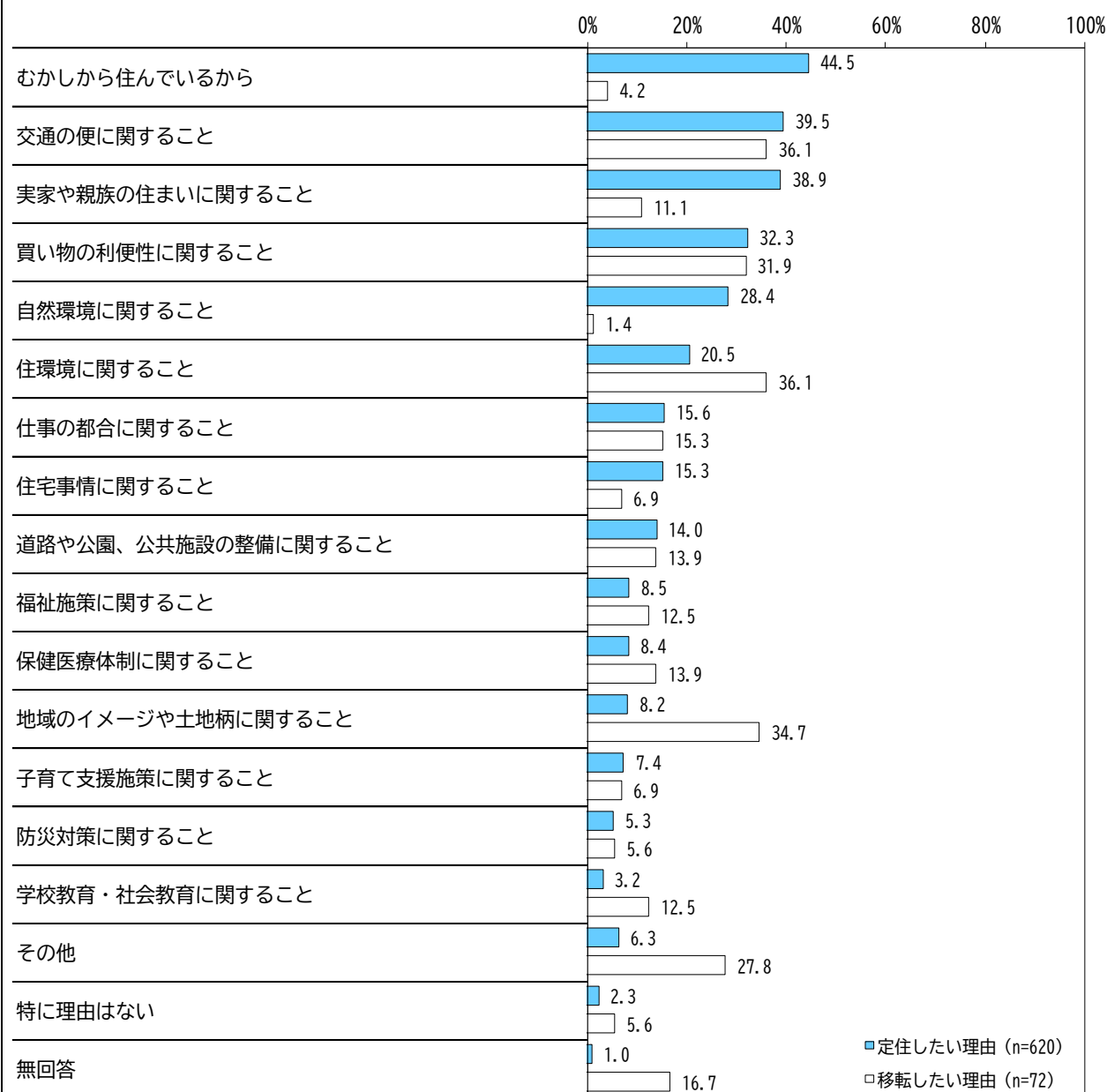
移転したい理由について、「騒音などの公害があるから」の割合をライフステージ別に見ると、家族成熟期（52.9%）が全体より高く、高齢期（50.0%）、高齢者世帯（50.0%）、その他（50.0%）が全体よりやや高くなっています。一方で、家族成長前期（20.0%）が全体より低くなっています。

「地域のイメージや土地柄が悪いから」の割合をライフステージ別に見ると、家族成長前期（60.0%）が全体よりとても高く、高齢期（50.0%）が全体より高くなっています。

※いずれも n 数（サンプル数）が少ないため、参考値となります。

(2-3) 定住したい理由・移転したい理由の比較

<図表 2-3-1> 定住したい理由・移転したい理由の比較



<調査結果>

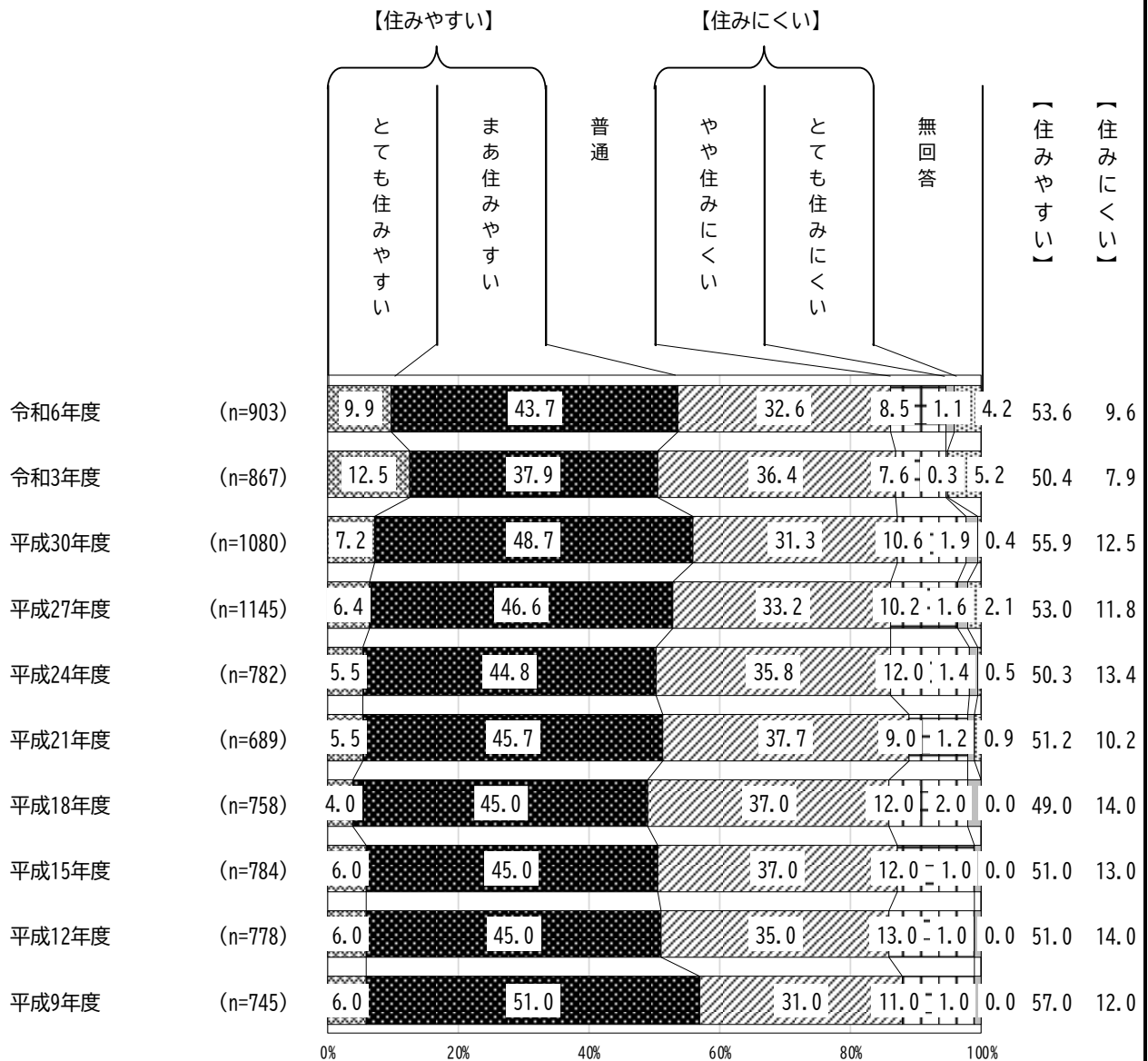
移転したい理由が定住したい理由を大きく上回っているのは、「地域のイメージや土地柄に関すること」で 26.5 ポイント差となっています。

「交通の便に関すること」、「買い物の利便性に関すること」は、定住したい理由として上位にある一方で、移転したい理由としても上位にあり、同じ市内でも地域ごとに感じ方が異なることが想定されます。

(3) 住みやすさ

問3 福生市は住みやすい所だと思いますか。それとも住みにくい所だと思いますか。(○は1つ)

<図表 3-1> 住みやすさ

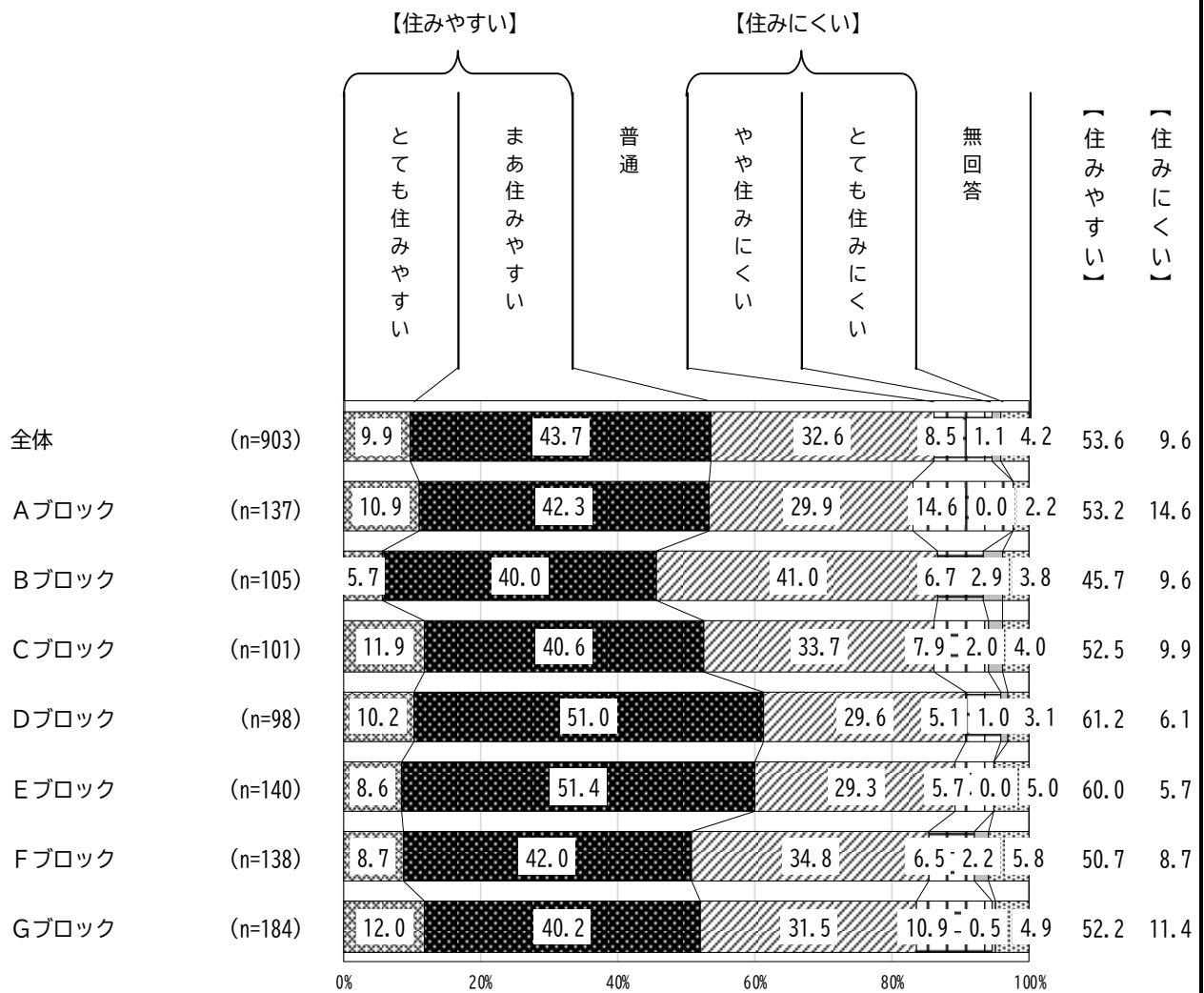


<調査結果>

住みやすさについて聞いたところ、「まあ住みやすい」(43.7%)が4割を超え最も高く、次いで、「普通」(32.6%)、「とても住みやすい」(9.9%)となっています。

「とても住みやすい」(9.9%)と「まあ住みやすい」(43.7%)を合計した【住みやすい】(53.6%)が5割を超えています。

<図表 3-2> 住みやすさ／ブロック別



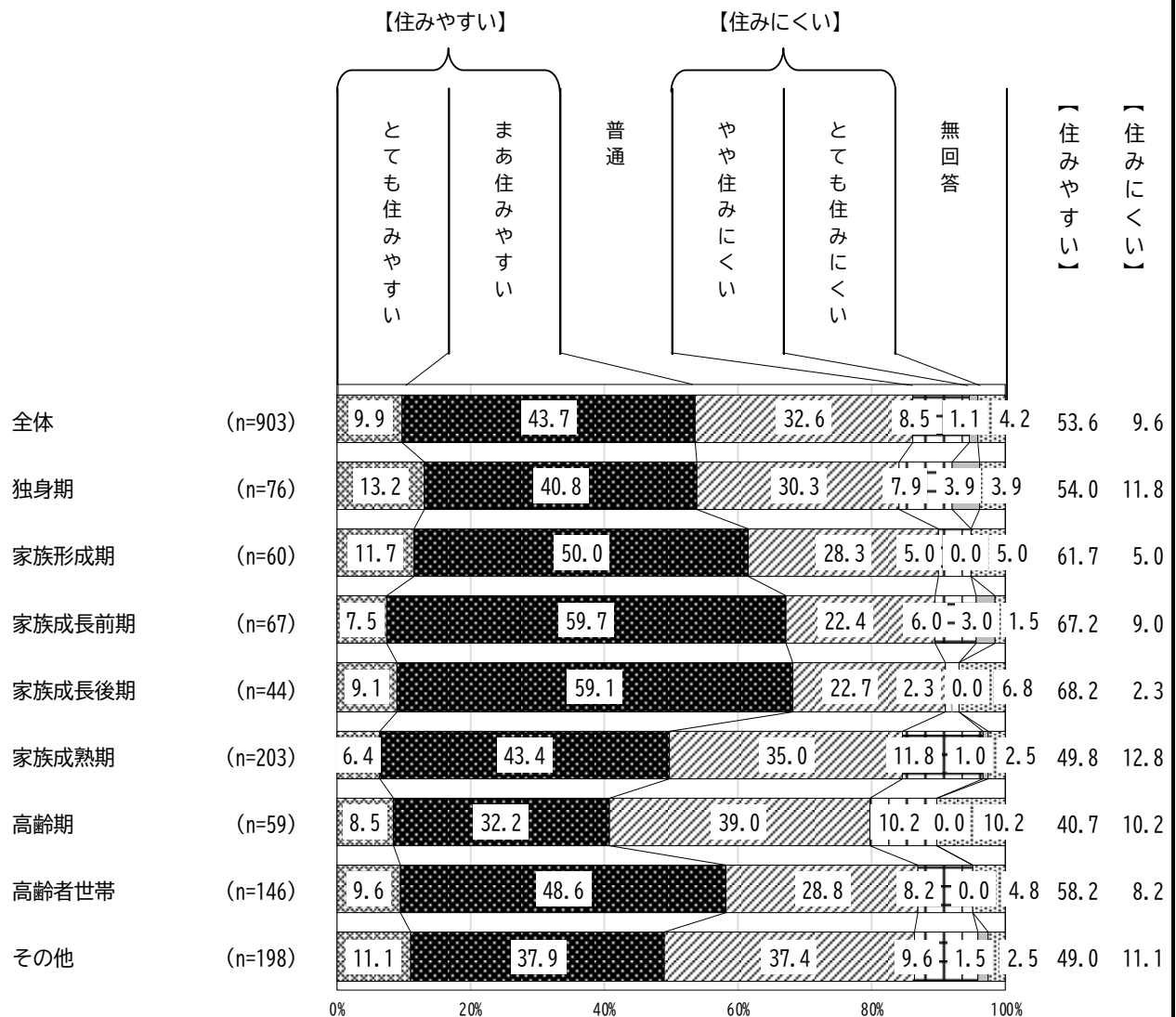
<調査結果>

住みやすさについてブロック別に見ると、【住みやすい】の割合は、Dブロック（61.2%）が最も高く6割を超えています。次いで、Eブロック（60.0%）が6割となっています。一方で、Bブロック（45.7%）が4割半ばとなっています。

最も高いブロックと最も低いブロックでは15.5ポイント差が開いています。

【住みにくい】の割合は、Aブロック（14.6%）で1割半ばとなっています。

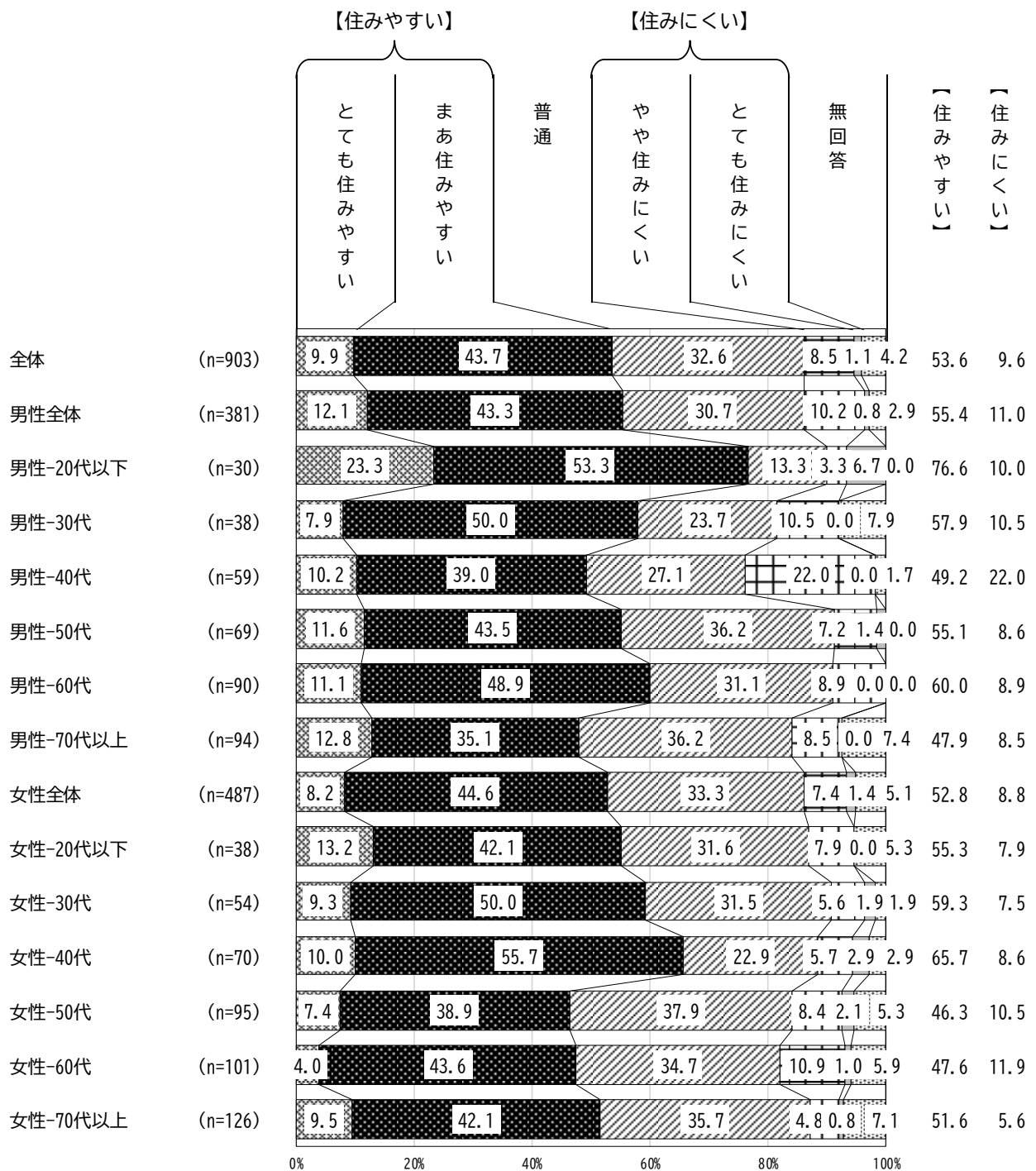
<図表 3-3> 住みやすさ／ライフステージ別



<調査結果>

住みやすさについてライフステージ別に見ると、【住みやすい】の割合は、家族成長後期（68.2%）が最も高く7割近くとなっています。次いで、家族成長前期（67.2%）、家族形成期（61.7%）となっています。一方で、高齢期（40.7%）が最も低く約4割となっています。また、家族成熟期（49.8%）、その他（49.0%）も約5割となっています。

<図表 3-4> 住みやすさ／性・年齢別



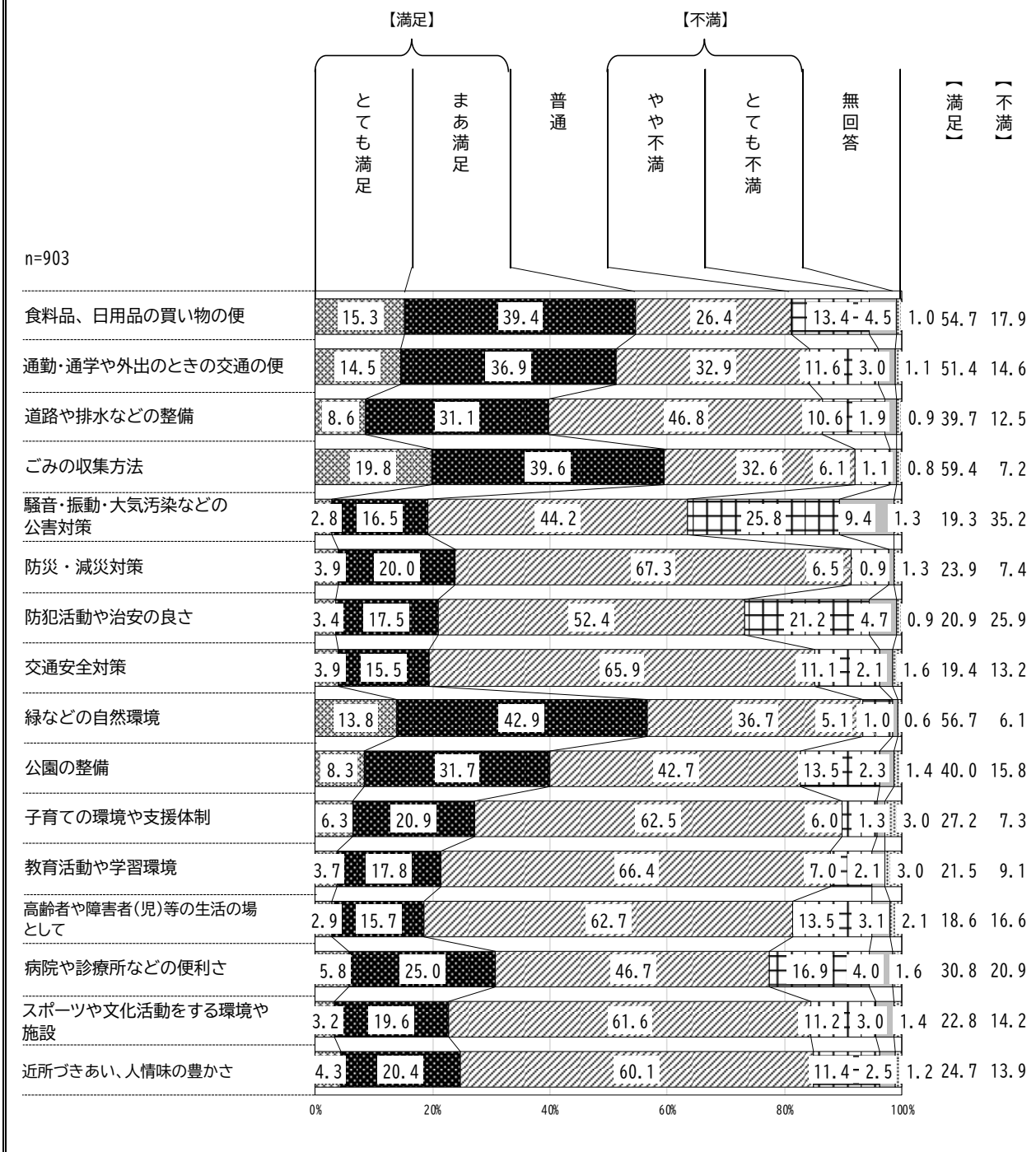
<調査結果>

住みやすさについて性・年齢別に見ると、【住みやすい】の割合は、男性-20代以下（76.6%）が最も高く7割半ばを超えています。一方で、女性-50代（46.3%）が最も低く4割半ばとなっています。

(4) 地域の生活環境評価

問4 「地域の住みやすさ」について、あなたは普段どのように感じていますか。次の項目について、それぞれ1つずつ番号を選んでください。

<図表 4-1> 地域の生活環境評価



<調査結果>

地域の生活環境評価について聞いたところ、「とても満足」(19.8%)と「まあ満足」(39.6%)を合計した【満足】は、「ごみの収集方法」(59.4%)が最も高く約6割となっています。

<図表 4-2> 地域の生活環境評価(「とても満足」「まあ満足」の合計)／ブロック別

	全 体	A ブ ロ ック	B ブ ロ ック	C ブ ロ ック	D ブ ロ ック	E ブ ロ ック	F ブ ロ ック	G ブ ロ ック
n	903	137	105	101	98	140	138	184
① 食料品、日用品の買い物の便	54.7	32.1	36.2	46.5	69.4	71.4	52.2	68.0
② 通勤・通学や外出のときの交通の便	51.4	57.7	42.9	29.7	63.3	57.1	44.9	57.6
③ 道路や排水などの整備	39.7	43.1	32.4	34.7	46.0	35.7	34.1	48.3
④ ごみの収集方法	59.4	62.0	64.7	54.5	59.1	53.6	55.1	65.3
⑤ 騒音・振動・大気汚染などの公害対策	19.3	22.6	9.5	20.8	18.4	12.8	22.4	24.5
⑥ 防災・減災対策	23.9	26.3	16.2	23.8	24.5	22.1	22.4	28.8
⑦ 防犯活動や治安の良さ	20.9	24.0	19.0	17.9	22.5	17.9	21.7	22.3
⑧ 交通安全対策	19.4	19.7	10.5	18.9	20.4	16.4	23.2	23.3
⑨ 緑などの自然環境	56.7	57.7	54.3	71.3	60.2	48.6	58.7	52.2
⑩ 公園の整備	40.0	41.6	37.2	50.5	42.9	37.1	39.1	35.9
⑪ 子育ての環境や支援体制	27.2	30.6	23.9	27.7	27.6	27.1	26.1	27.2
⑫ 教育活動や学習環境	21.5	22.6	15.3	20.8	24.5	20.7	21.7	23.4
⑬ 高齢者や障害者(児)等の生活の場として	18.6	18.2	13.4	14.9	19.4	20.7	20.3	20.6
⑭ 病院や診療所などの便利さ	30.8	19.7	18.1	29.8	39.8	38.5	29.7	37.0
⑮ スポーツや文化活動をする環境や施設	22.8	21.8	16.2	25.8	22.5	19.2	23.2	28.3
⑯ 近所づきあい、人情味の豊かさ	24.7	27.0	23.9	24.8	23.4	27.9	26.1	20.6

<調査結果>

地域の生活環境評価(「とても満足」「まあ満足」)の合計について、「①食料品、日用品の買い物の便」の割合をブロック別に見ると、Eブロック(71.4%)が全体より高く、Dブロック(69.4%)、Gブロック(68.0%)が全体よりやや高くなっています。

「②通勤・通学や外出のときの交通の便」の割合をブロック別に見ると、Dブロック(63.3%)が全体よりやや高くなっています。

「⑨緑などの自然環境」と「⑩公園の整備」の割合をブロック別に見ると、それぞれCブロック(⑨71.3%)(⑩50.5%)が全体よりやや高くなっています。

<図表 4-3> 地域の生活環境評価(「とても不満」「やや不満」の合計)／ブロック別

	全 体	A ブ ロ ッ ク	B ブ ロ ッ ク	C ブ ロ ッ ク	D ブ ロ ッ ク	E ブ ロ ッ ク	F ブ ロ ッ ク	G ブ ロ ッ ク
n	903	137	105	101	98	140	138	184
① 食料品、日用品の買い物の便	17.9	41.6	32.4	21.8	8.1	5.7	11.5	9.3
② 通勤・通学や外出のときの交通の便	14.6	11.7	20.0	26.7	8.2	14.3	15.2	10.4
③ 道路や排水などの整備	12.5	14.6	16.2	6.0	10.2	20.7	10.1	9.2
④ ごみの収集方法	7.2	5.1	4.8	7.9	12.2	9.3	8.7	4.3
⑤ 騒音・振動・大気汚染などの公害対策	35.2	39.4	44.8	25.8	31.6	42.2	31.8	31.0
⑥ 防災・減災対策	7.4	8.0	11.4	6.9	5.1	9.3	5.0	6.5
⑦ 防犯活動や治安の良さ	25.9	29.9	25.7	20.8	18.4	32.8	19.5	28.8
⑧ 交通安全対策	13.2	19.0	19.0	8.9	12.2	14.3	12.3	8.2
⑨ 緑などの自然環境	6.1	7.3	6.7	3.0	6.1	12.1	3.6	3.8
⑩ 公園の整備	15.8	15.3	15.2	16.9	16.3	15.8	15.9	15.8
⑪ 子育ての環境や支援体制	7.3	7.3	8.6	5.0	8.1	8.6	7.3	6.5
⑫ 教育活動や学習環境	9.1	8.7	11.4	9.9	7.1	7.9	6.5	11.4
⑬ 高齢者や障害者(児)等の生活の場として	16.6	19.0	28.6	16.9	11.2	15.8	10.9	15.7
⑭ 病院や診療所などの便利さ	20.9	38.7	28.6	18.8	13.3	12.1	19.6	16.3
⑮ スポーツや文化活動をする環境や施設	14.2	13.8	24.8	11.9	17.3	12.8	8.7	13.0
⑯ 近所づきあい、人情味の豊かさ	13.9	11.0	14.3	16.9	13.2	20.7	10.2	12.5

<調査結果>

地域の生活環境評価(「とても不満」「やや不満」)の合計について、「①食料品、日用品の買い物の便」の割合をブロック別に見ると、Aブロック(41.6%)が全体よりも高く、Bブロック(32.4%)が全体よりやや高くなっています。一方で、Eブロック(5.7%)が全体よりやや低くなっています。

「⑭病院や診療所などの便利さ」の割合をブロック別に見ると、Aブロック(38.7%)が全体より高くなっています。

「⑬高齢者や障害者(児)等の生活の場として」と「⑮スポーツや文化活動をする環境や施設」の割合をブロック別に見ると、それぞれBブロック(⑬28.6%) (⑮24.8%) が全体よりやや高くなっています。

(4-1) 地域の生活環境評価の相関分析

問3の住みやすさと、問4の地域の生活環境評価の各項目について相関係数を算出し、地域の生活環境評価の各項目と市の住みやすさの関連を分析します。

○相関係数について

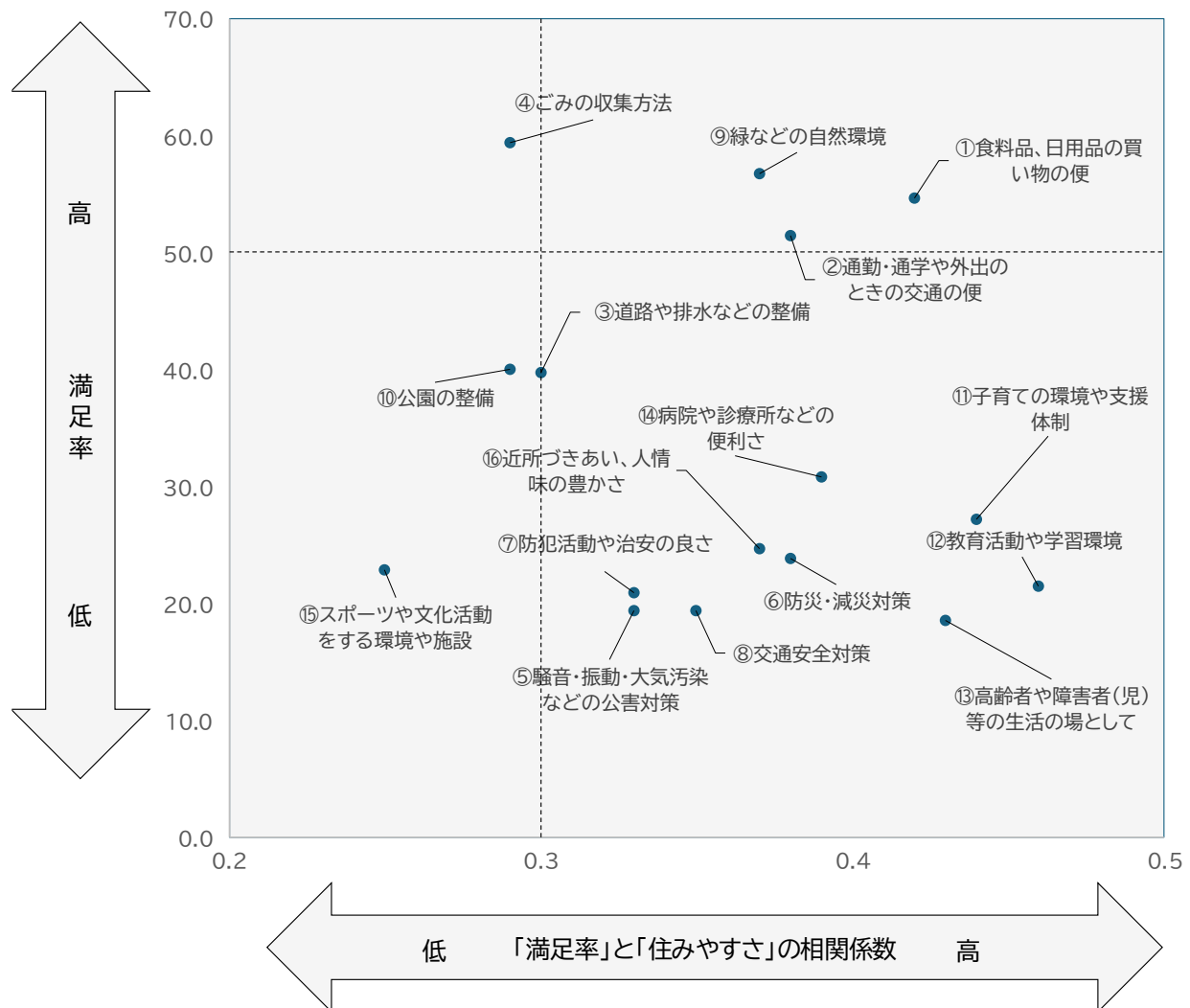
相関係数：2つのデータがどれだけ関連性があるのかを示す係数で、 $-1 \sim +1$ の間の数値となります。関連性が強ければ1に近づき、低ければ0に近くなります。おおむね、「0～0.3 未満」：ほぼ無関係、「0.3～0.5 未満」：ゆるやかな相関、「0.5～0.7 未満」：相関がある、「0.7～0.9 未満」：強い相関、「0.9 以上」：非常に強い相関とされています。

○各項目の相関係数と満足率

項目	相関係数	満足率
①食料品、日用品の買い物の便	0.42	54.7
②通勤・通学や外出のときの交通の便	0.38	51.4
③道路や排水などの整備	0.30	39.7
④ごみの収集方法	0.29	59.4
⑤騒音・振動・大気汚染などの公害対策	0.33	19.3
⑥防災・減災対策	0.38	23.9
⑦防犯活動や治安の良さ	0.33	20.9
⑧交通安全対策	0.35	19.4
⑨緑などの自然環境	0.37	56.7
⑩公園の整備	0.29	40.0
⑪子育ての環境や支援体制	0.44	27.2
⑫教育活動や学習環境	0.46	21.5
⑬高齢者や障害者(児)等の生活の場として	0.43	18.6
⑭病院や診療所などの便利さ	0.39	30.8
⑮スポーツや文化活動をする環境や施設	0.25	22.8
⑯近所づきあい、人情味の豊かさ	0.37	24.7

※満足率は、各項目の「とても満足」「まあ満足」の割合の合計となります。

<図表 4-4> 各項目の相関係数と満足率の散布図



<調査結果>

住みやすさと地域の生活環境評価の各項目について、相関係数、地域の生活環境評価の各項目の満足率を基に散布図に示すと、上記のようになりました。

多くの項目で相関係数が0.3以上とゆるやかな相関が見られます。

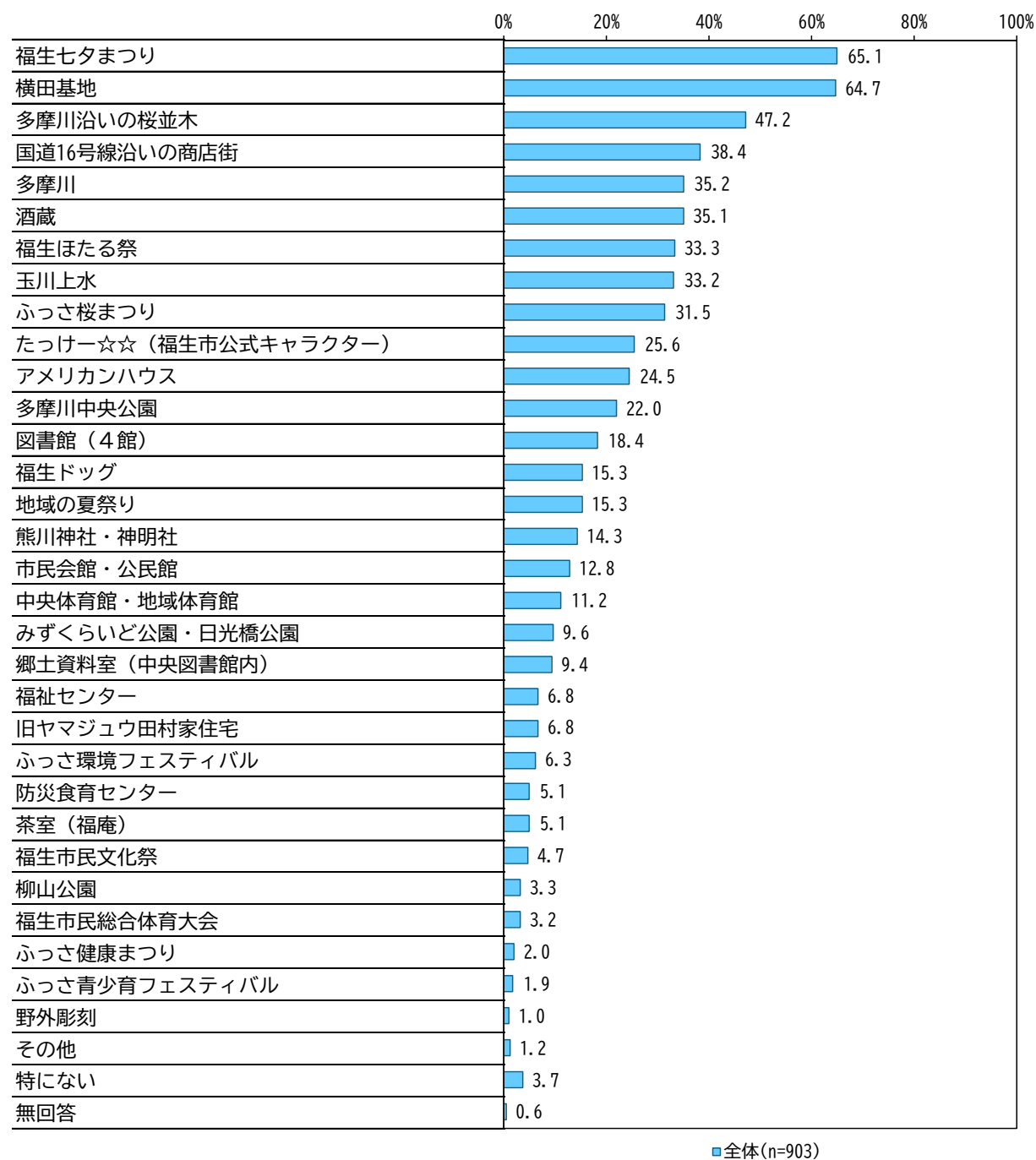
その中でも、「①食料品、日用品の買い物の便」「⑪子育ての環境や支援体制」「⑫教育活動や学習環境」「⑬高齢者や障害者(児)等の生活の場として」の相関係数は、0.4を超えており、これらの満足率が向上することで、住みやすいと感じる方がより一層増加する可能性があると考えられます。

2 福生市の魅力と将来像

(1) 福生市らしさや魅力

問5 福生市に関するキーワードで、福生市らしさや魅力を感じるものはどれですか。(〇はいくつでも)

<図表 5-1> 福生市らしさや魅力



<調査結果>

福生市らしさや魅力について聞いたところ、「福生七夕まつり」(65.1%)、「横田基地」(64.7%)が6割半ば、「多摩川沿いの桜並木」(47.2%)が4割半ばを超えています。

<図表 5-2> 福生市らしさや魅力(上位5項目)／性・年齢別

		n	1位	2位	3位	4位	5位
全体		903	福生七夕まつり 65.1	横田基地 64.7	多摩川沿いの桜並木 47.2	国道16号線沿いの商店街 38.4	多摩川 35.2
性・年齢別	男性全体	381	横田基地 67.5	福生七夕まつり 60.9	多摩川沿いの桜並木 43.3	多摩川 40.2	国道16号線沿いの商店街 37.5
	男性-20代以下	30	福生七夕まつり 76.7	横田基地 70.0	多摩川 40.0	国道16号線沿いの商店街 40.0	たっけー☆☆ 40.0
	男性-30代	38	横田基地 81.6	福生七夕まつり 60.5	アメリカンハウス 50.0	国道16号線沿いの商店街 44.7	多摩川沿いの桜並木 34.2
	男性-40代	59	横田基地 74.6	福生七夕まつり 72.9	国道16号線沿いの商店街 47.5	多摩川沿いの桜並木 40.7	多摩川 37.3
	男性-50代	69	横田基地 73.9	福生七夕まつり 53.6	多摩川 40.6	多摩川沿いの桜並木 37.7	国道16号線沿いの商店街 33.3
	男性-60代	90	横田基地 65.6	福生七夕まつり 62.2	国道16号線沿いの商店街 46.7	玉川上水 44.4	多摩川沿いの桜並木 44.4
	男性-70代以上	94	多摩川沿いの桜並木 54.3	玉川上水 53.2	横田基地 53.2	福生七夕まつり 52.1	多摩川 48.9
	女性全体	487	福生七夕まつり 68.6	横田基地 62.6	多摩川沿いの桜並木 50.1	国道16号線沿いの商店街 38.4	酒蔵 37.6
	女性-20代以下	38	横田基地 68.4	福生七夕まつり 68.4	国道16号線沿いの商店街 50.0	多摩川沿いの桜並木 39.5	福生ほたる祭 34.2
	女性-30代	54	福生七夕まつり 85.2	横田基地 74.1	酒蔵 42.6	たっけー☆☆ 42.6	国道16号線沿いの商店街 40.7
	女性-40代	70	横田基地 74.3	福生七夕まつり 71.4	福生ほたる祭 42.9	多摩川沿いの桜並木 41.4	たっけー☆☆ 40.0
	女性-50代	95	横田基地 72.6	福生七夕まつり 67.4	多摩川沿いの桜並木 54.7	国道16号線沿いの商店街 48.4	酒蔵 41.1
	女性-60代	101	福生七夕まつり 72.3	横田基地 67.3	多摩川沿いの桜並木 55.4	国道16号線沿いの商店街 41.6	酒蔵 37.6
	女性-70代以上	126	福生七夕まつり 58.7	多摩川沿いの桜並木 56.3	ふっさ桜まつり 43.7	玉川上水 42.1	多摩川 40.5

<調査結果>

福生市らしさや魅力について性・年齢別に見ると、「福生七夕まつり」は、ほとんどの性・年齢で1位もしくは2位となっていますが、男性-70代以上のみ4位となっています。

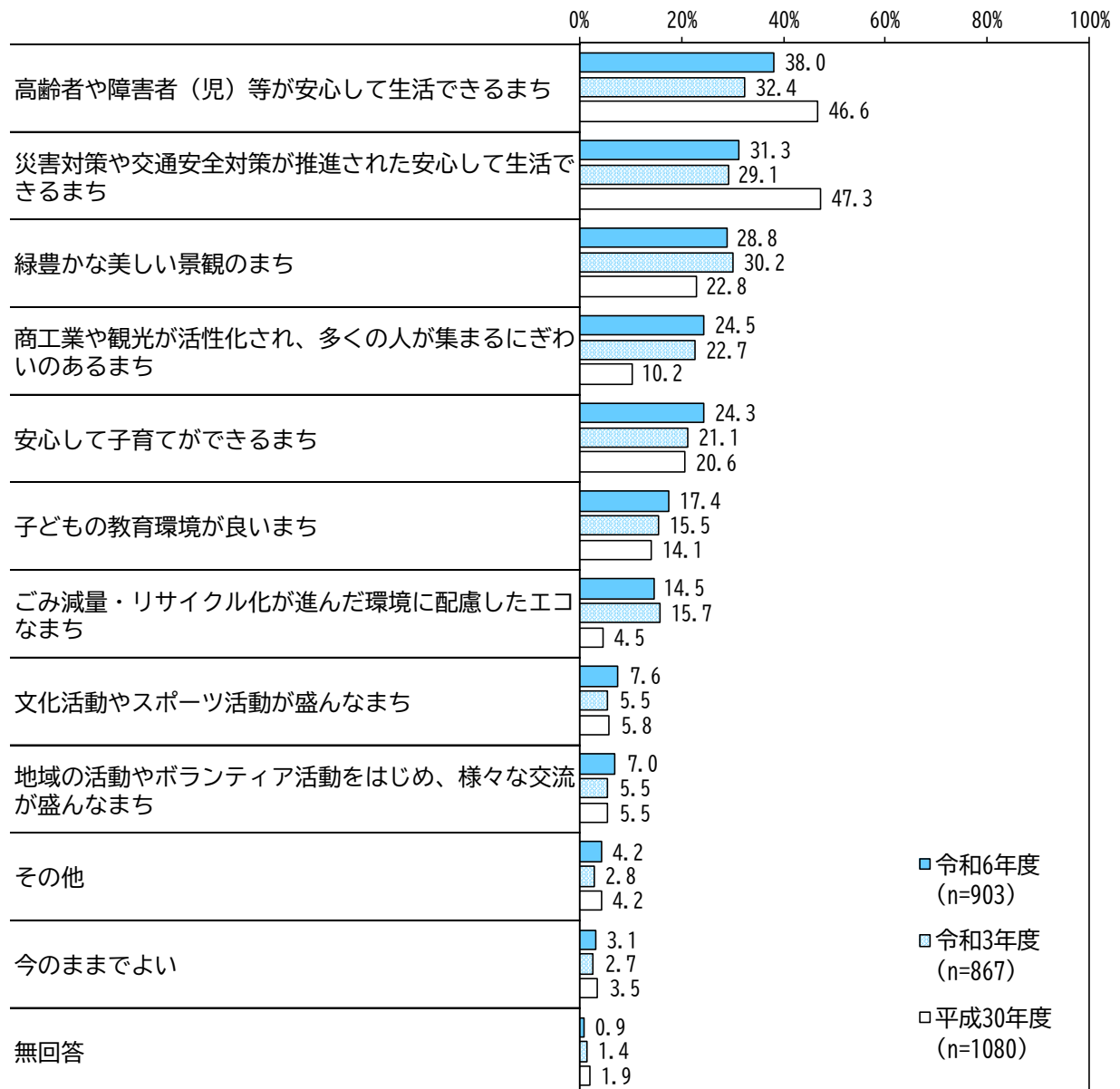
同じく、「横田基地」は、ほとんどの性・年齢で1位もしくは2位となっていますが、男性-70代以上では3位、女性-70代以上ではランク外となっています。

上位5項目に入った中で少数だったものとして、「福生ほたる祭」(女性-40代：3位)(女性-20代以下：5位)、「アメリカンハウス」(男性-30代：3位)、「ふっさ桜まつり」(女性-70代以上：3位)が挙げられます。

(2) 福生市の将来像

問6 将来の福生市はどのようなまちであってほしいと思いますか。(〇は2つまで)

<図表 6-1> 福生市の将来像



<調査結果>

福生市の将来像について聞いたところ、「高齢者や障害者（児）等が安心して生活できるまち」（38.0%）が最も高く4割近くとなっています。次いで、「災害対策や交通安全対策が推進された安心して生活できるまち」（31.3%）が3割を超え、「緑豊かな美しい景観のまち」（28.8%）が3割近くとなっています。

<図表 6-2> 福生市の将来像(上位5項目)／性・年齢別

		n	1位	2位	3位	4位	5位
全体		903	高齢者や障害者（児）等が安心して生活できるまち 38.0	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 31.3	緑豊かな美しい景観のまち 28.8	商工業や観光が活性化されたまち 24.5	安心して子育てができるまち 24.3
性・年齢別	男性全体	381	高齢者や障害者（児）等が安心して生活できるまち 32.3	緑豊かな美しい景観のまち 29.7	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 27.8	商工業や観光が活性化されたまち 27.6	安心して子育てができるまち 23.6
	男性-20代以下	30	安心して子育てができるまち 40.0	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 26.7	緑豊かな美しい景観のまち 23.3	子どもの教育環境が良いまち 23.3	商工業や観光が活性化されたまち 20.0
	男性-30代	38	安心して子育てができるまち 47.4	商工業や観光が活性化されたまち 34.2	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 31.6	緑豊かな美しい景観のまち 21.1	子どもの教育環境が良いまち 21.1
	男性-40代	59	安心して子育てができるまち 32.2	緑豊かな美しい景観のまち 30.5	子どもの教育環境が良いまち 27.1	商工業や観光が活性化されたまち 23.7	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 22.0
	男性-50代	69	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 33.3	高齢者や障害者（児）等が安心して生活できるまち 29.0	商工業や観光が活性化されたまち 27.5	緑豊かな美しい景観のまち 27.5	文化活動やスポーツ活動が盛んなまち 17.4
	男性-60代	90	高齢者や障害者（児）等が安心して生活できるまち 46.7	商工業や観光が活性化されたまち 37.8	緑豊かな美しい景観のまち 36.7	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 22.2	安心して子育てができるまち 16.7
	男性-70代以上	94	高齢者や障害者（児）等が安心して生活できるまち 50.0	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 31.9	緑豊かな美しい景観のまち 29.8	環境に配慮したエコなまち 25.5	子どもの教育環境が良いまち 22.3
	女性全体	487	高齢者や障害者（児）等が安心して生活できるまち 41.7	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 33.7	緑豊かな美しい景観のまち 28.1	安心して子育てができるまち 24.6	商工業や観光が活性化されたまち 21.4
	女性-20代以下	38	安心して子育てができるまち 42.1	子どもの教育環境が良いまち 31.6	商工業や観光が活性化されたまち 23.7	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 21.1	緑豊かな美しい景観のまち 21.1
	女性-30代	54	安心して子育てができるまち 44.4	子どもの教育環境が良いまち 35.2	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 33.3	商工業や観光が活性化されたまち 27.8	緑豊かな美しい景観のまち 24.1
	女性-40代	70	安心して子育てができるまち 35.7	子どもの教育環境が良いまち 35.7	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 31.4	高齢者や障害者（児）等が安心して生活できるまち 28.6	緑豊かな美しい景観のまち 25.7
	女性-50代	95	高齢者や障害者（児）等が安心して生活できるまち 40.0	緑豊かな美しい景観のまち 36.8	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 32.6	商工業や観光が活性化されたまち 29.5	安心して子育てができるまち 22.1
	女性-60代	101	高齢者や障害者（児）等が安心して生活できるまち 55.4	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 37.6	緑豊かな美しい景観のまち 29.7	環境に配慮したエコなまち 18.8	安心して子育てができるまち 18.8
	女性-70代以上	126	高齢者や障害者（児）等が安心して生活できるまち 61.1	災害対策等が推進された安心して生活できるまち 36.5	緑豊かな美しい景観のまち 26.2	環境に配慮したエコなまち 22.2	商工業や観光が活性化されたまち 19.8

<調査結果>

福生市の将来像について性・年齢別に見ると、「高齢者や障害者(児)等が安心して生活できるまち」は、男性・女性ともに60代以上で1位となっています。一方で、男性・女性ともに20代以下から40代は、「安心して子育てができるまち」が1位となっています。

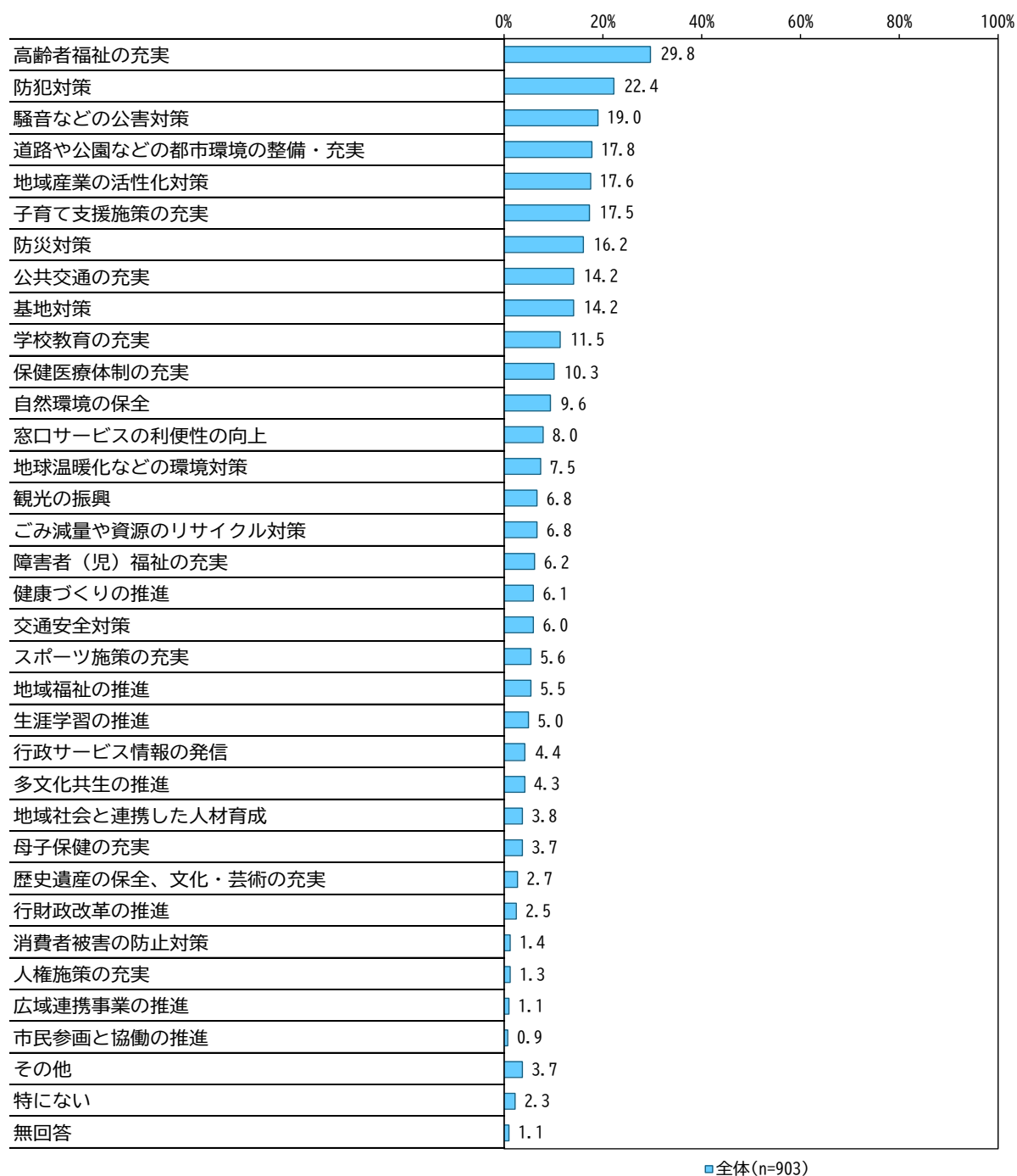
上位5項目に入った中で少数だったものとして、「環境に配慮したエコなまち」(男性-70代以上：4位)(女性-60代：4位)(女性-70代以上：4位)、「文化活動やスポーツ活動が盛んなまち」(男性-50代：5位)が挙げられます。

3 市民と市政

(1) 特に力を入れて欲しい施策

問7 これからの市政について、特に力を入れて欲しいことを選んでください。(〇は3つまで)

<図表 7-1> 特に力を入れて欲しい施策



<調査結果>

特に力を入れて欲しい施策について聞いたところ、「高齢者福祉の充実」(29.8%)が最も高く約3割、次いで、「防犯対策」(22.4%)が2割を超え、「騒音などの公害対策」(19.0%)が約2割となっています。

<図表 7-2> 特に力を入れて欲しい施策(上位5項目)/ライフステージ別

	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	903	高齢者福祉の充実 29.8	防犯対策 22.4	騒音などの公害対策 19.0	都市環境の整備・充実 17.8	地域産業の活性化対策 17.6
ライフ ス テ ー ジ 別	独身期	公共交通の充実 22.4	都市環境の整備・充実 21.1	騒音などの公害対策 21.1	防犯対策 21.1	防災対策 15.8
	家族形成期	子育て支援施策の充実 65.0	学校教育の充実 28.3	母子保健の充実 25.0	都市環境の整備・充実 21.7	防犯対策 21.7
	家族成長前期	子育て支援施策の充実 50.7	学校教育の充実 47.8	防犯対策 26.9	都市環境の整備・充実 20.9	地域産業の活性化対策 16.4
	家族成長後期	地域産業の活性化対策 25.0	都市環境の整備・充実 25.0	学校教育の充実 22.7	防犯対策 20.5	高齢者福祉の充実 20.5
	家族成熟期	高齢者福祉の充実 34.5	防犯対策 26.1	地域産業の活性化対策 22.2	騒音などの公害対策 20.2	公共交通の充実 18.7
	高齢期	高齢者福祉の充実 44.1	基地対策 22.0	地域産業の活性化対策 20.3	都市環境の整備・充実 20.3	防災対策 18.6
	高齢者世帯	高齢者福祉の充実 41.8	騒音などの公害対策 22.6	基地対策 20.5	都市環境の整備・充実 15.8	地域産業の活性化対策 15.1
	その他	高齢者福祉の充実 34.3	防犯対策 24.7	騒音などの公害対策 19.7	防災対策 18.2	都市環境の整備・充実 16.2

<調査結果>

特に力を入れて欲しい施策についてライフステージ別に見ると、「高齢者福祉の充実」は家族成熟期、高齢期、高齢者世帯など、ライフステージが高齢層で1位となっています。独身期以外のライフステージが若年層では、子育てや教育に関する内容が上位となっています。

上位5項目に入った中で少数だったものとして、「公共交通の充実」(独身期：1位)(家族成熟期：5位)、「基地対策」(高齢期：2位)(高齢者世帯：3位)、「母子保健の充実」(家族形成期：3位)が挙げられます。

<図表 7-3> 特に力を入れて欲しい施策(上位5項目)／性・年齢別

	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	903	高齢者福祉の充実 29.8	防犯対策 22.4	騒音などの公害対策 19.0	都市環境の整備・充実 17.8	地域産業の活性化対策 17.6
性・年齢別	男性全体	381	高齢者福祉の充実 26.8	防犯対策 22.0	都市環境の整備・充実 20.5	地域産業の活性化対策 19.9
	男性-20代以下	30	都市環境の整備・充実 20.0	防犯対策 20.0	学校教育の充実 20.0	地域産業の活性化対策 16.7
	男性-30代	38	子育て支援施策の充実 44.7	防犯対策 23.7	公共交通の充実 21.1	都市環境の整備・充実 18.4
	男性-40代	59	防犯対策 32.2	地域産業の活性化対策 22.0	学校教育の充実 20.3	騒音などの公害対策 18.6
	男性-50代	69	防犯対策 26.1	高齢者福祉の充実 23.2	地域産業の活性化対策 21.7	都市環境の整備・充実 21.7
	男性-60代	90	高齢者福祉の充実 42.2	騒音などの公害対策 27.8	地域産業の活性化対策 23.3	都市環境の整備・充実 21.1
	男性-70代以上	94	高齢者福祉の充実 39.4	都市環境の整備・充実 21.3	騒音などの公害対策 19.1	基地対策 19.1
	女性全体	487	高齢者福祉の充実 32.0	防犯対策 22.8	騒音などの公害対策 19.3	子育て支援施策の充実 19.3
	女性-20代以下	38	子育て支援施策の充実 31.6	都市環境の整備・充実 26.3	騒音などの公害対策 21.1	学校教育の充実 21.1
	女性-30代	54	子育て支援施策の充実 48.1	都市環境の整備・充実 25.9	騒音などの公害対策 24.1	学校教育の充実 24.1
	女性-40代	70	子育て支援施策の充実 37.1	防犯対策 25.7	騒音などの公害対策 21.4	学校教育の充実 21.4
	女性-50代	95	高齢者福祉の充実 37.9	防犯対策 30.5	地域産業の活性化対策 24.2	公共交通の充実 20.0
	女性-60代	101	高齢者福祉の充実 41.6	防犯対策 22.8	防災対策 19.8	公共交通の充実 18.8
	女性-70代以上	126	高齢者福祉の充実 50.8	基地対策 22.2	騒音などの公害対策 18.3	防犯対策 17.5

<調査結果>

特に力を入れて欲しい施策について性・年齢別に見ると、「高齢者福祉の充実」は、男性・女性ともに 60 代以上で 1 位となっています。女性-20 代以下から 40 代では、「子育て支援施策の充実」が 1 位となっています。一方で、男性-20 代以下は、「都市環境の整備・充実」、男性-30 代は、「子育て支援施策の充実」、男性-40 代は、「防犯対策」が 1 位となっています。

上位 5 項目に入った中で少数だったものとして、「基地対策」（女性-70 代以上：2 位）（男性-70 代以上：4 位）、「保健医療体制の充実」（女性-70 代以上：5 位）、「スポーツ施策の充実」（男性-20 代以下：5 位）が挙げられます。

(1-1) 特に力を入れて欲しい施策（ウェイトバック集計）

福生市の人口構成比と回答者の属性を比較すると、20代以下の人口構成比が17.6%に対し、回答者の構成比が7.8%と少なくなっています。一方で、70代以上は人口構成比が16.7%に対し、回答者の構成比が25.3%と多くなっています。

回答者の構成比と人口構成比に差があることから、福生市の性・年齢別人口構成比に基づいて回答者の性・年齢別構成比を補正し、性・年齢別によるウェイトバック集計※を行い、補正後の全体値の結果を参考として掲載します。

①母集団

	全体	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	44,972	7,895	6,529	7,151	8,775	7,125	7,497
	100.0%	17.6%	14.5%	15.9%	19.5%	15.8%	16.7%
男性	23,275	4,205	3,530	3,838	4,524	3,619	3,559
	100.0%	18.1%	15.2%	16.5%	19.4%	15.5%	15.3%
女性	21,697	3,690	2,999	3,313	4,251	3,506	3,938
	100.0%	17.0%	13.8%	15.3%	19.6%	16.2%	18.1%

②回収数

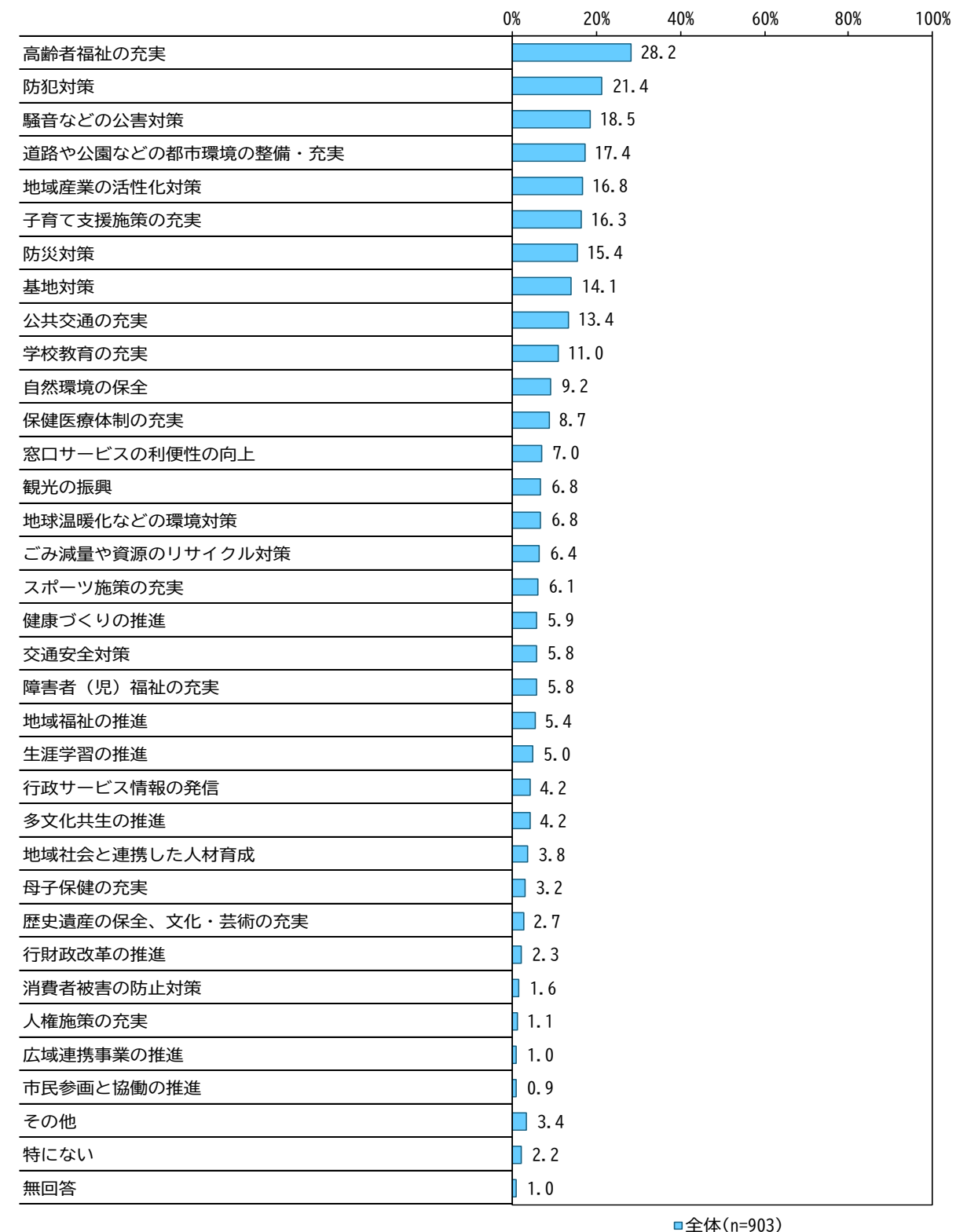
	全体	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	868	68	92	129	164	191	220
	100.0%	7.8%	10.6%	14.9%	18.9%	22.0%	25.3%
男性	381	30	38	59	69	90	94
	100.0%	7.9%	10.0%	15.5%	18.1%	23.6%	24.7%
女性	487	38	54	70	95	101	126
	100.0%	7.8%	11.1%	14.4%	19.5%	20.7%	25.9%

③補正比率

	全体	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
男性	-	1.21	1.31	1.17	1.23	1.08	1.11
女性	-	0.84	0.78	0.85	0.84	0.93	0.92

※ウェイトバック集計とは、回収されたサンプル（標本）を、母集団の構成に合わせて集計する方法のことです。母集団と回収サンプルの構成比が異なる場合に、母集団を再現した調査結果を算出することができます。

＜図表 7-4＞特に力を入れて欲しい施策／ウェイトバック集計後



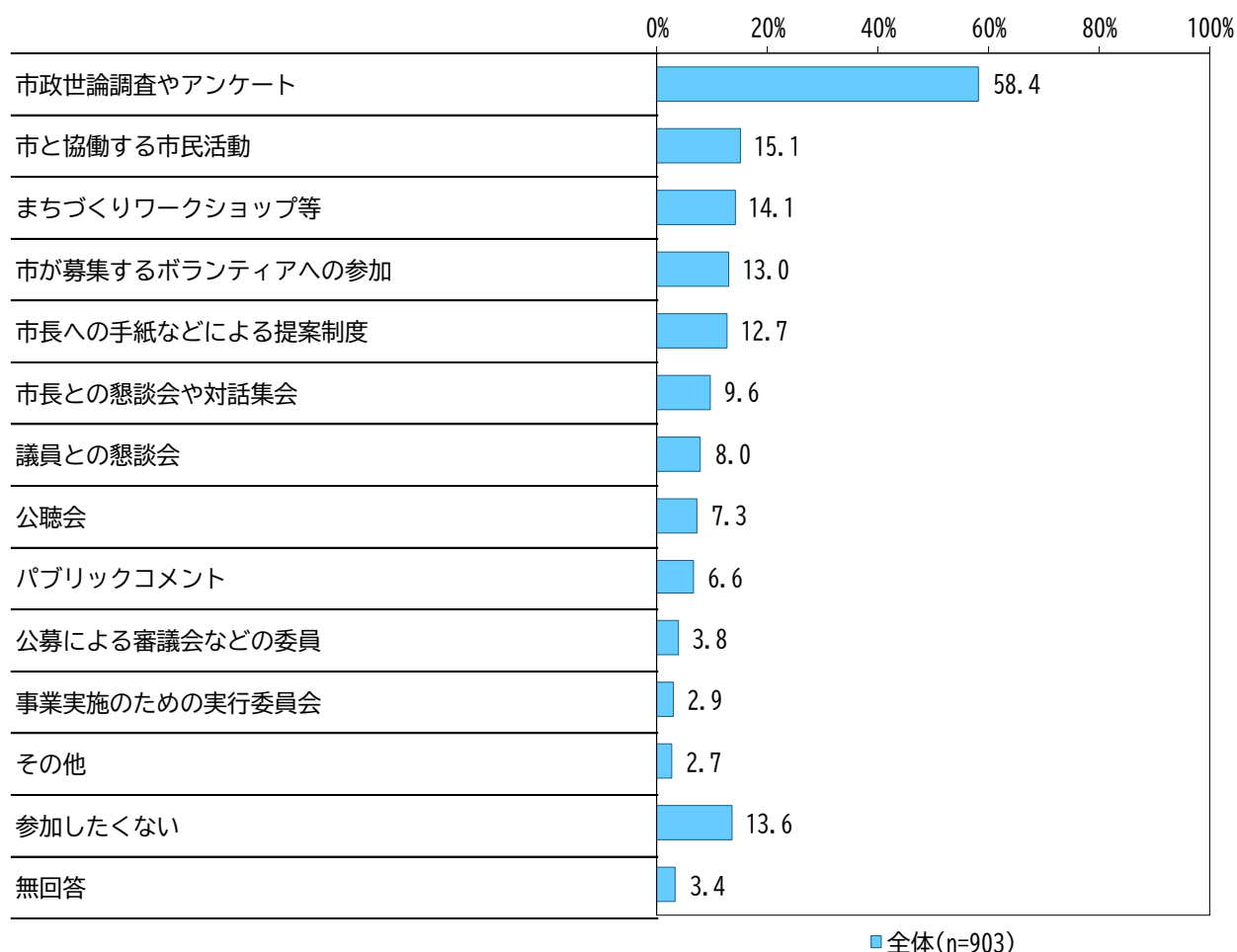
＜調査結果＞

特に力を入れて欲しい施策について、ウェイトバック前の集計結果と、ウェイトバック後の集計結果を比較すると、「高齢者福祉の充実」がウェイトバック前（29.8%）と後（28.2%）で1.6ポイント減少しました。一方で、「スポーツ施策の充実」、「消費者被害の防止対策」がそれぞれ増加しました。

(2) 市政への市民参加

問8 まちづくりにおいて、「市政への市民参加」が重要と言われていますが、あなたはどのような方法で市政に参加したいと思いますか。(○は3つまで)

<図表 8-1> 市政への市民参加



<調査結果>

市政への市民参加について聞いたところ、「市政世論調査やアンケート」(58.4%)が6割近くと最も高く、次いで、「市と協働する市民活動」(15.1%)、「まちづくりワークショップ等」(14.1%)が1割半ばとなっています。

<図表 8-2> 市政への市民参加(上位 10 項目)／性・年齢別

		n	市政世論調査やアンケート	市と協働する市民活動	まちづくりワークショップ等	市が募集するボランティアへの参加	市長への手紙などによる提案制度	市長との懇談会や対話集会	議員との懇談会	公聴会	パブリックコメント	公募による審議会などの委員
全体		903	58.4	15.1	14.1	13.0	12.7	9.6	8.0	7.3	6.6	3.8
性・年齢別	男性全体	381	58.5	16.0	9.4	12.9	12.3	10.0	10.8	10.0	9.7	4.7
	男性-20代以下	30	80.0	10.0	0.0	20.0	16.7	6.7	3.3	3.3	3.3	0.0
	男性-30代	38	60.5	10.5	7.9	7.9	10.5	18.4	21.1	15.8	15.8	7.9
	男性-40代	59	62.7	6.8	11.9	13.6	16.9	15.3	13.6	8.5	6.8	11.9
	男性-50代	69	55.1	15.9	8.7	14.5	8.7	4.3	5.8	7.2	17.4	1.4
	男性-60代	90	58.9	14.4	12.2	10.0	8.9	11.1	14.4	12.2	6.7	6.7
	男性-70代以上	94	50.0	27.7	9.6	13.8	14.9	7.4	7.4	10.6	8.5	1.1
	女性全体	487	59.1	15.0	17.9	13.3	12.7	9.0	5.7	5.5	3.7	2.9
	女性-20代以下	38	65.8	5.3	7.9	10.5	13.2	2.6	7.9	2.6	0.0	2.6
	女性-30代	54	74.1	16.7	25.9	13.0	11.1	7.4	0.0	1.9	5.6	1.9
	女性-40代	70	71.4	12.9	20.0	14.3	11.4	8.6	5.7	4.3	8.6	2.9
	女性-50代	95	70.5	12.6	17.9	14.7	22.1	10.5	6.3	5.3	4.2	7.4
	女性-60代	101	60.4	14.9	18.8	13.9	10.9	7.9	5.0	6.9	2.0	0.0
	女性-70代以上	126	34.1	20.6	15.9	12.7	7.9	11.9	7.9	7.9	1.6	2.4

<調査結果>

市政への市民参加について、「市と協働する市民活動」の割合を性・年齢別に見ると、男性-70代以上（27.7%）が全体よりやや高くなっています。

「まちづくりワークショップ等」の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代（25.9%）が全体よりやや高くなっています。

男性-20代以下、女性-30代から女性-50代では、「市政世論調査やアンケート」といった、比較的気軽に参加できる方法による市政への市民参加の割合が全体を上回っています。

<図表 8-3> 市政への市民参加(上位 10 項目)／職業別

	n	市政世論調査やアンケート	市と協働する市民活動	まちづくりワークショップ等	市が募集するボランティアへの参加	市長への手紙などによる提案制度	市長との懇談会や対話集会	議員との懇談会	公聴会	パブリックコメント	公募による審議会などの委員
全体	903	58.4	15.1	14.1	13.0	12.7	9.6	8.0	7.3	6.6	3.8
職業別	自営業主	64	43.8	20.3	21.9	17.2	10.9	14.1	15.6	7.8	10.9
	家業従事(家業手伝い)	7	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	事務・技術系勤め人	222	70.3	12.2	13.1	14.4	13.1	9.5	7.2	5.9	10.8
	労務系勤め人	97	60.8	12.4	12.4	11.3	10.3	10.3	12.4	4.1	8.2
	学生	19	78.9	15.8	0.0	10.5	36.8	5.3	5.3	10.5	5.3
	パート・アルバイト	178	56.7	15.2	20.2	14.0	16.3	10.1	8.4	6.7	3.9
	専業主婦・主夫	131	53.4	15.3	11.5	10.7	9.9	12.2	4.6	6.9	1.5
	無職	164	50.6	18.3	11.6	11.6	11.0	6.7	5.5	11.0	6.1

<調査結果>

市政への市民参加について、「市政世論調査やアンケート」の割合を職業別に見ると、家業従事（家業手伝い）（28.6%）が全体よりとても低く、自営業主（43.8%）が全体よりやや低くなっています。

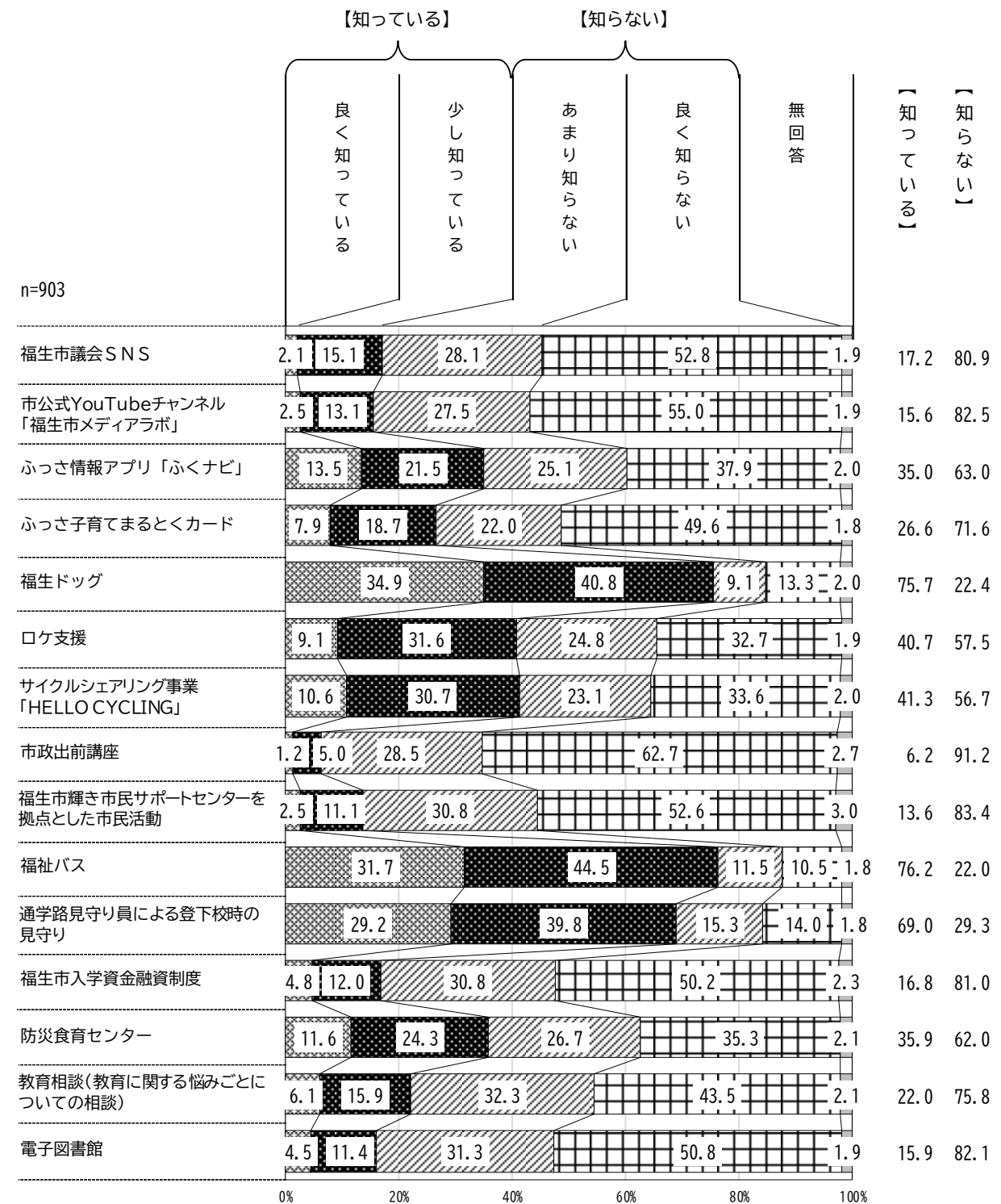
「まちづくりワークショップ等」の割合を職業別に見ると、家業従事（家業手伝い）（28.6%）が全体よりやや高くなっています。

「市長への手紙などによる提案制度」の割合を職業別に見ると、学生（36.8%）が全体より高くなっています。

(3) 施策の認知状況

問9 次の市の施策を知っていますか。次の項目について、それぞれ1つずつ番号を選んでください。

<図表 9-1> 施策の認知状況



<調査結果>

各施策の認知状況について聞いたところ、「良く知っている」と「少し知っている」を合計した【知っている】の割合は、「福祉バス」(76.2%) が最も高く 7 割半ばとなっています。次いで、「福生ドッグ」(75.7%) も 7 割半ばとなっています。

「あまり知らない」と「良く知らない」を合計した【知らない】の割合は、「市政出前講座」(91.2%) が 9 割を超え、「福生市輝き市民サポートセンターを拠点とした市民活動」(83.4%)、「市公式 YouTube チャンネル「福生市メディアラボ」」(82.5%)、「電子図書館」(82.1%)、「福生市入学資金融資制度」(81.0%) がそれぞれ 8 割を超え、「福生市議会 SNS」(80.9%) が約 8 割となっています。

<図表 9-2> 施策の認知状況「良く知っている」「少し知っている」の合計／性・年齢別(男性)

	全体	男性						
		男性全体	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
n	903	381	30	38	59	69	90	94
福生市議会SNS	17.2	19.4	13.3	21.1	13.6	20.3	17.8	25.5
市公式YouTubeチャンネル「福生市メディアラボ」	15.6	15.7	20.0	18.4	10.2	21.7	16.7	11.7
ふっさ情報アプリ「ふくナビ」	35.0	30.7	30.0	36.8	35.6	34.8	28.9	24.5
ふっさ子育てまるとくカード	26.6	22.6	26.7	34.2	37.3	37.7	10.0	8.5
福生ドッグ	75.7	71.9	66.7	65.8	76.3	76.8	72.2	69.1
ロケ支援	40.7	37.3	23.3	34.2	35.6	43.5	38.9	37.2
サイクルシェアリング事業「HELLO CYCLING」	41.3	36.0	10.0	34.2	39.0	44.9	42.2	29.8
市政出前講座	6.2	5.0	0.0	2.6	1.7	7.2	5.6	7.4
福生市輝き市民サポートセンターを拠点とした市民活動	13.6	11.5	3.3	10.5	5.1	18.8	11.1	13.8
福祉バス	76.2	75.3	63.3	71.1	62.7	66.7	87.8	83.0
通学路見守り員による登下校時の見守り	69.0	71.1	70.0	65.8	66.1	65.2	68.9	83.0
福生市入学資金融資制度	16.8	11.0	3.3	21.1	6.8	10.1	13.3	10.6
防災食育センター	35.9	33.3	33.3	34.2	30.5	33.3	31.1	36.2
教育相談(教育に関する悩みごとについての相談)	22.0	18.9	23.3	26.3	13.6	27.5	16.7	12.8
電子図書館	15.9	14.7	20.0	15.8	13.6	21.7	13.3	9.6

<図表 9-3> 施策の認知状況「良く知っている」「少し知っている」の合計／性・年齢別(女性)

	全体	女性						
		女性全体	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
n	903	487	38	54	70	95	101	126
福生市議会SNS	17.2	15.0	7.9	5.6	12.9	15.8	15.8	20.6
市公式YouTubeチャンネル「福生市メディアラボ」	15.6	16.4	7.9	13.0	17.1	21.1	17.8	15.9
ふっさ情報アプリ「ふくナビ」	35.0	38.6	34.2	61.1	32.9	46.3	40.6	25.4
ふっさ子育てまるとくカード	26.6	30.2	28.9	50.0	50.0	38.9	19.8	11.9
福生ドッグ	75.7	79.1	68.4	74.1	85.7	86.3	86.1	69.0
ロケ支援	40.7	43.9	21.1	27.8	50.0	64.2	46.5	36.5
サイクルシェアリング事業「HELLO CYCLING」	41.3	45.6	18.4	38.9	55.7	56.8	49.5	38.9
市政出前講座	6.2	7.2	5.3	1.9	8.6	5.3	8.9	9.5
福生市輝き市民サポートセンターを拠点とした市民活動	13.6	15.8	10.5	1.9	14.3	17.9	18.8	20.6
福祉バス	76.2	77.2	52.6	64.8	71.4	87.4	81.2	83.3
通学路見守り員による登下校時の見守り	69.0	67.4	57.9	53.7	58.6	78.9	70.3	69.8
福生市入学資金融資制度	16.8	20.7	10.5	3.7	21.4	26.3	20.8	27.0
防災食育センター	35.9	37.6	26.3	24.1	52.9	43.2	35.6	35.7
教育相談(教育に関する悩みごとについての相談)	22.0	23.6	21.1	14.8	34.3	25.3	13.9	29.4
電子図書館	15.9	16.8	10.5	11.1	25.7	25.3	15.8	11.1

<調査結果>

各施策の認知状況「良く知っている」と「少し知っている」の合計について、「ふっさ情報アプリ「ふくナビ」」の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代（61.1%）が全体よりとても高く、女性-50代（46.3%）が全体よりやや高くなっています。

「ふっさ子育てまるとくカード」の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代（50.0%）、女性-40代（50.0%）が全体よりも高く、男性-40代（37.3%）、男性-50代（37.7%）、女性-50代（38.9%）が全体よりもやや高くなっています。一方で、男性-60代（10.0%）、男性-70代以上（8.5%）が全体より低く、女性-70代以上（11.9%）が全体よりやや低くなっています。

「福生ドッグ」の割合を性・年齢別に見ると、女性-40代（85.7%）、女性-50代（86.3%）、女性-60代（86.1%）が全体よりもやや高くなっています。

「ロケ支援」の割合を性・年齢別に見ると、女性-50代（64.2%）が全体より高くなっています。一方で、男性-20代以下（23.3%）、女性-20代以下（21.1%）が全体より低く、女性-30代（27.8%）が全体よりやや低くなっています。

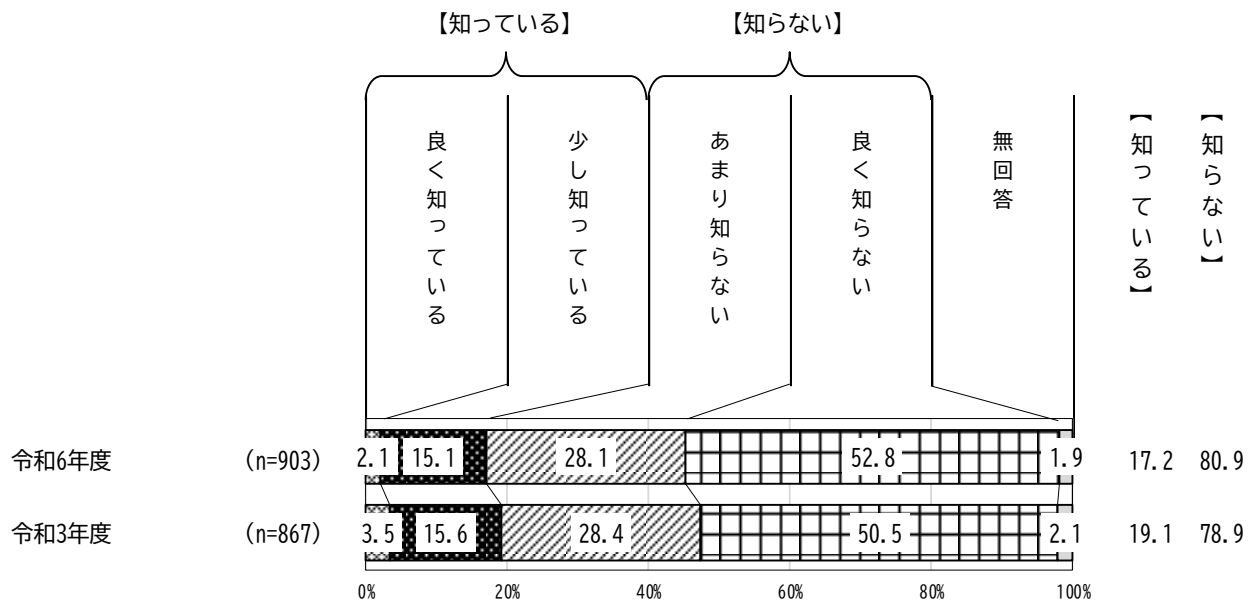
「サイクルシェアリング事業「HELLO CYCLING」」の割合を性・年齢別に見ると、女性-50代（56.8%）が全体より高く、女性-40代（55.7%）が全体よりやや高くなっています。

「福祉バス」の割合を性・年齢別に見ると、男性-60代（87.8%）、女性-50代（87.4%）が全体よりやや高くなっています。

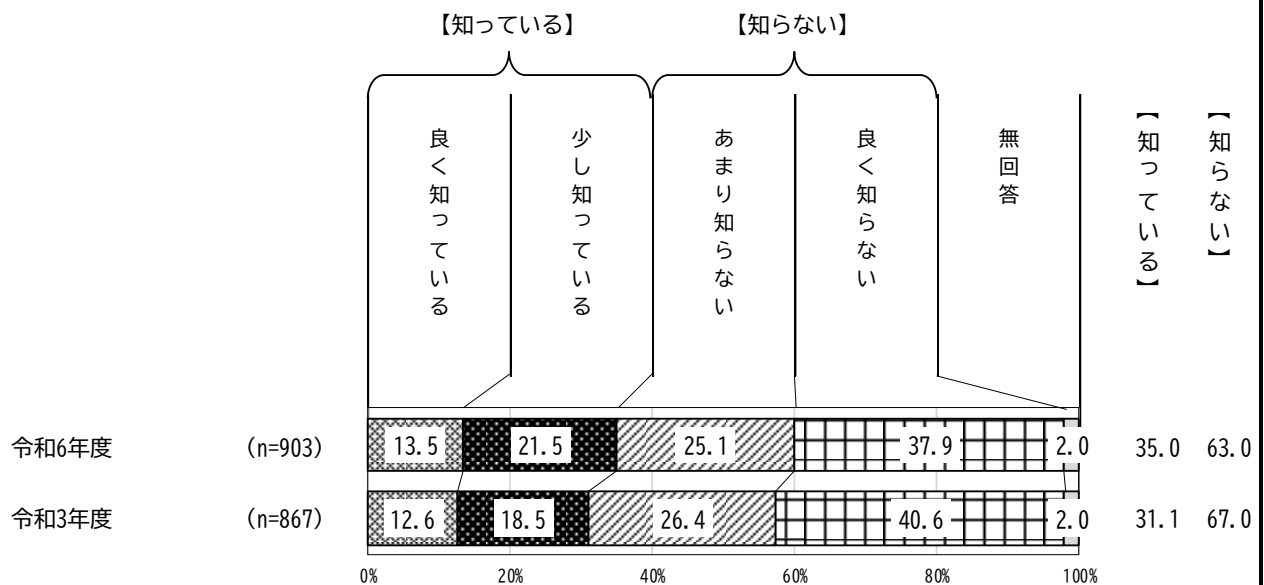
「通学路見守り員による登下校時の見守り」の割合を性・年齢別に見ると、男性-70代以上（83.0%）が全体よりもやや高くなっています。一方で、女性-30代（53.7%）が全体より低く、女性-20代以下（57.9%）、女性-40代（58.6%）が全体よりやや低くなっています。

全体の傾向として、女性-40代から女性-50代は、各施策への認知度が全体よりも高い傾向にあります。一方で、男性-20代以下、男性-70代以上、女性-20代以下から女性-30代は、各施策への認知度が全体よりも低い傾向にあります。

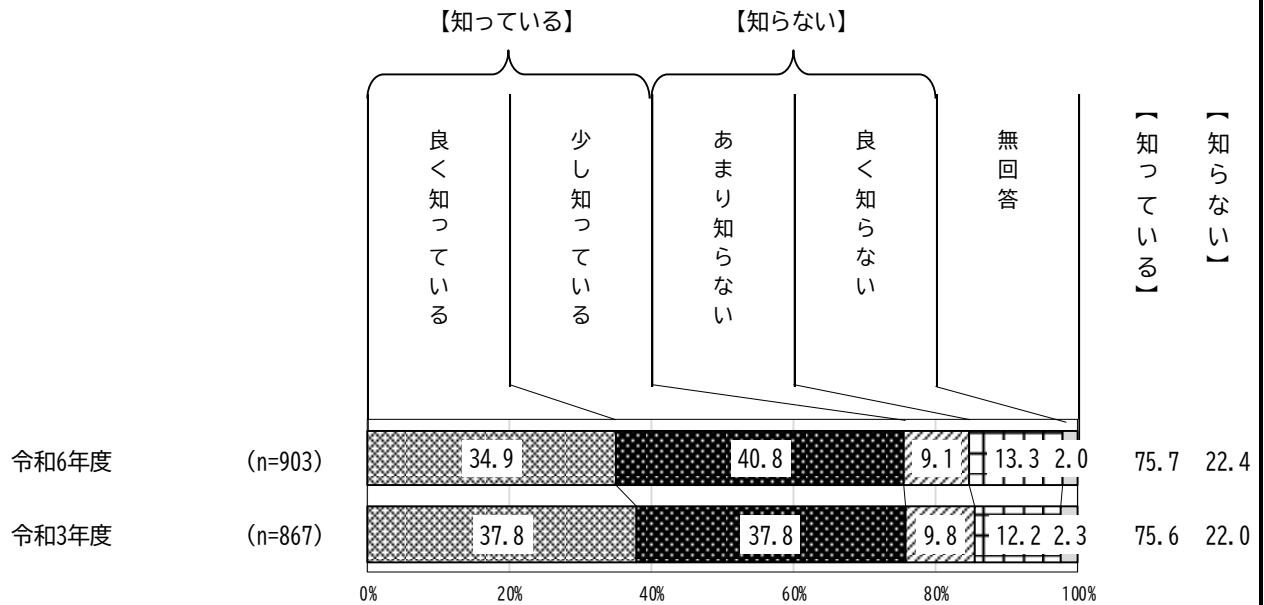
<図表 9-4> 施策の認知状況「福生市議会SNS」／過年度推移



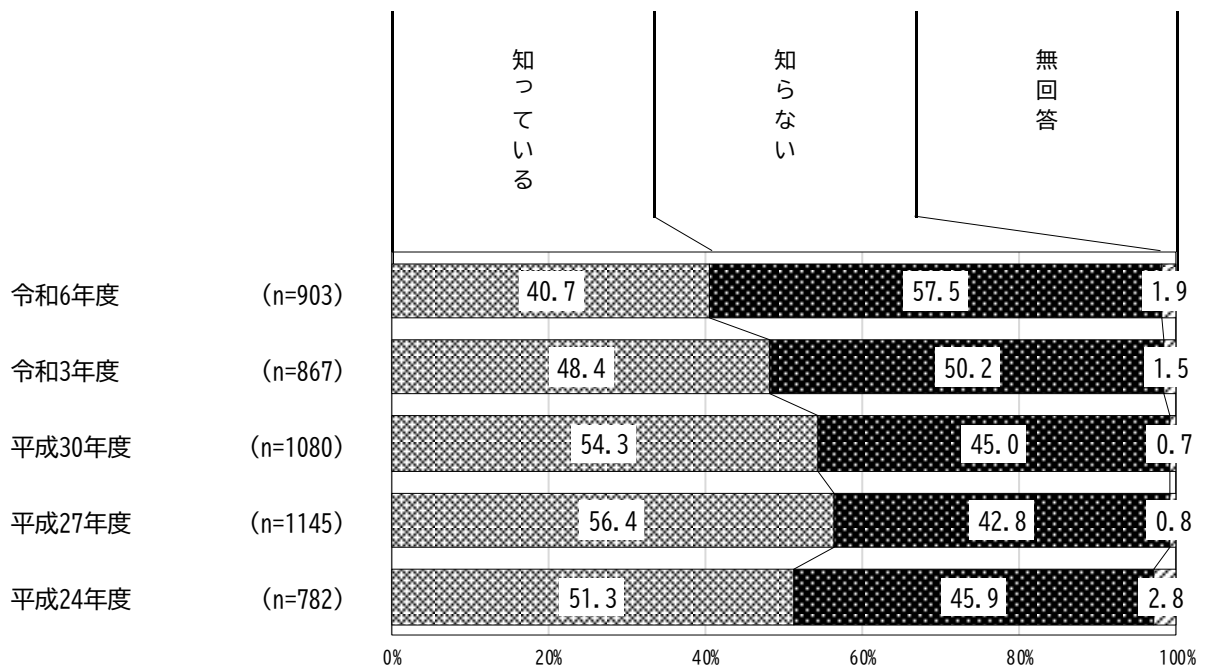
<図表 9-5> 施策の認知状況「ふっさ情報アプリ」「ふくナビ」／過年度推移



<図表 9-6> 施策の認知状況「福生ドッグ」／過年度推移

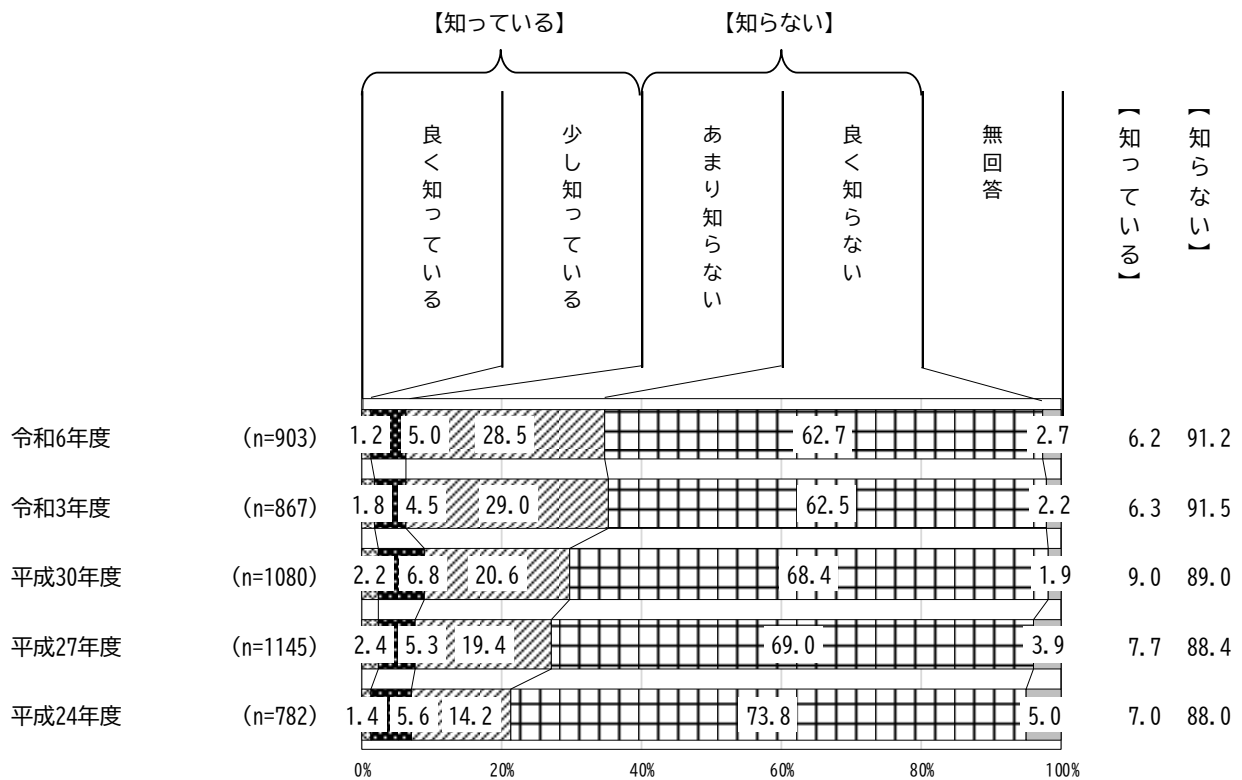


<図表 9-7> 施策の認知状況「ロケ支援」／過年度推移

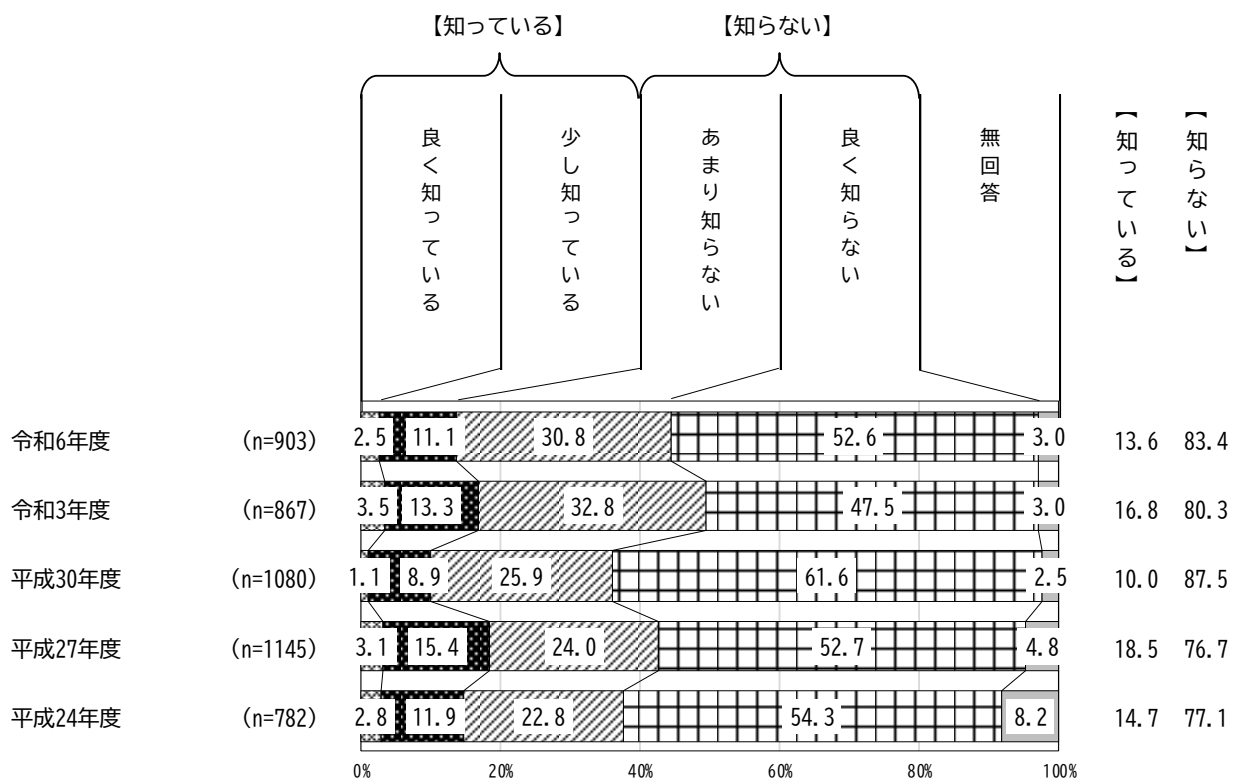


※令和3年度および令和6年度の「良く知っている」と「少し知っている」を「知っている」、「あまり知らない」と「良く知らない」を「知らない」として比較。平成30年度以前と選択肢が異なるため、参考値として掲載。

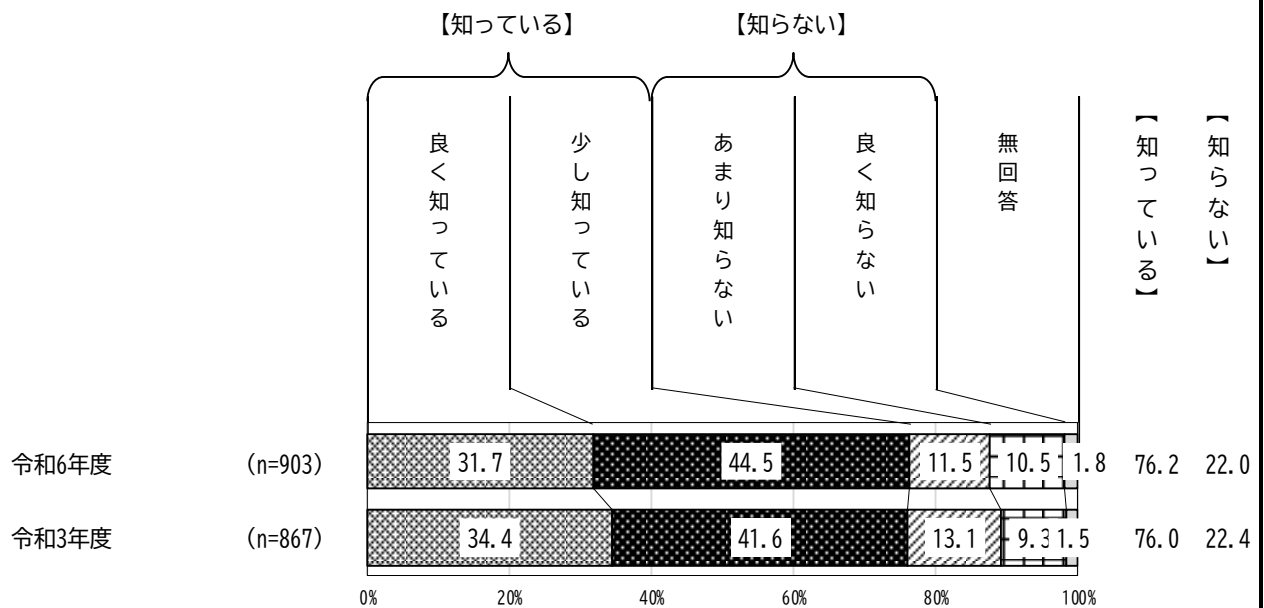
<図表 9-8> 施策の認知状況「市政出前講座」／過年度推移



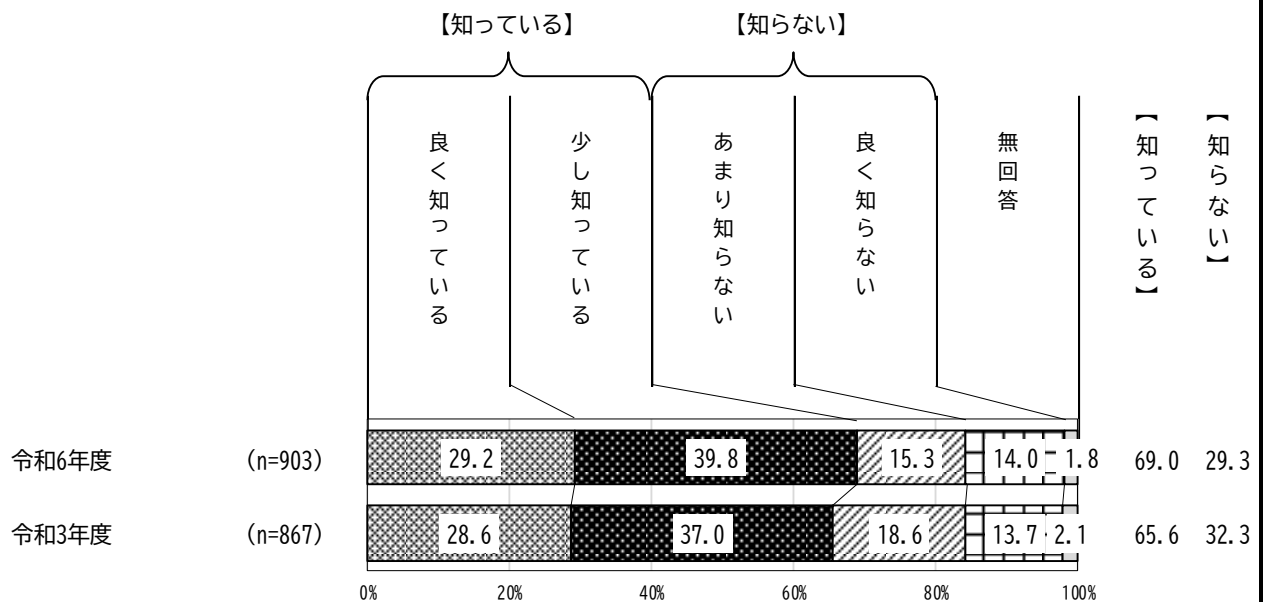
<図表 9-9> 施策の認知状況「福生市輝き市民サポートセンターを拠点とした市民活動」／過年度推移



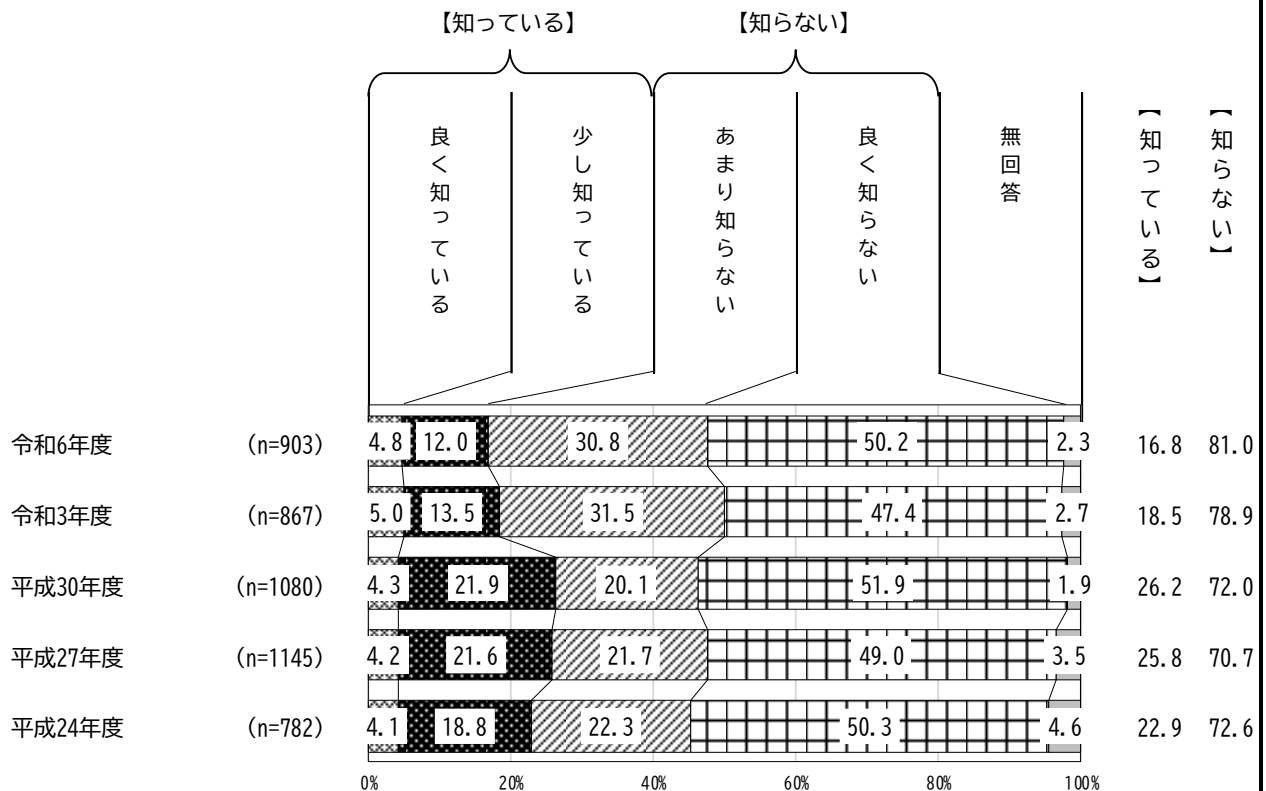
<図表 9-10> 施策の認知状況「福祉バス」／過年度推移



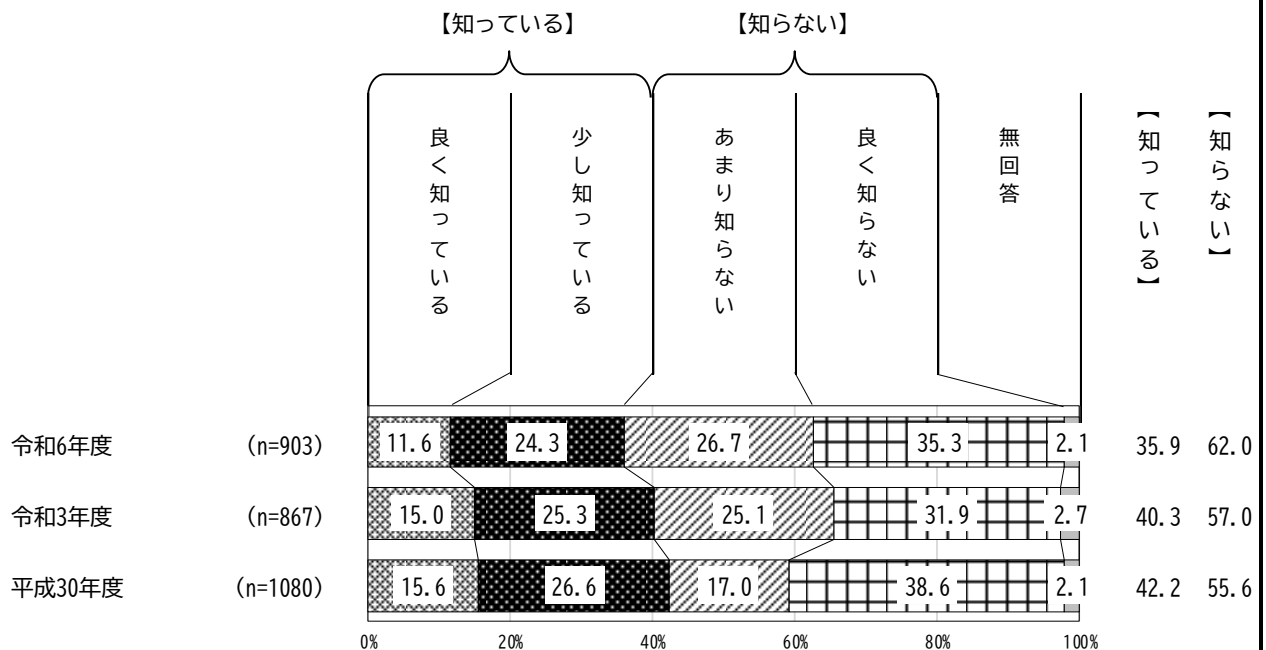
<図表 9-11> 施策の認知状況「通学路見守り員による登下校時の見守り」／過年度推移



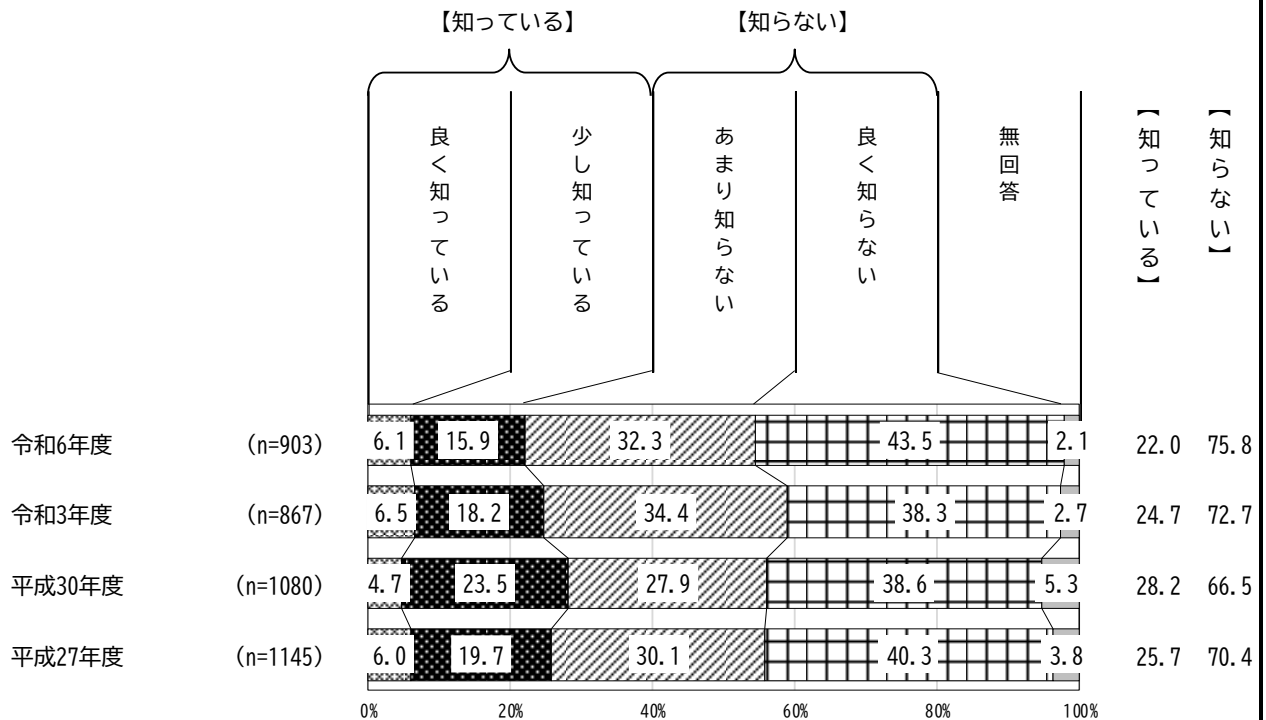
<図表 9-12> 施策の認知状況「福生市入学資金融資制度」／過年度推移



<図表 9-13> 施策の認知状況「防災食育センター」／過年度推移



<図表 9-14> 施策の認知状況「教育相談」／過年度推移



<調査結果>

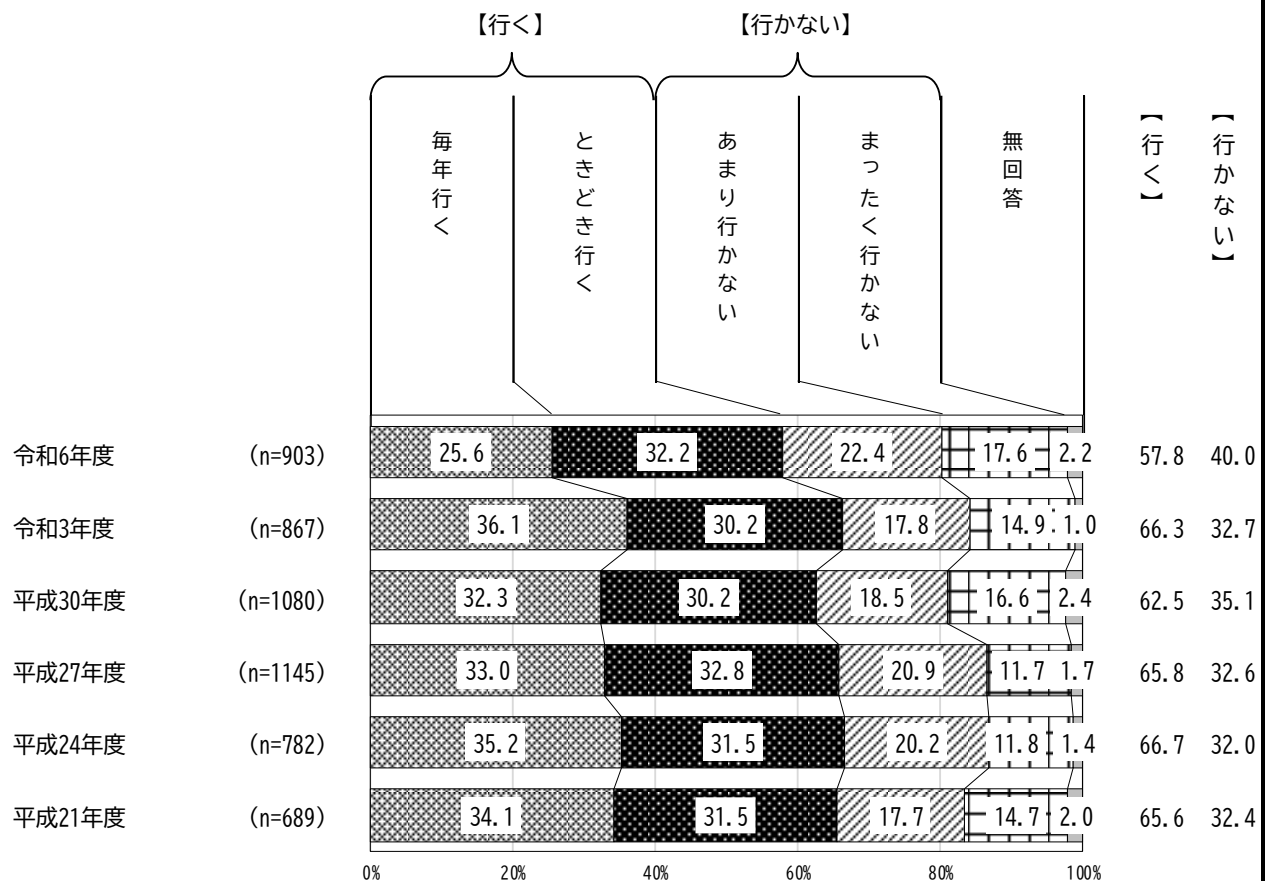
過去に認知状況を調査した施策について過年度推移を見ると、増減はあるものの、認知状況の割合に大きな変化は見られません。

4 イベント・観光

(1) 福生七夕まつりへの参加状況

問 10 福生七夕まつりには行きますか。(○は1つ)

<図表 10-1> 福生七夕まつりへの参加状況



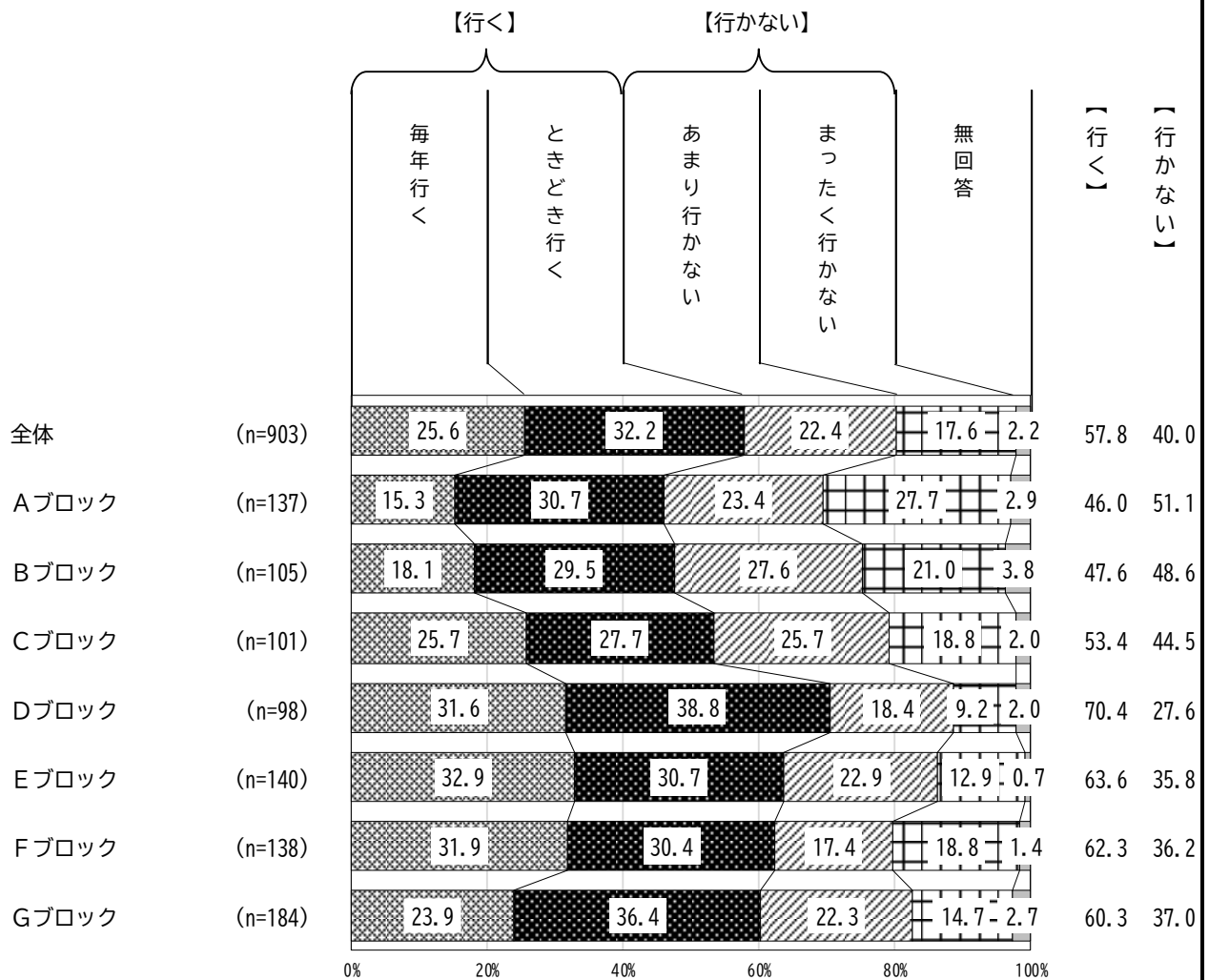
<調査結果>

福生七夕まつりへの参加状況について聞いたところ、「ときどき行く」(32.2%)が3割を超え最も高く、次いで、「毎年行く」(25.6%)、「あまり行かない」(22.4%)となっています。

「毎年行く」(25.6%)と「ときどき行く」(32.2%)を合計した【行く】(57.8%)が5割半ばを超えています。令和3年度(66.3%)から令和6年度(57.8%)にかけて、8.5ポイント下降しています。

【行く】(57.8%)は、「あまり行かない」(22.4%)と「まったく行かない」(17.6%)を合計した【行かない】(40.0%)を17.8ポイント上回っています。

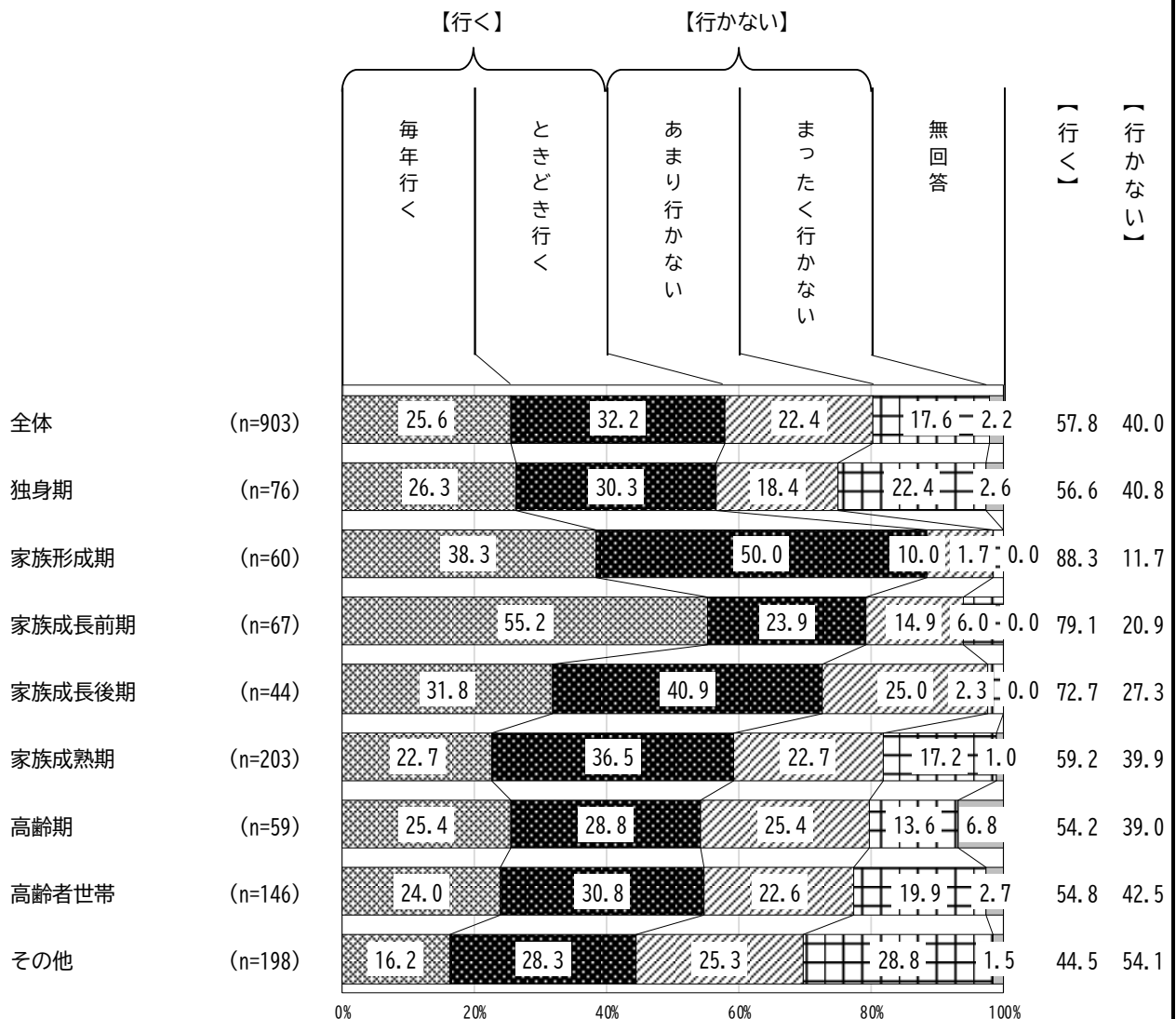
<図表 10-2> 福生七夕まつりへの参加状況／ブロック別



<調査結果>

福生七夕まつりへの参加状況についてブロック別に見ると、【行く】の割合は、Dブロック（70.4%）が最も高く約7割となっています。次いで、Eブロック（63.6%）、Fブロック（62.3%）、Gブロック（60.3%）も6割台となっています。一方で、Aブロック（46.0%）が最も低く4割半ばとなっています。

<図表 10-3> 福生七夕まつりへの参加状況／ライフステージ別



<調査結果>

福生七夕まつりへの参加状況についてライフステージ別に見ると、【行く】の割合は、家族形成期（88.3%）が最も高く9割近くとなっています。次いで、家族成長前期（79.1%）が約8割、家族成長後期（72.7%）が7割を超えています。

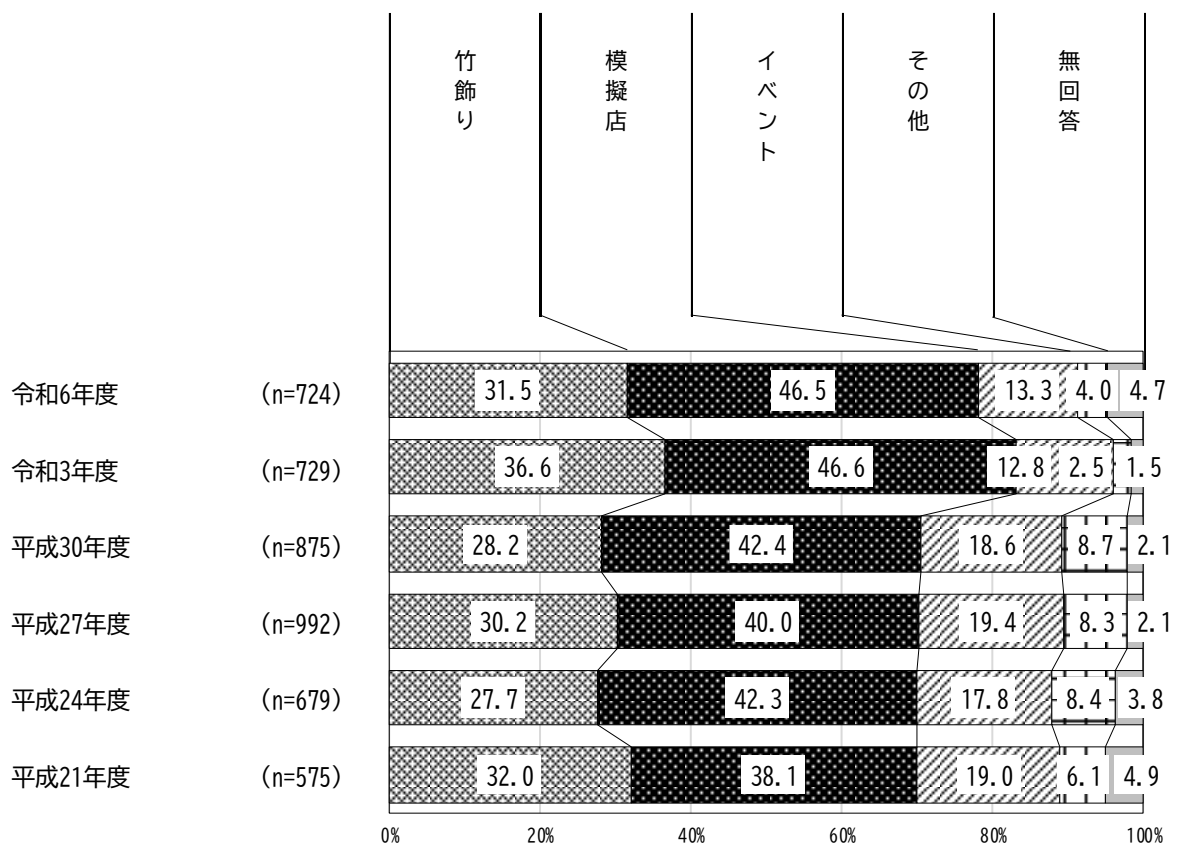
「毎年行く」の割合は、独身期から家族成長前期にかけて上昇し、その後、低下していきます。ライフステージが若年層は毎年参加する割合が高く、高齢層になるにつれて、福生七夕まつりへの参加状況は低下していく傾向が見られます。

(2) 福生七夕まつりの楽しみ

問 10 で、「1 毎年行く」「2 ときどき行く」「3 あまり行かない」と回答した方に伺います。

問 10 -1 福生七夕まつりで特に楽しみにしているものは何ですか。(○は1つ)

<図表 10-1-1> 福生七夕まつりの楽しみ

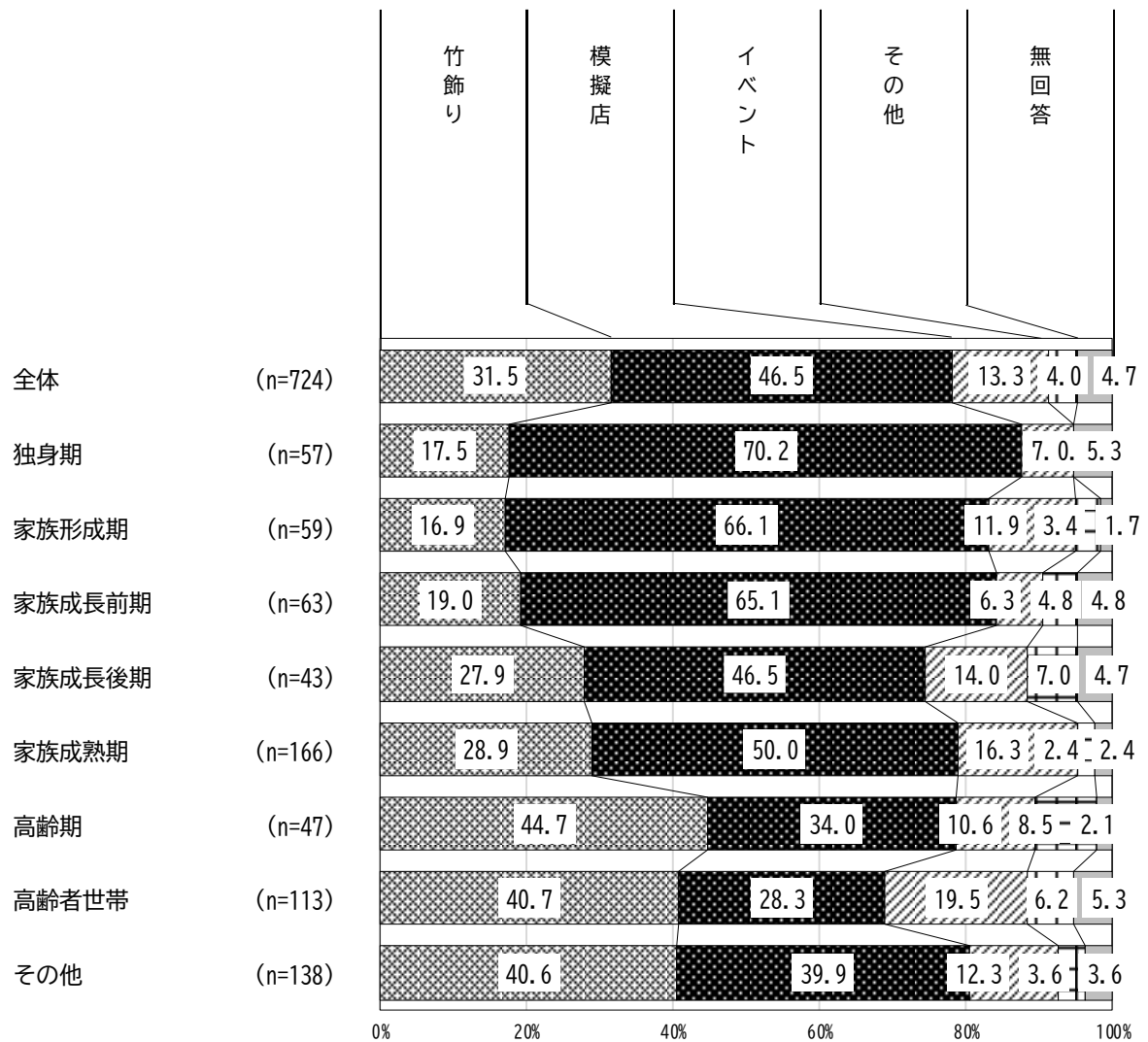


<調査結果>

福生七夕まつりの楽しみについて聞いたところ、「模擬店」(46.5%)が4割半ばを超え最も高く、次いで、「竹飾り」(31.5%)、「イベント」(13.3%)となっています。

いずれの年度においても、「模擬店」が最も高く、次いで「竹飾り」、「イベント」と同様の傾向が見られます。

<図表 10-1-2> 福生七夕まつりの楽しみ／ライフステージ別



<調査結果>

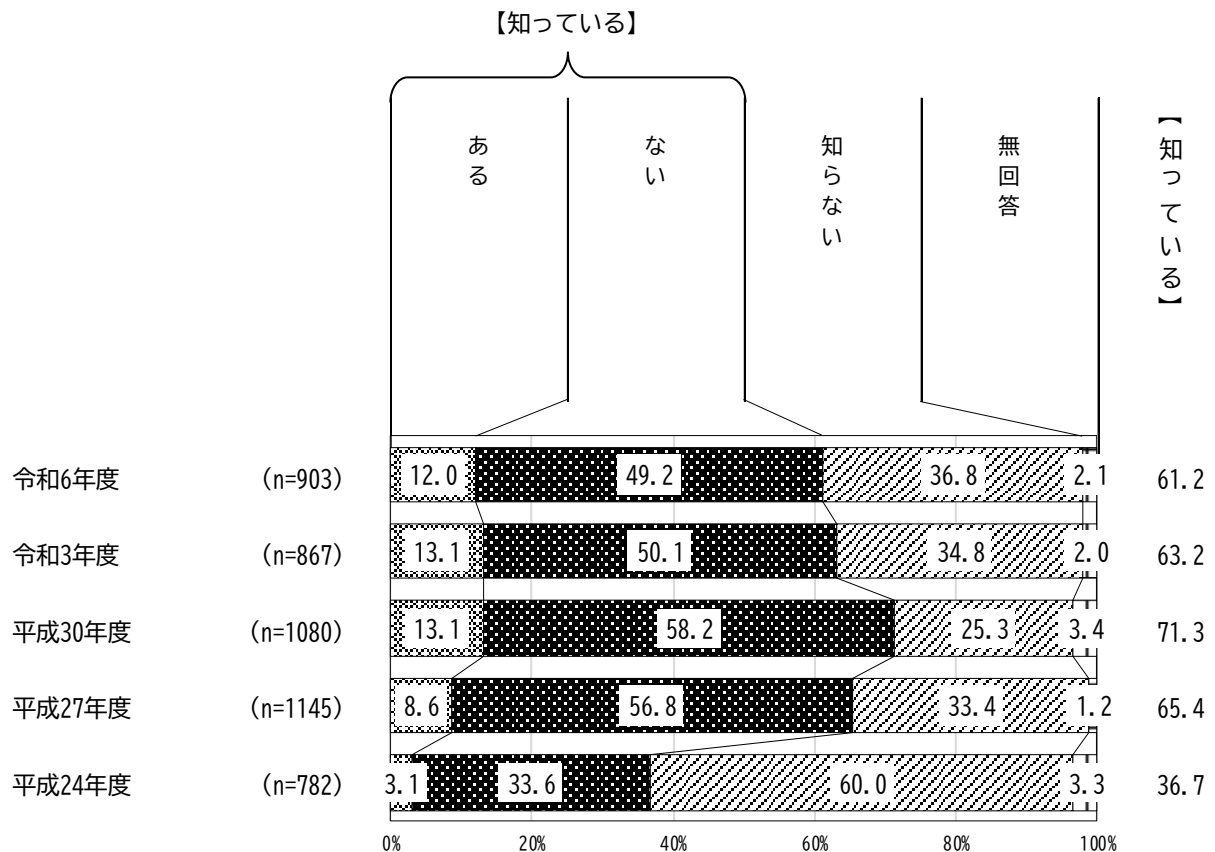
福生七夕まつりの楽しみについて、「竹飾り」の割合をライフステージ別に見ると、高齢期（44.7%）が全体よりやや高くなっています。一方で、独身期（17.5%）、家族形成期（16.9%）、家族成長前期（19.0%）が全体よりやや低くなっています。

「模擬店」の割合をライフステージ別に見ると、独身期（70.2%）、家族形成期（66.1%）、家族成長前期（65.1%）が全体より高くなっています。

(3)「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」の利用状況

問 11 「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」を利用したことがありますか。(○は1つ)

<図表 11-1>「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」の利用状況



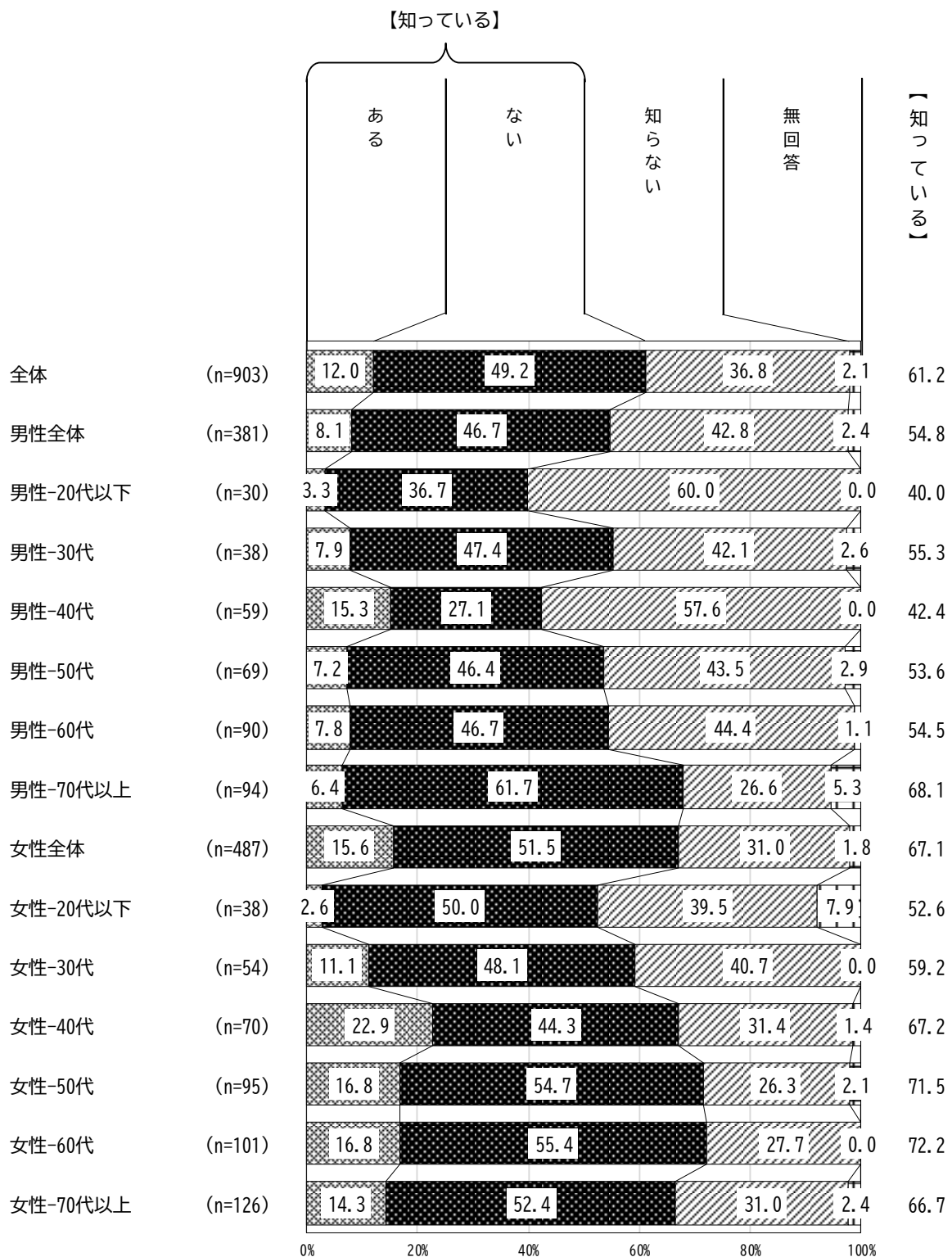
<調査結果>

「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」の利用状況について聞いたところ、「ない」(49.2%)が約5割と最も高く、次いで、「知らない」(36.8%)、「ある」(12.0%)となっています。

「ある」(12.0%)と「ない」(49.2%)を合計した【知っている】(61.2%)が6割を超えています。

【知っている】は平成27年度(65.4%)以降、6割～7割台を推移しています。

<図表 11-2>「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」の利用状況／性・年齢別



<調査結果>

「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」の利用状況について性・年齢別に見ると、【知っている】の割合は、女性-60代（72.2%）が最も高く7割を超えています。次いで、女性-50代（71.5%）も7割を超えています。一方で、男性-20代以下（40.0%）、男性-40代（42.4%）が4割台となっています。

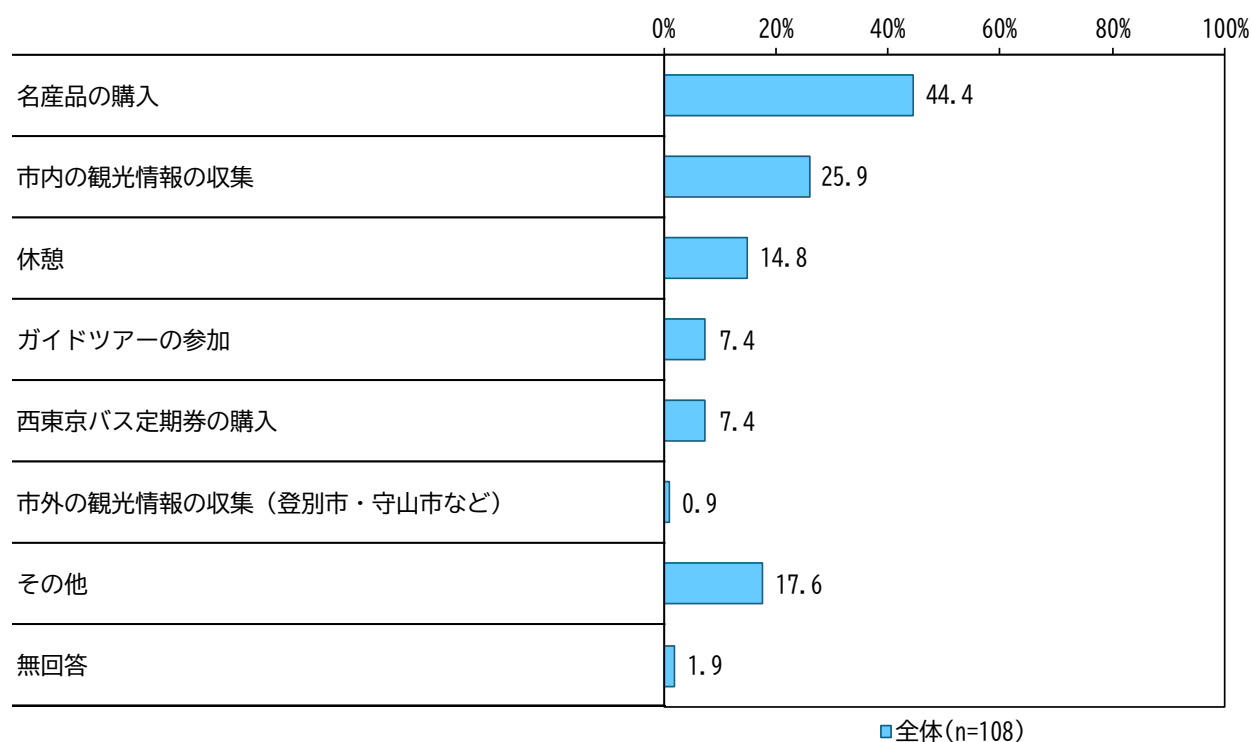
「ある」の割合は、女性-40代（22.9%）が最も高く、最も低い女性-20代以下（2.6%）との差は、20.3ポイントとなっています。

(4)「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」の利用目的

問 11 で「1 ある」と回答した方に伺います。

問 11 -1 「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」を利用した目的は何ですか。(○はいくつでも)

<図表 11-1-1>「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」の利用目的



<調査結果>

「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」の利用目的について聞いたところ、「名産品の購入」(44.4%)が4割半ばと最も高く、次いで、「市内の観光情報の収集」(25.9%)が2割半ばとなっています。

<図表 11-1-2>「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」の利用目的／性・年齢別

		n	名産品の購入	市内の観光情報の収集	休憩	ガイドツアーの参加	西東京バス定期券の購入	市外の観光情報の収集（登別市・守山市など）	その他	無回答
全体		108	44.4	25.9	14.8	7.4	7.4	0.9	17.6	1.9
性・年齢別	男性全体	31	32.3	32.3	25.8	9.7	6.5	0.0	19.4	0.0
	男性-20代以下	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	男性-30代	3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	男性-40代	9	22.2	33.3	55.6	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0
	男性-50代	5	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	男性-60代	7	42.9	57.1	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0
	男性-70代以上	6	33.3	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0
	女性全体	76	50.0	23.7	10.5	6.6	7.9	1.3	17.1	1.3
	女性-20代以下	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性-30代	6	33.3	50.0	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3	0.0
	女性-40代	16	43.8	25.0	12.5	6.3	12.5	6.3	25.0	0.0
	女性-50代	16	50.0	37.5	0.0	0.0	6.3	0.0	18.8	0.0
	女性-60代	17	52.9	17.6	11.8	5.9	5.9	0.0	23.5	0.0
	女性-70代以上	18	61.1	11.1	16.7	11.1	0.0	0.0	0.0	5.6

<調査結果>

「まちなかおもてなしステーション くるみる ふっさ」の利用目的について、「市内の観光情報の収集」の割合を性・年齢別に見ると、男性-60代（57.1%）が全体よりとても高く、女性-30代（50.0%）が全体より高くなっています。

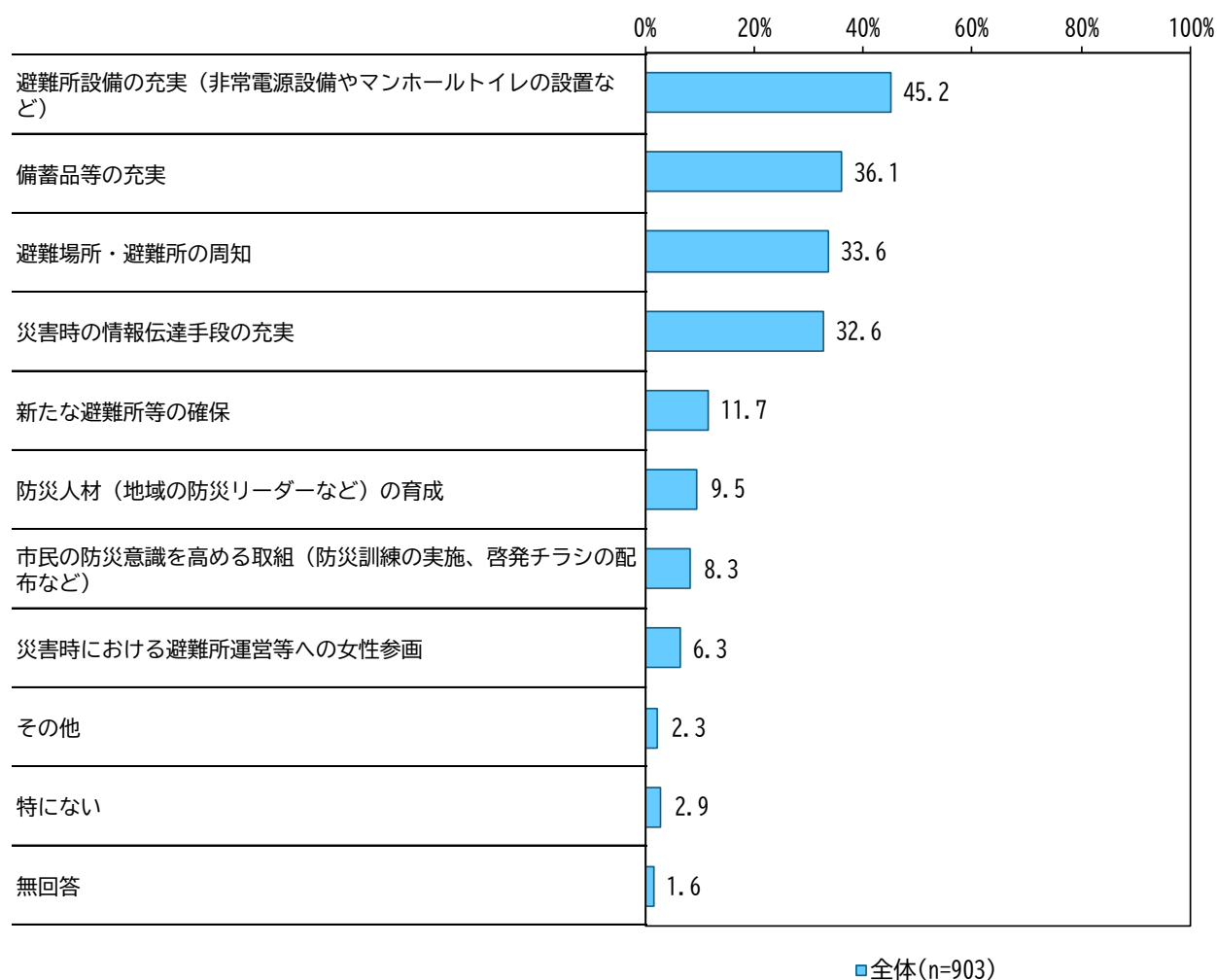
※いずれもn数（サンプル数）が少ないため、参考値となります。

5 防災・防犯対策

(1) 市が特に取り組むべき防災対策

問 12 災害に強いまちづくりを推進するために、市が特に取り組むべき防災対策は、次のうちどれだと思いますか。(〇は2つまで)

<図表 12-1> 市が特に取り組むべき防災対策



<調査結果>

市が特に取り組むべき防災対策について聞いたところ、「避難所設備の充実（非常電源設備やマンホールトイレの設置など）」(45.2%)が4割半ばと最も高く、次いで、「備蓄品等の充実」(36.1%)が3割半ばで、「避難場所・避難所の周知」(33.6%)、「災害時の情報伝達手段の充実」(32.6%)が3割を超えています。

<図表 12-2>市が特に取り組むべき防災対策(上位 10 項目)／性・年齢別

		n	避難所設備の充実（非常電源設備やマンホールトイレの設置など）	備蓄品等の充実	避難場所・避難所の周知	災害時の情報伝達手段の充実	新たな避難所等の確保	防災人材（地域の防災リーダーなど）の育成	市民の防災意識を高める取組（防災訓練の実施、啓発チラシの配布など）	災害時における避難所運営等への女性参画	その他	特にない	無回答
全体		903	45.2	36.1	33.6	32.6	11.7	9.5	8.3	6.3	2.3	2.9	1.6
性・年齢別	男性全体	381	37.3	37.0	35.2	31.0	10.2	9.4	11.3	4.2	2.6	4.5	1.3
	男性-20代以下	30	30.0	30.0	40.0	16.7	13.3	10.0	13.3	0.0	3.3	10.0	0.0
	男性-30代	38	39.5	47.4	28.9	26.3	5.3	5.3	2.6	5.3	5.3	7.9	2.6
	男性-40代	59	30.5	47.5	42.4	18.6	10.2	11.9	11.9	5.1	1.7	5.1	0.0
	男性-50代	69	34.8	33.3	37.7	33.3	8.7	5.8	11.6	2.9	2.9	5.8	1.4
	男性-60代	90	42.2	42.2	25.6	42.2	11.1	12.2	10.0	4.4	1.1	2.2	0.0
	男性-70代以上	94	39.4	26.6	39.4	33.0	11.7	9.6	13.8	5.3	3.2	2.1	3.2
	女性全体	487	50.1	35.3	32.9	34.9	12.5	10.1	5.5	8.0	1.8	1.8	1.6
	女性-20代以下	38	39.5	36.8	31.6	26.3	13.2	7.9	7.9	10.5	0.0	7.9	0.0
	女性-30代	54	53.7	55.6	35.2	20.4	11.1	3.7	7.4	9.3	1.9	1.9	0.0
	女性-40代	70	40.0	44.3	32.9	25.7	17.1	10.0	7.1	7.1	2.9	1.4	2.9
	女性-50代	95	52.6	28.4	30.5	41.1	11.6	11.6	5.3	7.4	2.1	1.1	1.1
	女性-60代	101	52.5	28.7	34.7	42.6	10.9	9.9	3.0	6.9	1.0	2.0	1.0
	女性-70代以上	126	54.0	32.5	32.5	37.3	12.7	12.7	5.6	8.7	1.6	0.8	3.2

<調査結果>

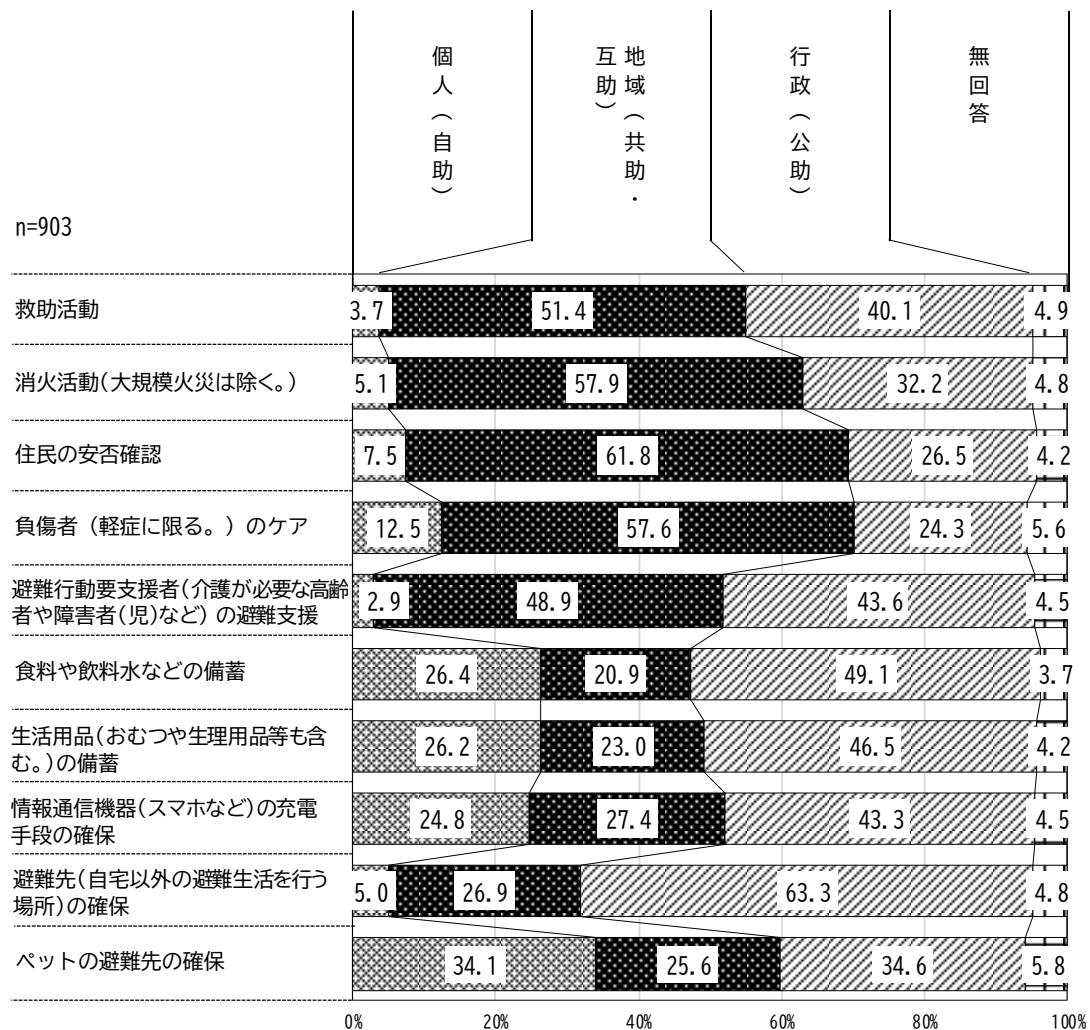
市が特に取り組むべき防災対策について、「備蓄品等の充実」の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代（55.6%）が全体より高く、男性-30代（47.4%）、男性-40代（47.5%）が全体よりやや高くなっています。

「災害時の情報伝達手段の充実」の割合を性・年齢別に見ると、女性-60代（42.6%）が全体よりやや高くなっています。一方で、男性-20代以下（16.7%）が全体より低く、男性-40代（18.6%）、女性-30代（20.4%）が全体よりやや低くなっています。

(2) 防災対策や災害発生時の役割

問 13 日ごろの防災対策や災害発生時は、個人、地域、行政がそれぞれの役割を担い、連携することが求められます。次の項目について、主に役割を担うことが望ましい実施主体を、それぞれ1つずつ番号を選んでください。

<図表 13-1> 防災対策や災害発生時の役割



<調査結果>

防災対策や災害発生時の役割について聞いたところ、「個人（自助）」の上位3項目は、「ペットの避難先の確保」（34.1%）、「食料や飲料水などの備蓄」（26.4%）、「生活用品（おむつや生理用品等も含む。）の備蓄」（26.2%）となっています。

「地域（共助・互助）」の上位3項目は、「住民の安否確認」（61.8%）、「消火活動（大規模火災は除く。）」（57.9%）、「負傷者（軽症に限る。）のケア」（57.6%）となっています。

「行政（公助）」の上位3項目は、「避難先（自宅以外の避難生活を行う場所）の確保」（63.3%）、「食料や飲料水などの備蓄」（49.1%）、「生活用品（おむつや生理用品等も含む。）の備蓄」（46.5%）となっています。

<図表 13-2> 防災対策や災害発生時の役割／性・年齢別

		n	救助活動			
			（個人 助）	（地域 共助・互助）	（行政 公助）	無回答
全体		903	3.7	51.4	40.1	4.9
性・年齢別	男性全体	381	5.2	51.7	40.2	2.9
	男性-20代以下	30	3.3	36.7	56.7	3.3
	男性-30代	38	5.3	60.5	34.2	0.0
	男性-40代	59	5.1	52.5	42.4	0.0
	男性-50代	69	2.9	52.2	43.5	1.4
	男性-60代	90	5.6	45.6	43.3	5.6
	男性-70代以上	94	7.4	57.4	30.9	4.3
	女性全体	487	2.3	51.3	40.7	5.7
	女性-20代以下	38	0.0	50.0	47.4	2.6
	女性-30代	54	1.9	40.7	57.4	0.0
	女性-40代	70	0.0	41.4	51.4	7.1
	女性-50代	95	1.1	54.7	44.2	0.0
	女性-60代	101	4.0	49.5	38.6	7.9
女性-70代以上	126	4.0	61.1	24.6	10.3	

消火活動(大規模火災は除く。)			
(個人 助)	(地域 共助・互助)	(行政 公助)	無回答
5.1	57.9	32.2	4.8
6.8	56.4	33.1	3.7
13.3	33.3	50.0	3.3
5.3	57.9	36.8	0.0
1.7	67.8	27.1	3.4
7.2	58.0	33.3	1.4
4.4	54.4	35.6	5.6
10.6	56.4	27.7	5.3
4.1	60.2	30.6	5.1
7.9	39.5	50.0	2.6
1.9	59.3	38.9	0.0
2.9	57.1	34.3	5.7
2.1	60.0	35.8	2.1
4.0	62.4	26.7	6.9
6.3	66.7	18.3	8.7

		n	住民の安否確認			
			(個人 自助)	(地域 共助・互助)	(行政 公助)	無回答
全体		903	7.5	61.8	26.5	4.2
性・年齢別	男性全体	381	9.7	57.5	29.4	3.4
	男性-20代以下	30	10.0	70.0	20.0	0.0
	男性-30代	38	18.4	52.6	28.9	0.0
	男性-40代	59	5.1	62.7	30.5	1.7
	男性-50代	69	7.2	60.9	31.9	0.0
	男性-60代	90	10.0	48.9	35.6	5.6
	男性-70代以上	94	10.6	58.5	24.5	6.4
	女性全体	487	6.2	65.9	23.6	4.3
	女性-20代以下	38	7.9	60.5	28.9	2.6
	女性-30代	54	9.3	74.1	14.8	1.9
	女性-40代	70	4.3	57.1	34.3	4.3
	女性-50代	95	4.2	58.9	35.8	1.1
	女性-60代	101	3.0	70.3	20.8	5.9
	女性-70代以上	126	9.5	70.6	12.7	7.1

負傷者(軽症に限る。)のケア			
(個人 助)	(地域 共助・互助)	(行政 公助)	無回答
12.5	57.6	24.3	5.6
14.7	58.3	21.5	5.5
23.3	50.0	16.7	10.0
15.8	52.6	31.6	0.0
20.3	66.1	11.9	1.7
11.6	62.3	24.6	1.4
14.4	53.3	25.6	6.7
10.6	59.6	19.1	10.6
11.3	57.1	26.3	5.3
18.4	57.9	21.1	2.6
13.0	57.4	29.6	0.0
10.0	52.9	31.4	5.7
8.4	60.0	29.5	2.1
8.9	51.5	33.7	5.9
13.5	60.3	15.9	10.3

<図表 13-3> 防災対策や災害発生時の役割／性・年齢別

		n	避難行動要支援者（介護が必要な高齢者 や障害者（児）など）の避難支援			
			（個人 助）	（地域 共助・ 互助）	（行政 公助）	無 回 答
全体		903	2.9	48.9	43.6	4.5
性・年齢別	男性全体	381	4.5	51.4	40.2	3.9
	男性-20代以下	30	3.3	43.3	50.0	3.3
	男性-30代	38	7.9	36.8	55.3	0.0
	男性-40代	59	8.5	59.3	30.5	1.7
	男性-50代	69	2.9	52.2	43.5	1.4
	男性-60代	90	2.2	51.1	40.0	6.7
	男性-70代以上	94	4.3	55.3	34.0	6.4
	女性全体	487	1.8	47.6	45.8	4.7
	女性-20代以下	38	2.6	50.0	44.7	2.6
	女性-30代	54	0.0	51.9	48.1	0.0
	女性-40代	70	0.0	38.6	57.1	4.3
	女性-50代	95	4.2	51.6	43.2	1.1
	女性-60代	101	1.0	48.5	44.6	5.9
	女性-70代以上	126	2.4	45.2	42.9	9.5

食料や飲料水などの備蓄			
(個人助)	(地域共助・互助)	(行政公助)	無回答
26.4	20.9	49.1	3.7
29.7	19.9	47.5	2.9
40.0	30.0	30.0	0.0
23.7	23.7	52.6	0.0
28.8	20.3	49.2	1.7
29.0	26.1	43.5	1.4
23.3	14.4	57.8	4.4
35.1	16.0	43.6	5.3
24.2	22.0	49.7	4.1
23.7	31.6	42.1	2.6
24.1	29.6	46.3	0.0
18.6	22.9	55.7	2.9
29.5	21.1	49.5	0.0
16.8	19.8	58.4	5.0
29.4	17.5	43.7	9.5

		n	生活用品(おむつや生理用品等も含む。)の備蓄			
			(個人助)	(地域共助・互助)	(行政公助)	無回答
全体		903	26.2	23.0	46.5	4.2
性・年齢別	男性全体	381	29.1	23.6	44.1	3.1
	男性-20代以下	30	46.7	30.0	20.0	3.3
	男性-30代	38	21.1	28.9	50.0	0.0
	男性-40代	59	28.8	30.5	39.0	1.7
	男性-50代	69	30.4	30.4	37.7	1.4
	男性-60代	90	17.8	17.8	58.9	5.6
	男性-70代以上	94	36.2	16.0	43.6	4.3
	女性全体	487	24.4	23.2	47.6	4.7
	女性-20代以下	38	21.1	34.2	42.1	2.6
	女性-30代	54	18.5	33.3	48.1	0.0
	女性-40代	70	21.4	20.0	54.3	4.3
	女性-50代	95	29.5	23.2	46.3	1.1
	女性-60代	101	24.8	19.8	50.5	5.0
	女性-70代以上	126	25.4	19.8	44.4	10.3

情報通信機器(スマホなど)の充電手段の確保			
(個人助)	(地域共助・互助)	(行政公助)	無回答
24.8	27.4	43.3	4.5
26.2	29.9	40.9	2.9
53.3	23.3	23.3	0.0
23.7	23.7	52.6	0.0
32.2	30.5	37.3	0.0
26.1	33.3	40.6	0.0
17.8	24.4	52.2	5.6
22.3	37.2	34.0	6.4
24.0	25.9	45.0	5.1
36.8	18.4	42.1	2.6
18.5	35.2	46.3	0.0
22.9	14.3	58.6	4.3
26.3	34.7	36.8	2.1
19.8	23.8	51.5	5.0
24.6	25.4	38.9	11.1

<図表 13-4> 防災対策や災害発生時の役割／性・年齢別

		n	避難先(自宅以外の避難生活を行う場所)の確保				ペットの避難先の確保			
			(個人 自助)	(地域・互助 共助)	(行政 公助)	無回答	(個人 自助)	(地域・互助 共助)	(行政 公助)	無回答
全体		903	5.0	26.9	63.3	4.8	34.1	25.6	34.6	5.8
性・年齢別	男性全体	381	3.9	24.1	67.7	4.2	34.6	26.2	34.4	4.7
	男性-20代以下	30	0.0	40.0	56.7	3.3	26.7	43.3	26.7	3.3
	男性-30代	38	5.3	28.9	63.2	2.6	31.6	23.7	44.7	0.0
	男性-40代	59	8.5	23.7	66.1	1.7	33.9	32.2	30.5	3.4
	男性-50代	69	0.0	30.4	66.7	2.9	37.7	27.5	31.9	2.9
	男性-60代	90	3.3	16.7	74.4	5.6	25.6	22.2	45.6	6.7
	男性-70代以上	94	5.3	19.1	69.1	6.4	44.7	21.3	26.6	7.4
	女性全体	487	5.5	29.0	60.6	4.9	33.7	25.7	34.7	6.0
	女性-20代以下	38	10.5	26.3	60.5	2.6	31.6	26.3	39.5	2.6
	女性-30代	54	5.6	31.5	59.3	3.7	31.5	31.5	37.0	0.0
	女性-40代	70	2.9	20.0	72.9	4.3	30.0	21.4	44.3	4.3
	女性-50代	95	4.2	35.8	57.9	2.1	30.5	30.5	37.9	1.1
	女性-60代	101	5.0	21.8	68.3	5.0	29.7	25.7	36.6	7.9
	女性-70代以上	126	7.1	34.1	50.0	8.7	42.9	21.4	23.0	12.7

<調査結果>

防災対策や災害発生時の役割の「住民の安否確認」について、「地域（共助・互助）」の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代（74.1%）が全体よりやや高くなっています。

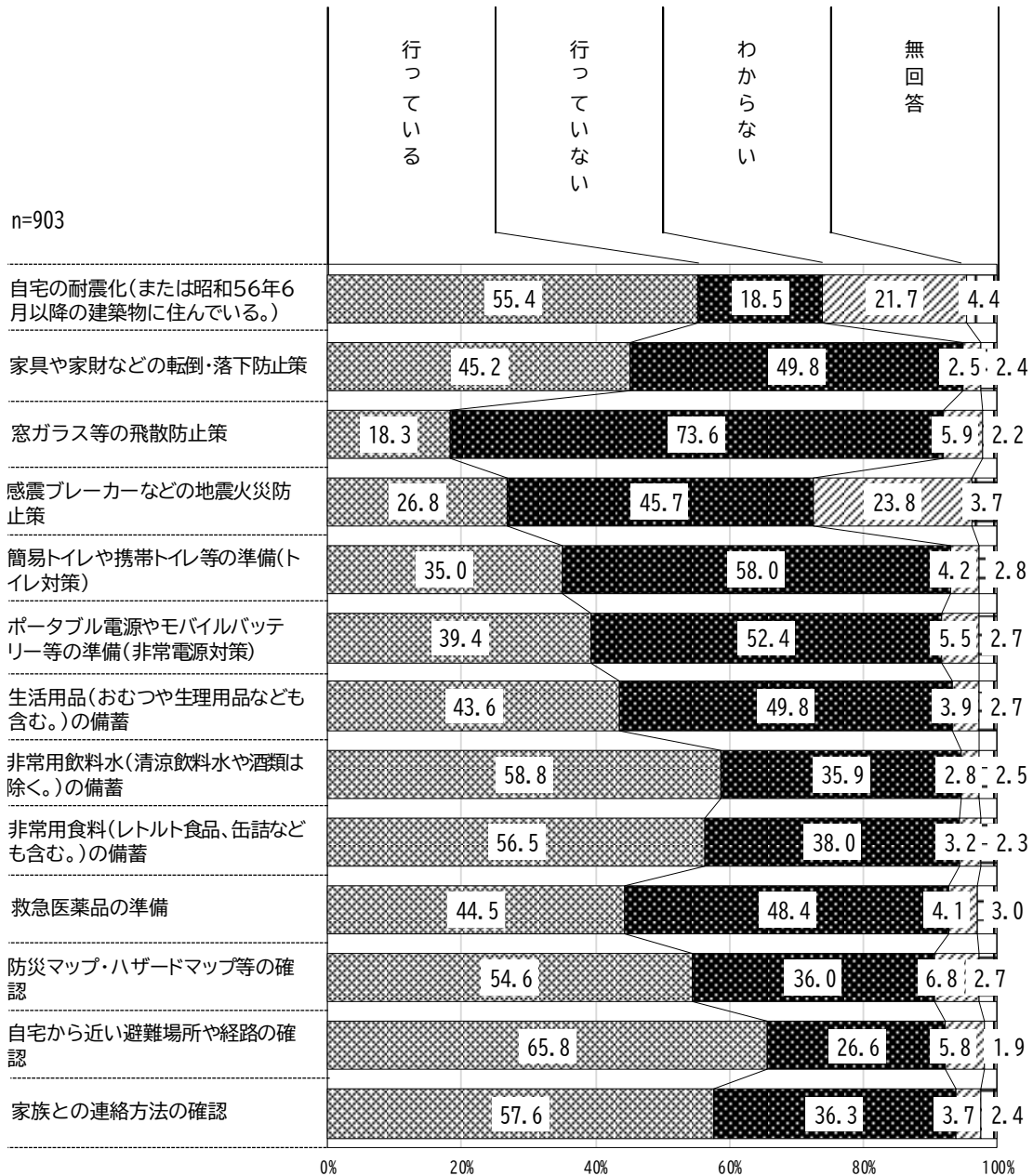
「情報通信機器（スマホなど）の充電手段の確保」について、「個人（自助）」の割合を性・年齢別に見ると、男性-20代以下（53.3%）が全体よりとても高く、女性-20代以下（36.8%）が全体よりやや高くなっていますが、「行政（公助）」の割合は、女性-40代（58.6%）が全体より高くなっています。

「ペットの避難先の確保」について、「個人（自助）」の割合を性・年齢別に見ると、男性-70代以上（44.7%）が全体よりやや高くなっていますが、「地域（共助・互助）」の割合は、男性-20代以下（43.3%）が全体より高く、「行政（公助）」の割合は、男性-30代（44.7%）、男性-60代（45.6%）が全体よりやや高くなっています。

(3) 自宅で行っている災害への備え

問 14 あなたのお宅では、災害への備えを行っていますか。次の項目について、それぞれ1つずつ番号を選んでください。

<図表 14-1> 自宅で行っている災害への備え



<調査結果>

自宅で行っている災害への備えについて聞いたところ、「行っている」は、「自宅から近い避難場所や経路の確認」(65.8%)が6割半ばとなっており、次いで、「非常用飲料水(清涼飲料水や酒類は除く。)の備蓄」(58.8%)が6割近くとなっています。

「行っていない」は、「窓ガラス等の飛散防止策」(73.6%)が7割を超え、「簡易トイレや携帯トイレ等の準備(トイレ対策)」(58.0%)が6割近くとなっています。

<図表 14-2> 自宅で行っている災害への備え「行っている」／ライフステージ別

	全体	独身期	家族形成期	家族成長前期	家族成長後期	家族成熟期	高齢期	高齢者世帯	その他
n	903	76	60	67	44	203	59	146	198
自宅の耐震化(または昭和56年6月以降の建築物に住んでいる。)	55.4	46.1	68.3	74.6	72.7	63.5	62.7	56.2	36.9
家具や家財などの転倒・落下防止策	45.2	40.8	40.0	37.3	54.5	51.7	54.2	56.2	30.8
窓ガラス等の飛散防止策	18.3	15.8	20.0	22.4	27.3	18.2	23.7	17.8	12.1
感震ブレーカーなどの地震火災防止策	26.8	14.5	16.7	32.8	34.1	31.0	33.9	24.0	23.7
簡易トイレや携帯トイレ等の準備(トイレ対策)	35.0	30.3	25.0	41.8	31.8	44.8	35.6	33.6	29.3
ポータブル電源やモバイルバッテリー等の準備(非常電源対策)	39.4	57.9	56.7	55.2	54.5	41.9	39.0	23.3	30.8
生活用品(おむつや生理用品なども含む。)の備蓄	43.6	50.0	60.0	58.2	43.2	39.4	40.7	40.4	39.4
非常用飲料水(清涼飲料水や酒類は除く。)の備蓄	58.8	57.9	65.0	67.2	63.6	57.6	55.9	65.8	54.0
非常用食料(レトルト食品、缶詰なども含む。)の備蓄	56.5	61.8	63.3	59.7	63.6	52.2	50.8	57.5	57.6
救急医薬品の準備	44.5	53.9	35.0	44.8	40.9	47.8	42.4	40.4	45.5
防災マップ・ハザードマップ等の確認	54.6	40.8	63.3	58.2	63.6	61.6	57.6	50.7	49.5
自宅から近い避難場所や経路の確認	65.8	57.9	58.3	70.1	79.5	74.4	66.1	67.1	59.6
家族との連絡方法の確認	57.6	57.9	50.0	58.2	63.6	67.0	67.8	59.6	49.0

<調査結果>

自宅で行っている災害への備え「行っている」について、「ポータブル電源やモバイルバッテリー等の準備（非常電源対策）」の割合をライフステージ別に見ると、独身期（57.9%）、家族形成期（56.7%）、家族成長前期（55.2%）、家族成長後期（54.5%）が全体より高くなっています。一方で、高齢者世帯（23.3%）が全体より低くなっています。

「自宅の耐震化（または昭和56年6月以降の建築物に住んでいる。）」の割合をライフステージ別に見ると、家族成長前期（74.6%）、家族成長後期（72.7%）が全体より高く、家族形成期（68.3%）が全体よりやや高くなっています。

<図表 14-3> 自宅で行っている災害への備え「行っていない」／ライフステージ別

	全体	独身期	家族形成期	家族成長前期	家族成長後期	家族成熟期	高齢期	高齢者世帯	その他
n	903	76	60	67	44	203	59	146	198
自宅の耐震化(または昭和56年6月以降の建築物に住んでいる。)	18.5	13.2	11.7	6.0	15.9	16.3	10.2	22.6	29.8
家具や家財などの転倒・落下防止策	49.8	50.0	55.0	56.7	40.9	46.3	37.3	38.4	67.2
窓ガラス等の飛散防止策	73.6	69.7	71.7	71.6	70.5	77.3	64.4	71.9	80.3
感震ブレーカーなどの地震火災防止策	45.7	44.7	40.0	38.8	47.7	46.8	32.2	45.2	53.5
簡易トイレや携帯トイレ等の準備(トイレ対策)	58.0	55.3	70.0	49.3	61.4	52.2	54.2	58.9	66.2
ポータブル電源やモバイルバッテリー等の準備(非常電源対策)	52.4	35.5	40.0	35.8	40.9	53.7	47.5	65.8	61.1
生活用品(おむつや生理用品なども含む。)の備蓄	49.8	40.8	35.0	35.8	52.3	55.2	45.8	54.1	55.6
非常用飲料水(清涼飲料水や酒類は除く。)の備蓄	35.9	36.8	33.3	26.9	34.1	37.9	30.5	30.8	41.4
非常用食料(レトルト食品、缶詰なども含む。)の備蓄	38.0	30.3	33.3	35.8	31.8	42.9	39.0	37.0	38.9
救急医薬品の準備	48.4	35.5	58.3	49.3	52.3	46.3	40.7	54.1	49.5
防災マップ・ハザードマップ等の確認	36.0	42.1	33.3	31.3	29.5	33.0	28.8	39.0	40.4
自宅から近い避難場所や経路の確認	26.6	28.9	36.7	20.9	15.9	20.2	25.4	24.7	33.3
家族との連絡方法の確認	36.3	32.9	46.7	35.8	36.4	28.6	25.4	33.6	43.9

<調査結果>

自宅で行っている災害への備え「行っていない」について、「簡易トイレや携帯トイレ等の準備(トイレ対策)」の割合をライフステージ別に見ると、家族形成期(70.0%)が全体よりやや高くなっています。

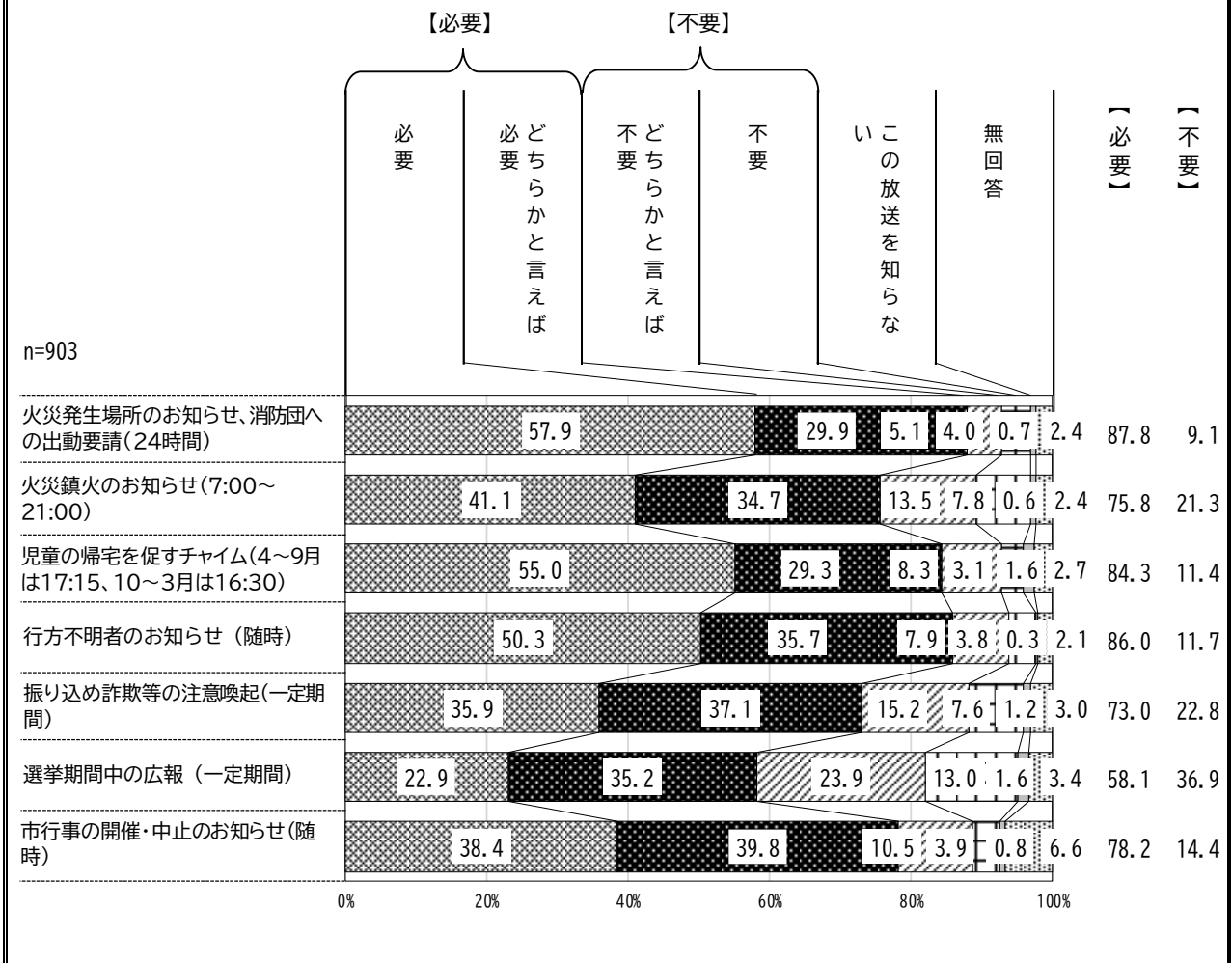
「自宅から近い避難場所や経路の確認」の割合をライフステージ別に見ると、家族形成期(36.7%)が全体よりやや高くなっています。一方で、家族成長後期(15.9%)が全体よりやや低くなっています。

「家族との連絡方法の確認」の割合をライフステージ別に見ると、家族形成期(46.7%)が全体よりやや高くなっています。一方で、高齢期(25.4%)が全体よりやや低くなっています。

(4) 防災行政無線による放送

問 15 防災行政無線による放送について、どのように思いますか。次の項目について、それぞれ1つずつ番号を選んでください。

<図表 15-1> 防災行政無線による放送



<調査結果>

防災行政無線による放送について聞いたところ、「必要」と「どちらかと言えば必要」を合計した【必要】については、「火災発生場所のお知らせ、消防団への出動要請(24時間)」(87.8%)が最も高く8割半ばを超えています。次いで、「行方不明者のお知らせ(随時)」(86.0%)、「児童の帰宅を促すチャイム(4~9月は17:15、10~3月は16:30)」(84.3%)となっています。

一方で、「不要」と「どちらかと言えば不要」を合計した【不要】については、「選挙期間中の広報(一定期間)」(36.9%)が最も高く、3割半ばを超えています。

「必要」についても、「火災発生場所のお知らせ、消防団への出動要請(24時間)」(57.9%)が最も高く5割半ばを超えています。

<図表 15-2> 防災行政無線による放送／性・年齢別

		n	火災発生場所のお知らせ、消防団への出動要請(24時間)			
			必要	不要	知らない放送を	無回答
全体		903	87.8	9.1	0.7	2.4
性・年齢別	男性全体	381	85.0	11.0	0.8	3.2
	男性-20代以下	30	83.3	13.3	0.0	3.3
	男性-30代	38	76.3	23.7	0.0	0.0
	男性-40代	59	74.6	22.0	1.7	1.7
	男性-50代	69	89.9	8.7	1.4	0.0
	男性-60代	90	90.0	5.6	1.1	3.3
	男性-70代以上	94	87.2	5.3	0.0	7.4
	女性全体	487	89.7	7.8	0.6	1.8
	女性-20代以下	38	84.2	10.5	2.6	2.6
	女性-30代	54	87.0	9.3	0.0	3.7
	女性-40代	70	88.6	11.4	0.0	0.0
	女性-50代	95	86.3	11.6	1.1	1.1
	女性-60代	101	93.1	5.9	0.0	1.0
	女性-70代以上	126	92.9	3.2	0.8	3.2

火災鎮火のお知らせ(7:00～21:00)			
必要	不要	知らない放送を	無回答
75.7	21.3	0.6	2.4
73.5	23.4	0.3	2.9
86.7	13.3	0.0	0.0
73.7	26.3	0.0	0.0
66.1	32.2	0.0	1.7
68.1	29.0	1.4	1.4
78.9	17.8	0.0	3.3
72.3	21.3	0.0	6.4
77.4	19.9	0.6	2.1
71.1	21.1	2.6	5.3
75.9	22.2	1.9	0.0
74.3	24.3	0.0	1.4
76.8	22.1	0.0	1.1
77.2	20.8	0.0	2.0
81.7	14.3	0.8	3.2

		n	児童の帰宅を促すチャイム(4～9月は17:15、10～3月は16:30)			
			必要	不要	知らない放送を	無回答
全体		903	84.3	11.4	1.6	2.7
性・年齢別	男性全体	381	81.9	14.4	1.1	2.6
	男性-20代以下	30	73.3	26.7	0.0	0.0
	男性-30代	38	81.6	15.8	0.0	2.6
	男性-40代	59	79.7	18.6	0.0	1.7
	男性-50代	69	79.7	18.8	1.4	0.0
	男性-60代	90	85.6	10.0	1.1	3.3
	男性-70代以上	94	84.0	8.5	2.1	5.3
	女性全体	487	86.2	9.4	1.6	2.7
	女性-20代以下	38	78.9	10.5	2.6	7.9
	女性-30代	54	87.0	9.3	0.0	3.7
	女性-40代	70	88.6	11.4	0.0	0.0
	女性-50代	95	88.4	9.5	2.1	0.0
	女性-60代	101	86.1	8.9	2.0	3.0
	女性-70代以上	126	84.9	8.7	2.4	4.0

行方不明者のお知らせ(随時)			
必要	不要	知らない放送を	無回答
86.0	11.7	0.3	2.1
81.9	15.0	0.5	2.6
83.3	13.3	0.0	3.3
76.3	21.1	2.6	0.0
81.4	18.6	0.0	0.0
81.2	17.4	1.4	0.0
81.1	14.4	0.0	4.4
85.1	9.6	0.0	5.3
89.1	9.0	0.2	1.6
84.2	7.9	2.6	5.3
85.2	14.8	0.0	0.0
84.3	15.7	0.0	0.0
89.5	10.5	0.0	0.0
93.1	5.0	0.0	2.0
91.3	5.6	0.0	3.2

<図表 15-3>防災行政無線による放送／性・年齢別

		n	振り込み詐欺等の注意喚起(一定期間)			
			必要	不要	知らない放送を	無回答
全体		903	73.0	22.8	1.2	3.0
性・年齢別	男性全体	381	70.9	24.7	1.3	3.2
	男性-20代以下	30	70.0	26.7	0.0	3.3
	男性-30代	38	60.5	34.2	5.3	0.0
	男性-40代	59	64.4	33.9	0.0	1.7
	男性-50代	69	68.1	27.5	4.3	0.0
	男性-60代	90	71.1	23.3	0.0	5.6
	男性-70代以上	94	80.9	13.8	0.0	5.3
	女性全体	487	74.3	21.6	1.2	2.9
	女性-20代以下	38	63.2	26.3	7.9	2.6
	女性-30代	54	64.8	31.5	1.9	1.9
	女性-40代	70	58.6	37.1	1.4	2.9
	女性-50代	95	74.7	23.2	1.1	1.1
	女性-60代	101	86.1	10.9	0.0	3.0
	女性-70代以上	126	80.2	15.1	0.0	4.8

選挙期間中の広報(一定期間)			
必要	不要	知らない放送を	無回答
58.1	36.9	1.6	3.4
58.0	37.3	1.3	3.4
46.7	53.3	0.0	0.0
52.6	39.5	2.6	5.3
54.2	42.4	0.0	3.4
53.6	40.6	4.3	1.4
63.3	33.3	0.0	3.3
64.9	28.7	1.1	5.3
58.3	36.8	1.6	3.3
50.0	42.1	5.3	2.6
48.1	48.1	3.7	0.0
54.3	44.3	0.0	1.4
58.9	34.7	2.1	4.2
64.4	30.7	1.0	4.0
61.9	32.5	0.8	4.8

		n	市行事の開催・中止のお知らせ(随時)			
			必要	不要	知らない放送を	無回答
全体		903	78.2	14.4	0.8	6.6
性・年齢別	男性全体	381	78.2	14.7	0.5	6.6
	男性-20代以下	30	73.3	26.7	0.0	0.0
	男性-30代	38	73.7	18.4	2.6	5.3
	男性-40代	59	72.9	23.7	0.0	3.4
	男性-50代	69	73.9	17.4	1.4	7.2
	男性-60代	90	85.6	8.9	0.0	5.6
	男性-70代以上	94	80.9	7.4	0.0	11.7
	女性全体	487	78.2	14.2	1.0	6.6
	女性-20代以下	38	78.9	10.5	5.3	5.3
	女性-30代	54	77.8	18.5	1.9	1.9
	女性-40代	70	72.9	22.9	0.0	4.3
	女性-50代	95	78.9	13.7	0.0	7.4
	女性-60代	101	84.2	8.9	0.0	6.9
	女性-70代以上	126	75.4	13.5	1.6	9.5

<調査結果>

防災行政無線による放送の「火災発生場所のお知らせ、消防団への出動要請（24 時間）」について、「不要」の割合を性・年齢別に見ると、男性-30 代（23.7%）、男性-40 代（22.0%）が全体よりやや高くなっています。

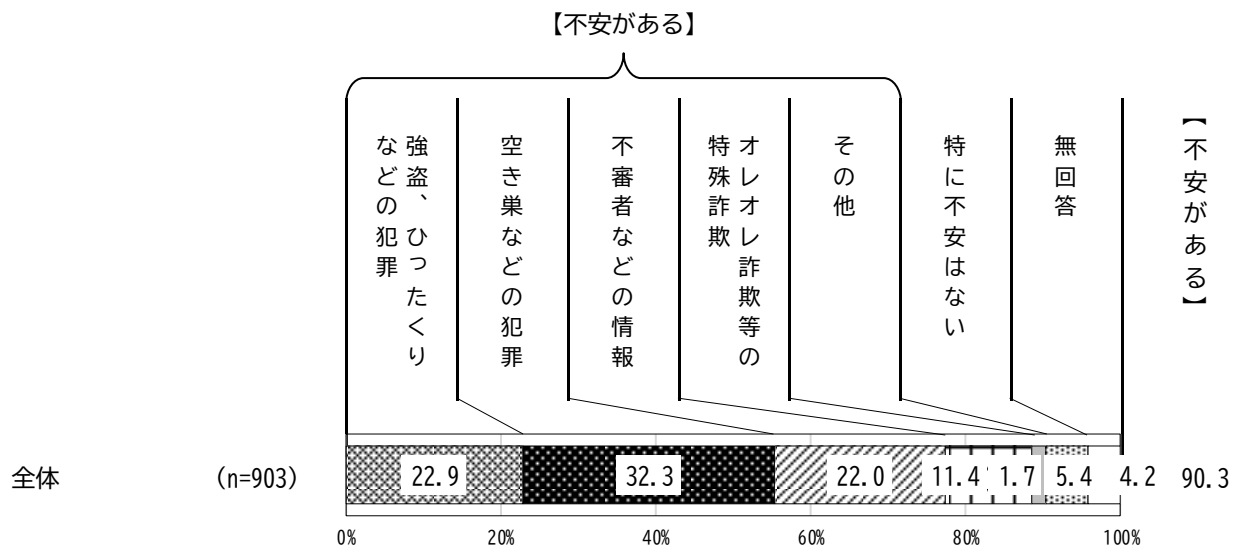
「火災鎮火のお知らせ（7:00～21:00）」について、「必要」の割合を性・年齢別に見ると、男性-20 代以下（86.7%）が全体よりやや高く、「不要」の割合は、男性-40 代（32.2%）が全体よりやや高くなっています。

「振り込め詐欺等の注意喚起（一定期間）」について、「必要」の割合を性・年齢別に見ると、女性-60 代（86.1%）が全体よりやや高く、「不要」の割合は、男性-30 代（34.2%）、男性-40 代（33.9%）、女性-40 代（37.1%）が全体よりやや高くなっています。

(5) 不安を感じる身のまわりの犯罪

問 16 身のまわりに起こりうる犯罪等で、あなたが最も不安に感じていることは何ですか。(○は1つ)

<図表 16-1> 不安を感じる身のまわりの犯罪



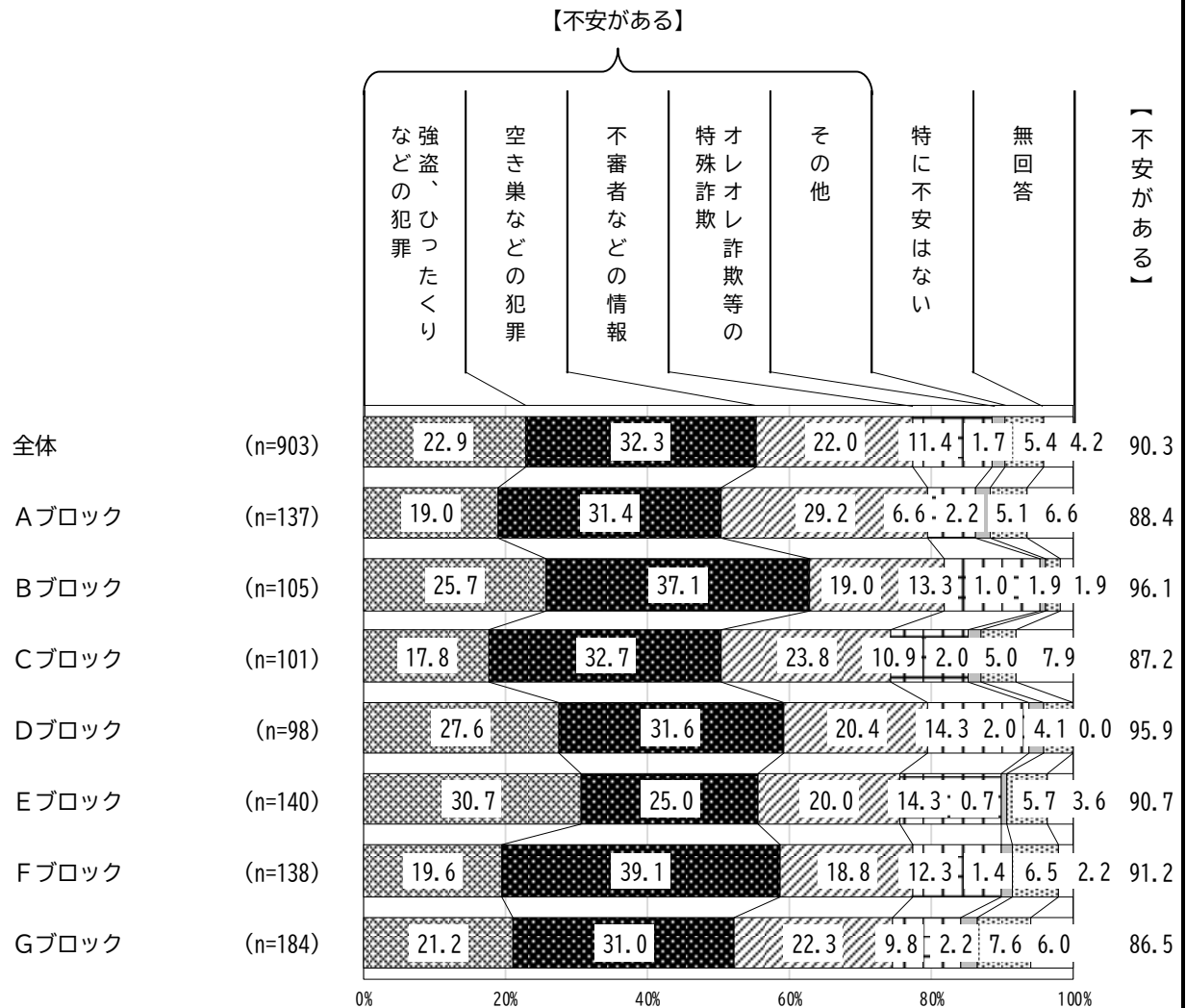
<調査結果>

不安を感じる身のまわりの犯罪について聞いたところ、「空き巣などの犯罪」(32.3%)が3割を超え最も高く、次いで、「強盗、ひったくりなどの犯罪」(22.9%)、「不審者などの情報」(22.0%)となっています。

「強盗、ひったくりなどの犯罪」(22.9%)、「空き巣などの犯罪」(32.3%)、「不審者などの情報」(22.0%)、「オレオレ詐欺等の特殊詐欺」(11.4%)、「その他」(1.7%)を合計した【不安がある】(90.3%)が約9割となっています。

「特に不安はない」(5.4%)は、1割未満となっています。

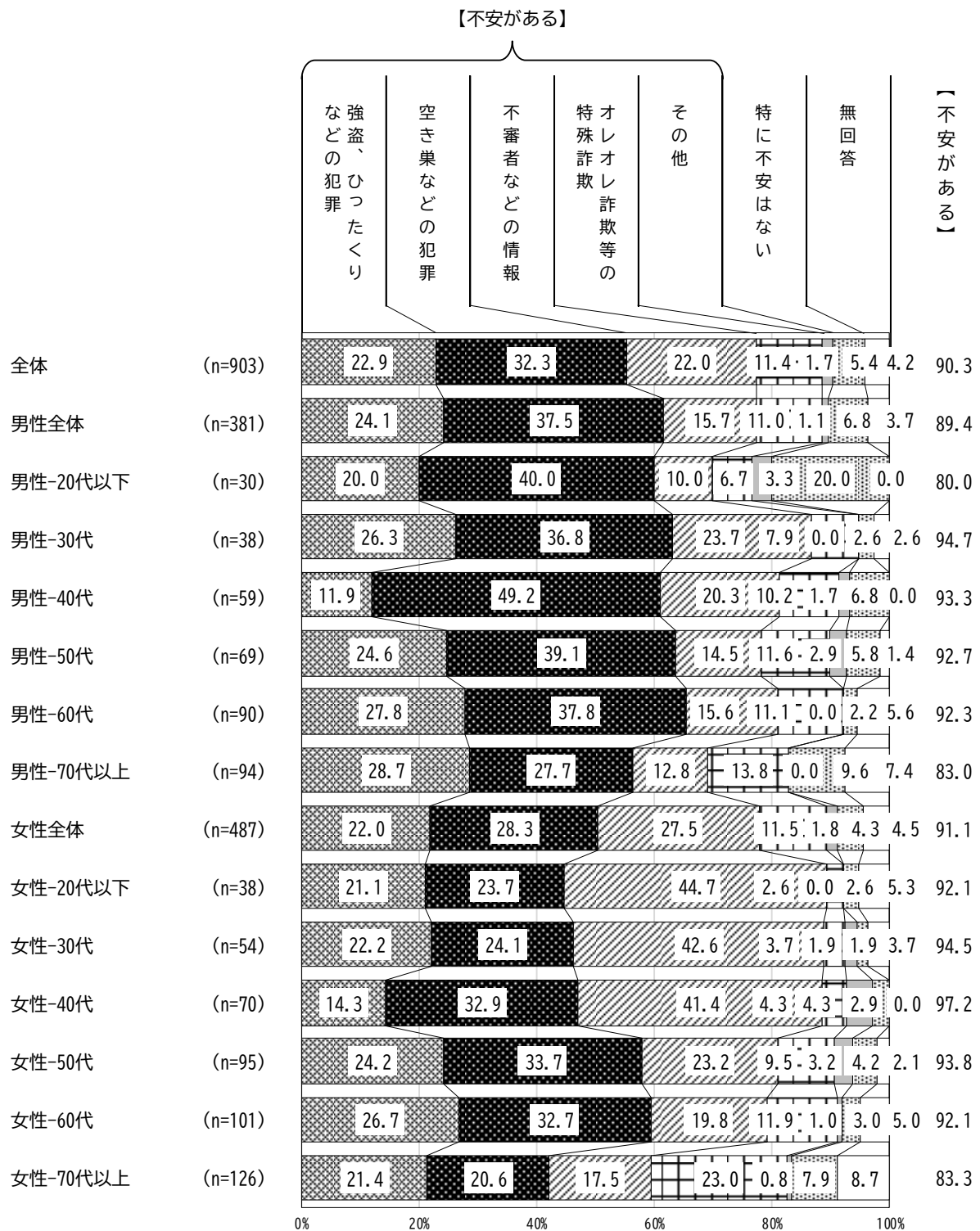
<図表 16-2> 不安を感じる身のまわりの犯罪／ブロック別



<調査結果>

不安を感じる身のまわりの犯罪についてブロック別に見ると、【不安がある】の割合は、Bブロック（96.1%）が最も高く9割半ばとなっています。次いで、Dブロック（95.9%）、Fブロック（91.2%）、Eブロック（90.7%）が9割台となっています。

<図表 16-3> 不安を感じる身のまわりの犯罪／性・年齢別



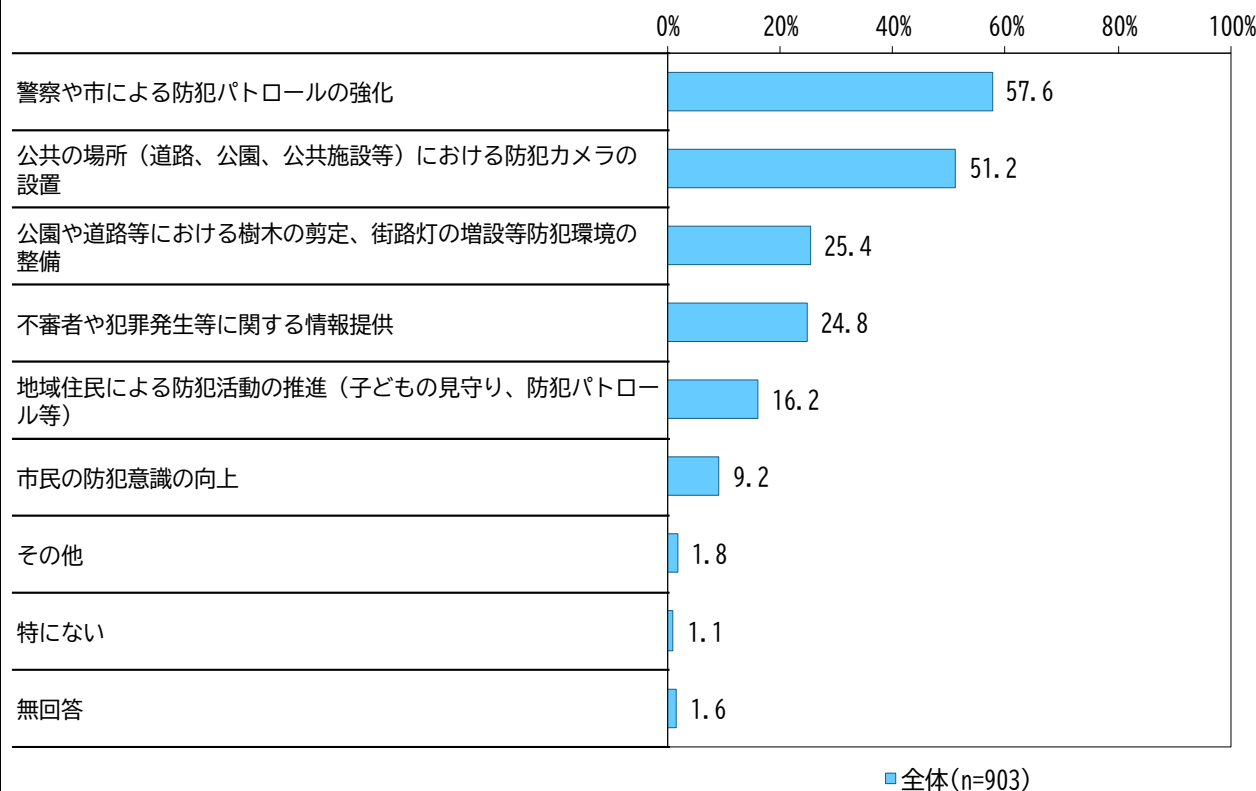
<調査結果>

不安を感じる身のまわりの犯罪について性・年齢別に見ると、【不安がある】の割合は、女性-40代（97.2%）が最も高く9割半ばを超えています。

(6) 特に必要と感じる防犯対策

問 17 安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために、特に必要だと思う防犯対策は、次のうちどれだと思いますか。(○は2つまで)

<図表 17-1> 特に必要と感じる防犯対策



<調査結果>

特に必要と感じる防犯対策について聞いたところ、「警察や市による防犯パトロールの強化」（57.6%）が5割半ばを超え最も高く、次いで、「公共の場所（道路、公園、公共施設等）における防犯カメラの設置」（51.2%）が5割を超えています。

<図表 17-2>特に必要と感じる防犯対策／ブロック別

	n	警察や市による防犯パトロールの強化	公共の場所（道路、公園、公共施設等）における防犯カメラの設置	公園や道路等における樹木の剪定、街路灯の増設等防犯環境の整備	不審者や犯罪発生等に関する情報提供	地域住民による防犯活動の推進（子どもの見守り、防犯パトロール等）	市民の防犯意識の向上	その他	特にない	無回答
全体	903	57.6	51.2	25.4	24.8	16.2	9.2	1.8	1.1	1.6
ブロック別	Aブロック	137	52.6	51.1	27.7	27.0	19.0	8.0	4.4	0.7
	Bブロック	105	56.2	48.6	28.6	31.4	15.2	9.5	0.0	1.0
	Cブロック	101	60.4	44.6	26.7	20.8	17.8	10.9	2.0	3.0
	Dブロック	98	60.2	53.1	22.4	25.5	19.4	8.2	1.0	0.0
	Eブロック	140	60.7	47.9	24.3	25.7	12.1	5.7	0.7	2.9
	Fブロック	138	53.6	47.8	30.4	24.6	15.9	8.0	1.4	0.7
	Gブロック	184	59.8	60.3	19.6	20.7	15.2	13.0	2.2	2.2

<調査結果>

特に必要と感じる防犯対策についてブロック別に見ると、全体と比べて割合に大きな変化は見られません。

<図表 17-3>特に必要と感じる防犯対策／性・年齢別

		n	警察や市による防犯パトロールの強化	公共の場所（道路、公園、公共施設等）における防犯カメラの設置	公園や道路等における樹木の剪定、街路灯の増設等防犯環境の整備	不審者や犯罪発生等に関する情報提供	地域住民による防犯活動の推進（子どもの見守り、防犯パトロール等）	市民の防犯意識の向上	その他	特にない	無回答
全体		903	57.6	51.2	25.4	24.8	16.2	9.2	1.8	1.1	1.6
性・年齢別	男性全体	381	56.4	54.1	21.8	23.1	15.7	11.0	1.3	1.6	1.8
	男性-20代以下	30	46.7	40.0	13.3	23.3	13.3	23.3	0.0	10.0	0.0
	男性-30代	38	60.5	55.3	23.7	15.8	15.8	10.5	2.6	0.0	0.0
	男性-40代	59	57.6	45.8	28.8	15.3	15.3	11.9	5.1	3.4	0.0
	男性-50代	69	63.8	49.3	20.3	24.6	15.9	10.1	0.0	0.0	0.0
	男性-60代	90	54.4	58.9	18.9	31.1	14.4	8.9	0.0	1.1	3.3
	男性-70代以上	94	53.2	61.7	23.4	22.3	18.1	9.6	1.1	0.0	4.3
	女性全体	487	58.1	48.7	28.5	26.5	16.4	8.0	2.1	0.6	1.2
	女性-20代以下	38	55.3	44.7	23.7	21.1	23.7	7.9	0.0	0.0	2.6
	女性-30代	54	70.4	44.4	38.9	16.7	25.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性-40代	70	54.3	45.7	24.3	28.6	24.3	5.7	4.3	1.4	0.0
	女性-50代	95	70.5	49.5	32.6	22.1	8.4	6.3	2.1	0.0	0.0
	女性-60代	101	44.6	53.5	18.8	36.6	13.9	15.8	3.0	1.0	1.0
	女性-70代以上	126	57.1	49.2	32.5	26.2	14.3	7.9	0.8	0.8	3.2

<調査結果>

特に必要と感じる防犯対策について、「公園や道路等における樹木の剪定、街路灯の増設等防犯環境の整備」の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代（38.9%）が全体よりやや高くなっています。一方で、男性-20代以下（13.3%）が全体よりやや低くなっています。

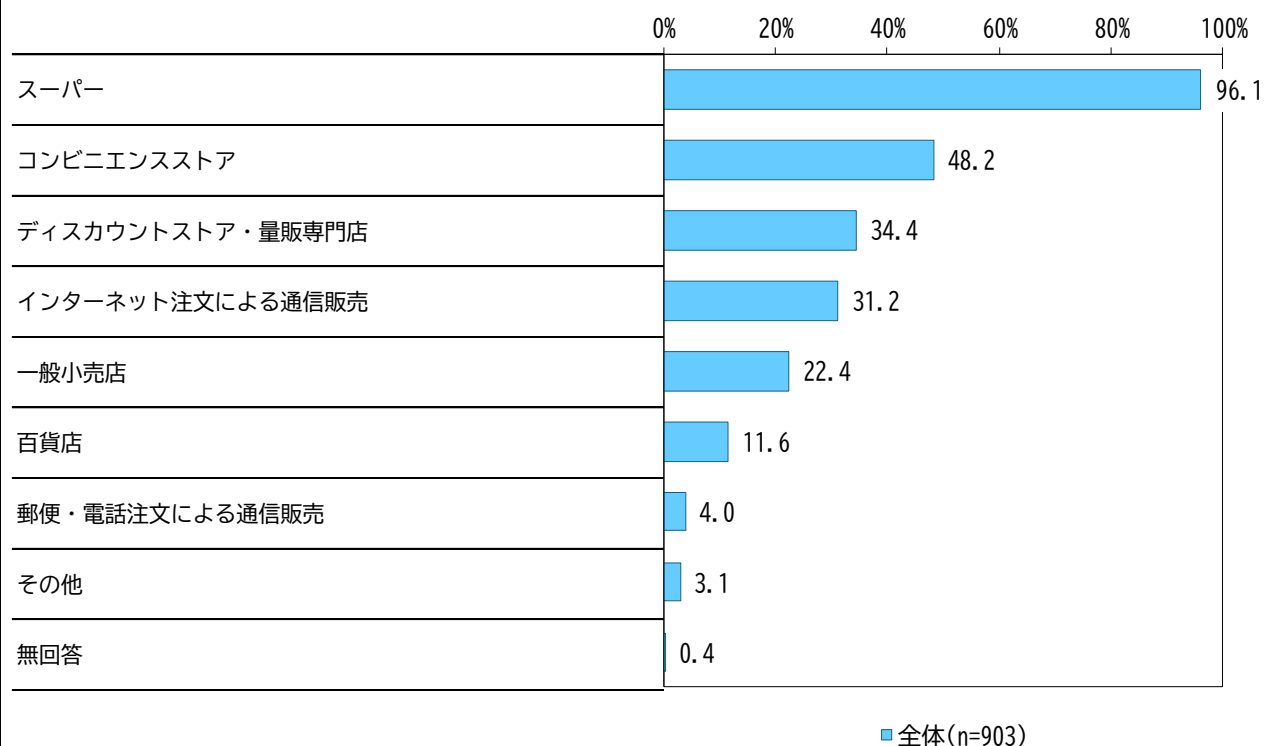
「市民の防犯意識の向上」の割合を性・年齢別に見ると、男性-20代以下（23.3%）が全体よりやや高くなっています。

6 消費生活

(1) 日用品・食料品を購入する店

問 18 あなたは、日用品・食料品をどのようなお店で買いますか。(○はいくつでも)

<図表 18-1>日用品・食料品を購入する店



<調査結果>

日用品・食料品を購入する店について聞いたところ、「スーパー」(96.1%)が9割半ばと最も高く、次いで、「コンビニエンスストア」(48.2%)が5割近く、「ディスカウントストア・量販専門店」(34.4%)が3割半ばとなっています。

<図表 18-2>日用品・食料品を購入する店／ブロック別

		n	スー パー	コ ン ビ ニ エ ン ス ス ト ア	デ イ ス カ ウ ン ト ス ト ア ・ 量 販 専 門 店	イ ン タ ー ネ ッ ト 注 文 に よ る 通 信 販 売	一 般 小 売 店	百 貨 店	郵 便 ・ 電 話 注 文 に よ る 通 信 販 売	そ の 他	無 回 答
全体		903	96.1	48.2	34.4	31.2	22.4	11.6	4.0	3.1	0.4
ブ ロ ッ ク 別	Aブロック	137	95.6	44.5	38.7	29.9	16.8	8.8	2.2	2.2	0.7
	Bブロック	105	94.3	60.0	39.0	34.3	20.0	16.2	1.9	5.7	0.0
	Cブロック	101	94.1	46.5	41.6	33.7	25.7	7.9	3.0	4.0	1.0
	Dブロック	98	98.0	56.1	33.7	25.5	19.4	15.3	5.1	0.0	0.0
	Eブロック	140	99.3	45.7	31.4	33.6	21.4	10.0	5.0	2.1	0.0
	Fブロック	138	94.2	42.8	30.4	32.6	30.4	11.6	7.2	2.2	1.4
	Gブロック	184	96.7	46.7	30.4	29.3	22.3	12.5	3.3	4.9	0.0

<調査結果>

日用品・食料品を購入する店についてブロック別に見ると、「コンビニエンスストア」の割合は、Bブロック（60.0%）が全体よりやや高くなっています。

<図表 18-3>日用品・食料品を購入する店／性・年齢別

		n	スーパー	コンビニエンスストア	ディスカウントストア・量販専門店	インターネット注文による通信販売	一般小売店	百貨店	郵便・電話注文による通信販売	その他	無回答
全体		903	96.1	48.2	34.4	31.2	22.4	11.6	4.0	3.1	0.4
性・年齢別	男性全体	381	94.8	52.8	39.6	30.4	23.4	11.0	2.9	1.6	0.3
	男性-20代以下	30	96.7	53.3	16.7	36.7	30.0	10.0	3.3	0.0	0.0
	男性-30代	38	94.7	60.5	39.5	36.8	26.3	10.5	2.6	0.0	0.0
	男性-40代	59	88.1	45.8	55.9	37.3	23.7	10.2	0.0	0.0	1.7
	男性-50代	69	95.7	55.1	40.6	30.4	23.2	2.9	2.9	2.9	0.0
	男性-60代	90	96.7	52.2	51.1	32.2	22.2	16.7	2.2	2.2	0.0
	男性-70代以上	94	96.8	52.1	25.5	20.2	20.2	12.8	5.3	2.1	0.0
	女性全体	487	97.3	44.1	30.8	31.8	22.6	11.9	4.5	4.5	0.4
	女性-20代以下	38	92.1	42.1	10.5	28.9	39.5	5.3	0.0	2.6	0.0
	女性-30代	54	94.4	37.0	31.5	59.3	35.2	11.1	0.0	1.9	0.0
	女性-40代	70	97.1	48.6	35.7	32.9	21.4	8.6	1.4	2.9	0.0
	女性-50代	95	98.9	44.2	41.1	44.2	14.7	8.4	3.2	7.4	0.0
	女性-60代	101	98.0	36.6	33.7	27.7	16.8	15.8	3.0	6.9	0.0
	女性-70代以上	126	98.4	50.8	23.8	14.3	23.8	15.1	11.9	3.2	1.6

<調査結果>

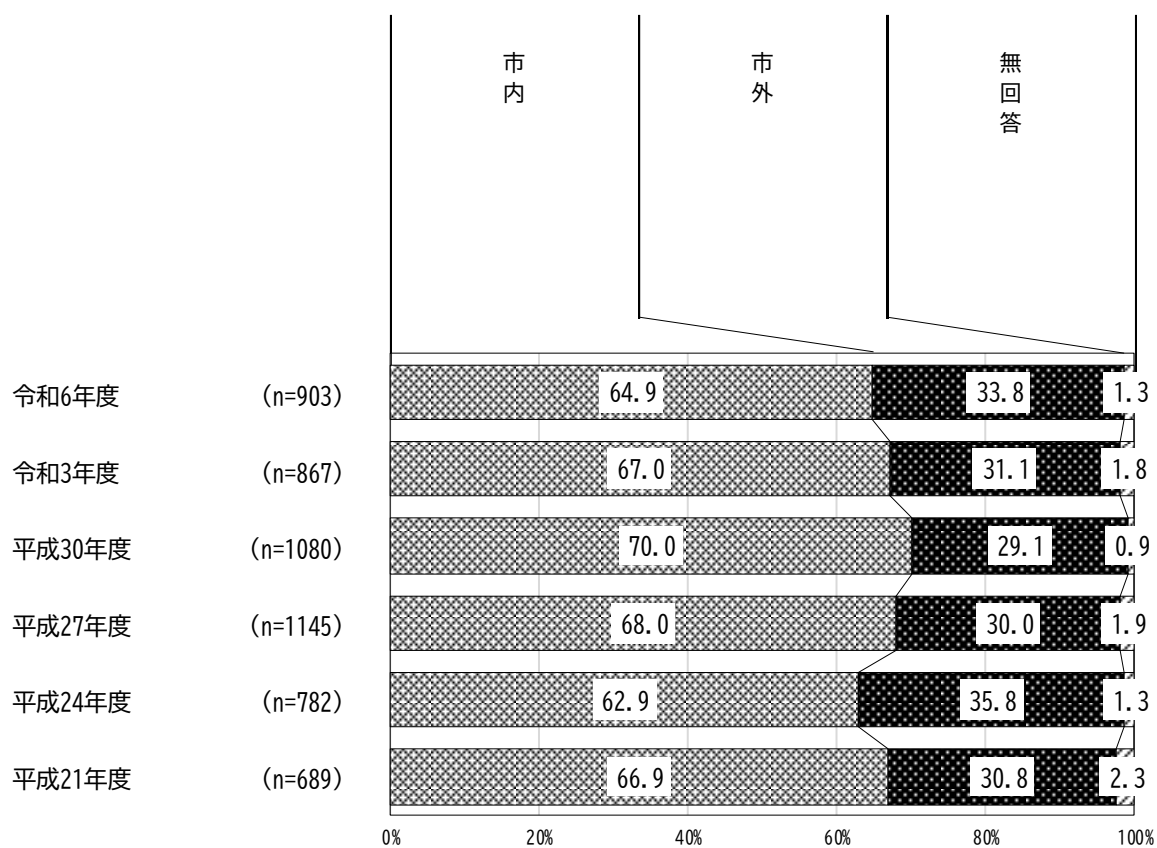
日用品・食料品を購入する店について、「インターネット注文による通信販売」の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代（59.3%）が全体よりとても高く、女性-50代（44.2%）が全体よりやや高くなっています。一方で、男性・女性ともに70代以上で全体より低い傾向にあります。

「コンビニエンスストア」の割合を性・年齢別に見ると、男性-30代（60.5%）が全体よりやや高くなっています。

(2) 一番利用する店の所在地

問 19 あなたが一番良く行くお店は、市内・市外どちらにありますか。(○は1つ)

<図表 19-1> 一番利用する店の所在地

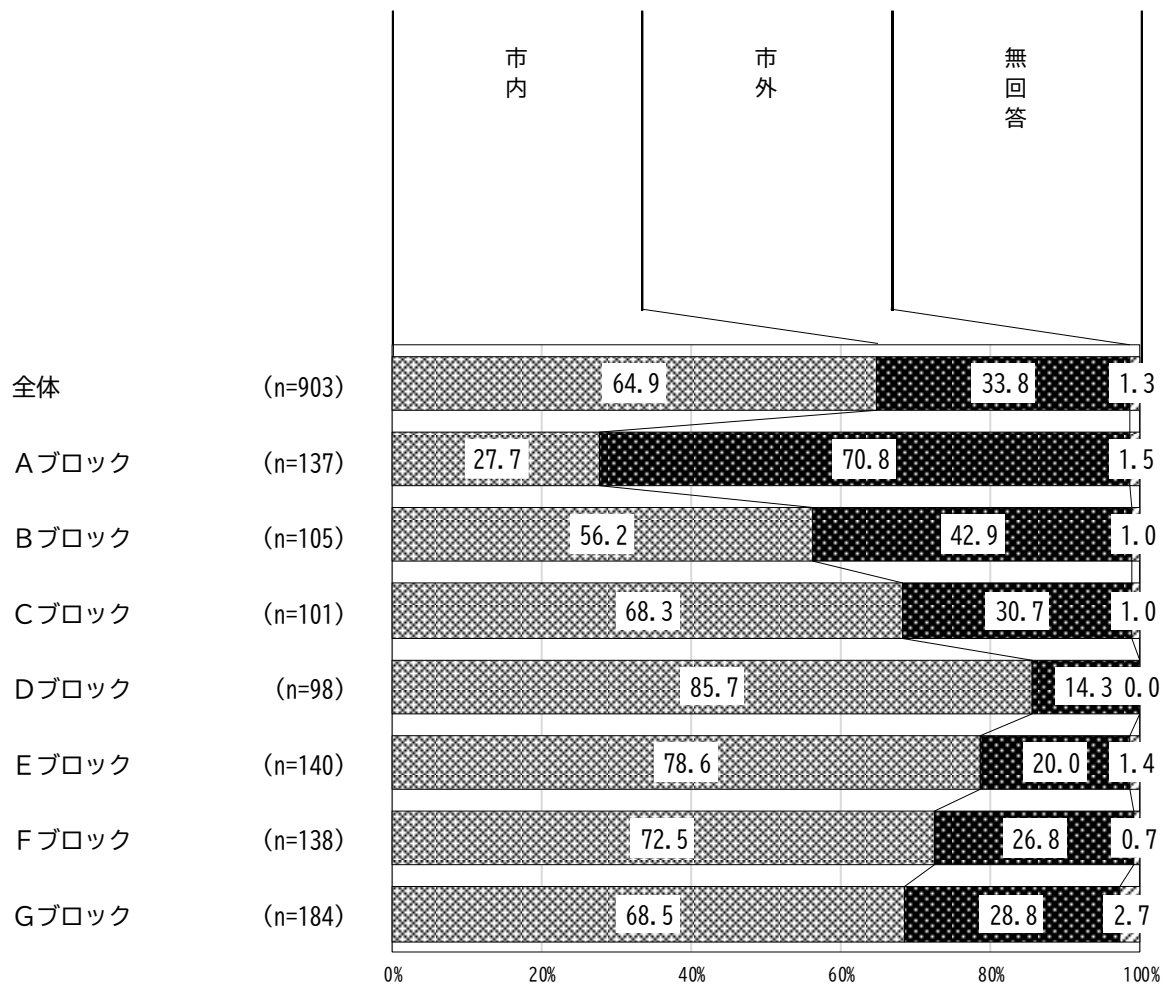


<調査結果>

一番利用する店の所在地について聞いたところ、「市内」が 64.9%、「市外」が 33.8%となっています。

一番利用する店の所在地について過年度の推移を見ると、平成 21 年度以降、割合に大きな変化は見られません。

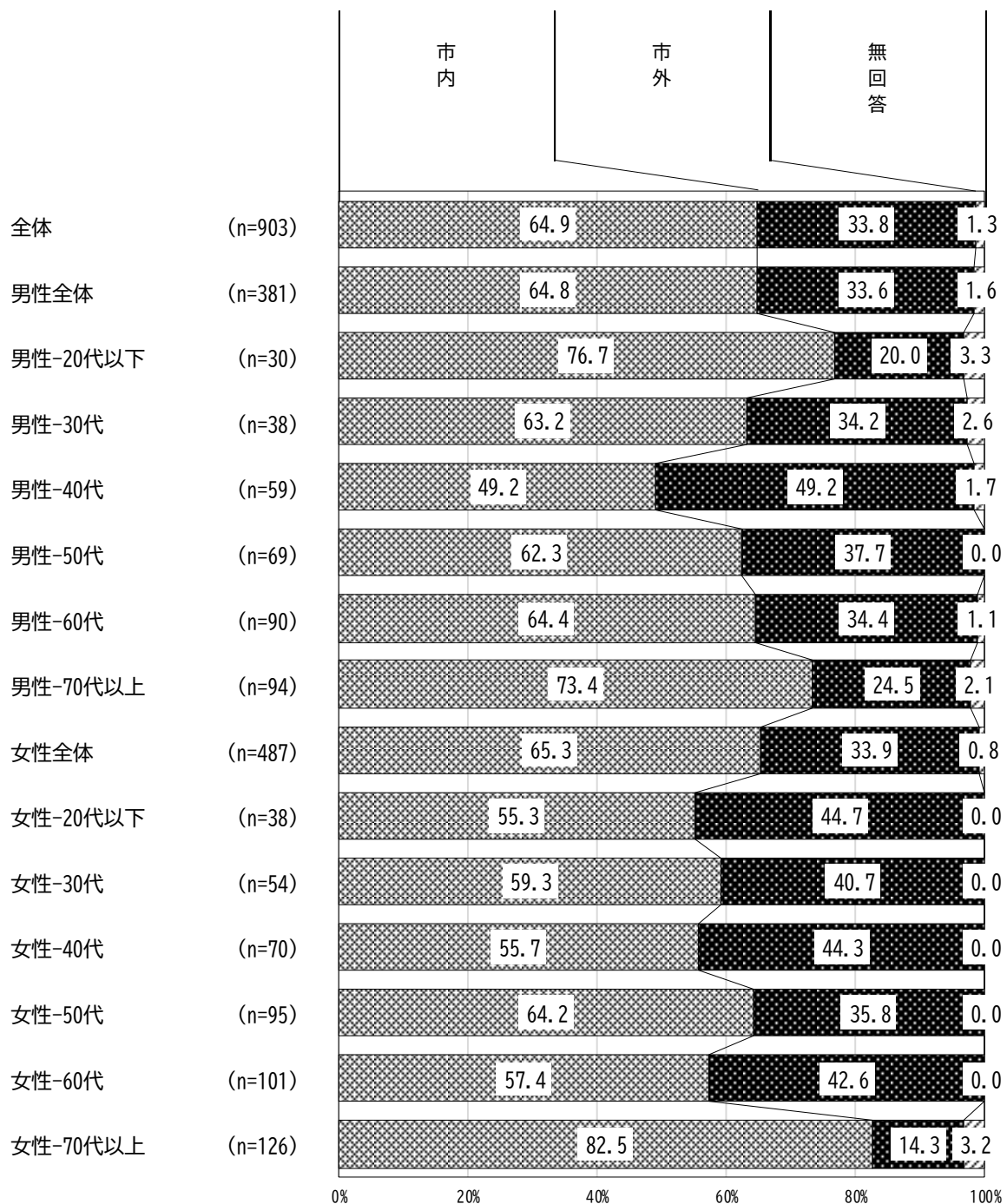
<図表 19-2>一番利用する店の所在地／ブロック別



<調査結果>

一番利用する店の所在地についてブロック別で見ると、「市内」は、Dブロック（85.7%）が8割半ば、Eブロック（78.6%）、Fブロック（72.5%）が7割台となっています。一方で、Bブロック（56.2%）が5割半ば、Aブロック（27.7%）が2割半ばを超えています。

<図表 19-3>一番利用する店の所在地／性・年齢別



<調査結果>

一番利用する店の所在地について性・年齢別で見ると、「市内」の割合は、女性-70代以上(82.5%)が8割を超え最も高くなっています。一方で、男性-40代(49.2%)が約5割と最も低くなっています。

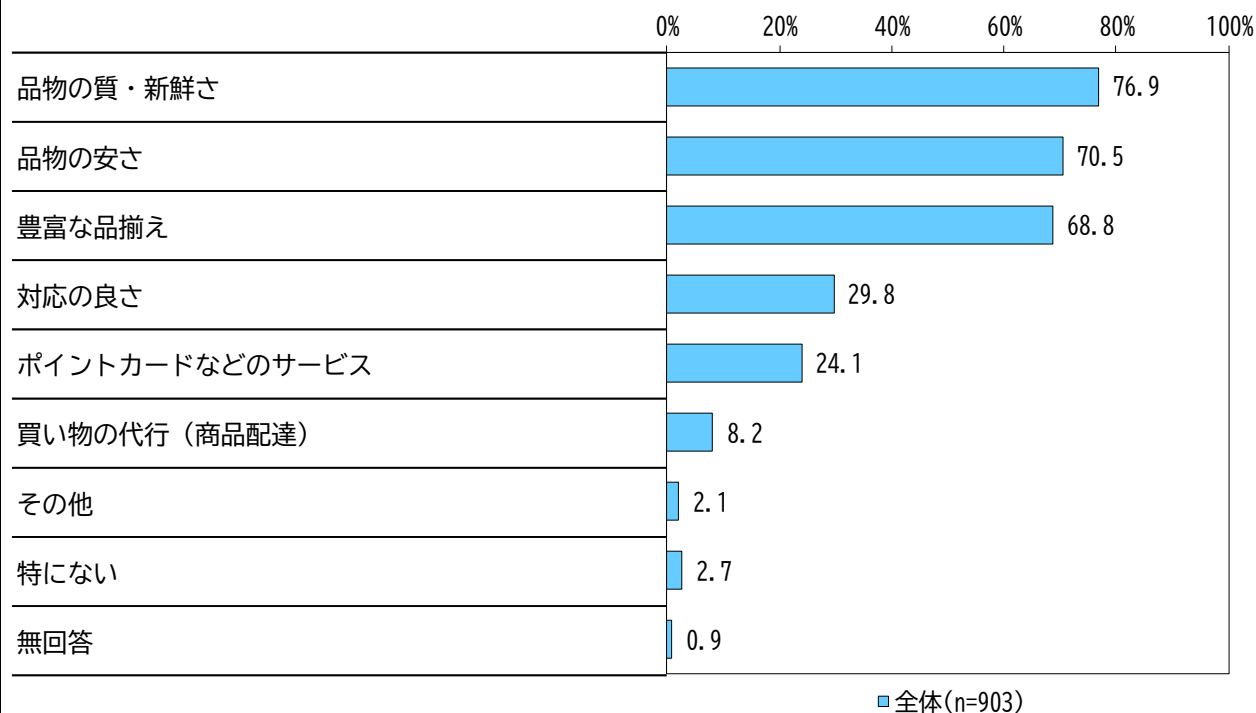
最も高い女性-70代以上(82.5%)と最も低い男性-40代(49.2%)では、33.3ポイント差が開いています。

男性は40代以降で、年代が上がるにつれて、「市内」の割合が上昇する傾向が見られます。

(3) 市内の店に望むサービス

問 20 市内のお店にどのようなサービスを望みますか。(〇はいくつでも)

<図表 20-1>市内の店に望むサービス



<調査結果>

市内の店に望むサービスについて聞いたところ、「品物の質・新鮮さ」(76.9%)が7割半ばを超え最も高く、次いで、「品物の安さ」(70.5%)、「豊富な品揃え」(68.8%)となっています。

一方で、「買い物の代行 (商品配達)」(8.2%)が1割未満となっています。

<図表 20-2>市内の店に望むサービス／性・年齢別

		n	品物の質・新鮮さ	品物の安さ	豊富な品揃え	対応の良さ	ポイントカードなどのサービス	買い物の代行（商品配達）	その他	特にない	無回答
全体		903	76.9	70.5	68.8	29.8	24.1	8.2	2.1	2.7	0.9
性・年齢別	男性全体	381	70.6	69.0	65.4	25.5	19.2	5.5	1.3	4.2	1.0
	男性-20代以下	30	56.7	70.0	63.3	26.7	23.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性-30代	38	55.3	71.1	78.9	18.4	18.4	2.6	5.3	0.0	0.0
	男性-40代	59	72.9	74.6	57.6	16.9	10.2	5.1	1.7	3.4	0.0
	男性-50代	69	76.8	75.4	69.6	29.0	18.8	5.8	1.4	4.3	1.4
	男性-60代	90	74.4	67.8	63.3	30.0	22.2	3.3	0.0	4.4	2.2
	男性-70代以上	94	71.3	60.6	64.9	26.6	21.3	9.6	1.1	7.4	1.1
	女性全体	487	82.3	72.1	71.9	32.4	27.7	10.3	2.7	1.2	0.6
	女性-20代以下	38	63.2	81.6	73.7	21.1	18.4	5.3	5.3	0.0	0.0
	女性-30代	54	75.9	87.0	70.4	40.7	27.8	13.0	5.6	1.9	0.0
	女性-40代	70	80.0	77.1	72.9	18.6	28.6	7.1	1.4	1.4	0.0
	女性-50代	95	92.6	75.8	78.9	38.9	33.7	8.4	2.1	0.0	0.0
	女性-60代	101	85.1	69.3	73.3	37.6	29.7	12.9	3.0	1.0	0.0
	女性-70代以上	126	81.7	60.3	65.9	31.7	24.6	11.9	1.6	2.4	2.4

<調査結果>

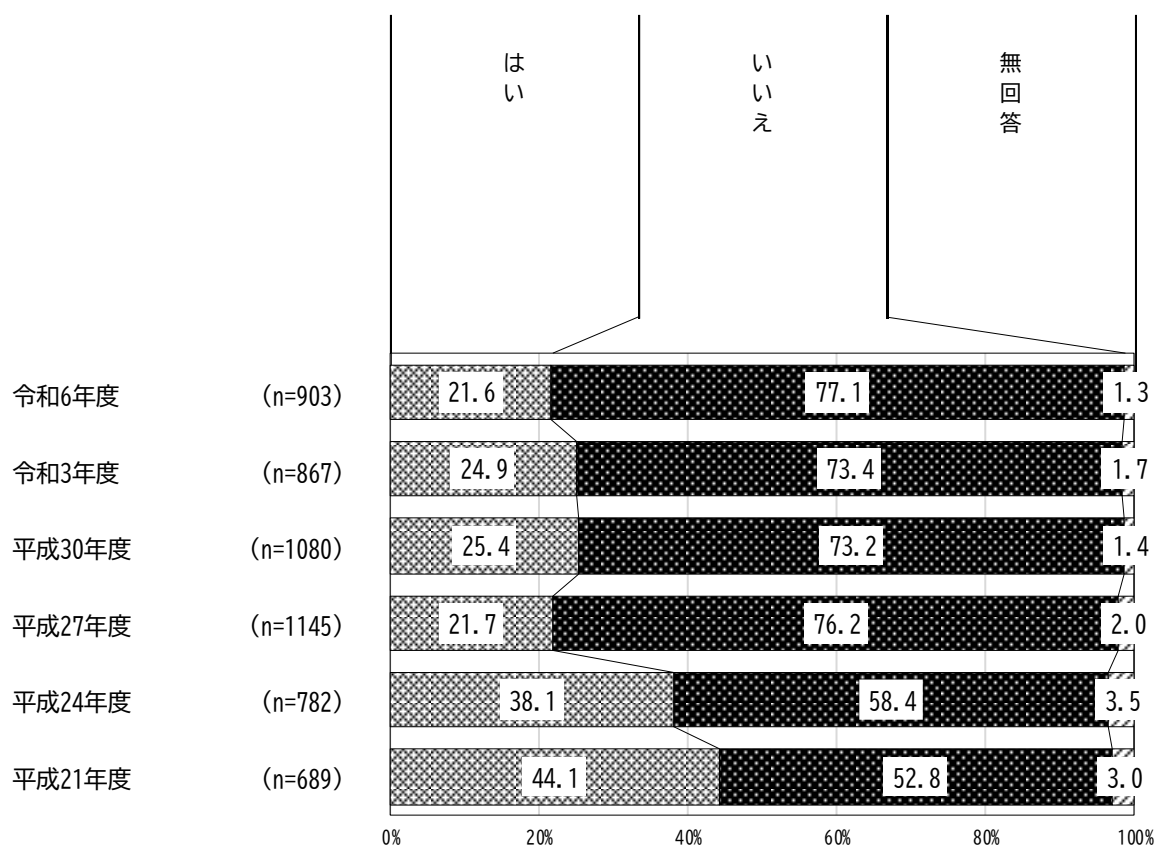
市内の店に望むサービスについて、「品物の安さ」の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代（87.0%）が全体より高く、女性-20代以下（81.6%）が全体よりやや高くなっています。また、女性-70代以上（60.3%）が全体よりやや低くなっています。

「ポイントカードなどのサービス」の割合を性・年齢別に見ると、男性-40代（10.2%）が全体よりやや低くなっています。

(4) 消費者相談室の認知状況

問 21 福生市の消費者相談室を知っていますか。(○は1つ)

<図表 21-1> 消費者相談室の認知状況

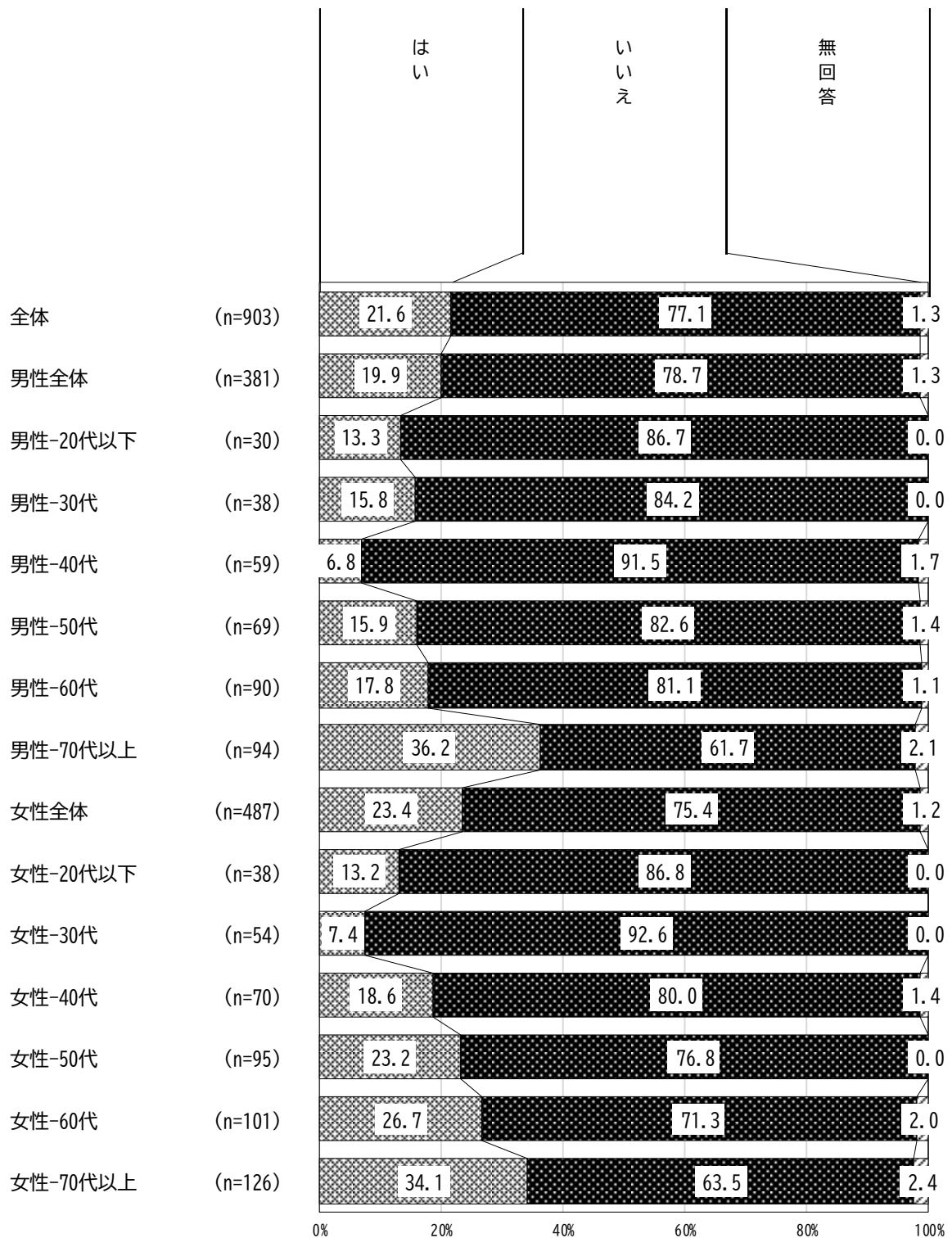


<調査結果>

消費者相談室の認知状況について聞いたところ、「はい」が21.6%、「いいえ」が77.1%となっています。

「はい」の割合については、平成27年度以降、大きな変化は見られません。

<図表 21-2>消費者相談室の認知状況／性・年齢別



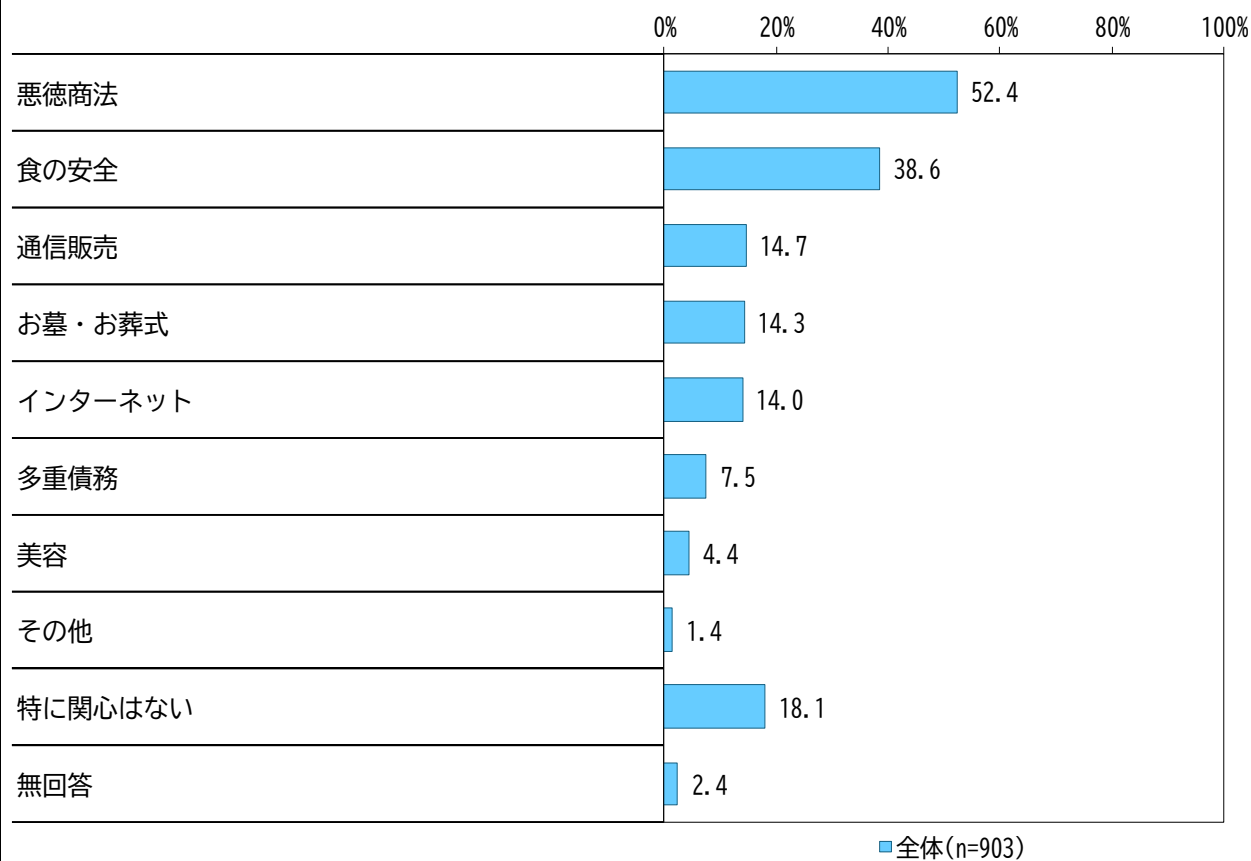
<調査結果>

消費者相談室の認知状況について性・年齢別に見ると、「はい」の割合は、男性-70代以上(36.2%)、女性-70代以上(34.1%)が全体よりやや高くなっています。一方で、男性-40代(6.8%)、女性-30代(7.4%)が全体よりやや低くなっています。

(5) 関心のある消費者問題

問 22 消費者問題でどのようなテーマに関心がありますか。(○はいくつでも)

<図表 22-1>関心のある消費者問題



<調査結果>

関心のある消費者問題について聞いたところ、「悪徳商法」(52.4%) が5割を超え、「食の安全」(38.6%) が4割近くとなっています。

「特に関心はない」(18.1%) も2割近くとなっています。

<図表 22-2> 関心のある消費者問題／性・年齢別

		n	悪徳商法	食の安全	通信販売	お墓・お葬式	インターネット	多重債務	美容	その他	特に関心はない	無回答
全体		903	52.4	38.6	14.7	14.3	14.0	7.5	4.4	1.4	18.1	2.4
性・年齢別	男性全体	381	53.3	40.2	15.0	12.9	14.2	9.2	2.1	1.3	17.6	1.6
	男性-20代以下	30	33.3	36.7	10.0	10.0	23.3	20.0	6.7	3.3	30.0	6.7
	男性-30代	38	39.5	44.7	5.3	7.9	15.8	23.7	2.6	0.0	13.2	0.0
	男性-40代	59	35.6	39.0	15.3	8.5	16.9	6.8	5.1	0.0	32.2	0.0
	男性-50代	69	65.2	30.4	20.3	20.3	13.0	13.0	0.0	2.9	15.9	0.0
	男性-60代	90	56.7	41.1	16.7	13.3	15.6	4.4	1.1	2.2	12.2	2.2
	男性-70代以上	94	64.9	46.8	14.9	12.8	8.5	3.2	1.1	0.0	11.7	2.1
	女性全体	487	52.0	37.6	14.6	15.2	13.8	6.4	6.2	1.4	17.7	2.9
	女性-20代以下	38	42.1	18.4	10.5	5.3	18.4	15.8	23.7	0.0	26.3	0.0
	女性-30代	54	31.5	25.9	9.3	11.1	16.7	11.1	13.0	3.7	31.5	0.0
	女性-40代	70	52.9	31.4	12.9	18.6	20.0	7.1	10.0	1.4	20.0	1.4
	女性-50代	95	58.9	26.3	16.8	11.6	18.9	7.4	1.1	0.0	14.7	1.1
	女性-60代	101	56.4	48.5	15.8	18.8	15.8	4.0	1.0	2.0	9.9	4.0
	女性-70代以上	126	54.8	52.4	16.7	17.5	2.4	2.4	4.0	1.6	15.1	6.3

<調査結果>

関心のある消費者問題について、「食の安全」の割合を性・年齢別に見ると、女性-70代以上（52.4%）が全体よりやや高くなっています。

「多重債務」の割合を性・年齢別に見ると、男性-30代（23.7%）が全体より高く、男性-20代以下（20.0%）が全体よりやや高くなっています。

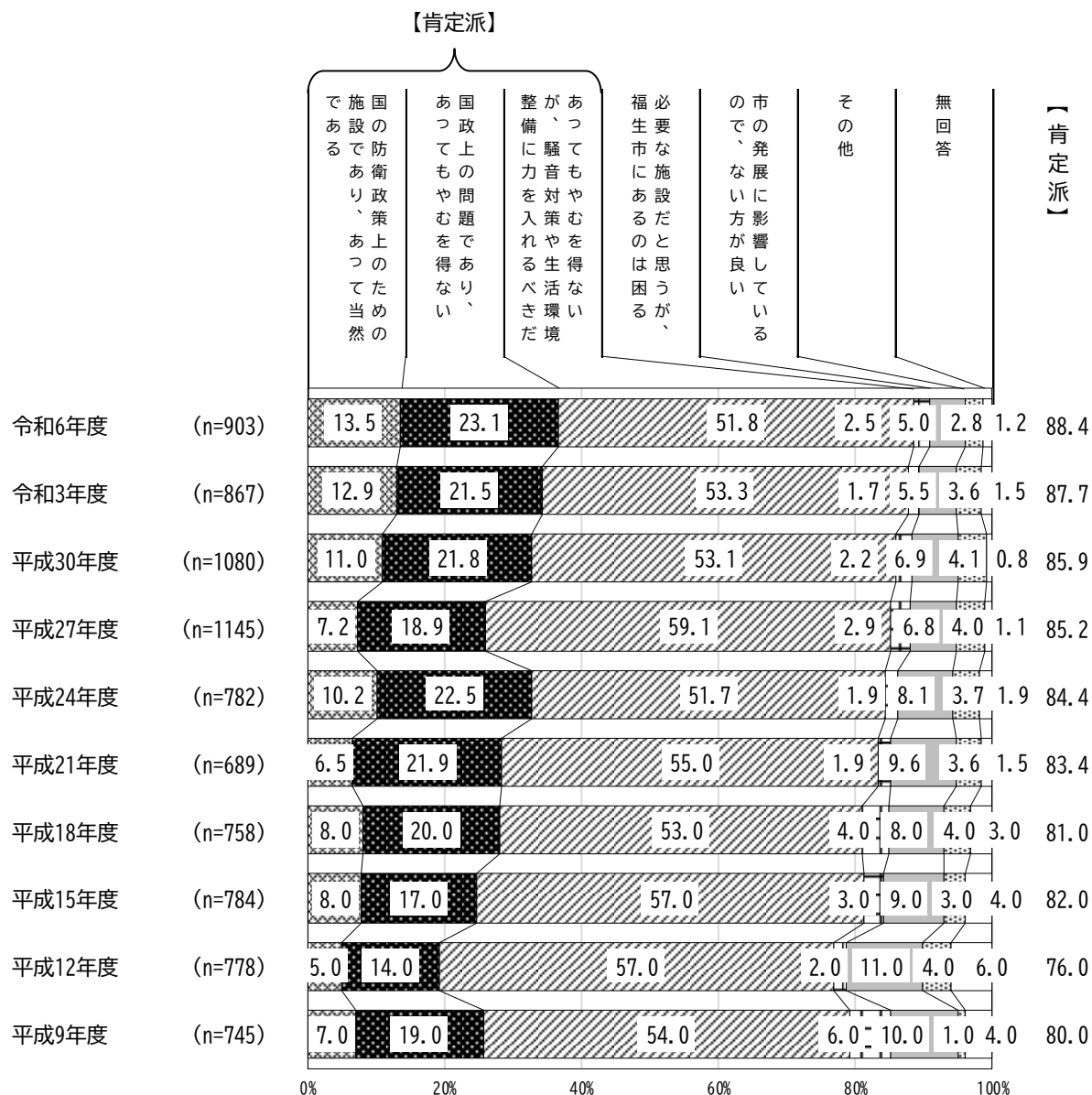
「美容」の割合を性・年齢別に見ると、女性-20代以下（23.7%）が全体より高くなっています。

7 横田基地

(1) 横田基地の賛否

問 23 横田基地について、日頃あなたが考えていることに最も近いものを、次の中から選んでください。(○は1つ)

<図表 23-1>横田基地の賛否

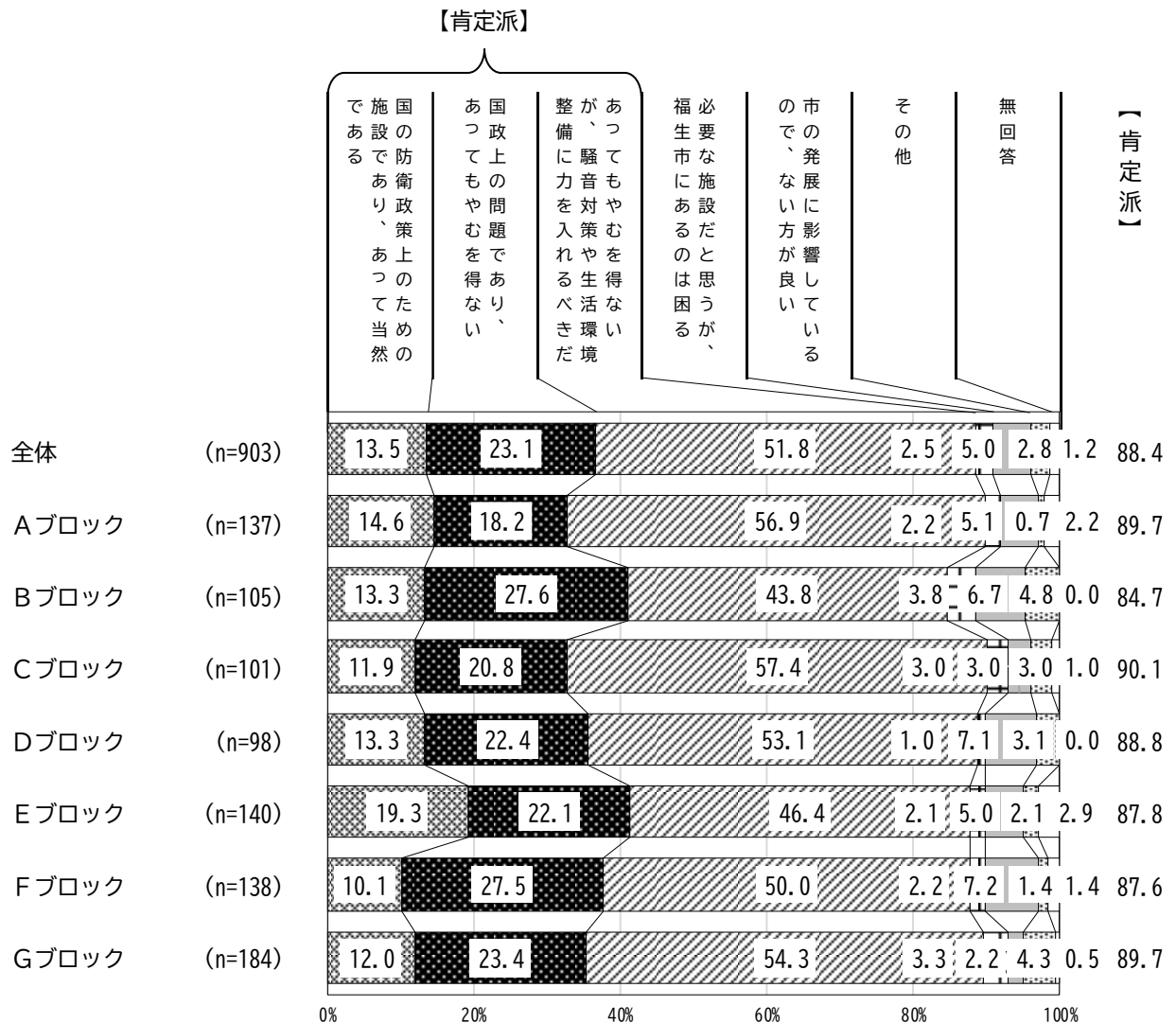


<調査結果>

横田基地の賛否について聞いたところ、「あつてもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」(51.8%)が最も高く、これと「国政上の問題であり、あつてもやむを得ない」(23.1%)、「国の防衛政策上、あつて当然である」(13.5%)の3つを合計した【肯定派】(88.4%)が9割近くとなっています。

過年度の推移を見ると、【肯定派】は、平成15年度以降、8割台で推移しています。

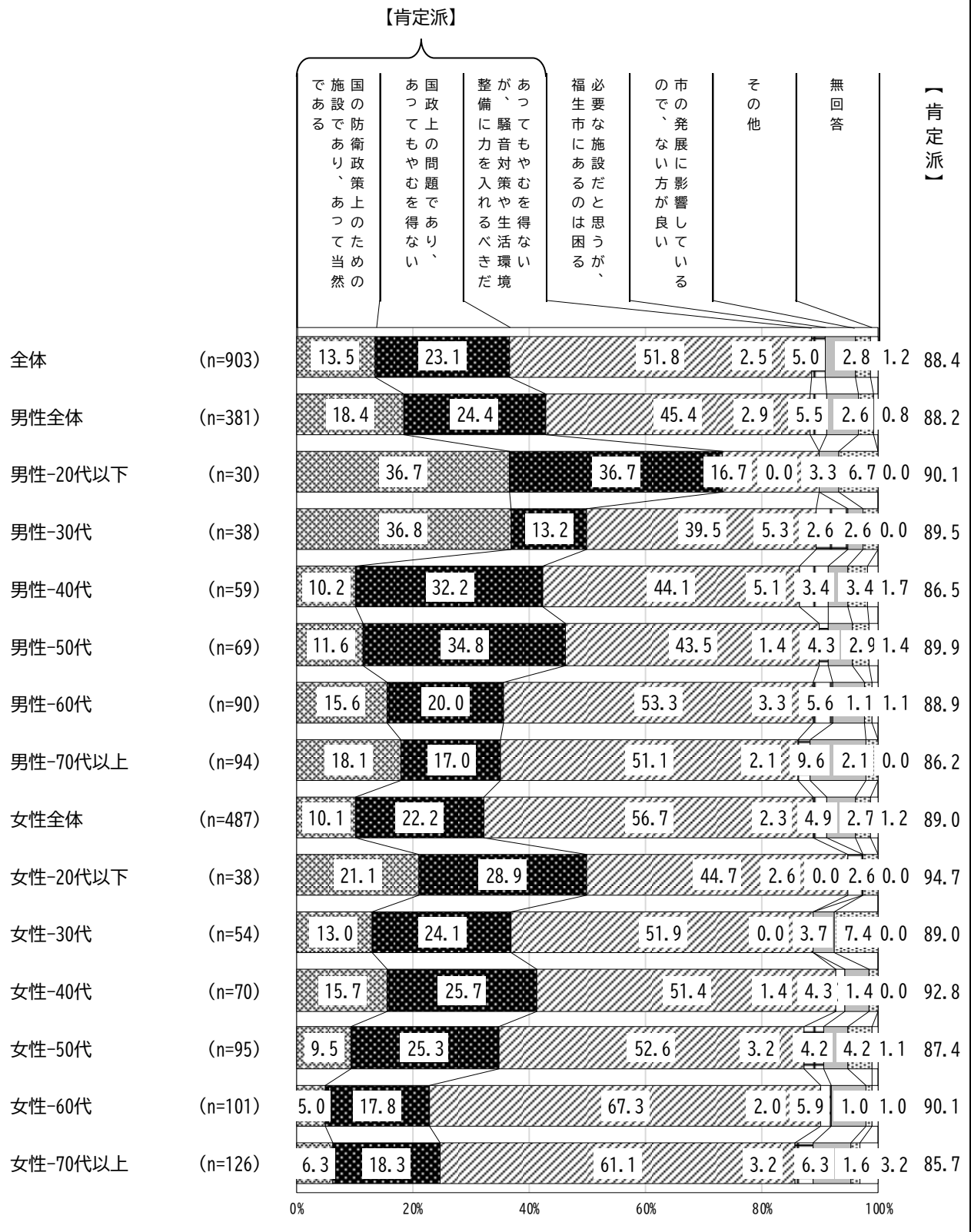
<図表 23-2> 横田基地の賛否／ブロック別



<調査結果>

横田基地の賛否についてブロック別に見ると、【肯定派】の割合は、Cブロック（90.1%）が最も高く約9割となっています。また、Bブロック（84.7%）が最も低く8割半ばとなっています。

<図表 23-3> 横田基地の賛否／性・年齢別



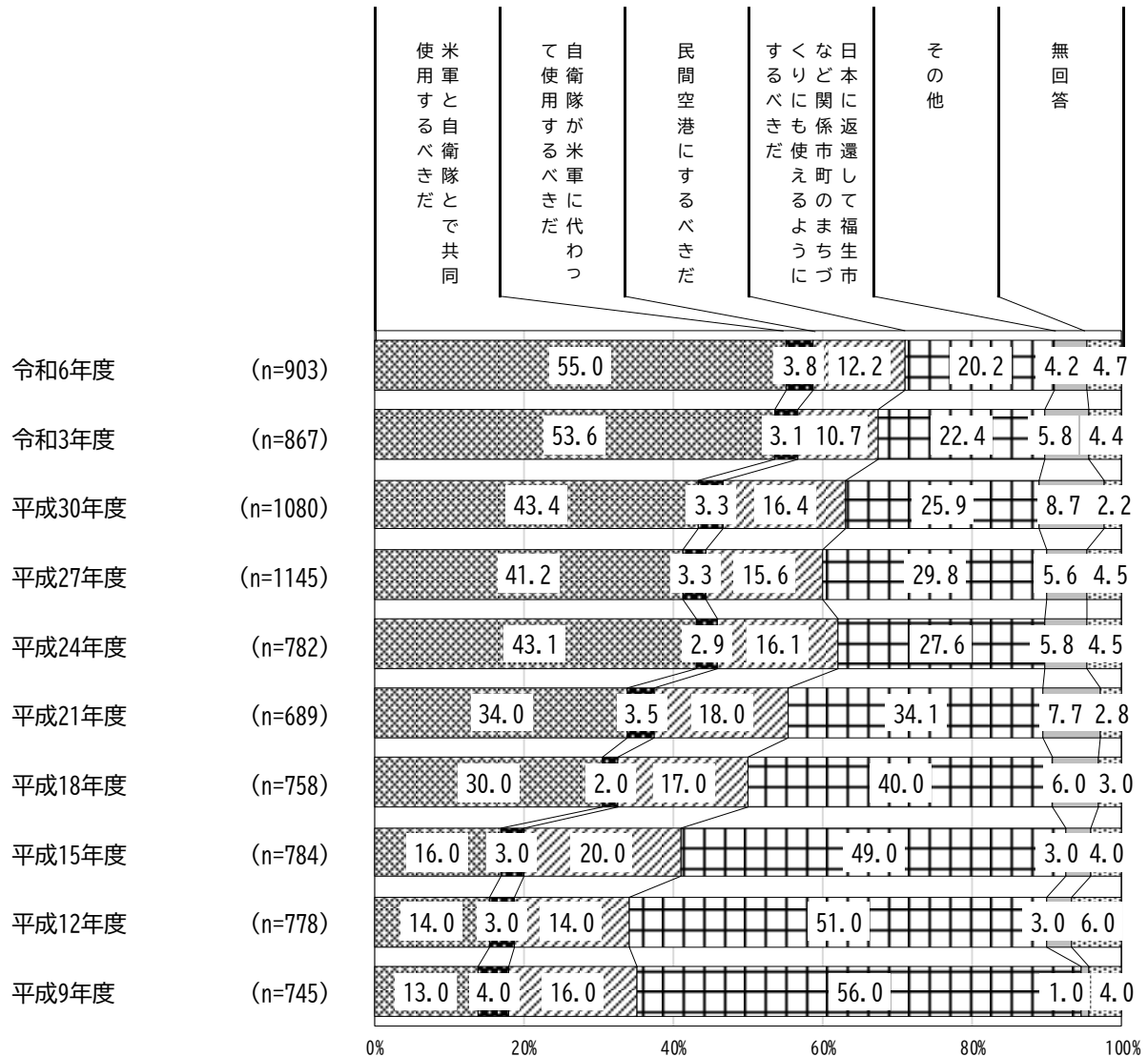
<調査結果>

横田基地の賛否について性・年齢別に見ると、【肯定派】の割合は、男性・女性ともに20代以下（男性90.1%）（女性94.7%）が最も高くなっています。また、男性・女性ともに70代以上（男性86.2%）（女性85.7%）が最も低くなっています。

(2) 横田基地のあり方

問 24 平成 24 年 3 月に自衛隊との共同使用が開始されましたが、横田基地はどうあるべきだと思いますか。(○は1つ)

<図表 24-1>横田基地のあり方

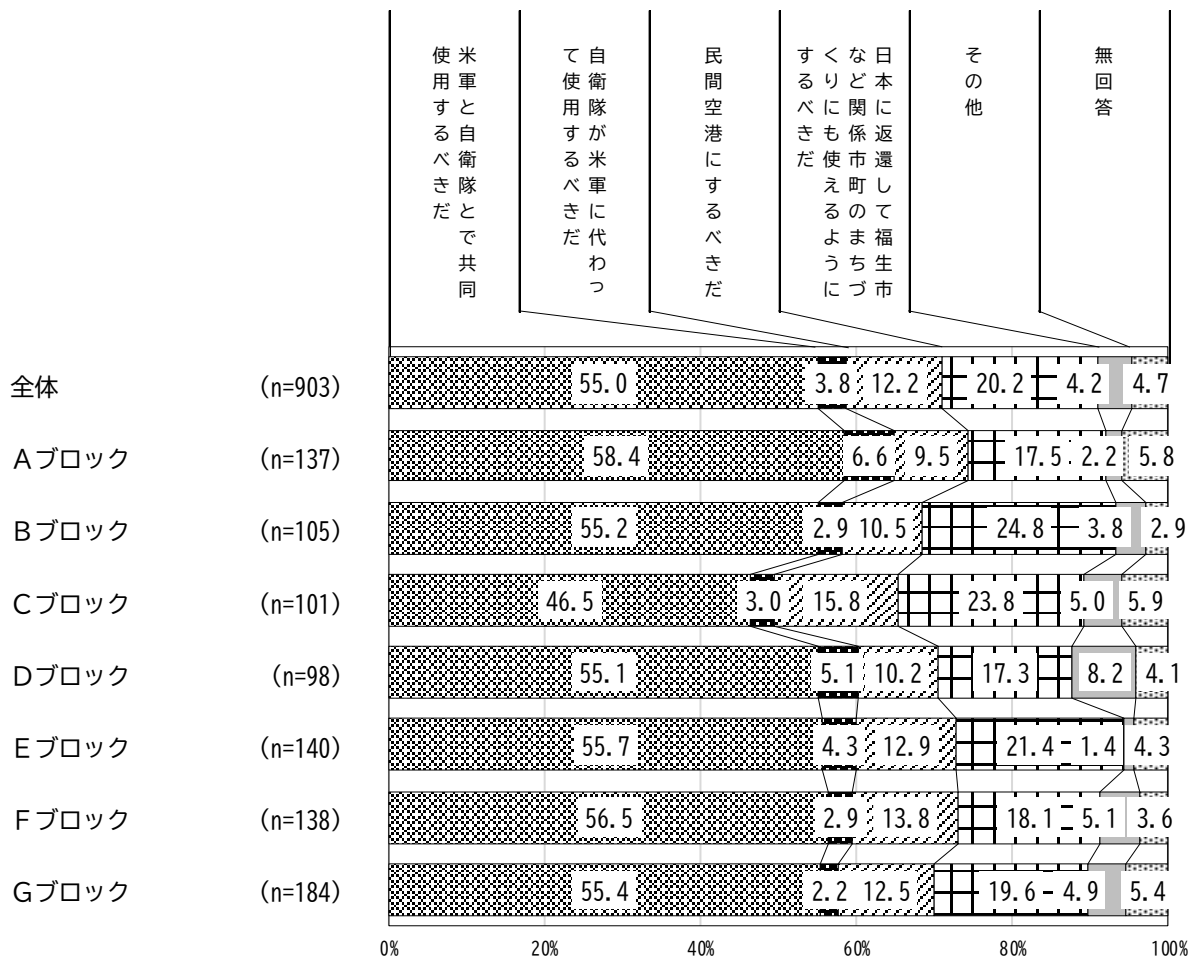


<調査結果>

横田基地のあり方について聞いたところ、「米軍と自衛隊とで共同使用するべきだ」(55.0%)が5割半ばと最も高く、次いで、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」(20.2%)、「民間空港にするべきだ」(12.2%)となっています。

過年度の推移を見ると、「米軍と自衛隊とで共同使用するべきだ」は増加傾向にあります。

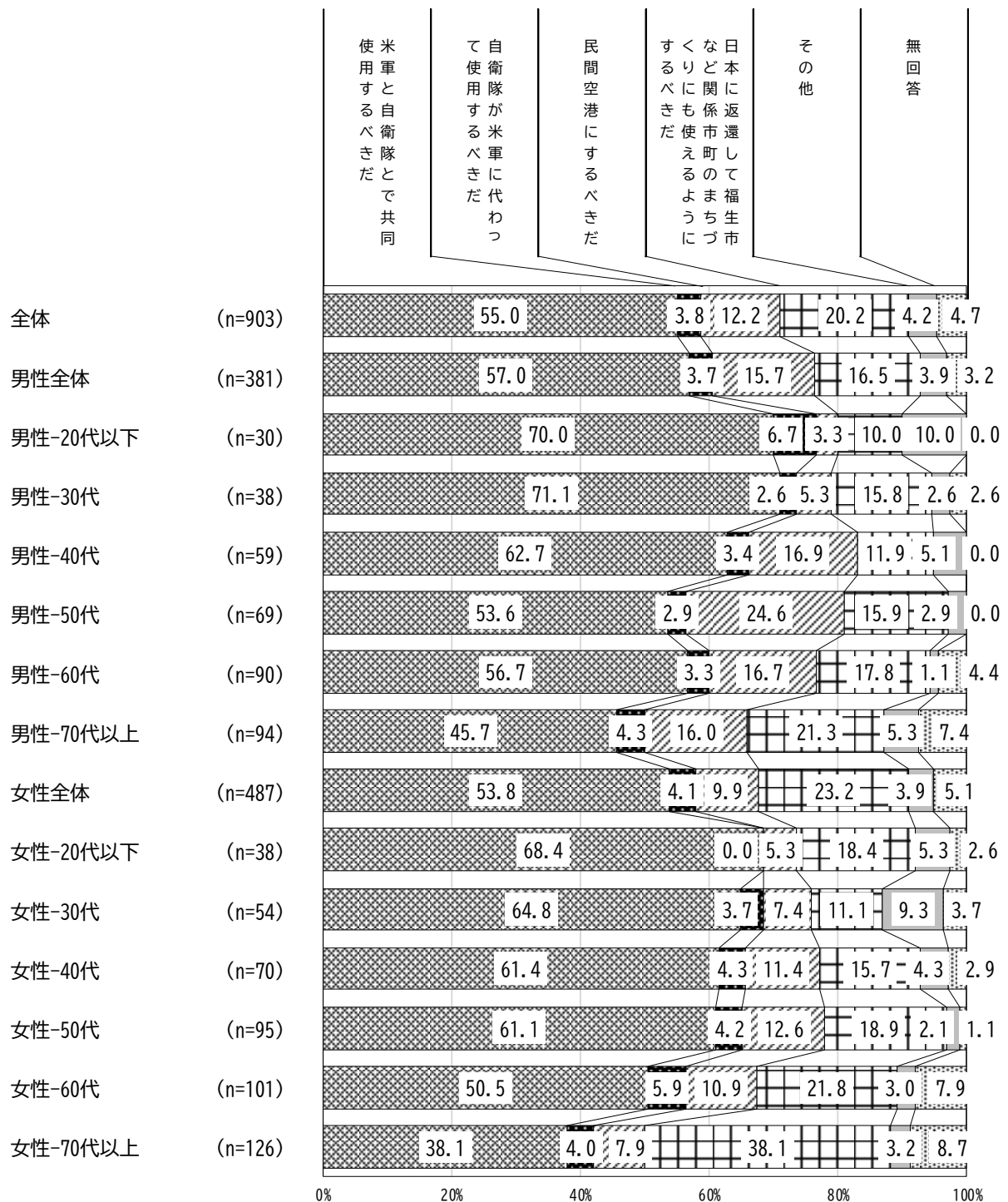
<図表 24-2> 横田基地のあり方／ブロック別



<調査結果>

横田基地のあり方についてブロック別に見ると、「米軍と自衛隊とで共同使用するべきだ」は、Aブロック（58.4%）が最も高く6割近くとなっています。また、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」は、Bブロック（24.8%）が最も高く2割半ばとなっています。

<図表 24-3> 横田基地のあり方／性・年齢別



<調査結果>

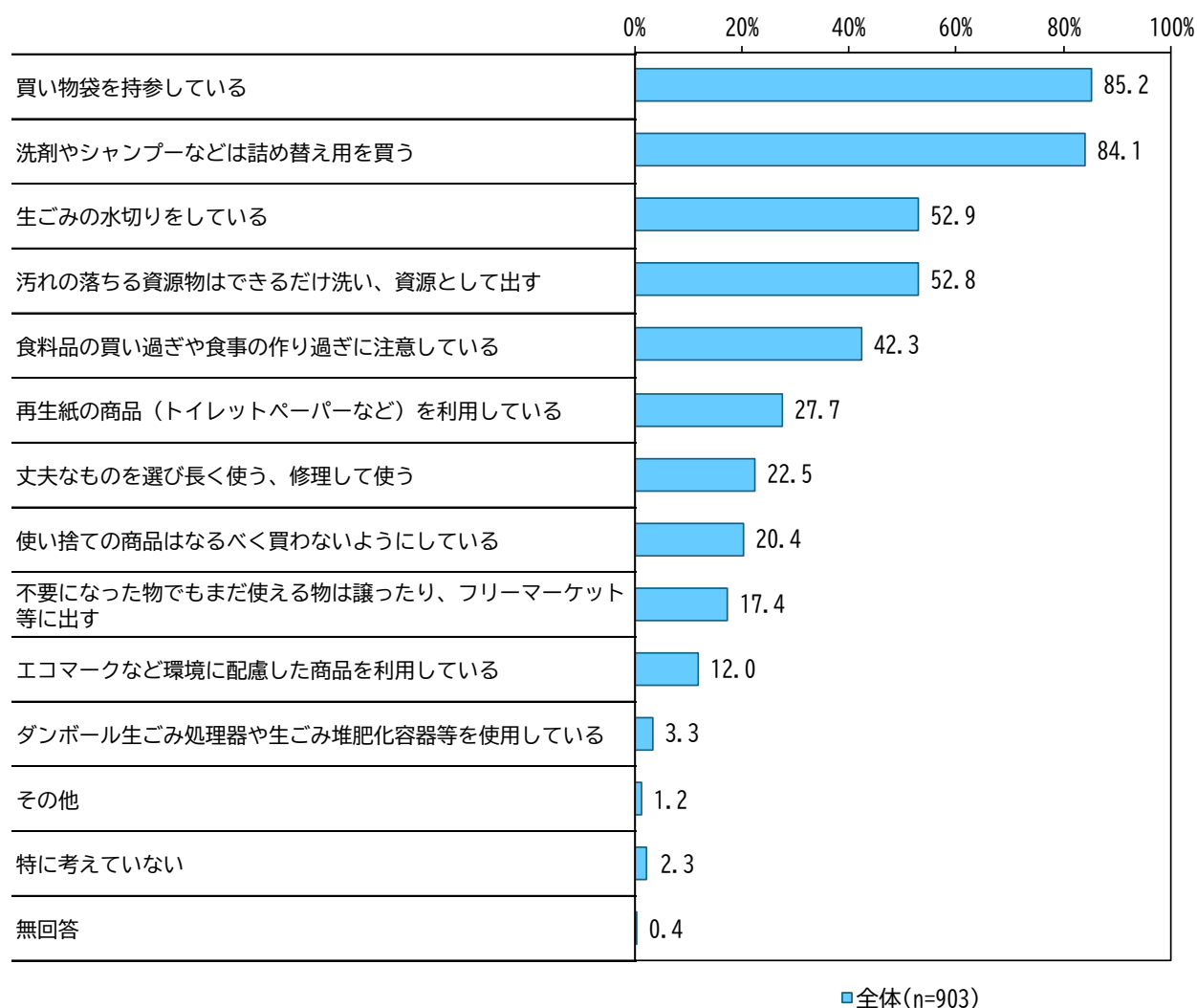
横田基地のあり方について、「米軍と自衛隊とで共同使用するべきだ」の割合を性・年齢別に見ると、男性-30代（71.1%）が最も高くなっています。また、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりに使えるようにするべきだ」の割合は、女性-70代以上（38.1%）が最も高くなっています。

8 環境問題

(1) ごみ減量やリサイクルに関して心がけていること

問 25 ごみ減量やリサイクルに関して、あなたが日常心がけていることは何ですか。(〇はいくつでも)

<図表 25-1>ごみ減量やリサイクルに関して心がけていること



<調査結果>

ごみ減量やリサイクルに関して心がけていることについて聞いたところ、「買い物袋を持参している」(85.2%)、「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」(84.1%)が8割半ばとなっています。次いで、「生ごみの水切りをしている」(52.9%)、「汚れの落ちる資源物はできるだけ洗い、資源として出す」(52.8%)が5割を超えています。

<図表 25-2>ごみ減量やリサイクルに関して心がけていること(上位 10 項目)／性・年齢別

		n	買い物袋を持参している	洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う	生ごみの水切りをしている	汚れの落ちる資源物はできるだけ洗い、資源として出す	食料品の買い過ぎや食事の作り過ぎに注意している	再生紙の商品(トイレットペーパーなど)を利用している	丈夫なものを選び長く使う、修理して使う	使い捨ての商品はなるべく買わないようにしている	不要になった物でもまだ使える物は譲ったり、フリーマーケット等に出す	エコマークなど環境に配慮した商品を利用している
	全体	903	85.2	84.1	52.9	52.8	42.3	27.7	22.5	20.4	17.4	12.0
性・年齢別	男性全体	381	79.0	81.1	39.6	44.9	38.3	26.5	28.9	20.7	15.0	10.5
	男性-20代以下	30	70.0	56.7	26.7	23.3	23.3	20.0	20.0	16.7	6.7	3.3
	男性-30代	38	68.4	89.5	18.4	31.6	47.4	18.4	28.9	21.1	23.7	5.3
	男性-40代	59	74.6	81.4	35.6	40.7	37.3	20.3	30.5	11.9	23.7	11.9
	男性-50代	69	75.4	89.9	43.5	53.6	42.0	30.4	31.9	33.3	15.9	8.7
	男性-60代	90	85.6	83.3	43.3	51.1	38.9	26.7	34.4	18.9	12.2	12.2
	男性-70代以上	94	86.2	77.7	48.9	47.9	37.2	31.9	23.4	20.2	10.6	13.8
	女性全体	487	90.3	86.7	63.9	59.8	46.0	28.3	18.1	20.3	19.7	13.1
	女性-20代以下	38	78.9	73.7	26.3	28.9	34.2	13.2	18.4	18.4	26.3	7.9
	女性-30代	54	85.2	81.5	40.7	48.1	42.6	13.0	14.8	9.3	29.6	1.9
	女性-40代	70	81.4	88.6	57.1	51.4	40.0	21.4	12.9	15.7	21.4	5.7
	女性-50代	95	92.6	87.4	61.1	70.5	51.6	23.2	18.9	16.8	23.2	8.4
	女性-60代	101	96.0	89.1	78.2	65.3	46.5	35.6	19.8	23.8	17.8	17.8
	女性-70代以上	126	94.4	88.9	79.4	65.9	48.4	41.3	19.0	27.0	11.9	23.8

<調査結果>

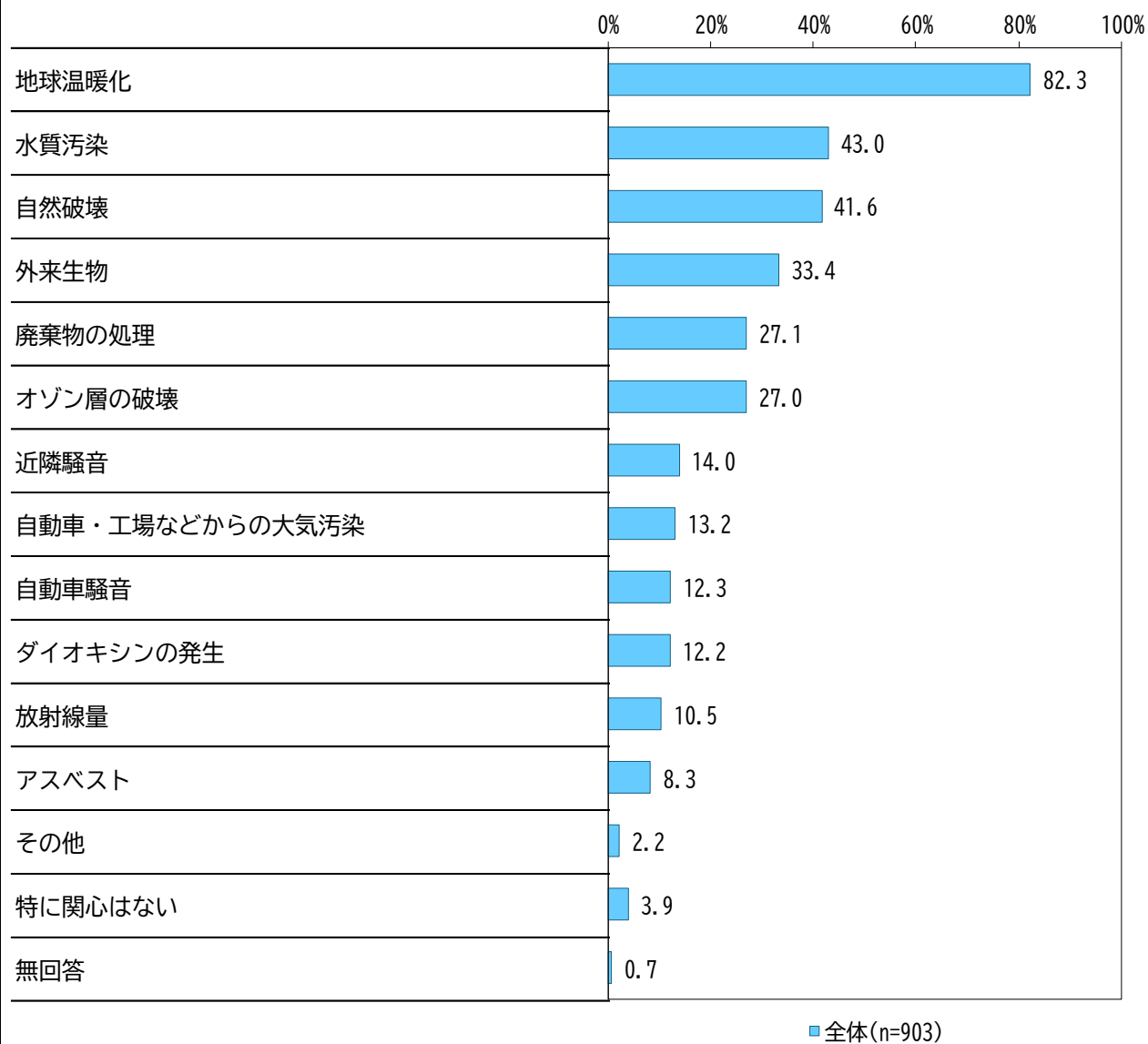
ごみ減量やリサイクルに関して心がけていることについて、「買い物袋を持参している」の割合を性・年齢別に見ると、男性-20代以下(70.0%)、男性-30代(68.4%)が全体より低く、男性-40代(74.6%)が全体よりやや低くなっています。

女性-60代、女性-70代以上は他の年代と比べて、全体の割合を上回っている項目が多く、ごみ減量やリサイクルに対する関心が高い傾向にあります。

(2) 関心のある環境問題

問 26 環境問題について、最近どのような事柄に関心がありますか。(〇はいくつでも)

<図表 26-1>関心のある環境問題



<調査結果>

関心のある環境問題について聞いたところ、「地球温暖化」(82.3%)が8割を超え最も高く、次いで、「水質汚染」(43.0%)、「自然破壊」(41.6%)が4割を超えています。

<図表 26-2> 関心のある環境問題(上位 10 項目)／性・年齢別

		n	地球温暖化	水質汚染	自然破壊	外来生物	廃棄物の処理	オゾン層の破壊	近隣騒音	自動車・工場などからの大気汚染	自動車騒音	ダイオキシンの発生
全体		903	82.3	43.0	41.6	33.4	27.1	27.0	14.0	13.2	12.3	12.2
性・年齢別	男性全体	381	77.7	39.4	38.8	32.3	27.6	23.9	16.5	12.6	15.5	10.8
	男性-20代以下	30	60.0	20.0	23.3	26.7	20.0	20.0	20.0	20.0	16.7	13.3
	男性-30代	38	63.2	34.2	31.6	23.7	21.1	18.4	23.7	10.5	18.4	15.8
	男性-40代	59	72.9	40.7	27.1	28.8	18.6	20.3	13.6	8.5	16.9	5.1
	男性-50代	69	79.7	40.6	36.2	31.9	30.4	21.7	21.7	11.6	11.6	10.1
	男性-60代	90	83.3	37.8	42.2	40.0	36.7	28.9	12.2	13.3	15.6	7.8
	男性-70代以上	94	86.2	47.9	53.2	33.0	27.7	26.6	14.9	13.8	16.0	14.9
	女性全体	487	85.8	46.2	43.3	34.1	27.7	29.6	12.7	13.8	10.1	13.3
	女性-20代以下	38	71.1	28.9	34.2	21.1	7.9	26.3	10.5	21.1	23.7	2.6
	女性-30代	54	79.6	48.1	37.0	29.6	25.9	25.9	20.4	16.7	5.6	9.3
	女性-40代	70	84.3	42.9	42.9	27.1	24.3	21.4	12.9	11.4	2.9	10.0
	女性-50代	95	86.3	41.1	49.5	31.6	31.6	28.4	17.9	12.6	8.4	14.7
	女性-60代	101	89.1	48.5	38.6	38.6	30.7	34.7	7.9	8.9	8.9	11.9
	女性-70代以上	126	91.3	54.0	48.4	42.9	31.0	33.3	9.5	15.9	13.5	19.8

<調査結果>

関心のある環境問題について、「地球温暖化」の割合を性・年齢別に見ると、男性-20 代以下（60.0%）、男性-30 代（63.2%）が全体より低くなっています。また、女性-20 代以下（71.1%）が全体よりやや低くなっています。

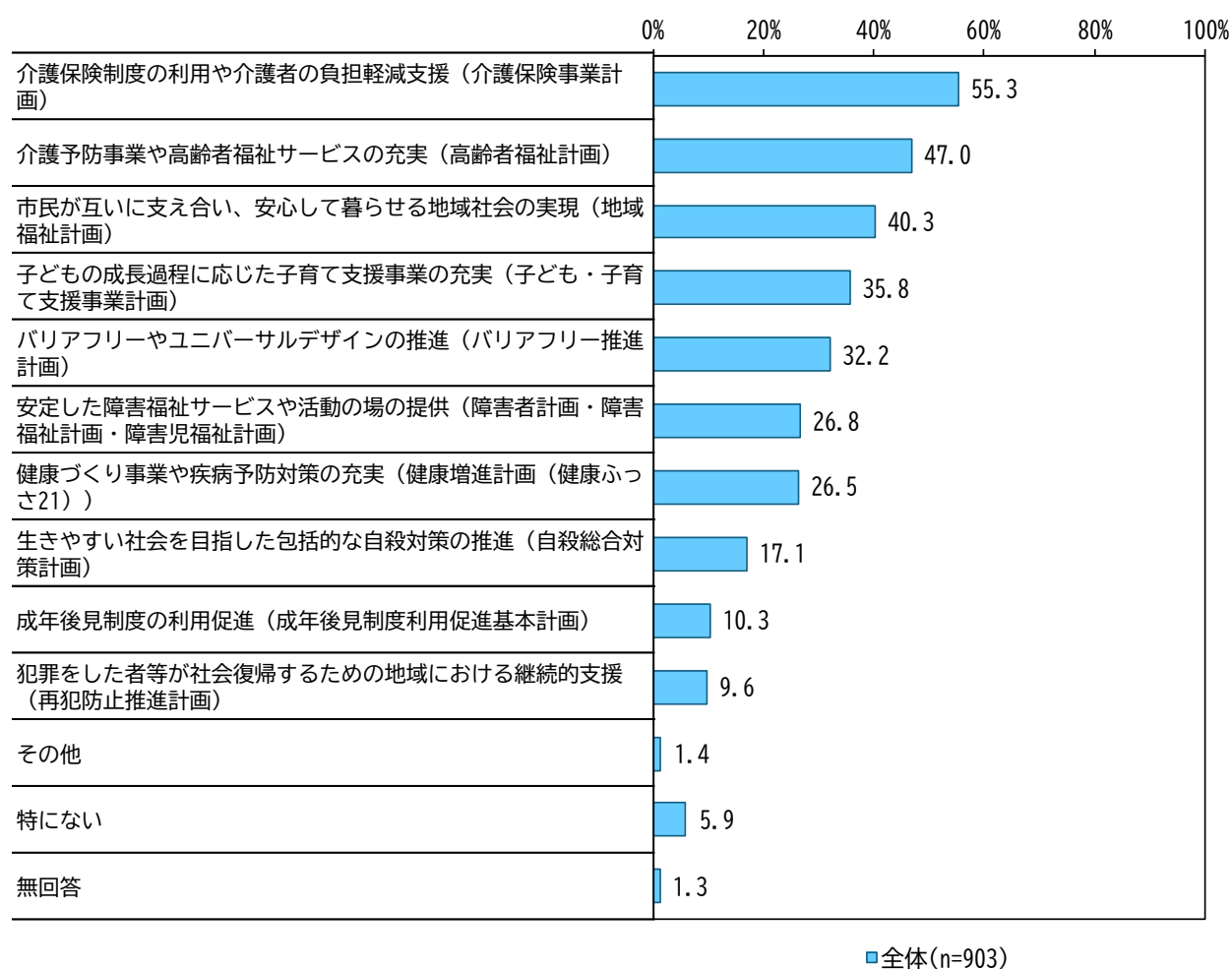
男性の 20 代以下から 30 代、女性の 20 代以下は複数の項目で全体より割合を下回っていますが、「自動車騒音」の割合については、女性の 20 代以下（23.7%）は全体よりやや高くなっています。

9 福祉社会

(1) 福祉保健分野で特に力を入れて欲しい施策（または、計画）

問 27 福祉保健の分野で、特に力を入れて欲しい施策(または、計画)を次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

<図表 27-1> 福祉保健分野で特に力を入れて欲しい施策(または、計画)



<調査結果>

福祉保健分野で特に力を入れて欲しい施策（または、計画）について聞いたところ、「介護保険制度の利用や介護者の負担軽減支援（介護保険事業計画）」(55.3%) が5割半ばと最も高く、次いで、「介護予防事業や高齢者福祉サービスの充実（高齢者福祉計画）」(47.0%)、「市民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現（地域福祉計画）」(40.3%) が4割台となっています。

<図表 27-2>福祉保健分野で特に力を入れて欲しい施策(または、計画)(上位 10 項目)／性・年齢別

		n	介護保険制度の利用や介護者の負担軽減支援（介護保険事業計画）	介護予防事業や高齢者福祉サービスの充実（高齢者福祉計画）	市民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現（地域福祉計画）	子どもの成長過程に応じた子育て支援事業の充実（子ども・子育て支援事業計画）	バリアフリーやユニバーサルデザインの推進（バリアフリー推進計画）	安定した障害福祉サービスや活動の場の提供（障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画）	健康づくり事業や疾病予防対策の充実（健康増進計画（健康ふっさ21））	生きやすい社会を目指した包括的な自殺対策の推進（自殺総合対策計画）	成年後見制度の利用促進（成年後見制度利用促進基本計画）	犯罪をした者等が社会復帰するための地域における継続的支援（再犯防止推進計画）
全体		903	55.3	47.0	40.3	35.8	32.2	26.8	26.5	17.1	10.3	9.6
性・年齢別	男性全体	381	50.4	41.2	41.5	36.5	29.7	24.7	27.0	18.1	8.9	10.5
	男性-20代以下	30	20.0	13.3	36.7	36.7	30.0	10.0	10.0	26.7	10.0	10.0
	男性-30代	38	34.2	23.7	23.7	65.8	28.9	13.2	31.6	15.8	15.8	15.8
	男性-40代	59	40.7	25.4	45.8	35.6	33.9	18.6	20.3	25.4	3.4	8.5
	男性-50代	69	46.4	37.7	43.5	34.8	29.0	29.0	27.5	14.5	11.6	11.6
	男性-60代	90	71.1	57.8	45.6	27.8	35.6	33.3	30.0	16.7	10.0	11.1
	男性-70代以上	94	55.3	54.3	42.6	34.0	22.3	26.6	31.9	16.0	6.4	8.5
	女性全体	487	58.7	51.7	40.5	35.3	34.9	28.7	27.1	16.0	11.5	9.2
	女性-20代以下	38	21.1	21.1	44.7	52.6	34.2	21.1	34.2	18.4	7.9	18.4
	女性-30代	54	35.2	38.9	25.9	61.1	35.2	20.4	29.6	14.8	9.3	1.9
	女性-40代	70	48.6	34.3	45.7	47.1	27.1	31.4	12.9	21.4	7.1	4.3
	女性-50代	95	70.5	56.8	26.3	23.2	35.8	30.5	23.2	10.5	11.6	6.3
	女性-60代	101	63.4	60.4	38.6	30.7	38.6	26.7	27.7	9.9	10.9	5.0
	女性-70代以上	126	73.0	65.9	54.8	24.6	36.5	33.3	34.1	22.2	16.7	18.3

<調査結果>

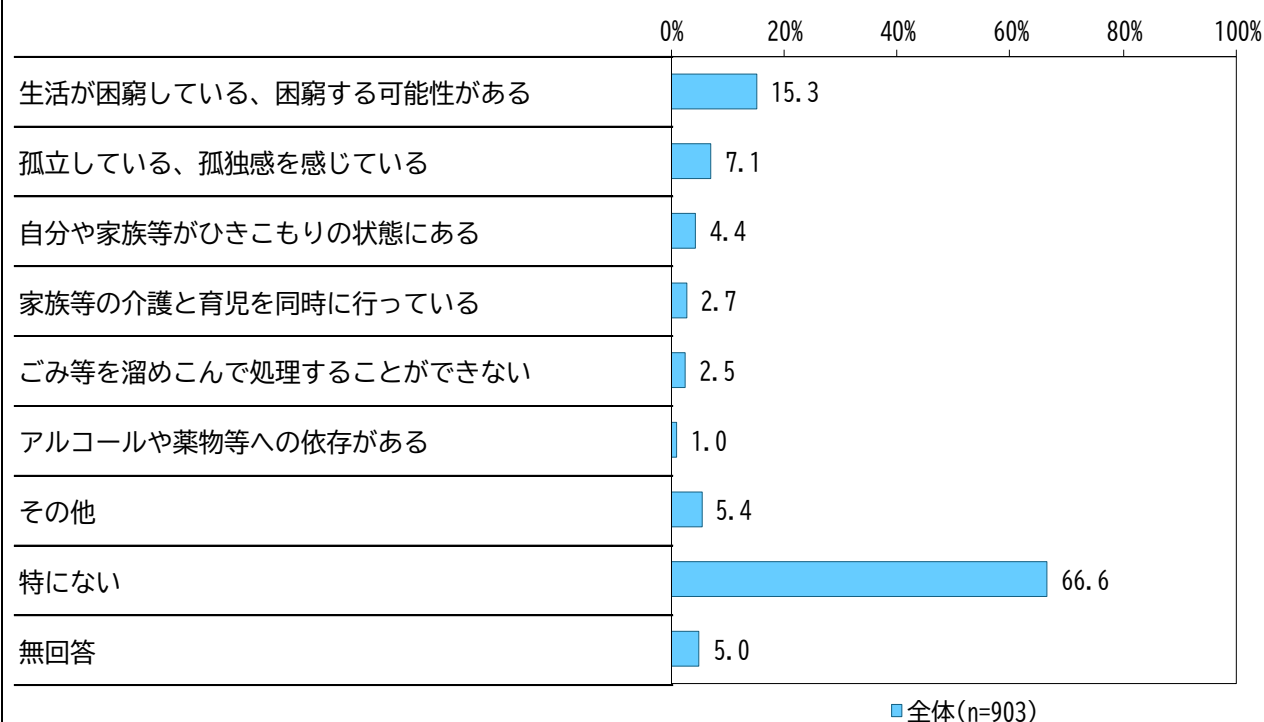
福祉保健分野で特に力を入れて欲しい施策（または、計画）について、「介護保険制度の利用や介護者の負担軽減支援（介護保険事業計画）」の割合を性・年齢別に見ると、男性-60代（71.1%）、女性-50代（70.5%）、女性-70代以上（73.0%）が全体より高くなっています。

「子どもの成長過程に応じた子育て支援事業の充実（子ども・子育て支援事業計画）」の割合を性・年齢別に見ると、男性-30代（65.8%）、女性-30代（61.1%）が全体よりとても高く、女性-20代以下（52.6%）が全体より高く、女性-40代（47.1%）が全体よりやや高くなっています。

(2) 抱えている福祉課題

問 28 あなたが抱えている福祉課題はありますか。(○はいくつでも)

<図表 28-1>抱えている福祉課題



<調査結果>

抱えている福祉課題について聞いたところ、「特にない」(66.6%)が6割半ばを超え最も高く、次いで、「生活が困窮している、困窮する可能性がある」(15.3%)が1割半ば、そのほかの項目は、1割未満となっています。

<図表 28-2>抱えている福祉課題／性・年齢別

		n	生活が困窮している、困窮する可能性がある	孤立している、孤独感を感じている	自分や家族等がひきこもりの状態にある	家族等の介護と育児を同時に行っている	ごみ等を溜めこんで処理することができない	アルコールや薬物等への依存がある	その他	特にない	無回答
全体		903	15.3	7.1	4.4	2.7	2.5	1.0	5.4	66.6	5.0
性・年齢別	男性全体	381	14.7	8.7	3.7	2.9	2.1	0.8	3.9	67.7	3.9
	男性-20代以下	30	13.3	13.3	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0	76.7	0.0
	男性-30代	38	10.5	2.6	7.9	2.6	0.0	2.6	2.6	71.1	5.3
	男性-40代	59	22.0	8.5	5.1	0.0	1.7	0.0	3.4	67.8	3.4
	男性-50代	69	10.1	10.1	7.2	4.3	4.3	1.4	1.4	72.5	2.9
	男性-60代	90	16.7	8.9	0.0	3.3	3.3	1.1	5.6	66.7	2.2
	男性-70代以上	94	13.8	8.5	2.1	3.2	1.1	0.0	6.4	60.6	7.4
	女性全体	487	15.2	5.5	4.5	2.5	3.1	0.8	6.8	66.7	5.1
	女性-20代以下	38	13.2	5.3	7.9	2.6	2.6	0.0	2.6	68.4	2.6
	女性-30代	54	20.4	5.6	5.6	0.0	3.7	0.0	7.4	64.8	3.7
	女性-40代	70	21.4	8.6	4.3	5.7	2.9	1.4	5.7	61.4	5.7
	女性-50代	95	13.7	5.3	8.4	5.3	3.2	1.1	10.5	65.3	2.1
	女性-60代	101	9.9	1.0	0.0	0.0	1.0	1.0	7.9	74.3	7.9
	女性-70代以上	126	15.9	7.9	4.0	1.6	4.8	0.8	4.0	65.1	6.3

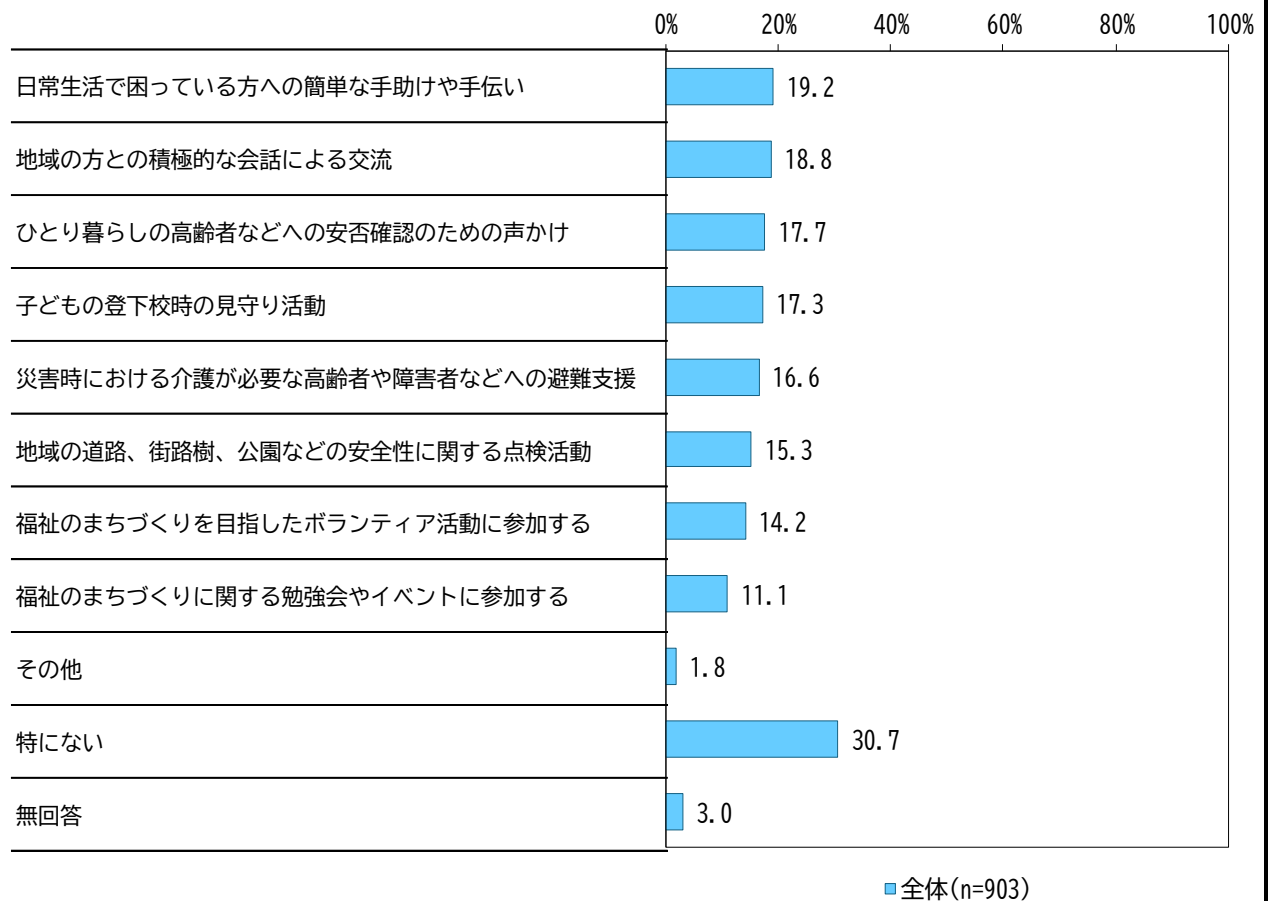
<調査結果>

抱えている福祉課題について、「特にない」の割合を性・年齢別に見ると、男性-20代以下(76.7%)が全体よりやや高くなっています。

(3) 福祉のまちづくりの推進に向けてあなたができること・したいと思う福祉活動

問 29 福祉のまちづくりを推進するために、あなたができることや、したいと思う福祉活動を選んでください。(〇はいくつでも)

<図表 29-1>福祉のまちづくりの推進に向けてあなたができること・したいと思う福祉活動



<調査結果>

福祉のまちづくりの推進に向けてあなたができること・したいと思う福祉活動について聞いたところ、「特にない」(30.7%)が約3割と最も高く、次いで、「日常生活で困っている方への簡単な手助けや手伝い」(19.2%)、「地域の方との積極的な会話による交流」(18.8%)となっています。

<図表 29-2> 福祉のまちづくりの推進に向けてあなたができること・したいと思う福祉活動／性・年齢別

		n	日常生活で困っている方への簡単な手助けや手伝い	地域の方との積極的な会話による交流	ひとり暮らしの高齢者などへの安否確認のための声かけ	子どもの登下校時の見守り活動	災害時における介護が必要な高齢者や障害者などへの避難支援	地域の道路、街路樹、公園などの安全性に関する点検活動	福祉のまちづくりを目指したボランティア活動に参加する	福祉のまちづくりに関する勉強会やイベントに参加する	その他	特にない	無回答
全体		903	19.2	18.8	17.7	17.3	16.6	15.3	14.2	11.1	1.8	30.7	3.0
性・年齢別	男性全体	381	17.6	18.4	15.2	18.4	18.1	19.9	13.1	10.5	1.0	32.3	1.8
	男性-20代以下	30	20.0	20.0	6.7	13.3	16.7	6.7	16.7	13.3	3.3	30.0	0.0
	男性-30代	38	23.7	18.4	10.5	36.8	13.2	23.7	15.8	10.5	0.0	21.1	0.0
	男性-40代	59	20.3	16.9	16.9	16.9	20.3	15.3	11.9	5.1	0.0	40.7	0.0
	男性-50代	69	20.3	17.4	11.6	18.8	21.7	18.8	15.9	13.0	1.4	34.8	1.4
	男性-60代	90	14.4	15.6	15.6	15.6	14.4	22.2	13.3	14.4	1.1	33.3	0.0
	男性-70代以上	94	13.8	22.3	21.3	16.0	20.2	24.5	9.6	7.4	1.1	28.7	6.4
	女性全体	487	20.9	20.1	19.7	16.0	15.6	11.7	15.6	11.7	2.5	29.2	3.3
	女性-20代以下	38	28.9	15.8	13.2	21.1	15.8	10.5	18.4	10.5	2.6	31.6	0.0
	女性-30代	54	29.6	16.7	14.8	27.8	20.4	18.5	18.5	11.1	1.9	24.1	0.0
	女性-40代	70	12.9	21.4	10.0	20.0	14.3	8.6	20.0	12.9	2.9	34.3	0.0
	女性-50代	95	18.9	26.3	22.1	12.6	23.2	13.7	11.6	12.6	4.2	25.3	1.1
	女性-60代	101	21.8	11.9	17.8	14.9	12.9	12.9	13.9	12.9	1.0	29.7	6.9
	女性-70代以上	126	19.8	23.8	28.6	11.1	11.1	8.7	15.9	10.3	2.4	30.2	5.6

<調査結果>

福祉のまちづくりの推進に向けてあなたができること・したいと思う福祉活動について、「日常生活で困っている方への簡単な手助けや手伝い」の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代（29.6%）が全体よりやや高くなっています。

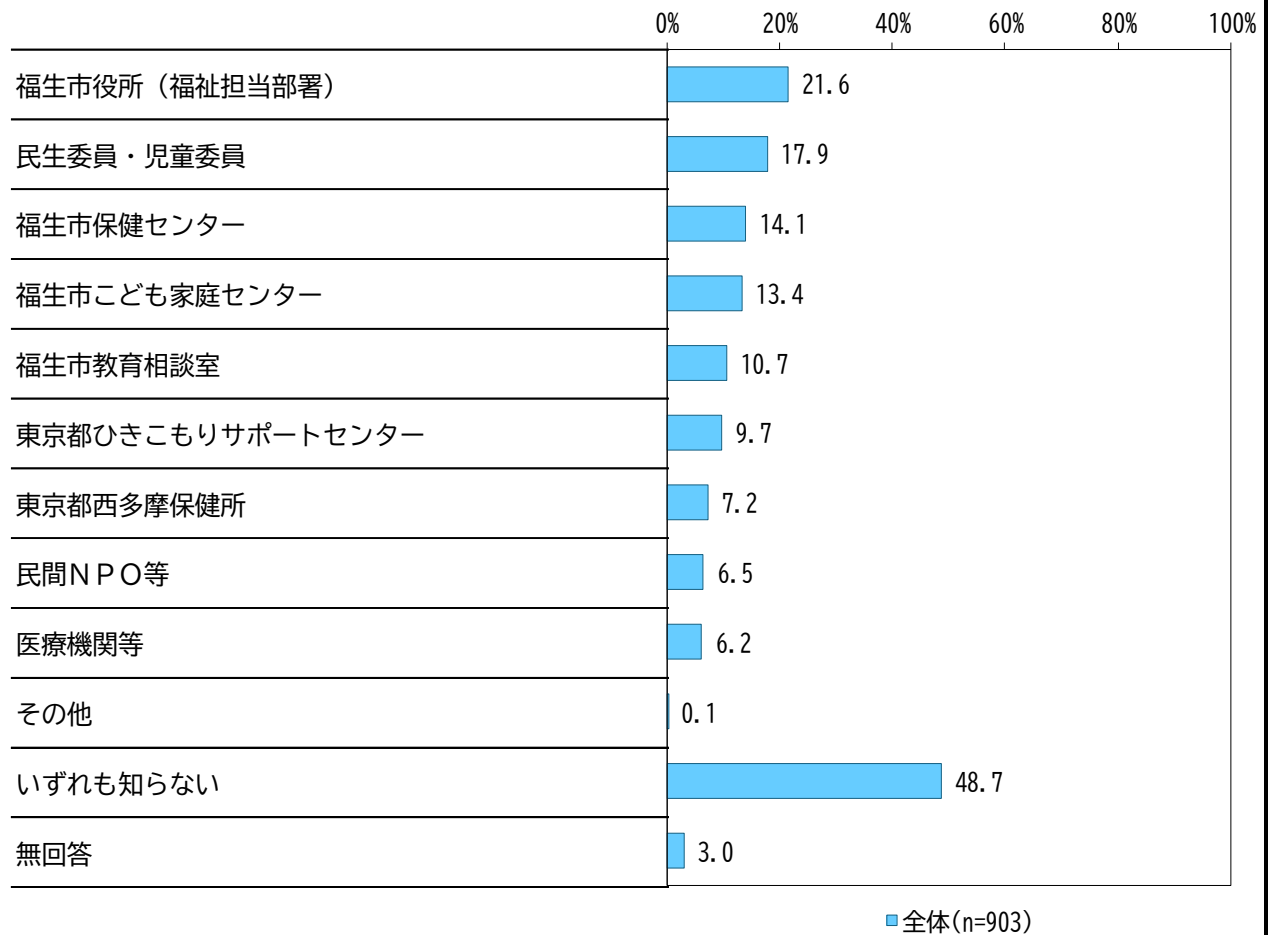
「ひとり暮らしの高齢者などへの安否確認のための声かけ」の割合を性・年齢別に見ると、女性-70代以上（28.6%）が全体よりやや高くなっています。

「子どもの登下校時の見守り活動」の割合を性・年齢別に見ると、男性-30代（36.8%）が全体より高く、女性-30代（27.8%）が全体よりやや高くなっています。

(4) 知っているひきこもりの相談機関

問 30 あなたが知っているひきこもりの相談機関を選んでください。(○はいくつでも)

<図表 30-1> 知っているひきこもりの相談機関



<調査結果>

知っているひきこもりの相談機関について聞いたところ、「いずれも知らない」(48.7%) が5割近くと最も高く、次いで、「福生市役所(福祉担当部署)」(21.6%)、「民生委員・児童委員」(17.9%)、となっています。

<図表 30-2>知っているひきこもりの相談機関(上位 10 項目)／性・年齢別

	n	福生市役所 (福祉担当部署)	民生委員・児童委員	福生市保健センター	福生市こども家庭センター	福生市教育相談室	東京都ひきこもりサポートセンター	東京都西多摩保健所	民間 N P O 等	医療機関等	その他
全体	903	21.6	17.9	14.1	13.4	10.7	9.7	7.2	6.5	6.2	0.1
性・年齢別	男性全体	381	26.0	17.6	12.9	12.3	8.7	7.1	6.0	6.8	0.0
	男性-20代以下	30	30.0	13.3	0.0	13.3	13.3	6.7	10.0	6.7	10.0
	男性-30代	38	18.4	13.2	15.8	23.7	13.2	15.8	15.8	5.3	0.0
	男性-40代	59	20.3	11.9	11.9	15.3	10.2	6.8	6.8	3.4	5.1
	男性-50代	69	21.7	17.4	10.1	10.1	11.6	5.8	5.8	10.1	8.7
	男性-60代	90	33.3	21.1	18.9	8.9	5.6	7.8	6.7	2.2	6.7
	男性-70代以上	94	26.6	20.2	12.8	10.6	5.3	9.6	5.3	4.3	6.4
	女性全体	487	17.9	18.9	15.2	15.2	12.3	10.5	7.0	7.0	5.5
	女性-20代以下	38	13.2	5.3	15.8	5.3	10.5	15.8	7.9	5.3	5.3
	女性-30代	54	13.0	7.4	18.5	20.4	7.4	5.6	1.9	7.4	5.6
	女性-40代	70	15.7	12.9	21.4	32.9	15.7	8.6	12.9	11.4	5.7
	女性-50代	95	13.7	17.9	10.5	12.6	8.4	9.5	3.2	7.4	8.4
	女性-60代	101	16.8	20.8	8.9	12.9	10.9	7.9	5.9	5.0	4.0
	女性-70代以上	126	27.0	31.0	19.0	10.3	17.5	15.1	9.5	6.3	4.8

<調査結果>

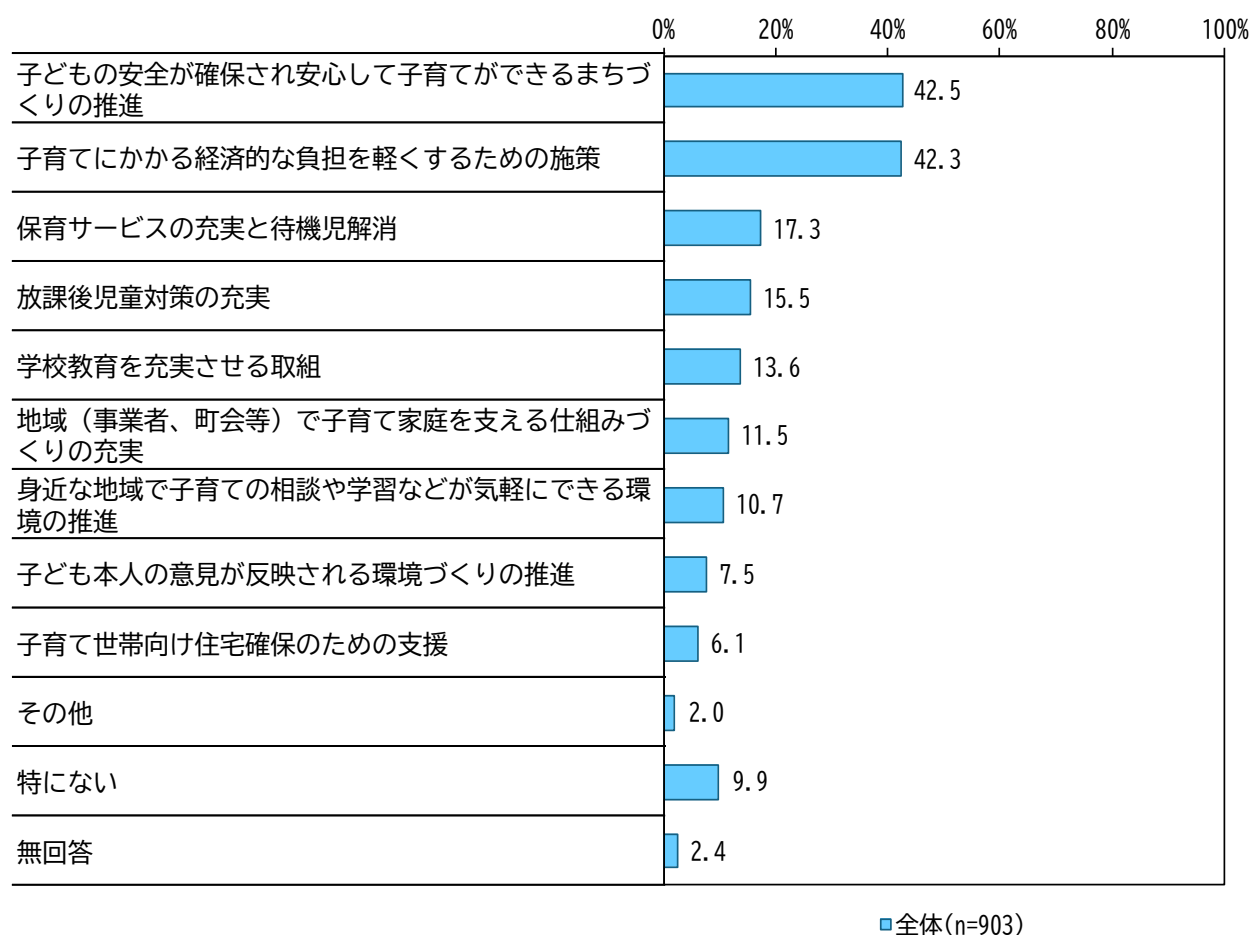
知っているひきこもりの相談機関について、「民生委員・児童委員」の割合を性・年齢別に見ると、女性-70代以上(31.0%)が全体よりやや高くなっています。一方で、女性-20代以下(5.3%)、女性-30代(7.4%)が全体よりやや低くなっています。

「福生市こども家庭センター」の割合を性・年齢別に見ると、女性-40代(32.9%)が全体より高く、男性-30代(23.7%)が全体よりやや高くなっています。

(5) 子育てしやすいまちづくりに向けて必要であると思う施策

問 31 「子育てするなら ふっさ」と実感できる社会環境づくりのためには、どのような施策が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

<図表 31-1> 子育てしやすいまちづくりに向けて必要であると思う施策



<調査結果>

子育てしやすいまちづくりに向けて必要であると思う施策について聞いたところ、「子どもの安全が確保され安心して子育てができるまちづくりの推進」(42.5%) が最も高く、次いで、「子育てにかかる経済的な負担を軽くするための施策」(42.3%) となっています。それぞれ4割を超えています。

<図表 31-2>子育てしやすいまちづくりに向けて必要であると思う施策(上位 10 項目)/ライフステージ別

		n	子どもが できる安全 まちづくり の推進	子育てに かかる経済 的な負担を 軽くする ための施策	保育サ ービスの充 実と待機児 解消	放課後 児童対策の 充実	学校教 育を充実さ せる取組	地域(事 業者、町会 等)で子育 て家庭を支 える仕組 みづくりの 充実	身近な地 域で子育て の相談や学 習などが 気軽にで きる環境の 推進	子ども本 人の意見が 反映される 環境づく りの推進	子育て世 帯向け住宅 確保のため の支援	その他
	全体	903	42.5	42.3	17.3	15.5	13.6	11.5	10.7	7.5	6.1	2.0
ライフ ステー ジ別	独身期	76	40.8	47.4	14.5	14.5	14.5	11.8	7.9	6.6	3.9	1.3
	家族形成期	60	50.0	75.0	20.0	20.0	8.3	8.3	10.0	3.3	5.0	3.3
	家族成長前期	67	41.8	49.3	9.0	17.9	29.9	9.0	7.5	11.9	11.9	3.0
	家族成長後期	44	43.2	38.6	18.2	13.6	38.6	9.1	9.1	6.8	9.1	0.0
	家族成熟期	203	43.3	40.4	20.7	15.8	14.8	9.9	8.9	8.9	6.4	1.0
	高齢期	59	49.2	44.1	15.3	15.3	13.6	15.3	11.9	5.1	3.4	0.0
	高齢者世帯	146	45.2	36.3	21.2	19.2	9.6	14.4	11.6	5.5	3.4	2.7
	その他	198	37.4	38.9	12.6	12.1	7.6	13.6	12.1	9.6	7.6	3.0

<調査結果>

子育てしやすいまちづくりに向けて必要であると思う施策について、「子育てにかかる経済的な負担を軽くするための施策」の割合をライフステージ別に見ると、家族形成期（75.0%）が全体よりとても高くなっています。

「学校教育を充実させる取組」の割合をライフステージ別に見ると、家族成長前期（29.9%）、家族成長後期（38.6%）が、それぞれ全体より高くなっています。

家族形成期では、「子育てにかかる経済的な負担を軽くするための施策」が高い傾向にありますが、家族成長前期、家族成長後期では「学校教育を充実させる取組」など、子どもの成長段階に応じて異なるニーズが見られます。

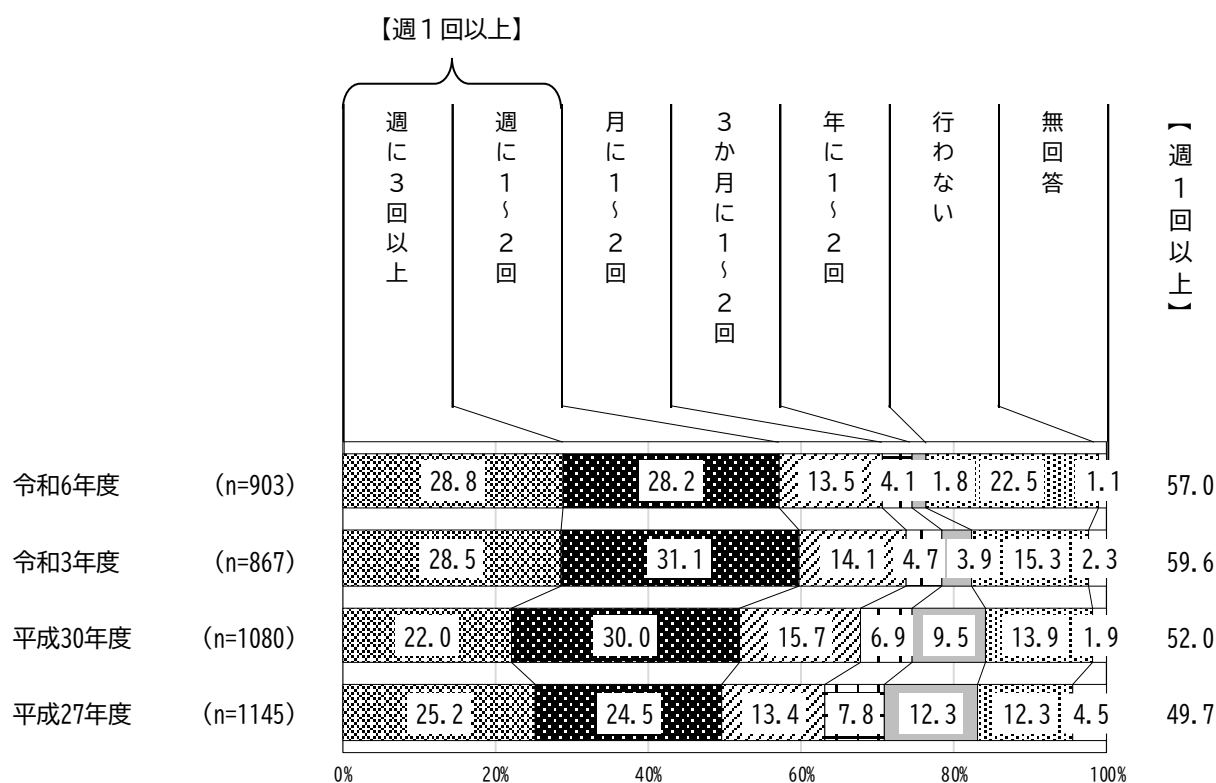
10 生涯学習

(1) スポーツや運動の実施頻度

問 32 あなたは、どのくらいの頻度でスポーツや運動を行いますか。(○は1つ)

※ウォーキング、散歩、軽い運動、趣味を活かしたサイクリングやゴルフ等を含みます。

<図表 32-1>スポーツや運動の実施頻度

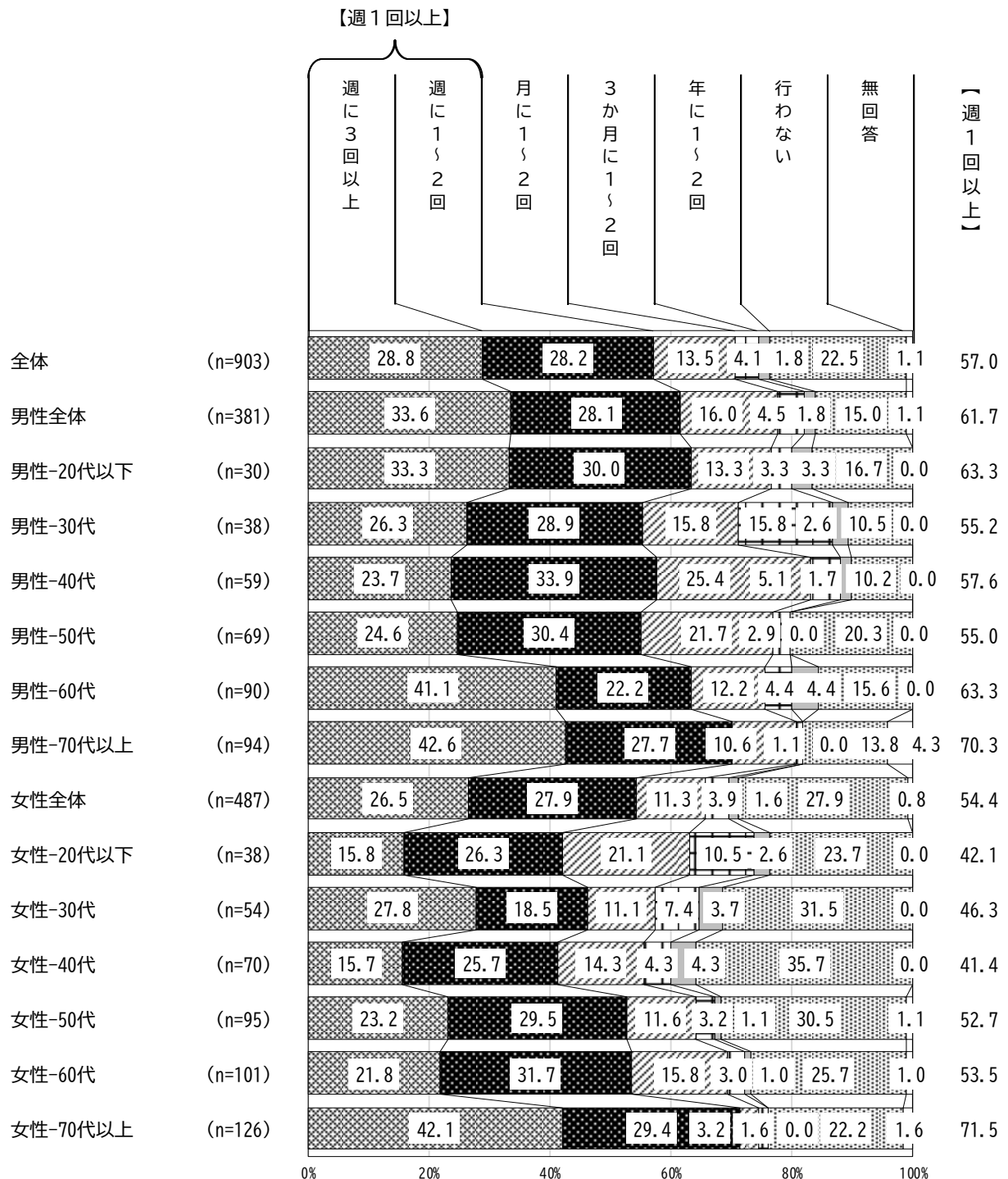


<調査結果>

スポーツや運動の実施頻度について聞いたところ、「週に3回以上」(28.8%)が3割近くと最も高く、次いで、「週に1～2回」(28.2%)、「行わない」(22.5%)となっています。

「週に3回以上」(28.8%)と「週に1～2回」(28.2%)を合計した【週1回以上】(57.0%)が5割半ばを超えています。

<図表 32-2> スポーツや運動の実施頻度／性・年齢別



<調査結果>

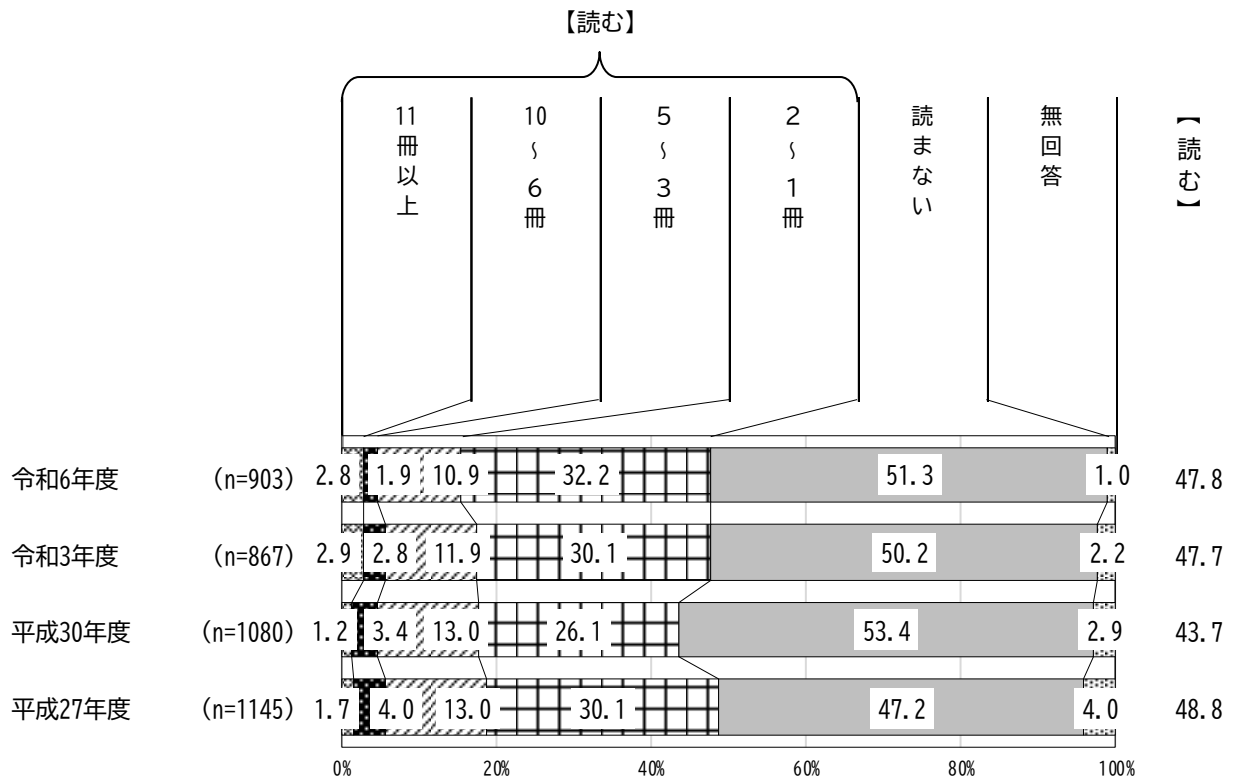
スポーツや運動の実施頻度について性・年齢別に見ると、【週1回以上】の割合は、女性-70代以上（71.5%）が最も高く7割を超えています。また、男性-70代以上（70.3%）が約7割となっています。一方で、女性-40代（41.4%）が最も低くなっています。

【週1回以上】の割合は、男性-50代（55.0%）、女性-40代（41.4%）が同性の他の年代と比べて低くなっており、それ以降は年代が上がるにつれて上昇する傾向が見られます。

(2) 1 か月間の平均読書冊数

問 33 あなたは、1か月間に平均何冊の本を読みますか。(○は1つ)

<図表 33-1>1か月間の平均読書冊数



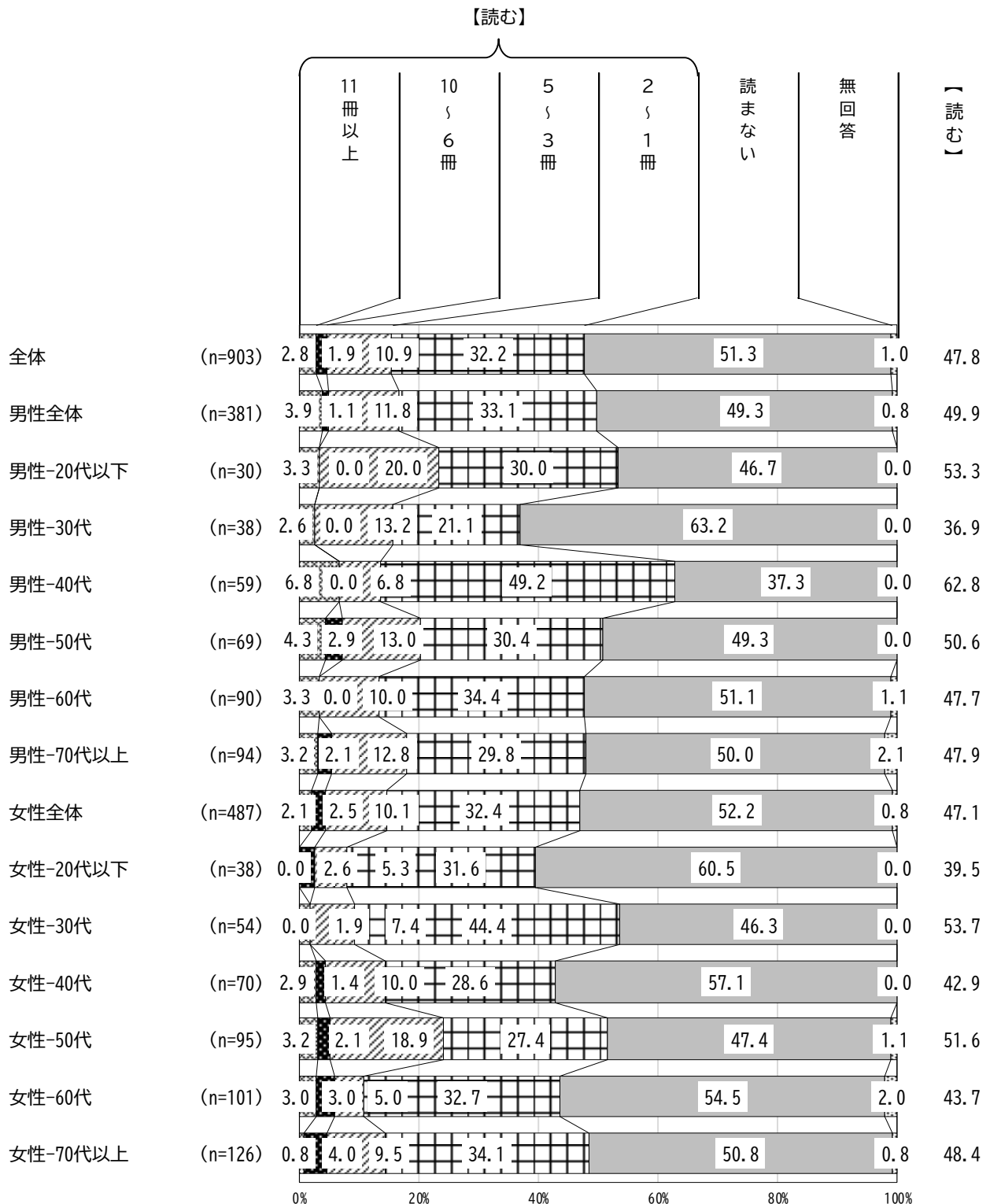
<調査結果>

1 か月間の平均読書冊数について聞いたところ、「読まない」(51.3%) が5割を超え最も高く、次いで、「2～1冊」(32.2%)、「5～3冊」(10.9%) となっています。

「11冊以上」(2.8%)、「10～6冊」(1.9%)、「5～3冊」(10.9%)、「2～1冊」(32.2%) を合計した【読む】(47.8%) が4割半ばを超えています。

【読む】の割合について、過年度の推移を見ると、平成 27 年度から大きな変化は見られません。

<図表 33-2> 1か月間の平均読書冊数／性・年齢別



<調査結果>

1 か月間の平均読書冊数について性・年齢別に見ると、【読む】の割合は、男性-40代（62.8%）が最も高く6割を超えています。次いで、女性-30代（53.7%）、男性-20代以下（53.3%）となっています。一方で、男性-30代（36.9%）が最も低く、女性-20代以下（39.5%）とともに3割台となっています。

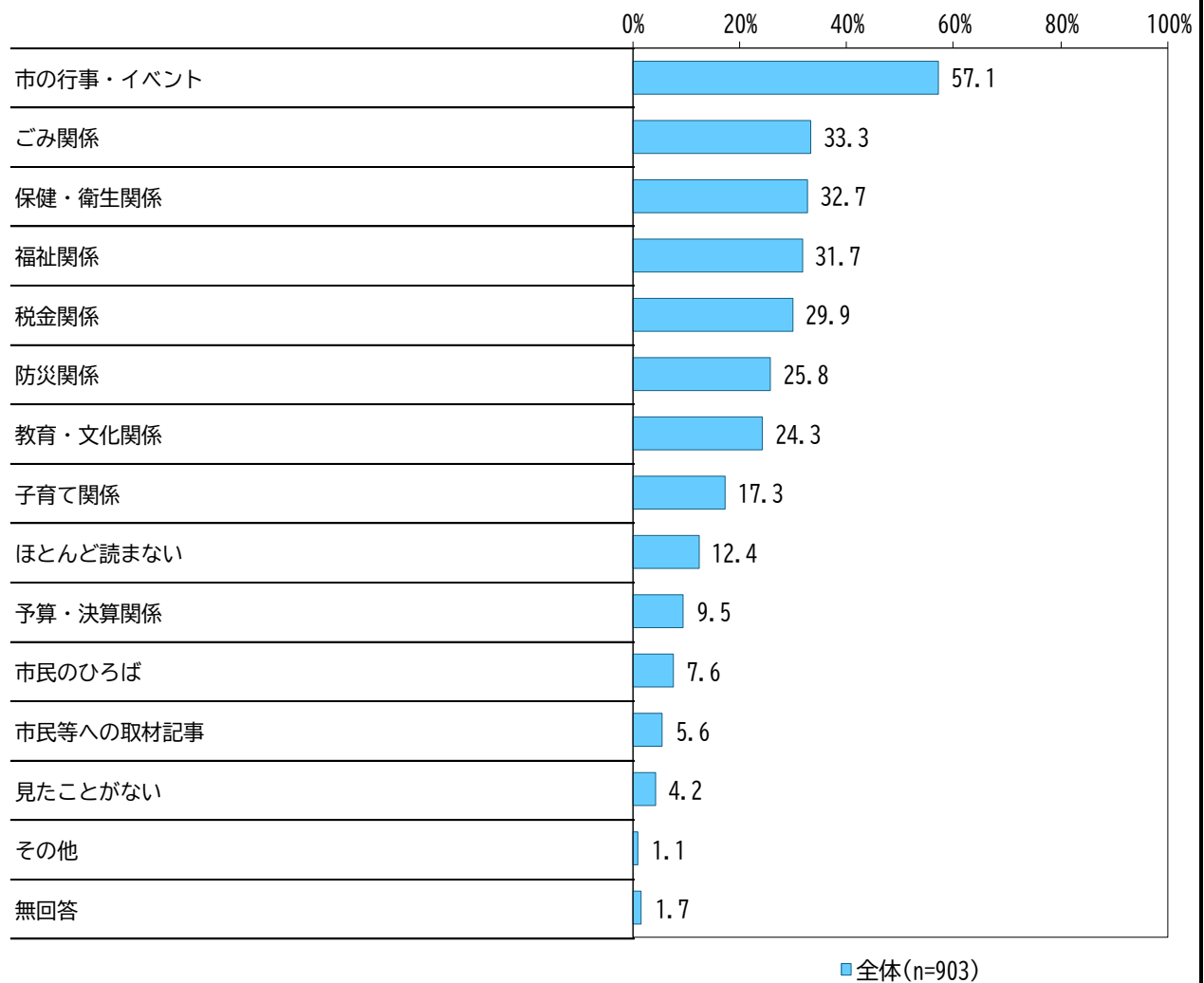
11 市の情報発信

(1)『広報ふっさ』で関心のある内容

問 34 市では、『広報ふっさ』、『福生市議会だより』、『福生の教育』を発行しています。あなたは、それぞれ主にどのような内容に関心を持って読まれますか。

問 34 -1【広報ふっさ】(○はいくつでも)

<図表 34-1-1>『広報ふっさ』で関心のある内容



<調査結果>

『広報ふっさ』で関心のある内容について聞いたところ、「市の行事・イベント」(57.1%)が5割半ばを超え最も高くなっています。次いで、「ごみ関係」(33.3%)、「保健・衛生関係」(32.7%)、「福祉関係」(31.7%)が3割を超えています。

<図表 34-1-2>『広報ふっさ』で関心のある内容(上位 10 項目)／性・年齢別

		n	市の 行事・ イベント	ごみ 関係	保健・ 衛生 関係	福祉 関係	税金 関係	防災 関係	教育・ 文化 関係	子育て 関係	ほとん ど読ま ない	予算・ 決算 関係
全体		903	57.1	33.3	32.7	31.7	29.9	25.8	24.3	17.3	12.4	9.5
性・ 年齢 別	男性全体	381	52.2	30.4	26.5	27.6	32.8	25.7	22.0	16.0	13.1	11.5
	男性-20代以下	30	26.7	13.3	13.3	13.3	26.7	10.0	23.3	16.7	26.7	6.7
	男性-30代	38	52.6	15.8	18.4	13.2	26.3	15.8	21.1	34.2	13.2	7.9
	男性-40代	59	49.2	18.6	20.3	16.9	30.5	18.6	32.2	30.5	13.6	13.6
	男性-50代	69	49.3	36.2	21.7	20.3	29.0	31.9	23.2	17.4	13.0	11.6
	男性-60代	90	64.4	30.0	43.3	41.1	37.8	31.1	15.6	7.8	12.2	15.6
	男性-70代以上	94	52.1	45.7	24.5	36.2	37.2	28.7	21.3	6.4	9.6	9.6
	女性全体	487	61.8	37.0	38.2	35.3	27.3	26.3	26.7	18.7	10.9	8.0
	女性-20代以下	38	36.8	7.9	18.4	5.3	15.8	5.3	21.1	26.3	23.7	2.6
	女性-30代	54	51.9	24.1	18.5	20.4	18.5	20.4	29.6	46.3	16.7	11.1
	女性-40代	70	68.6	28.6	30.0	31.4	25.7	18.6	35.7	40.0	8.6	8.6
	女性-50代	95	67.4	36.8	41.1	30.5	27.4	21.1	29.5	12.6	13.7	8.4
	女性-60代	101	69.3	45.5	53.5	43.6	29.7	37.6	16.8	6.9	7.9	7.9
	女性-70代以上	126	58.7	49.2	42.9	50.0	32.5	34.1	27.0	6.3	6.3	7.9

<調査結果>

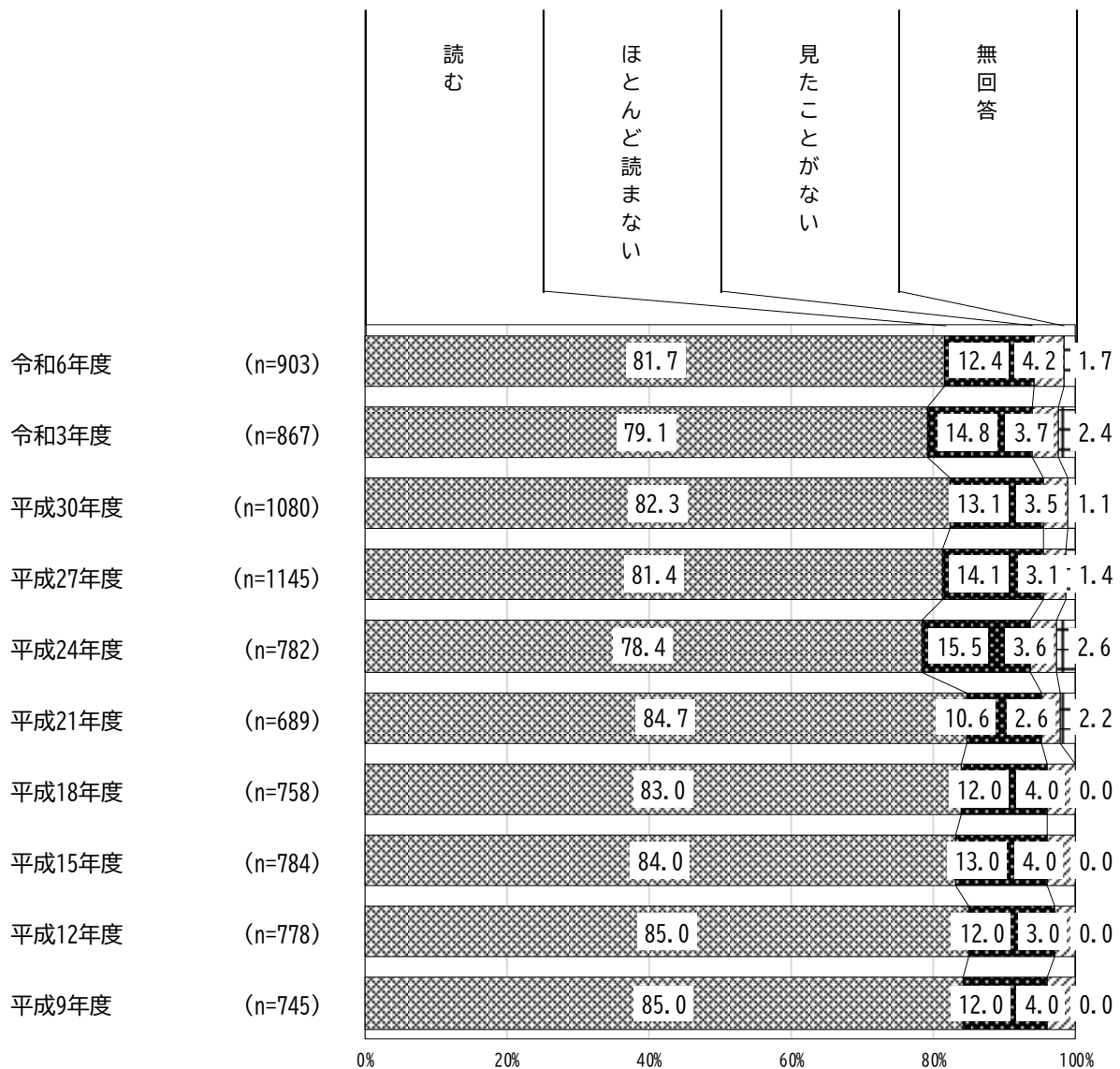
『広報ふっさ』で関心のある内容について、「市の行事・イベント」の割合を性・年齢別に見ると、女性-40代から女性-70代以上にかけて、全体より高い傾向にあります。

「保健・衛生関係」の割合を性・年齢別に見ると、女性-60代（53.5%）が全体より高く、男性-60代（43.3%）、女性-70代以上（42.9%）が全体よりやや高くなっています。

男性・女性ともに30代から40代では、「子育て関係」が全体より高い傾向にあります。

「ほとんど読まない」の割合を性・年齢別に見ると、男性-20代以下（26.7%）、女性-20代以下（23.7%）が全体よりやや高くなっています。

<図表 34-1-3>『広報ふっさ』の閲読状況／過年度推移



※令和3年度および令和6年度の「ほとんど読まない」「見たことがない」「無回答」以外を「読む」として集計して比較

<調査結果>

『広報ふっさ』の閲読状況について見ると、「読む」(81.7%)が8割を超え最も高く、次いで、「ほとんど読まない」(12.4%)となっています。

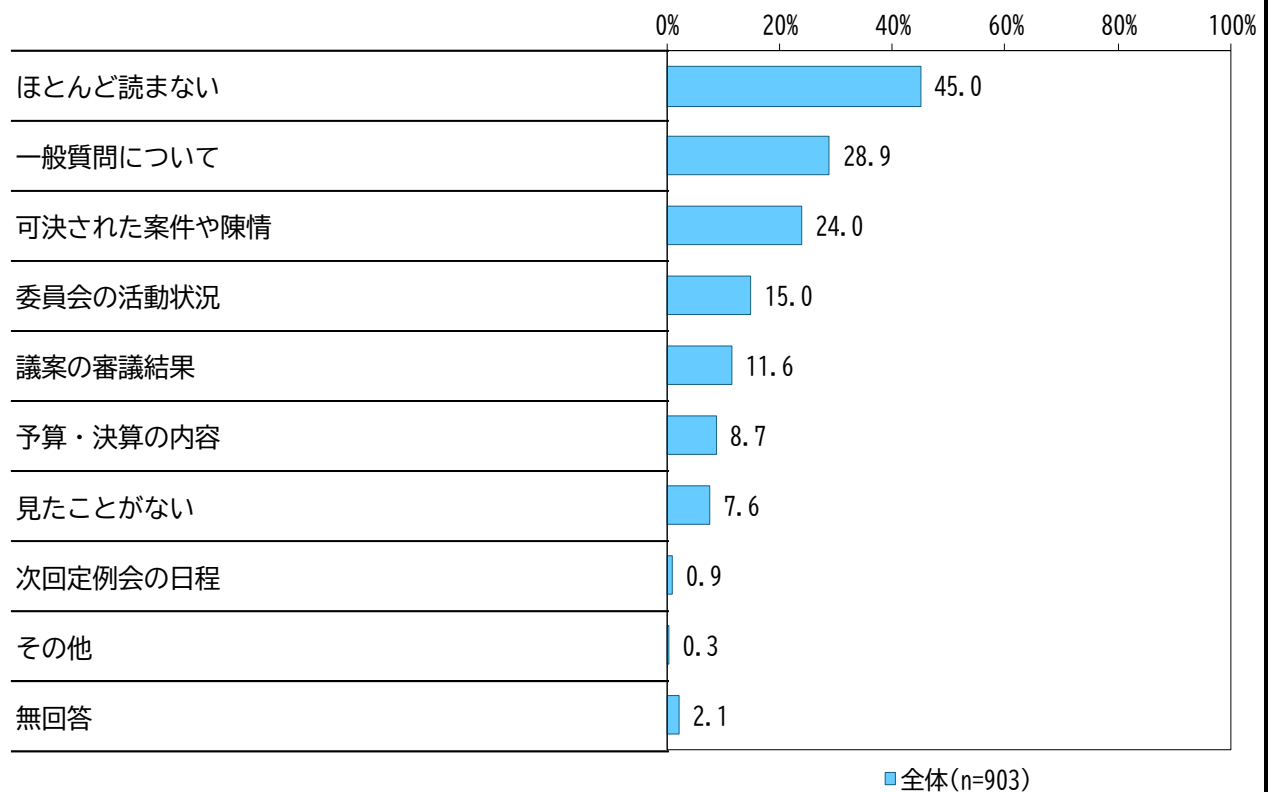
『広報ふっさ』の閲読状況について過年度推移を見ると、「読む」の割合は、平成9年度以降、増減があるものの、大きな変化は見られません。

(2)『福生市議会だより』で関心のある内容

問 34 市では、『広報ふっさ』、『福生市議会だより』、『福生の教育』を発行しています。あなたは、それぞれ主にどのような内容に関心を持って読まれますか。

問 34 -2【福生市議会だより】(○はいくつでも)

<図表 34-2-1>『福生市議会だより』で関心のある内容



<調査結果>

『福生市議会だより』で関心のある内容について聞いたところ、「ほとんど読まない」(45.0%)が4割半ばと最も高く、次いで、「一般質問について」(28.9%)が3割近く、「可決された案件や陳情」(24.0%)が2割半ばとなっています。

一方で、「予算・決算の内容」(8.7%)、「見たことがない」(7.6%)、「次回定例会の日程」(0.9%)は1割未満となっています。

<図表 34-2-2>『福生市議会だより』で関心のある内容／性・年齢別

		n	ほとんど読まない	一般質問について	可決された案件や陳情	委員会の活動状況	議案の審議結果	予算・決算の内容	見たことがない	次回定例会の日程	その他	無回答
全体		903	45.0	28.9	24.0	15.0	11.6	8.7	7.6	0.9	0.3	2.1
性・年齢別	男性全体	381	40.2	32.0	25.7	14.4	13.1	10.8	8.1	1.0	0.0	2.1
	男性-20代以下	30	53.3	13.3	13.3	6.7	0.0	3.3	30.0	0.0	0.0	0.0
	男性-30代	38	34.2	34.2	31.6	10.5	7.9	10.5	18.4	2.6	0.0	0.0
	男性-40代	59	44.1	20.3	25.4	11.9	10.2	8.5	11.9	1.7	0.0	0.0
	男性-50代	69	39.1	30.4	24.6	13.0	8.7	14.5	5.8	0.0	0.0	4.3
	男性-60代	90	41.1	37.8	28.9	18.9	18.9	14.4	3.3	1.1	0.0	1.1
	男性-70代以上	94	35.1	40.4	25.5	17.0	19.1	8.5	1.1	1.1	0.0	4.3
	女性全体	487	47.2	27.1	23.2	16.0	10.5	7.4	7.6	0.8	0.4	1.8
	女性-20代以下	38	36.8	10.5	5.3	5.3	2.6	5.3	42.1	2.6	0.0	0.0
	女性-30代	54	63.0	14.8	11.1	7.4	9.3	11.1	14.8	1.9	0.0	0.0
	女性-40代	70	54.3	24.3	24.3	11.4	7.1	7.1	8.6	1.4	0.0	0.0
	女性-50代	95	45.3	31.6	26.3	16.8	14.7	7.4	3.2	1.1	0.0	1.1
	女性-60代	101	46.5	30.7	28.7	13.9	8.9	7.9	4.0	0.0	0.0	0.0
	女性-70代以上	126	42.1	31.7	26.2	27.0	13.5	6.3	0.0	0.0	1.6	6.3

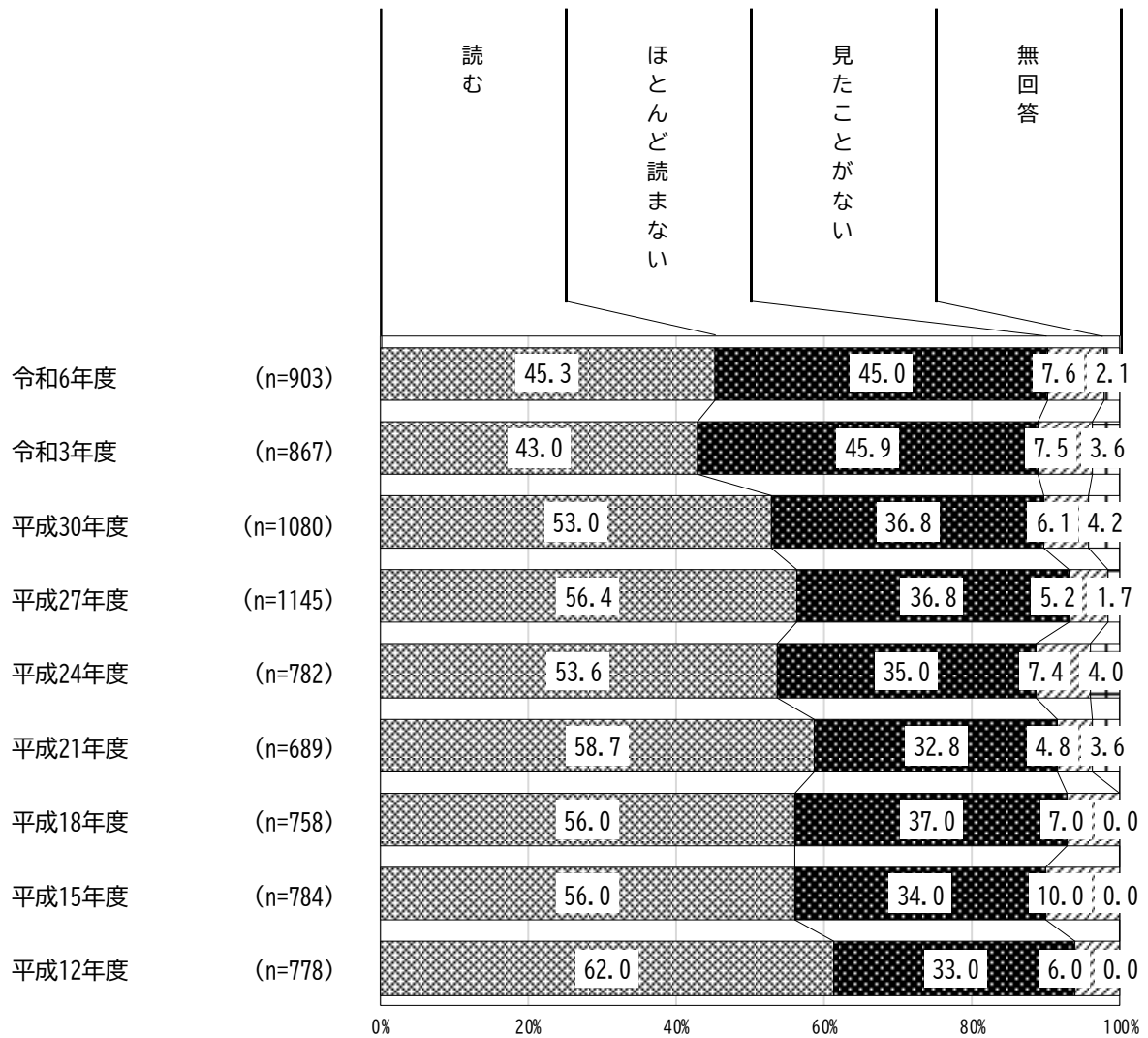
<調査結果>

『福生市議会だより』で関心のある内容について、「ほとんど読まない」の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代（63.0%）が全体より高くなっています。一方で、男性-30代（34.2%）が全体よりやや低くなっています。

「一般質問について」の割合を性・年齢別に見ると、男性-70代以上（40.4%）が全体よりやや高く、「委員会の活動状況」の割合を性・年齢別に見ると、女性-70代以上（27.0%）が全体よりやや高くなっています。

「見たことがない」の割合を性・年齢別に見ると、若年層で全体の割合を上回っています。

<図表 34-2-3>『福生市議会だより』の閲読状況／過年度推移



※令和3年度および令和6年度の「ほとんど読まない」「見たことがない」「無回答」以外を「読む」として集計比較

<調査結果>

『福生市議会だより』の閲読状況について見ると、「読む」(45.3%)が4割半ばと最も高く、次いで、「ほとんど読まない」(45.0%)、「見たことがない」(7.6%)となっています。

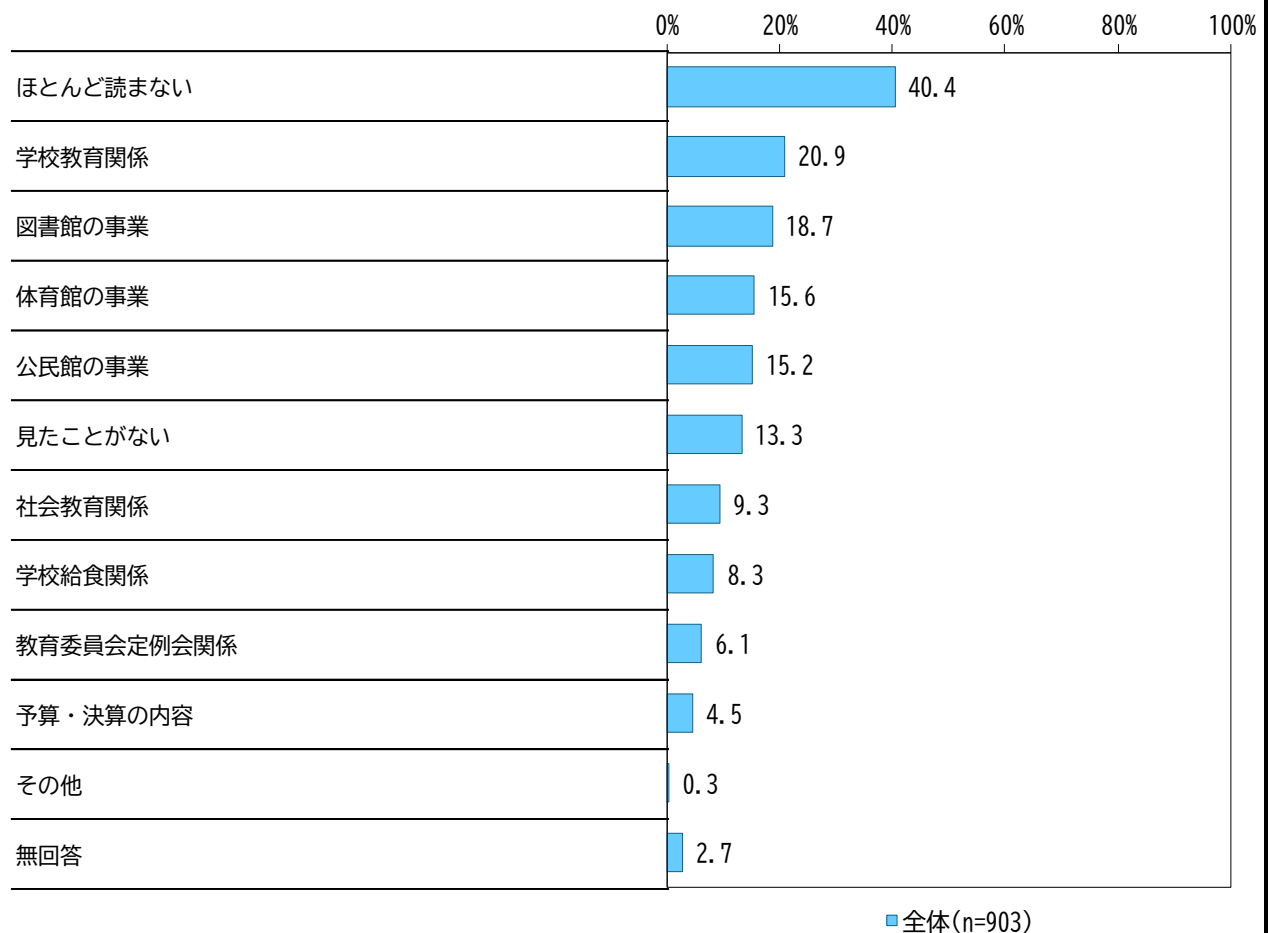
『福生市議会だより』の閲読状況について過年度推移を見ると、「見たことがない」の割合に大きな変化はなく、認知状況の傾向は変わらないことが伺えます。

(3)『福生の教育』で関心のある内容

問 34 市では、『広報ふっさ』、『福生市議会だより』、『福生の教育』を発行しています。あなたは、それぞれ主にどのような内容に関心を持って読まれますか。

問 34 -3【福生の教育】(○はいくつでも)

<図表 34-3-1>『福生の教育』で関心のある内容



<調査結果>

『福生の教育』で関心のある内容について聞いたところ、「ほとんど読まない」(40.4%)が約4割と最も高く、次いで、「学校教育関係」(20.9%)、「図書館の事業」(18.7%)となっています。

一方で、「社会教育関係」(9.3%)、「学校給食関係」(8.3%)、「教育委員会定例会関係」(6.1%)、「予算・決算の内容」(4.5%)が1割未満となっています。

<図表 34-3-2>『福生の教育』で関心のある内容(上位 10 項目)／性・年齢別

		n	ほとんど読まない	学校教育関係	図書館の事業	体育館の事業	公民館の事業	見たことがない	社会教育関係	学校給食関係	教育委員会定例会関係	予算・決算の内容
全体		903	40.4	20.9	18.7	15.6	15.2	13.3	9.3	8.3	6.1	4.5
性・年齢別	男性全体	381	39.9	21.8	18.4	16.5	15.2	13.9	10.0	6.8	6.0	5.0
	男性-20代以下	30	33.3	16.7	6.7	3.3	0.0	36.7	6.7	3.3	10.0	3.3
	男性-30代	38	34.2	36.8	7.9	13.2	10.5	26.3	10.5	5.3	5.3	10.5
	男性-40代	59	39.0	25.4	23.7	20.3	18.6	16.9	6.8	8.5	6.8	6.8
	男性-50代	69	42.0	21.7	20.3	17.4	11.6	14.5	5.8	7.2	4.3	2.9
	男性-60代	90	37.8	17.8	22.2	17.8	17.8	10.0	8.9	7.8	6.7	6.7
	男性-70代以上	94	45.7	19.1	18.1	18.1	20.2	2.1	17.0	6.4	5.3	2.1
	女性全体	487	39.4	20.9	19.5	15.8	15.6	12.9	9.0	9.9	6.4	4.1
	女性-20代以下	38	26.3	18.4	7.9	7.9	5.3	42.1	2.6	5.3	2.6	5.3
	女性-30代	54	37.0	24.1	24.1	16.7	14.8	22.2	5.6	13.0	5.6	7.4
	女性-40代	70	32.9	28.6	24.3	20.0	11.4	21.4	8.6	15.7	5.7	2.9
	女性-50代	95	45.3	20.0	25.3	14.7	13.7	9.5	8.4	7.4	7.4	2.1
	女性-60代	101	46.5	16.8	16.8	12.9	17.8	5.9	6.9	8.9	5.9	1.0
	女性-70代以上	126	38.9	20.6	15.1	18.3	20.6	3.2	15.1	9.5	7.9	7.1

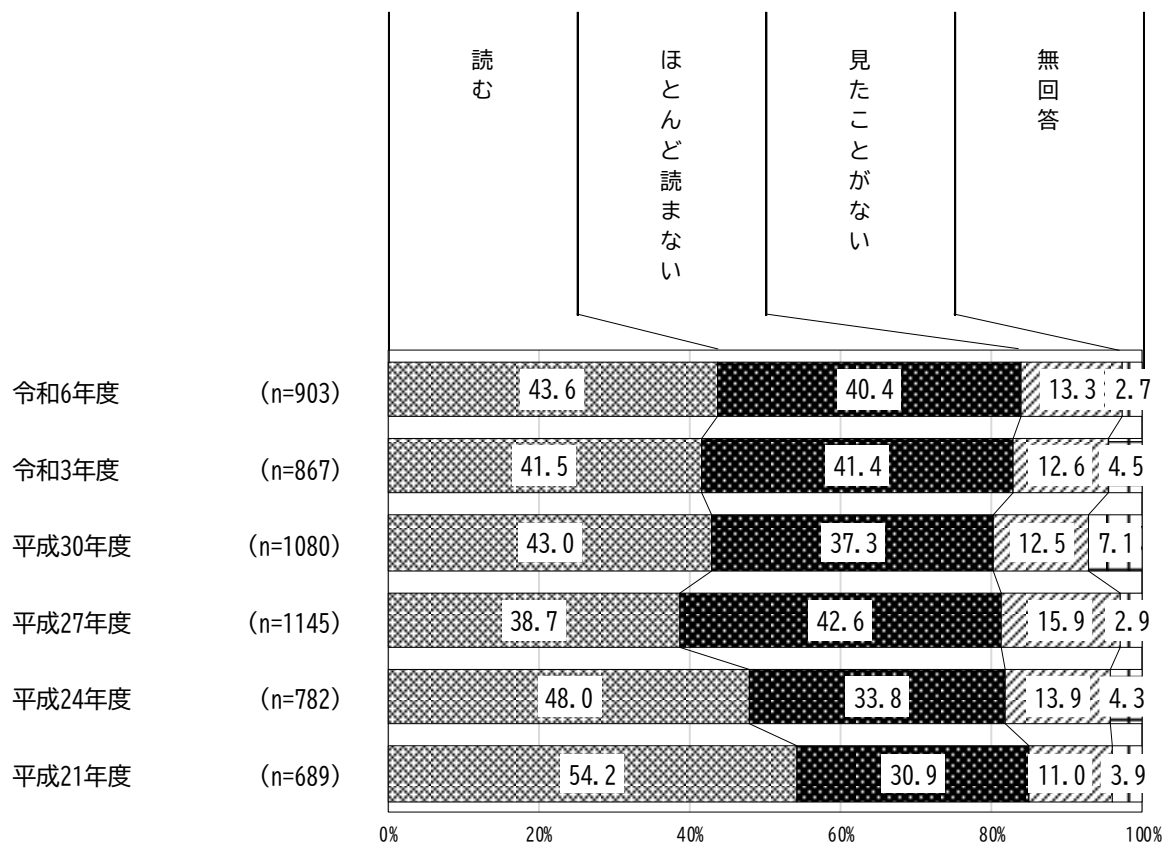
<調査結果>

『福生の教育』で関心のある内容について、「ほとんど読まない」の割合を性・年齢別に見ると、女性-20代以下（26.3%）が全体よりやや低くなっています。

「学校教育関係」の割合を性・年齢別に見ると、男性-30代（36.8%）が全体より高くなっています。

「見たことがない」の割合を性・年齢別に見ると、女性-20代以下（42.1%）が全体よりとても高く、男性-20代以下（36.7%）が全体より高くなっています。一方で、男性・女性ともに70代以上では、1割未満と全体よりやや低い傾向にあります。

<図表 34-3-3>『福生の教育』の閲読状況／過年度推移



※令和3年度および令和6年度の「ほとんど読まない」「見たことがない」「無回答」以外を「読む」として集計比較

<調査結果>

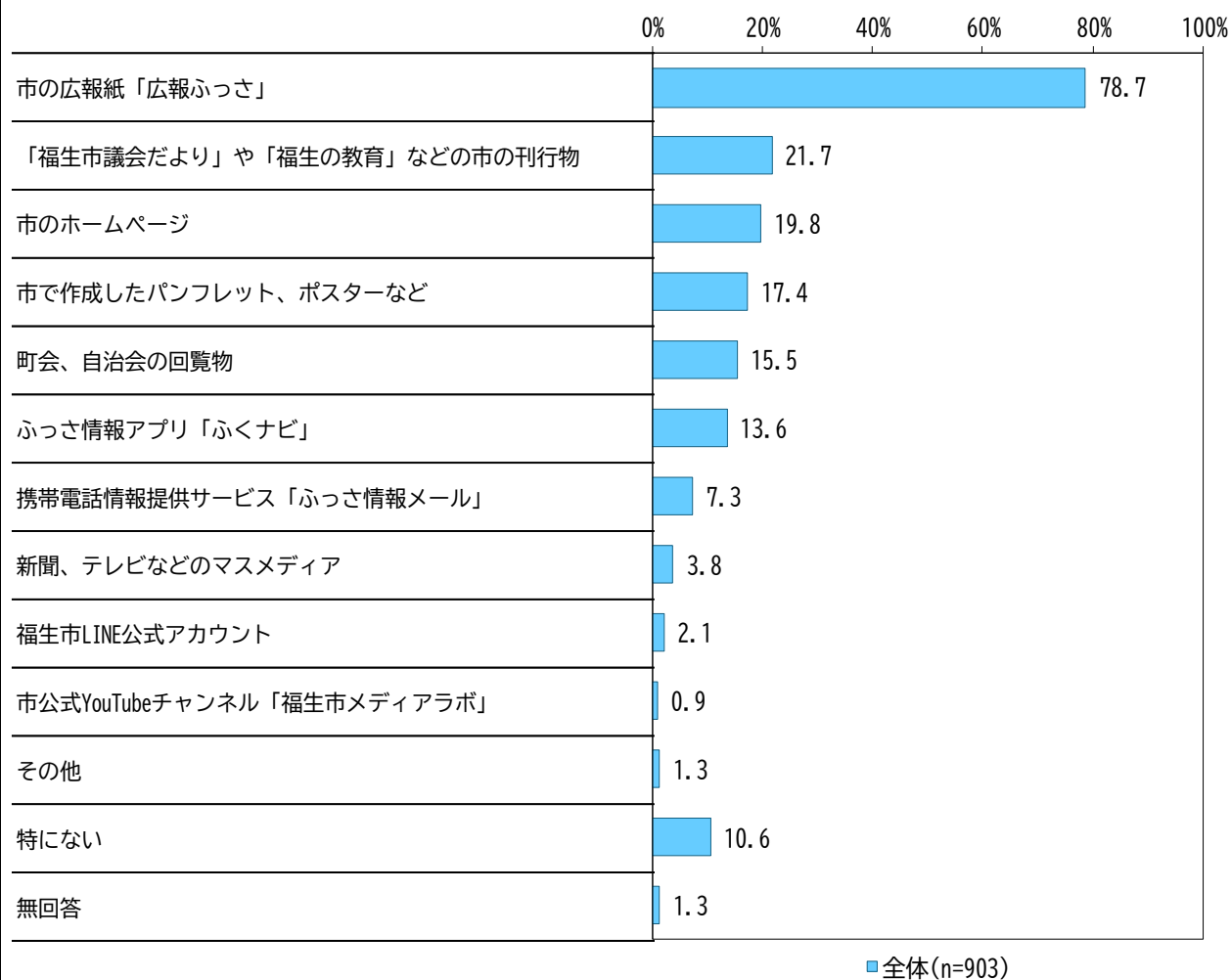
『福生の教育』の閲読状況について見ると、「読む」(43.6%)が4割を超え最も高く、次いで、「ほとんど読まない」(40.4%)、「見たことがない」(13.3%)となっています。

『福生の教育』の閲読状況について過年度推移を見ると、「見たことがない」の割合に大きな変化はなく、認知状況の傾向は変わらないことが伺えます。

(4) 市の情報を得ている媒体

問 35 市の情報を特に何から得ていますか。(〇はいくつでも)

<図表 35-1>市の情報を得ている媒体



<調査結果>

市の情報を得ている媒体について聞いたところ、「市の広報紙「広報ふっさ」(78.7%)が8割近くと最も高く、次いで、「福生市議会だより」や「福生の教育」などの市の刊行物(21.7%)が2割を超えています。

<図表 35-2>市の情報を得ている媒体(上位 10 項目)／性・年齢別

		市の広報紙「広報ふっさ」	「福生市の議会だより」や「福生の教育」などの市の刊行物	市のホームページ	市で作成したパンフレット、ポスターなど	町会、自治会の回覧物	ふっさ情報アプリ「ふくナビ」	携帯電話情報提供サービス「ふっさ情報メール」	新聞、テレビなどのマスメディア	福生市LINE公式アカウント	市公式YouTubeチャンネル「福生市メディアラボ」
	n										
全体	903	78.7	21.7	19.8	17.4	15.5	13.6	7.3	3.8	2.1	0.9
性・年齢別	男性全体	381	73.0	20.2	24.9	15.5	15.2	12.9	7.1	3.7	1.3
	男性-20代以下	30	36.7	3.3	20.0	13.3	10.0	16.7	6.7	6.7	0.0
	男性-30代	38	57.9	13.2	28.9	13.2	10.5	15.8	0.0	2.6	2.6
	男性-40代	59	66.1	16.9	28.8	18.6	10.2	15.3	3.4	3.4	0.0
	男性-50代	69	71.0	24.6	24.6	11.6	7.2	7.2	7.2	2.9	0.0
	男性-60代	90	85.6	23.3	32.2	18.9	18.9	11.1	11.1	0.0	1.1
	男性-70代以上	94	84.0	24.5	16.0	14.9	24.5	14.9	8.5	7.4	2.1
	女性全体	487	83.8	23.2	16.0	19.3	16.0	14.4	8.0	3.7	2.7
	女性-20代以下	38	55.3	15.8	15.8	7.9	10.5	10.5	2.6	2.6	5.3
	女性-30代	54	75.9	14.8	13.0	24.1	7.4	29.6	5.6	0.0	5.6
	女性-40代	70	81.4	17.1	17.1	22.9	10.0	8.6	10.0	1.4	2.9
	女性-50代	95	86.3	23.2	24.2	15.8	10.5	15.8	6.3	5.3	5.3
	女性-60代	101	90.1	23.8	17.8	11.9	20.8	19.8	8.9	3.0	0.0
	女性-70代以上	126	90.5	32.5	9.5	27.8	24.6	7.1	9.5	6.3	0.8

<調査結果>

市の情報を得ている媒体について、「市の広報紙「広報ふっさ」」の割合を性・年齢別に見ると、男性・女性ともに年代が上がるにつれて、おおむね上昇する傾向が見られます。

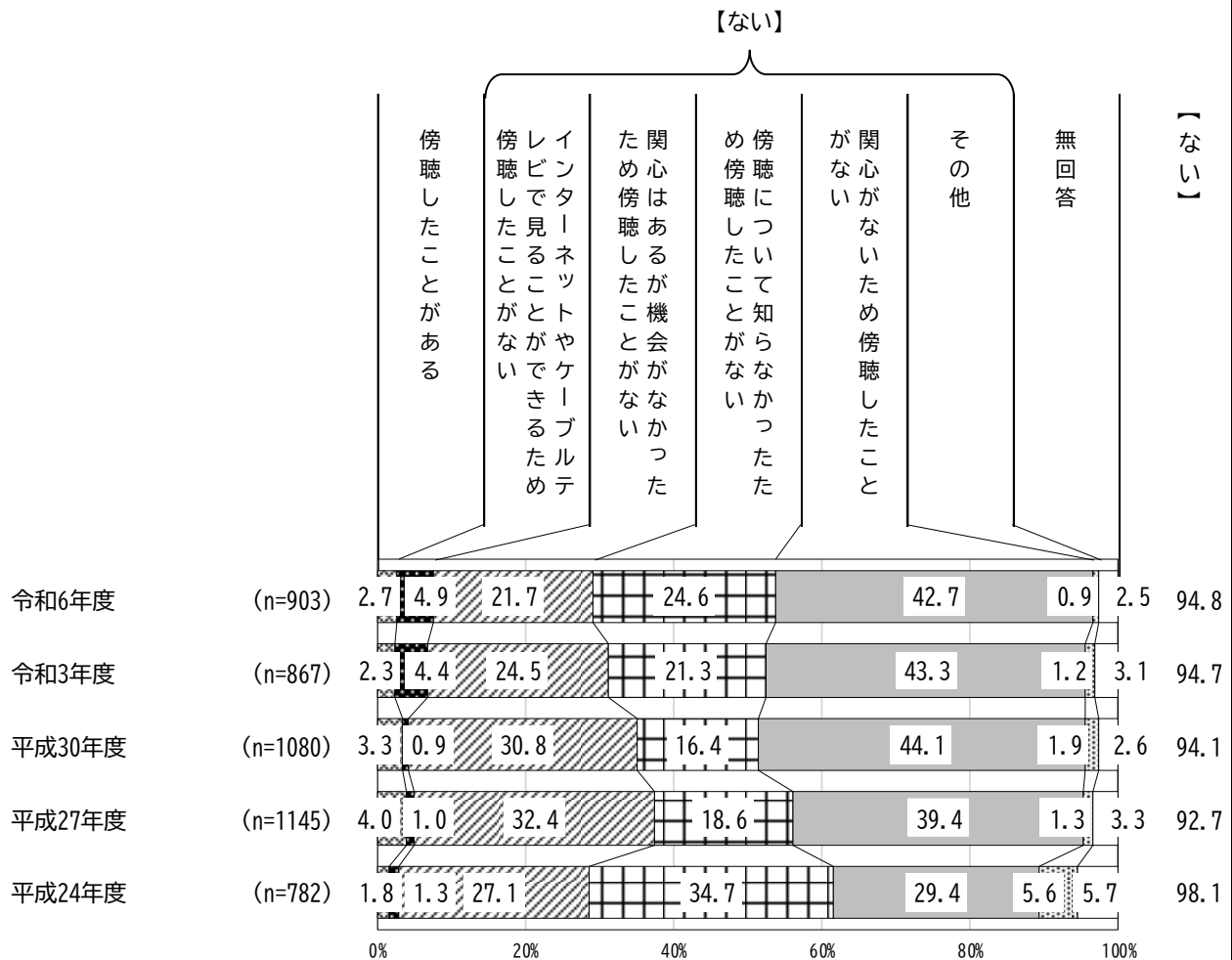
「市のホームページ」の割合を性・年齢別に見ると、男性-60代（32.2%）が全体よりやや高く、女性-70代以上（9.5%）が全体よりやや低くなっています。

「ふっさ情報アプリ「ふくナビ」」の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代（29.6%）が全体より高くなっています。

(5) 福生市議会本会議の傍聴経験

問 36 福生市議会本会議を傍聴したことがありますか。(○は1つ)

<図表 36-1> 福生市議会本会議の傍聴経験



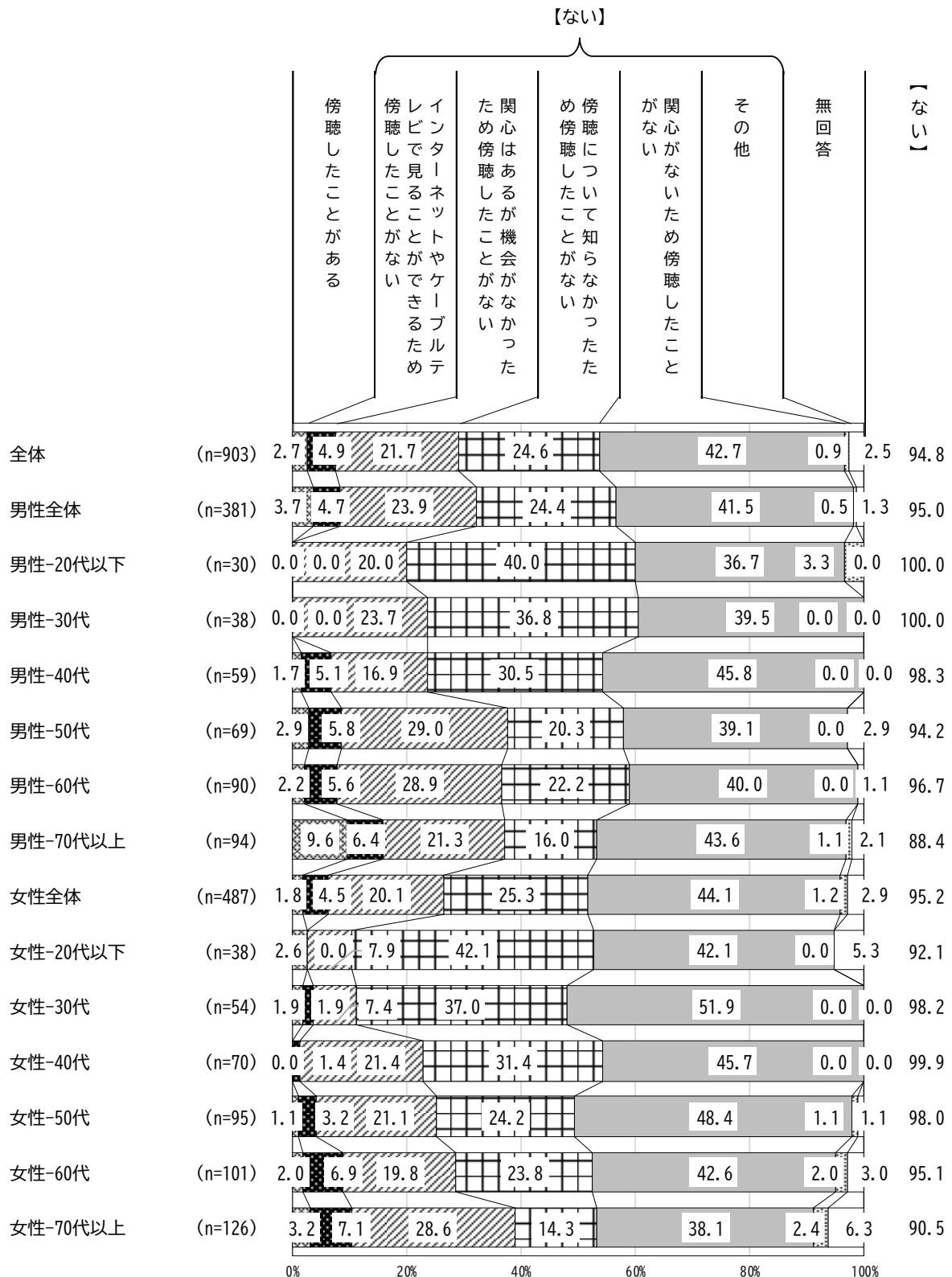
※「インターネットやケーブルテレビで見ることができるため傍聴したことがない」は、令和3年度から「ケーブルテレビ」を追加

<調査結果>

福生市議会本会議の傍聴経験について聞いたところ、「関心がないため傍聴したことがない」(42.7%)が4割を超え最も高くなっています。次いで、「傍聴について知らなかったため傍聴したことがない」(24.6%)、「関心はあるが機会がなかったため傍聴したことがない」(21.7%)となっています。

傍聴経験について過年度の推移を見ると、「傍聴したことがある」の割合に大きな変化はありません。

<図表 36-2> 福生市議会本会議の傍聴経験／性・年齢別



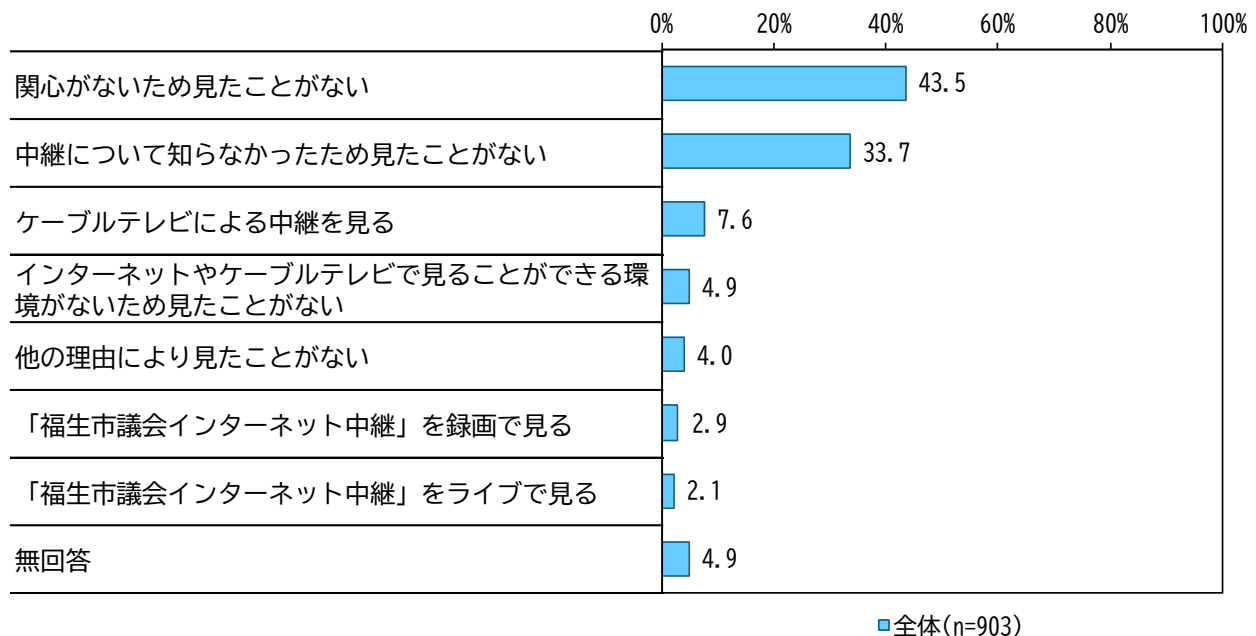
<調査結果>

福生市議会本会議の傍聴経験について性・年齢別に見ると、「傍聴したことがある」の割合は、男性-70代以上（9.6%）が最も高く約1割となっています。「関心がないため傍聴したことがない」の割合は、女性-30代（51.9%）が最も高く5割を超えています。

(6) 福生市議会本会議中継の視聴状況

問 37 福生市議会本会議の中継をどのような方法でご覧になりますか。(〇はいくつでも)

<図表 37-1> 福生市議会本会議中継の視聴状況



<調査結果>

福生市議会本会議中継の視聴状況について聞いたところ、「関心がないため見たことがない」(43.5%)が4割を超え最も高く、次いで、「中継について知らなかったため見たことがない」(33.7%)が3割を超えています。

また、福生市議会本会議中継の視聴方法については、「ケーブルテレビによる中継を見る」(7.6%)が最も高く、次いで、「「福生市議会インターネット中継」を録画で見る」(2.9%)、「「福生市議会インターネット中継」をライブで見る」(2.1%)となっています。

<図表 37-2> 福生市議会本会議中継の視聴状況／性・年齢別

		n	関 心 が な い た め 見 た こ と が な い	中 継 に つ い て 知 ら な か つ た た め 見 た こ と が な い	ケ ー ブ ル テ レ ビ に よ る 中 継 を 見 る	イ ン タ ー ネ ッ ト や ケ ー ブ ル テ レ ビ で 見 る こ と が で き る 環 境 が な い た め 見 た こ と が な い	他 の 理 由 に よ り 見 た こ と が な い	画 で 見 る 「 福 生 市 議 会 イ ン タ ー ネ ッ ト 中 継 」 を 録	「 福 生 市 議 会 イ ン タ ー ネ ッ ト 中 継 」 を ラ イ ブ で 見 る	無 回 答
全体		903	43.5	33.7	7.6	4.9	4.0	2.9	2.1	4.9
性・年齢別	男性全体	381	38.8	35.7	8.7	5.5	3.9	3.9	3.1	4.5
	男性-20代以下	30	33.3	43.3	3.3	3.3	6.7	3.3	3.3	6.7
	男性-30代	38	44.7	31.6	2.6	7.9	5.3	7.9	5.3	7.9
	男性-40代	59	44.1	40.7	1.7	5.1	0.0	5.1	1.7	3.4
	男性-50代	69	30.4	42.0	5.8	5.8	4.3	4.3	4.3	4.3
	男性-60代	90	35.6	36.7	13.3	2.2	6.7	2.2	3.3	3.3
	男性-70代以上	94	43.6	26.6	14.9	8.5	2.1	3.2	2.1	4.3
	女性全体	487	47.8	32.4	6.0	4.5	3.7	2.1	1.4	4.7
	女性-20代以下	38	42.1	47.4	2.6	0.0	2.6	2.6	2.6	2.6
	女性-30代	54	48.1	48.1	5.6	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0
	女性-40代	70	55.7	28.6	5.7	4.3	8.6	0.0	1.4	0.0
	女性-50代	95	53.7	31.6	3.2	3.2	3.2	2.1	2.1	3.2
	女性-60代	101	44.6	32.7	7.9	4.0	2.0	5.0	0.0	5.0
	女性-70代以上	126	42.1	24.6	7.9	8.7	4.0	1.6	2.4	11.1

<調査結果>

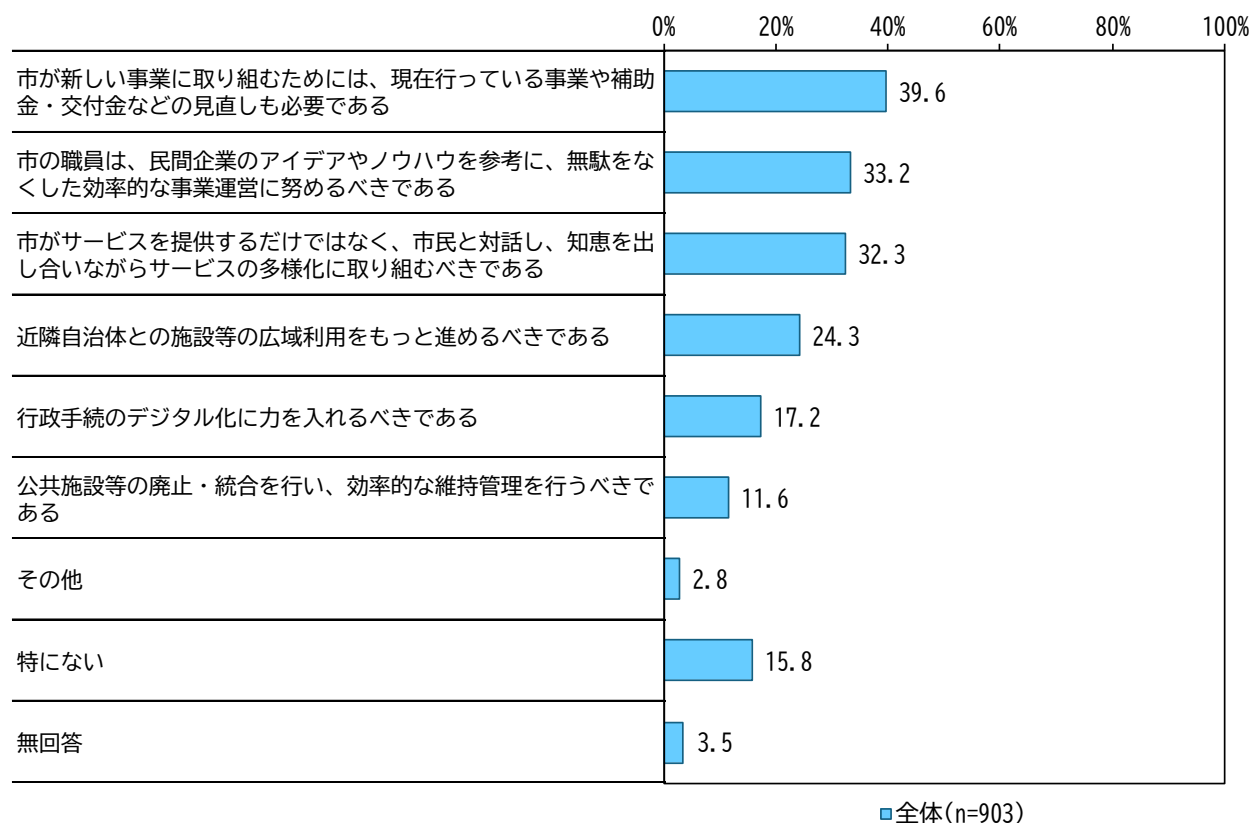
福生市議会本会議中継の視聴状況について、「関心がないため見たことがない」の割合を性・年齢別に見ると、女性-40代（55.7%）、女性-50代（53.7%）が全体よりやや高くなっています。一方で、男性-20代以下（33.3%）、男性-50代（30.4%）が全体よりやや低くなっています。

12 行財政改革

（１）市に求める行財政改革

問 38 市にどのような行財政改革を求めますか。（○は3つまで）

<図表 38-1>市に求める行財政改革



<調査結果>

市に求める行財政改革について聞いたところ、「市が新しい事業に取り組むためには、現在行っている事業や補助金・交付金などの見直しも必要である」（39.6%）が約4割と最も高く、次いで、「市の職員は、民間企業のアイデアやノウハウを参考に、無駄をなくした効率的な事業運営に努めるべきである」（33.2%）、「市がサービスを提供するだけでなく、市民と対話し、知恵を出し合いながらサービスの多様化に取り組むべきである」（32.3%）が3割を超えています。

また、「特にない」（15.8%）という回答も1割半ば見られます。

<図表 38-2> 市に求める行財政改革／性・年齢別

		n	金市が新しい事業に取り組むためには、現在行っている事業や補助金・交付金などの見直しも必要である	市の職員は、民間企業のアイデアやノウハウを参考に、無駄をなくした効率的な事業運営に努めるべきである	市がサービスを提供するだけでなく、市民と対話し、知恵を出し合いながらサービスの多様化に取り組むべきである	近隣自治体との施設等の広域利用をもっと進めるべきである	行政手続のデジタル化に力を入れるべきである	公共施設等の廃止・統合を行い、効率的な維持管理を行うべきである	その他	特にない	無回答
全体		903	39.6	33.2	32.3	24.3	17.2	11.6	2.8	15.8	3.5
性・年齢別	男性全体	381	40.7	34.9	27.6	23.9	21.5	15.7	3.1	18.4	1.8
	男性-20代以下	30	23.3	33.3	10.0	6.7	36.7	16.7	3.3	33.3	0.0
	男性-30代	38	47.4	42.1	31.6	21.1	44.7	26.3	5.3	10.5	0.0
	男性-40代	59	33.9	44.1	33.9	20.3	28.8	16.9	3.4	15.3	0.0
	男性-50代	69	47.8	30.4	27.5	29.0	21.7	10.1	1.4	15.9	2.9
	男性-60代	90	35.6	32.2	23.3	27.8	15.6	16.7	3.3	21.1	1.1
	男性-70代以上	94	46.8	33.0	30.9	24.5	8.5	13.8	3.2	18.1	4.3
	女性全体	487	39.6	32.4	36.1	24.2	14.4	8.4	2.7	13.6	4.1
	女性-20代以下	38	34.2	34.2	23.7	21.1	26.3	7.9	0.0	18.4	2.6
	女性-30代	54	40.7	33.3	35.2	22.2	33.3	9.3	0.0	14.8	0.0
	女性-40代	70	34.3	30.0	40.0	21.4	15.7	11.4	4.3	11.4	2.9
	女性-50代	95	41.1	36.8	33.7	26.3	18.9	9.5	2.1	9.5	1.1
	女性-60代	101	43.6	35.6	38.6	27.7	8.9	5.0	4.0	10.9	4.0
	女性-70代以上	126	40.5	27.8	38.1	22.2	3.2	8.7	2.4	18.3	9.5

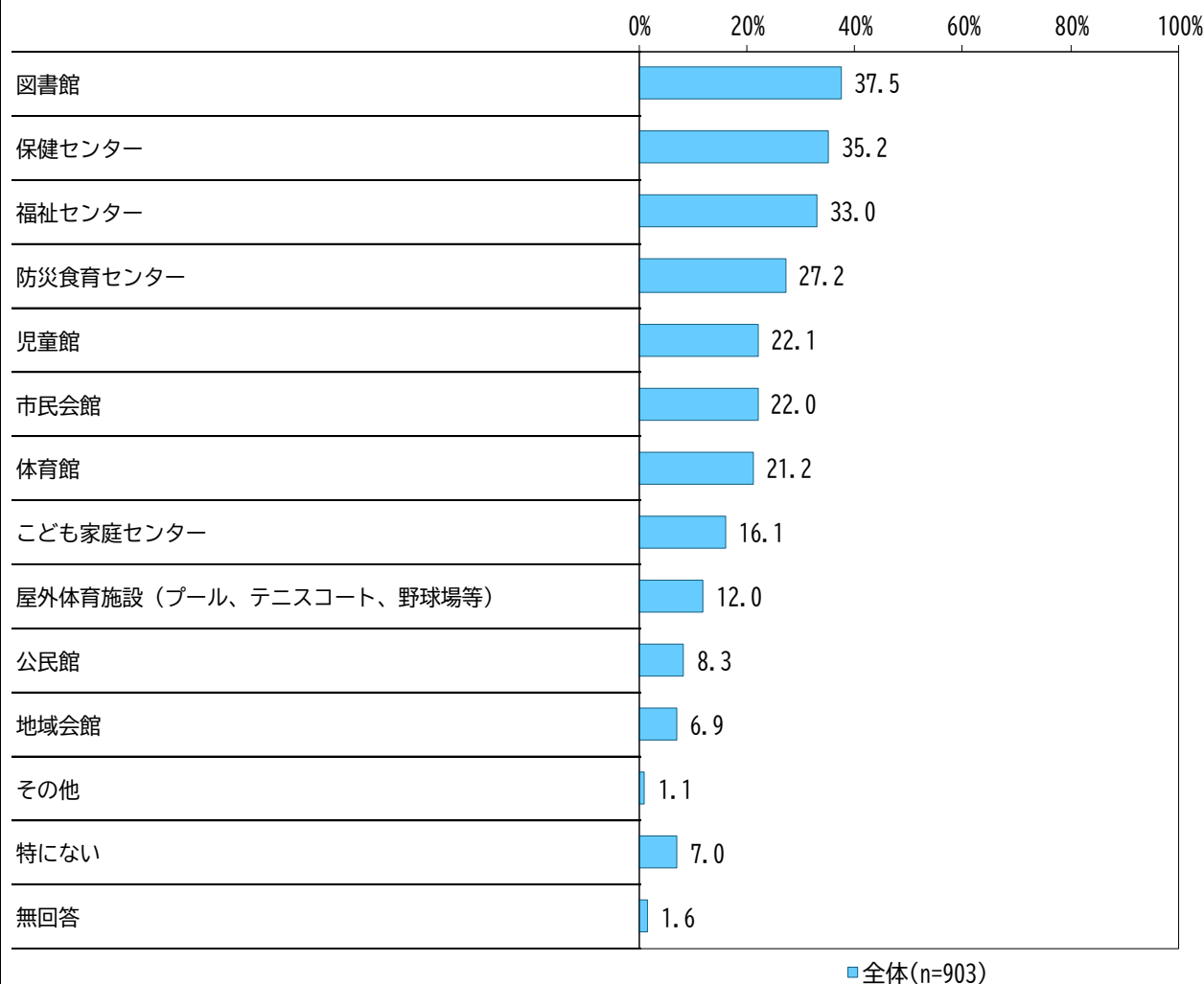
<調査結果>

市に求める行財政改革について、「行政手続のデジタル化に力を入れるべきである」の割合を性・年齢別に見ると、男性-30代（44.7%）が全体よりとても高く、男性の若年層と女性-30代（33.3%）で全体より高い傾向にあります。

(2) 市が優先的に維持すべき公共施設

問 39 財政的に厳しい状況であっても、市が優先的に維持すべき公共施設はどれだと思いますか。(〇は3つまで)

<図表 39-1>市が優先的に維持すべき公共施設



<調査結果>

市が優先的に維持すべき公共施設について聞いたところ、「図書館」(37.5%)が3割半ばを超え最も高く、次いで、「保健センター」(35.2%)、「福祉センター」(33.0%)が3割台となっています。

<図表 39-2>市が優先的に維持すべき公共施設(上位 10 項目)／性・年齢別

		n	図 書 館	保 健 セ ン タ ー	福 祉 セ ン タ ー	防 災 食 育 セ ン タ ー	児 童 館	市 民 会 館	体 育 館	こ ど も 家 庭 セ ン タ ー	屋 外 体 育 施 設 （ プ ー ル 、 テ ニ ス コ ー ト 、 野 球 場 等 ）	公 民 館
全体		903	37.5	35.2	33.0	27.2	22.1	22.0	21.2	16.1	12.0	8.3
性・年 齢 別	男性全体	381	37.8	33.9	32.3	26.2	23.1	21.3	23.4	15.0	16.0	10.5
	男性-20代以下	30	40.0	26.7	20.0	30.0	30.0	16.7	26.7	16.7	23.3	6.7
	男性-30代	38	28.9	28.9	18.4	31.6	42.1	13.2	26.3	23.7	23.7	5.3
	男性-40代	59	47.5	27.1	23.7	27.1	30.5	15.3	25.4	18.6	16.9	8.5
	男性-50代	69	34.8	37.7	34.8	23.2	17.4	23.2	20.3	17.4	15.9	10.1
	男性-60代	90	38.9	37.8	35.6	26.7	20.0	25.6	25.6	7.8	14.4	8.9
	男性-70代以上	94	36.2	36.2	42.6	24.5	16.0	24.5	20.2	13.8	11.7	17.0
	女性全体	487	37.4	37.0	34.1	29.4	21.6	23.0	20.3	17.2	9.2	6.6
	女性-20代以下	38	28.9	44.7	28.9	28.9	31.6	21.1	10.5	21.1	18.4	5.3
	女性-30代	54	44.4	35.2	29.6	31.5	40.7	5.6	14.8	33.3	7.4	5.6
	女性-40代	70	37.1	34.3	21.4	32.9	22.9	24.3	17.1	30.0	12.9	5.7
	女性-50代	95	43.2	47.4	41.1	32.6	15.8	18.9	25.3	14.7	7.4	3.2
	女性-60代	101	37.6	39.6	32.7	31.7	21.8	21.8	22.8	10.9	10.9	7.9
	女性-70代以上	126	31.7	26.2	40.5	22.2	12.7	34.9	20.6	8.7	4.8	9.5

<調査結果>

市が優先的に維持すべき公共施設について、「図書館」の割合を性・年齢別に見ると、男性-40代（47.5%）で、「保健センター」の割合を性・年齢別に見ると、女性-50代（47.4%）で、それぞれ全体よりやや高くなっています。

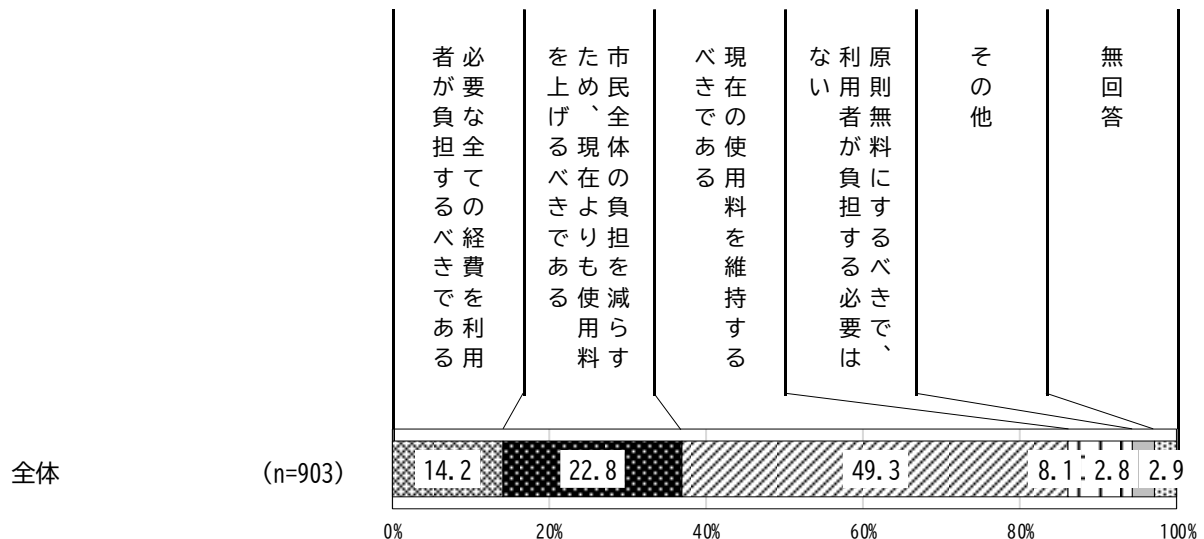
また、「児童館」の割合を性・年齢別に見ると、男性・女性ともに 30 代（男性 42.1%）（女性 40.7%）で全体より高くなっています。

「屋外体育施設（プール、テニスコート、野球場等）」の割合を性・年齢別に見ると、男性の若年層で全体よりやや高くなっています。

(3) 公共施設で利用者が負担する費用

問 40 スポーツ施設や集会施設などでは、公共施設の維持管理にかかる経費の一部として、利用者から使用料をいただいています。利用者が負担する費用についてどのように考えますか。(○は1つ)

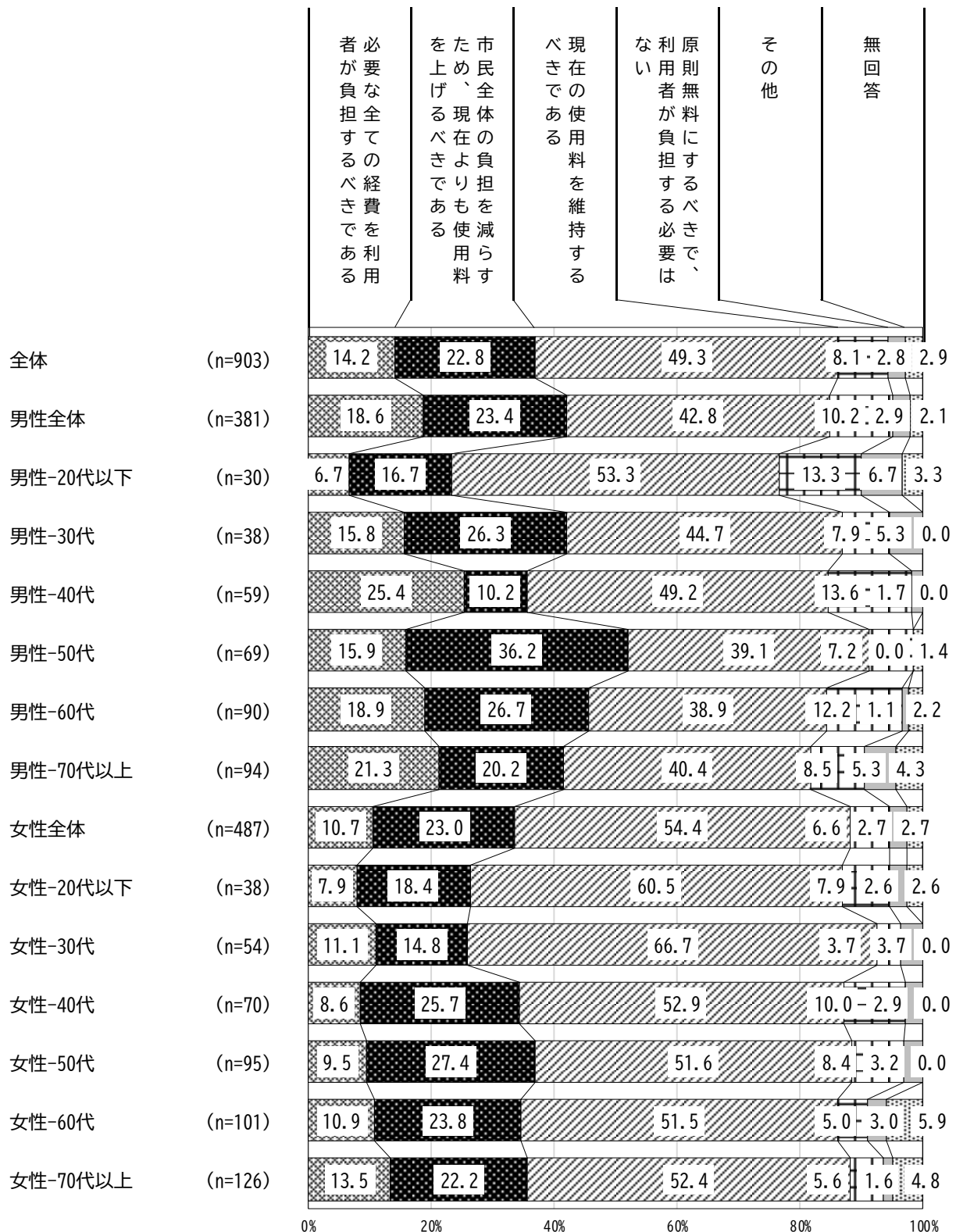
<図表 40-1> 公共施設で利用者が負担する費用



<調査結果>

公共施設で利用者が負担する費用について聞いたところ、「現在の使用料を維持するべきである」(49.3%) が約5割と最も高く、次いで、「市民全体の負担を減らすため、現在よりも使用料を上げるべきである」(22.8%)、「必要な全ての経費を利用者が負担するべきである」(14.2%) となっています。

<図表 40-2> 公共施設で利用者が負担する費用／性・年齢別



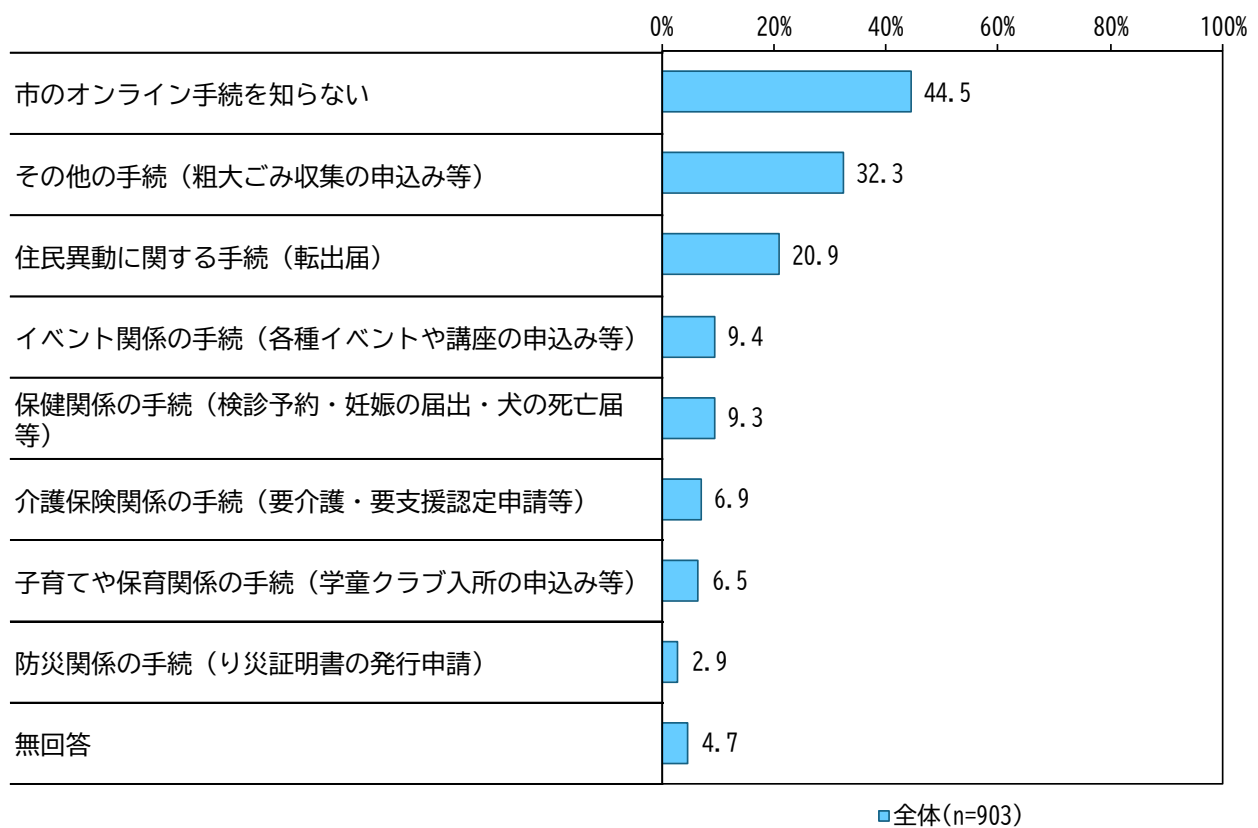
<調査結果>

公共施設で利用者が負担する費用について性・年齢に見ると、すべての性・年齢で、「現在の使用料を維持するべきである」の割合が高くなっていますが、最も高い女性-30代（66.7%）と最も低い男性-60代（38.9%）では、27.8ポイントの差があります。

(4) 知っている市のオンライン手続

問 41 市のオンライン手続について、あなたが知っている手続を選んでください。(○はいくつでも)

<図表 41-1> 知っている市のオンライン手続



<調査結果>

知っている市のオンライン手続について聞いたところ、「市のオンライン手続を知らない」（44.5%）が4割半ばと最も高く、次いで、「その他の手続（粗大ごみ収集の申込み等）」（32.3%）、「住民異動に関する手続（転出届）」（20.9%）となっています。

<図表 41-2>知っている市のオンライン手続／性・年齢別

		n	市のオンライン手続を知らない	その他の手続（粗大ごみ収集の申込み等）	住民異動に関する手続（転出届）	イベント関係の手続（各種イベントや講座の申込み等）	保健関係の手続（検診予約・妊娠の届出・犬の死亡届等）	介護保険関係の手続（要介護・要支援認定申請等）	子育てや保育関係の手続（学童クラブ入所の申込み等）	防災関係の手続（り災証明書の発行申請）	無回答
全体		903	44.5	32.3	20.9	9.4	9.3	6.9	6.5	2.9	4.7
性・年齢別	男性全体	381	49.9	25.2	23.1	6.8	7.9	6.8	7.3	3.7	3.9
	男性-20代以下	30	56.7	23.3	30.0	3.3	10.0	10.0	0.0	3.3	3.3
	男性-30代	38	47.4	26.3	18.4	13.2	7.9	2.6	23.7	5.3	0.0
	男性-40代	59	54.2	28.8	18.6	10.2	8.5	3.4	13.6	5.1	3.4
	男性-50代	69	44.9	29.0	27.5	7.2	5.8	5.8	7.2	4.3	2.9
	男性-60代	90	48.9	21.1	26.7	6.7	6.7	6.7	3.3	2.2	4.4
	男性-70代以上	94	50.0	24.5	19.1	3.2	9.6	10.6	3.2	3.2	6.4
	女性全体	487	41.1	37.8	19.1	11.1	10.5	6.4	6.2	2.1	4.7
	女性-20代以下	38	60.5	26.3	18.4	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0
	女性-30代	54	42.6	40.7	11.1	9.3	5.6	0.0	11.1	1.9	0.0
	女性-40代	70	37.1	42.9	15.7	12.9	7.1	1.4	15.7	0.0	1.4
	女性-50代	95	33.7	52.6	16.8	13.7	10.5	3.2	4.2	1.1	1.1
	女性-60代	101	36.6	35.6	19.8	8.9	20.8	2.0	3.0	2.0	9.9
	女性-70代以上	126	45.2	28.6	26.2	14.3	7.9	19.8	3.2	4.8	7.9

<調査結果>

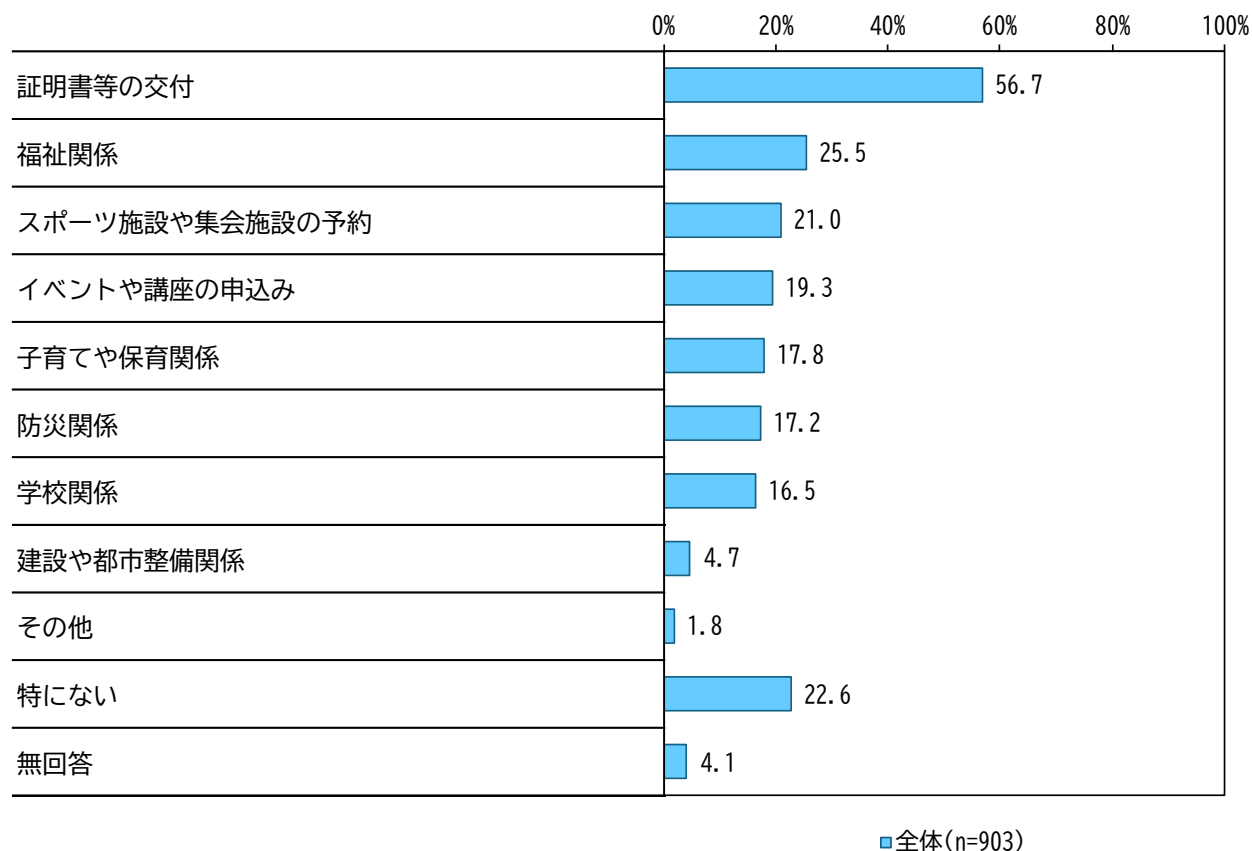
知っている市のオンライン手続について、「市のオンライン手続を知らない」の割合を性・年齢別に見ると、女性-20代以下（60.5%）が全体より高く、男性-20代以下（56.7%）が全体よりやや高くなっています。

「その他の手続（粗大ごみ収集の申込み等）」の割合を性・年齢別に見ると、女性-50代（52.6%）が全体より高く、女性-40代（42.9%）が全体よりやや高くなっています。

(5) 特に力を入れて欲しいオンライン手続

問 42 行政手続のデジタル化を推進するために、特に力を入れて欲しいオンライン手続を選んでください。(〇はいくつでも)

<図表 42-1>特に力を入れて欲しいオンライン手続



<調査結果>

特に力を入れて欲しいオンライン手続について聞いたところ、「証明書等の交付」(56.7%)が5割半ばを超え最も高く、次いで、「福祉関係」(25.5%)、「スポーツ施設や集会施設の予約」(21.0%)となっています。

<図表 42-2>特に力を入れて欲しいオンライン手続／性・年齢別

		n	証明書等の交付	福祉関係	スポーツ施設や集会施設の予約	イベントや講座の申込み	子育てや保育関係	防災関係	学校関係	建設や都市整備関係	その他	特にない
全体		903	56.7	25.5	21.0	19.3	17.8	17.2	16.5	4.7	1.8	22.6
性・年齢別	男性全体	381	57.2	24.9	21.5	14.4	17.3	19.9	17.3	5.8	1.3	21.8
	男性-20代以下	30	50.0	16.7	16.7	6.7	23.3	6.7	30.0	3.3	0.0	30.0
	男性-30代	38	73.7	18.4	28.9	13.2	52.6	23.7	31.6	10.5	0.0	10.5
	男性-40代	59	64.4	18.6	27.1	10.2	22.0	22.0	30.5	5.1	3.4	23.7
	男性-50代	69	60.9	29.0	24.6	13.0	15.9	20.3	15.9	4.3	0.0	18.8
	男性-60代	90	56.7	25.6	17.8	15.6	10.0	15.6	7.8	4.4	0.0	24.4
	男性-70代以上	94	46.8	28.7	18.1	20.2	5.3	24.5	9.6	7.4	3.2	22.3
	女性全体	487	57.7	25.7	21.4	23.4	18.7	14.8	16.2	3.9	1.6	23.2
	女性-20代以下	38	71.1	18.4	21.1	21.1	36.8	13.2	39.5	5.3	0.0	21.1
	女性-30代	54	72.2	18.5	24.1	27.8	46.3	16.7	33.3	3.7	1.9	7.4
	女性-40代	70	62.9	28.6	21.4	24.3	35.7	18.6	32.9	7.1	1.4	10.0
	女性-50代	95	71.6	33.7	31.6	33.7	11.6	16.8	10.5	1.1	0.0	11.6
	女性-60代	101	56.4	22.8	23.8	25.7	7.9	13.9	5.9	2.0	2.0	29.7
	女性-70代以上	126	36.5	26.2	11.1	12.7	6.3	11.9	5.6	5.6	3.2	39.7

<調査結果>

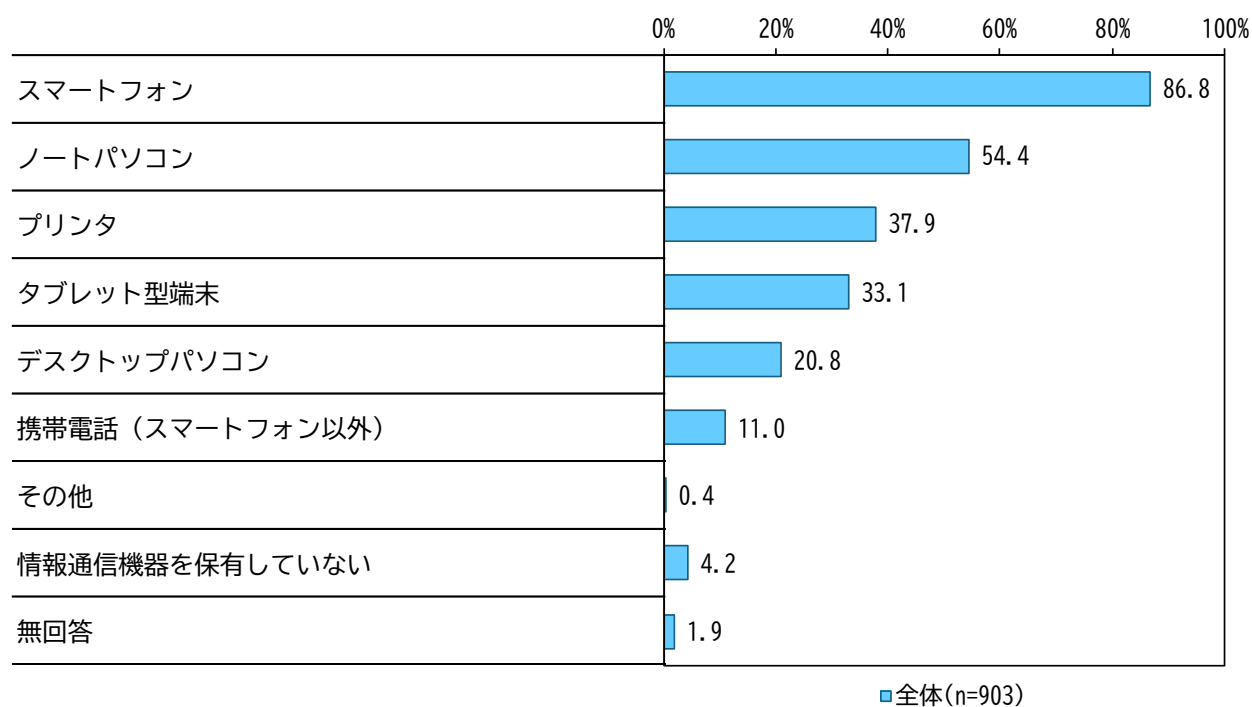
特に力を入れて欲しいオンライン手続について、「証明書等の交付」の割合を性・年齢別に見ると、男性-30代（73.7%）、女性-30代（72.2%）が全体より高く、女性-20代以下（71.1%）、女性-50代（71.6%）が全体よりやや高くなっています。一方で、女性-70代以上（36.5%）が全体より低くなっています。

「学校関係」の割合を性・年齢別に見ると、男性・女性ともに20代以下から40代にかけて、全体より高い傾向にあります。

(6) 世帯で保有している情報通信機器

問43 行政手続のデジタル化を進める上で伺います。あなたの世帯で保有している情報通信機器を次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

<図表 43-1> 世帯で保有している情報通信機器



<調査結果>

世帯で保有している情報通信機器について聞いたところ、「スマートフォン」(86.8%)が8割半ばを超え最も高く、次いで、「ノートパソコン」(54.4%)が5割半ば、「プリンタ」(37.9%)が3割半ばを超えています。

一方で、「情報通信機器を保有していない」(4.2%)もわずかに回答が見られます。

<図表 43-2> 世帯で保有している情報通信機器／ライフステージ別

		n	スマートフォン	ノートパソコン	プリンタ	タブレット型端末	デスクトップパソコン	携帯電話（スマートフォン以外）	その他	情報通信機器を保有していない	無回答
全体		903	86.8	54.4	37.9	33.1	20.8	11.0	0.4	4.2	1.9
ライフステージ別	独身期	76	90.8	63.2	32.9	39.5	30.3	5.3	1.3	5.3	0.0
	家族形成期	60	98.3	70.0	18.3	41.7	8.3	1.7	1.7	0.0	0.0
	家族成長前期	67	98.5	65.7	52.2	67.2	22.4	7.5	0.0	0.0	1.5
	家族成長後期	44	100.0	79.5	56.8	56.8	20.5	9.1	0.0	0.0	0.0
	家族成熟期	203	92.6	62.6	47.8	35.0	23.2	7.4	0.5	1.0	1.5
	高齢期	59	76.3	61.0	44.1	28.8	25.4	23.7	0.0	3.4	6.8
	高齢者世帯	146	83.6	45.9	43.2	20.5	26.0	12.3	0.0	5.5	2.1
	その他	198	80.8	39.4	23.7	24.2	15.2	12.6	0.5	7.1	1.0

<調査結果>

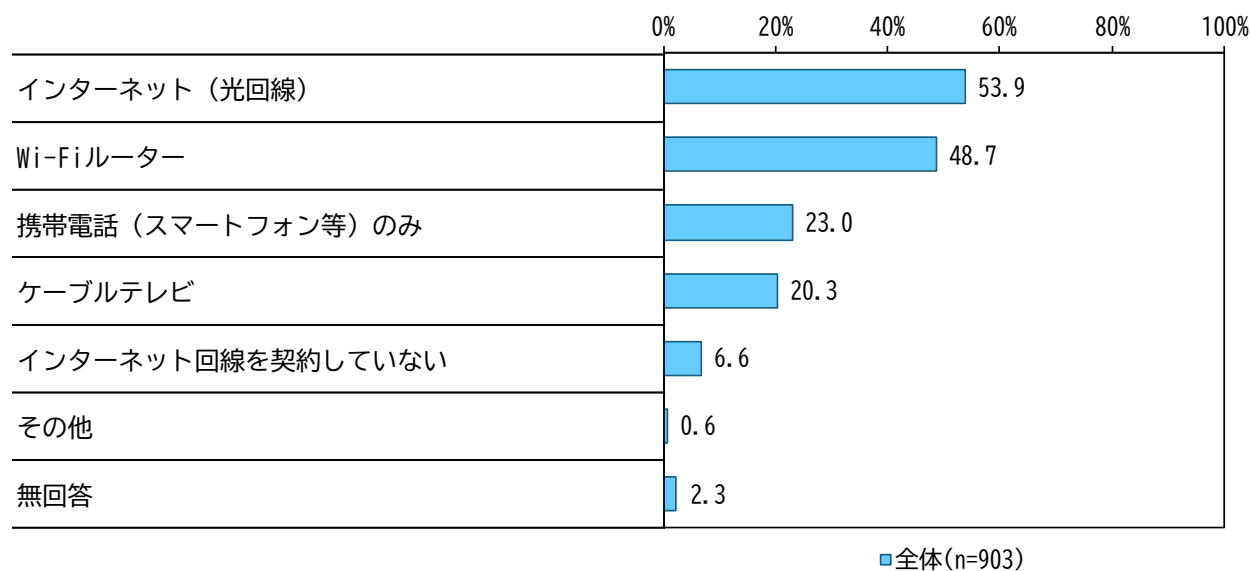
世帯で保有している情報通信機器について、高齢期と全体の割合を比較すると、「携帯電話（スマートフォン以外）」(23.7%)が全体よりやや高くなっています。一方で、「スマートフォン」(76.3%)が全体よりやや低くなっています。

ライフステージが若年層では、「スマートフォン」、「ノートパソコン」、「タブレット型端末」の割合が全体より高い傾向にあり、様々な情報通信機器を保有していることが伺えます。

(7) 世帯のインターネット環境

問 44 あなたの世帯のインターネット環境を次の中から選んでください。(○はいくつでも)

<図表 44-1> 世帯のインターネット環境



<調査結果>

世帯のインターネット環境について聞いたところ、「インターネット（光回線）」（53.9%）が5割を超え最も高く、次いで、「Wi-Fi ルーター」（48.7%）が5割近くとなっています。また、「携帯電話（スマートフォン等）のみ」（23.0%）、「ケーブルテレビ」（20.3%）が2割台となっています。

一方で、「インターネット回線を契約していない」（6.6%）もわずかに回答が見られます。

<図表 44-2> 世帯のインターネット環境／ライフステージ別

		n	インターネット (光回線)	W i - F i ル ー ター	携帯電話(スマートフォン等)のみ	ケーブルテレビ	インターネット回線を契約していない	その他	無回答
全体		903	53.9	48.7	23.0	20.3	6.6	0.6	2.3
ライフ ス テ ー ジ 別	独身期	76	55.3	61.8	11.8	14.5	1.3	1.3	0.0
	家族形成期	60	50.0	60.0	15.0	5.0	0.0	0.0	0.0
	家族成長前期	67	73.1	55.2	6.0	13.4	0.0	0.0	0.0
	家族成長後期	44	88.6	61.4	13.6	9.1	2.3	0.0	0.0
	家族成熟期	203	63.1	59.6	18.7	28.6	1.0	0.0	2.0
	高齢期	59	52.5	45.8	32.2	28.8	1.7	0.0	5.1
	高齢者世帯	146	48.6	45.2	32.2	30.1	12.3	1.4	2.7
	その他	198	40.9	31.8	29.8	15.7	13.1	1.0	1.5

<調査結果>

世帯のインターネット環境について、「携帯電話(スマートフォン等)のみ」の割合をライフステージ別に見ると、家族成長前期(6.0%)が全体より低く、独身期(11.8%)が全体よりやや低くなっています。

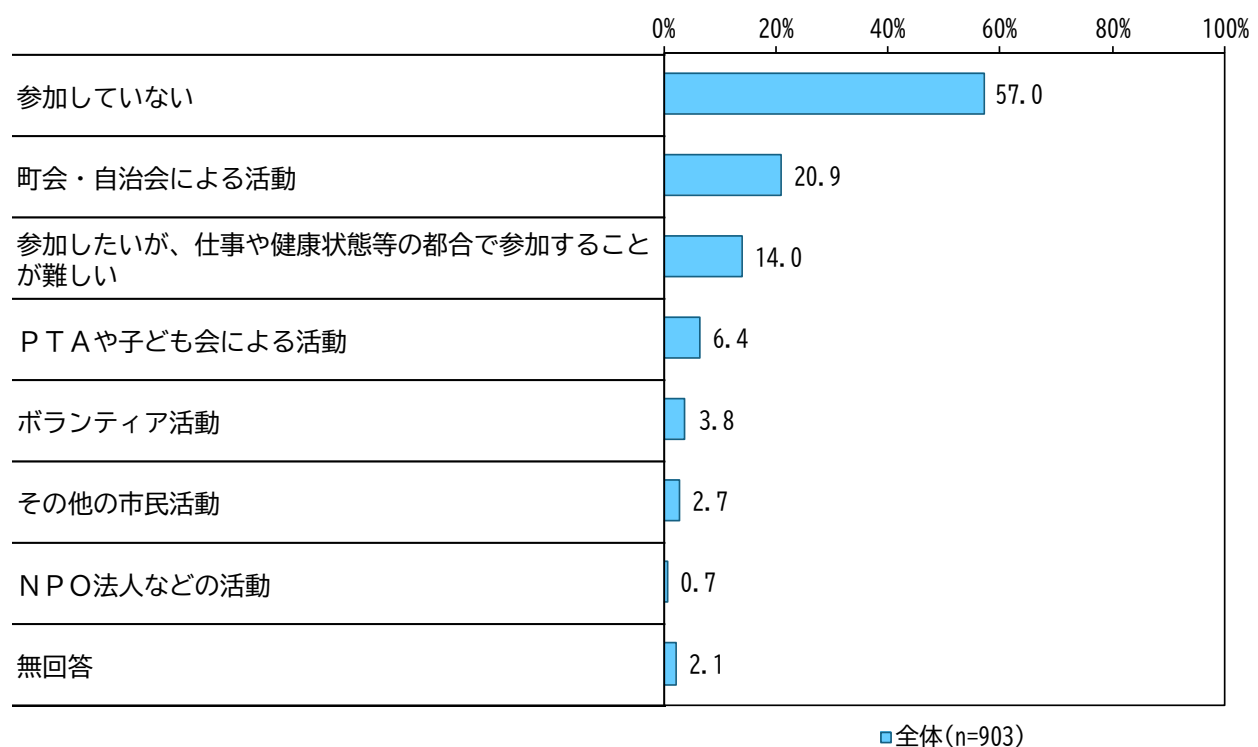
ライフステージが若年層では、「インターネット(光回線)」、「Wi-Fi ルーター」など、世帯のインターネット環境を整備している傾向にあります。

13 市民活動

(1) 参加している市民活動

問 45 地域で様々な市民活動が行われています。あなたが参加している市民活動は何ですか。
(〇はいくつでも)

<図表 45-1> 参加している市民活動



<調査結果>

参加している市民活動について聞いたところ、「参加していない」(57.0%)が5割半ばを超え最も高くなっています。このほか、「町会・自治会による活動」(20.9%)が約2割、次いで、「参加したいが、仕事や健康状態等の都合で参加することが難しい」(14.0%)、「P T Aや子ども会による活動」(6.4%)となっています。

<図表 45-2> 参加している市民活動／職業別

		参加していない	町会・自治会による活動	参加したいが、仕事や健康状態等の都合で参加することが難しい	P T A や子ども会による活動	ボランティア活動	その他の市民活動	N P O 法人などの活動	無回答
	n								
全体	903	57.0	20.9	14.0	6.4	3.8	2.7	0.7	2.1
職業別	自営業主	64	42.2	29.7	17.2	10.9	3.1	6.3	1.6
	家業従事(家業手伝い)	7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	事務・技術系勤め人	222	59.9	14.4	20.3	7.2	1.4	0.0	1.4
	労務系勤め人	97	62.9	15.5	17.5	8.2	1.0	1.0	0.0
	学生	19	68.4	5.3	15.8	5.3	5.3	5.3	0.0
	パート・アルバイト	178	56.7	23.0	10.1	9.0	3.9	2.8	2.2
	専業主婦・主夫	131	54.2	27.5	8.4	4.6	8.4	2.3	3.8
	無職	164	56.1	25.0	11.6	1.8	5.5	4.9	1.8

<調査結果>

参加している市民活動について、「参加したいが、仕事や健康状態等の都合で参加することが難しい」の割合を職業別に見ると、自営業主（17.2%）、事務・技術系勤め人（20.3%）、労務系勤め人（17.5%）、学生（15.8%）で全体より高い傾向にあります。

「参加していない」の割合を職業別に見ると、自営業主（42.2%）が全体よりやや低くなっています。

<図表 45-3> 参加している市民活動／性・年齢別

		n	参加していない	町会・自治会による活動	で参加したいが、仕事や健康状態等の都合で参加することが難しい	P T A や子ども会による活動	ボランティア活動	その他の市民活動	N P O 法人などの活動	無回答
全体		903	57.0	20.9	14.0	6.4	3.8	2.7	0.7	2.1
性・年齢別	男性全体	381	56.7	21.8	14.2	7.3	2.1	2.6	0.3	1.6
	男性-20代以下	30	66.7	6.7	20.0	6.7	3.3	0.0	0.0	0.0
	男性-30代	38	63.2	13.2	13.2	13.2	0.0	0.0	0.0	2.6
	男性-40代	59	59.3	16.9	11.9	15.3	3.4	0.0	0.0	1.7
	男性-50代	69	50.7	20.3	23.2	8.7	2.9	2.9	1.4	0.0
	男性-60代	90	63.3	24.4	10.0	4.4	0.0	3.3	0.0	0.0
	男性-70代以上	94	46.8	31.9	11.7	2.1	3.2	5.3	0.0	4.3
	女性全体	487	57.1	20.3	14.2	6.2	5.1	2.9	1.0	1.8
	女性-20代以下	38	63.2	2.6	23.7	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0
	女性-30代	54	66.7	9.3	20.4	3.7	1.9	1.9	0.0	0.0
	女性-40代	70	54.3	14.3	15.7	25.7	1.4	1.4	0.0	0.0
	女性-50代	95	65.3	18.9	12.6	6.3	1.1	1.1	0.0	0.0
	女性-60代	101	50.5	26.7	12.9	1.0	5.9	4.0	2.0	4.0
	女性-70代以上	126	52.4	28.6	10.3	0.8	11.1	5.6	0.8	4.0

<調査結果>

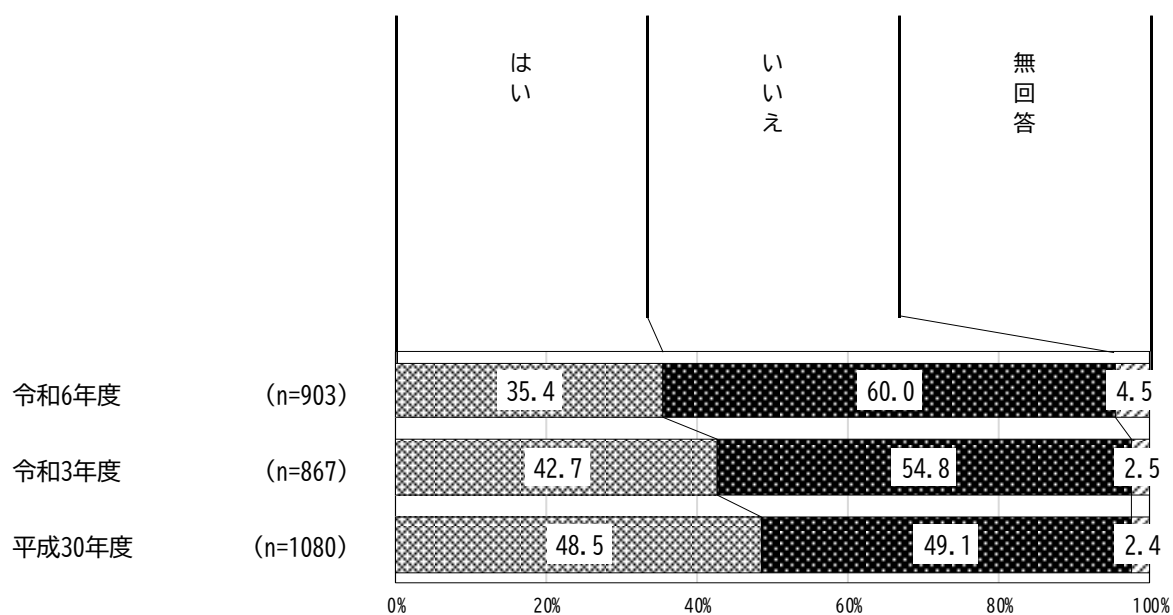
参加している市民活動について、「町会・自治会による活動」の割合を性・年齢別に見ると、男性-70代以上（31.9%）が全体よりやや高くなっています。一方で、男性・女性ともに若年層では、全体より低い傾向にあります。

「P T A や子ども会による活動」の割合を性・年齢別に見ると、女性-40代（25.7%）が全体より高くなっています。

(2) 町会・自治会への加入状況

問 46 町会・自治会は、地域の皆さんが安全で安心して暮らすための様々な活動をしています。あなたは、町会・自治会に加入していますか。(○は1つ)

<図表 46-1>町会・自治会への加入状況

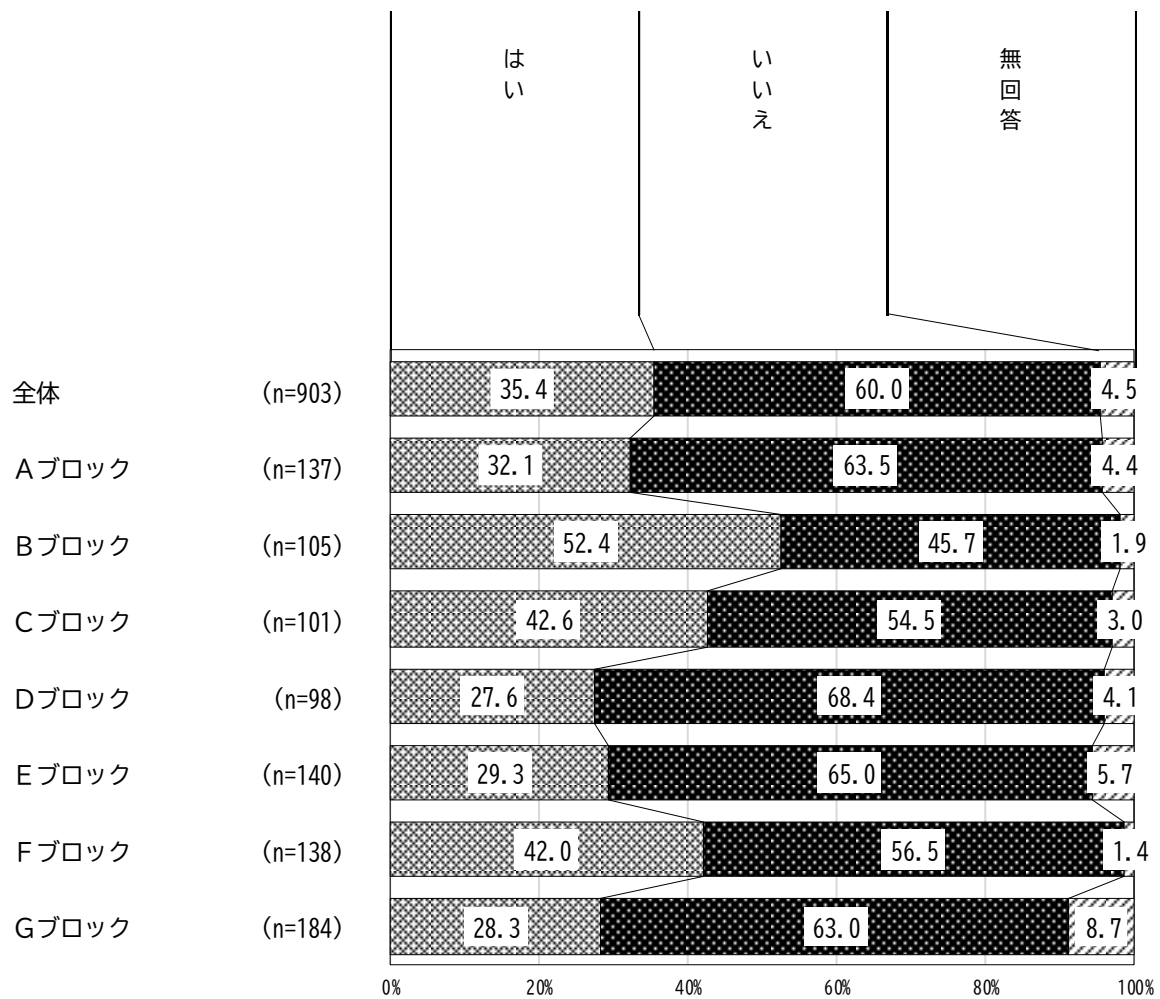


<調査結果>

町会・自治会への加入状況について聞いたところ、「はい」が35.4%、「いいえ」が60.0%となっています。

「はい」は、令和3年度（42.7%）から令和6年度（35.4%）にかけて、7.3ポイント減少しています。

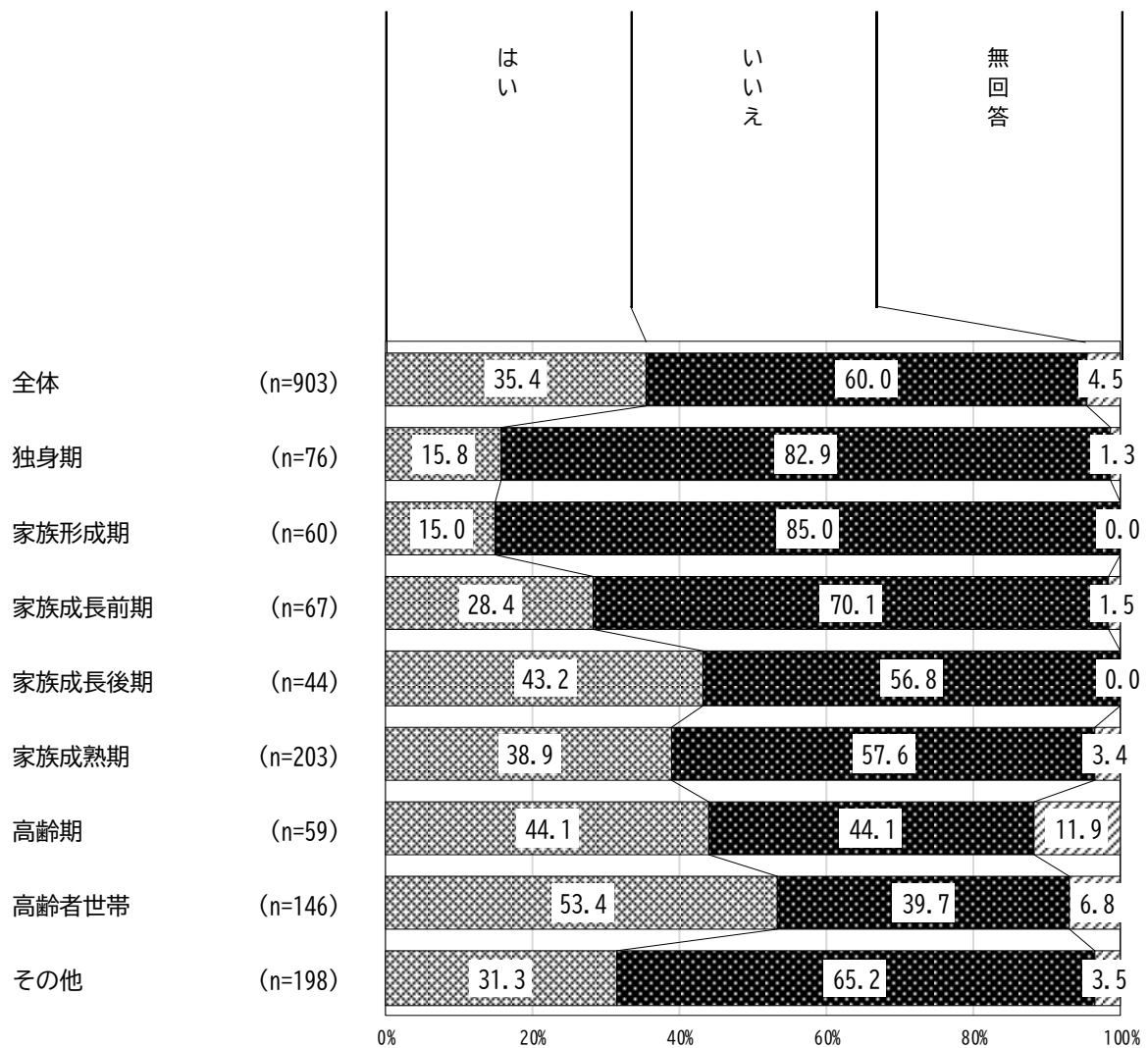
<図表 46-2> 町会・自治会への加入状況／ブロック別



<調査結果>

町会・自治会への加入状況についてブロック別に見ると、「はい」の割合は、Bブロック（52.4%）が最も高く5割を超えています。一方で、Dブロック（27.6%）、Eブロック（29.3%）、Gブロック（28.3%）が2割台となっています。最も高いブロックと最も低いブロックでは、24.8ポイント差が開いています。

<図表 46-3> 町会・自治会への加入状況／ライフステージ別



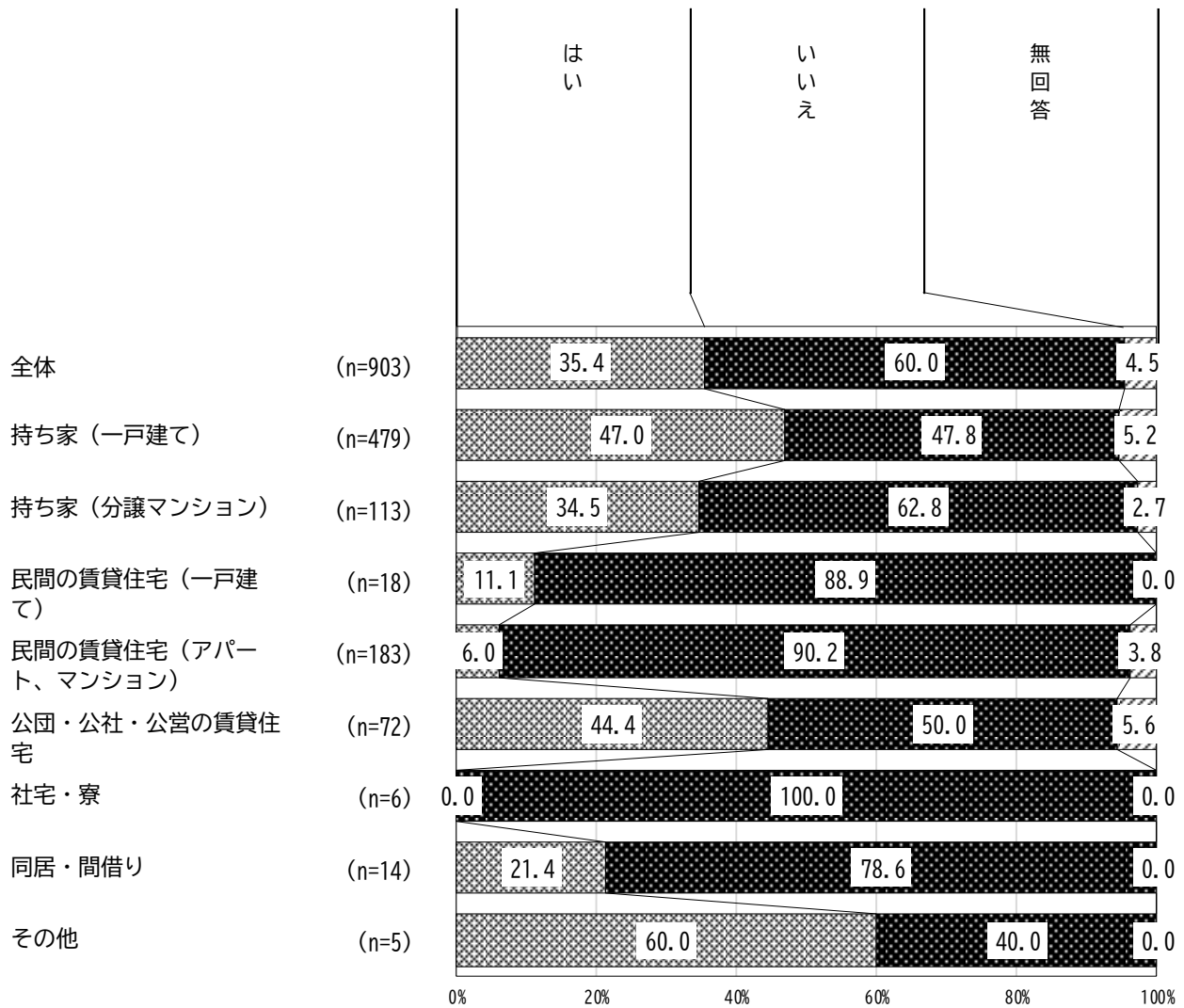
<調査結果>

町会・自治会への加入状況についてライフステージ別に見ると、「はい」の割合は、高齢者世帯（53.4%）が最も高く5割を超えています。次いで、家族成長後期（43.2%）、高齢期（44.1%）が4割台となっています。一方で、家族形成期（15.0%）が最も低く、独身期（15.8%）とともに1割半ばとなっています。

最も高い高齢者世帯（53.4%）と最も低い家族形成期（15.0%）では、38.4ポイント差が開いています。

ライフステージが高くなるにつれて、「はい」の割合がおおむね上昇する傾向が見られます。

<図表 46-4> 町会・自治会への加入状況／住居形態別



<調査結果>

町会・自治会への加入状況について住居形態別に見ると、「はい」の割合は、その他（60.0%）が最も高く6割となっています。次いで、持ち家（一戸建て）（47.0%）、公団・公社・公営の賃貸住宅（44.4%）が4割台となっています。一方で、社宅・寮（0.0%）、民間の賃貸住宅（アパート、マンション）（6.0%）が1割未満となっています。

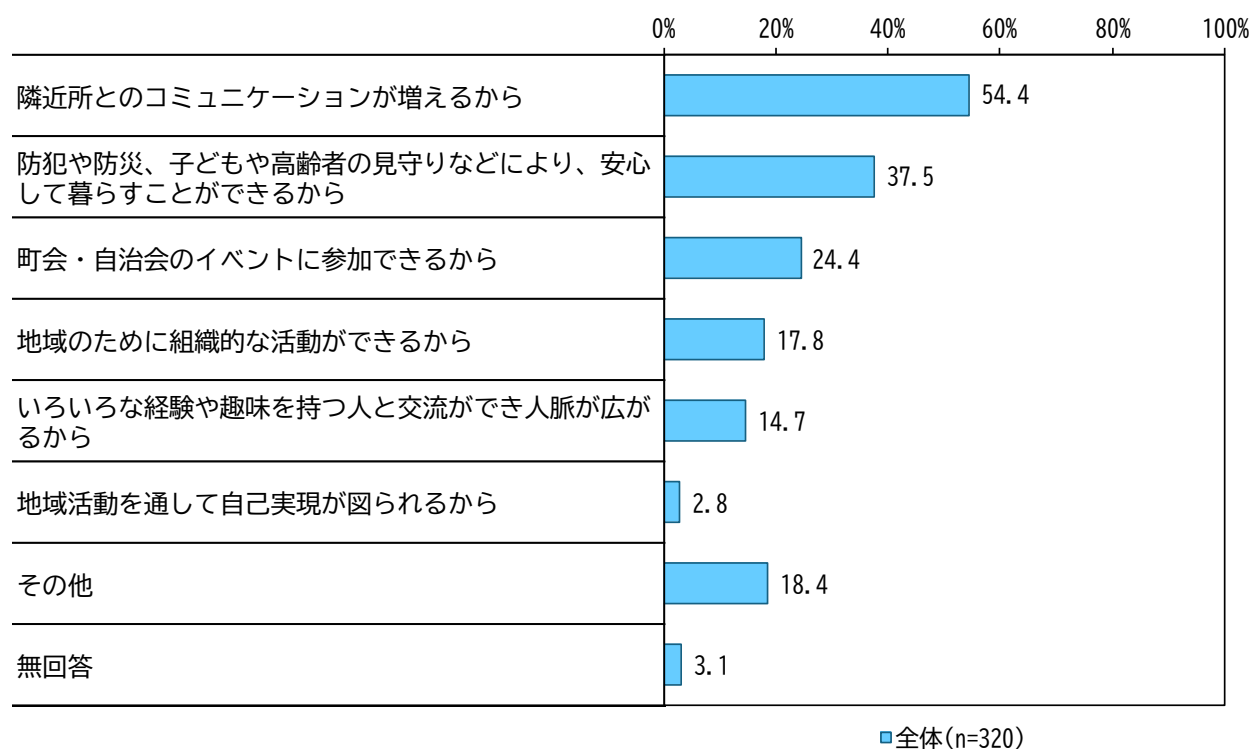
「はい」の割合は、持ち家（一戸建て、分譲マンション）が高い傾向にあり、民間の賃貸住宅（一戸建て、アパート、マンション）を大きく上回っています。

(2-1) 町会・自治会へ加入している理由

問 46 で「1 はい」と回答した方に伺います。

問 46 -1 加入している理由は何ですか。(○は3つまで)

<図表 46-1-1> 町会・自治会へ加入している理由



<調査結果>

町会・自治会へ加入している理由について聞いたところ、「隣近所とのコミュニケーションが増えるから」(54.4%) が5割半ばと最も高く、次いで、「防犯や防災、子どもや高齢者の見守りなどにより、安心して暮らすことができるから」(37.5%) が3割半ばを超え、「町会・自治会のイベントに参加できるから」(24.4%) が2割半ばとなっています。

<図表 46-1-2> 町会・自治会へ加入している理由／ライフステージ別

		n	隣近所とのコミュニケーションが増えるから	防犯や防災、子どもや高齢者の見守りなどにより、安心して暮らすことができるから	町会・自治会のイベントに参加できるから	地域のために組織的な活動ができるから	脈が広がるから	いろいろな経験や趣味を持つ人と交流ができるから	地域活動を通して自己実現が図られるから	その他	無回答
全体		320	54.4	37.5	24.4	17.8	14.7	2.8	18.4	3.1	
ライフステージ別	独身期	12	25.0	50.0	16.7	8.3	8.3	0.0	8.3	8.3	
	家族形成期	9	66.7	22.2	22.2	22.2	22.2	0.0	22.2	0.0	
	家族成長前期	19	52.6	42.1	15.8	26.3	10.5	0.0	21.1	0.0	
	家族成長後期	19	47.4	47.4	21.1	15.8	15.8	0.0	15.8	5.3	
	家族成熟期	79	63.3	38.0	21.5	19.0	15.2	0.0	17.7	0.0	
	高齢期	26	50.0	38.5	30.8	19.2	15.4	3.8	11.5	7.7	
	高齢者世帯	78	59.0	42.3	35.9	17.9	14.1	2.6	15.4	2.6	
	その他	62	48.4	24.2	14.5	11.3	16.1	9.7	25.8	6.5	

<調査結果>

町会・自治会へ加入している理由について、家族形成期と全体の割合を比較すると、「隣近所とのコミュニケーションが増えるから」(66.7%)が全体よりやや高く、「防犯や防災、子どもや高齢者の見守りなどにより、安心して暮らすことができるから」(22.2%)が全体より低くなっています。

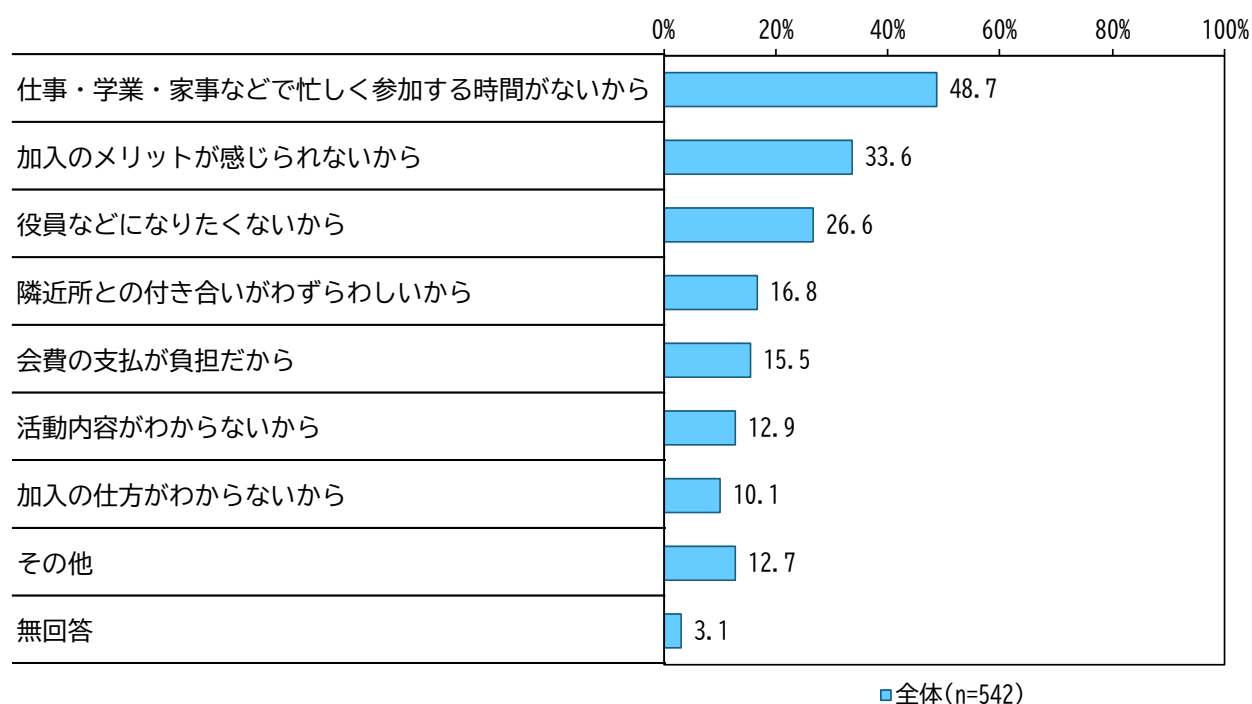
「町会・自治会のイベントに参加できるから」の割合をライフステージ別に見ると、高齢者世帯(35.9%)が全体よりやや高くなっています。

(2-2) 町会・自治会へ加入していない理由

問 46 で「2 いいえ」と回答した方に伺います。

問 46 -2 加入しない理由は何ですか。(○は3つまで)

<図表 46-2-1>町会・自治会へ加入していない理由



<調査結果>

町会・自治会へ加入していない理由について聞いたところ、「仕事・学業・家事などで忙しく参加する時間がないから」(48.7%)が5割近くと最も高く、次いで、「加入のメリットが感じられないから」(33.6%)が3割を超え、「役員などになりたくないから」(26.6%)が2割半ばを超えています。

また、「加入の仕方がわからないから」(10.1%)という回答も約1割見られます。

<図表 46-2-2>町会・自治会へ加入していない理由／ライフステージ別

		n	仕事・学業・家事などで忙しく参加する時間がないから	加入のメリットが感じられないから	役員などになりたくないから	隣近所との付き合いがわずらわしいから	会費の支払が負担だから	活動内容がわからないから	加入の仕方がわからないから	その他	無回答
全体		542	48.7	33.6	26.6	16.8	15.5	12.9	10.1	12.7	3.1
ライフステージ別	独身期	63	73.0	25.4	19.0	14.3	12.7	9.5	11.1	6.3	3.2
	家族形成期	51	64.7	23.5	21.6	13.7	21.6	17.6	21.6	5.9	2.0
	家族成長前期	47	55.3	51.1	31.9	10.6	14.9	12.8	10.6	10.6	2.1
	家族成長後期	25	52.0	44.0	48.0	16.0	12.0	8.0	4.0	4.0	0.0
	家族成熟期	117	52.1	35.9	35.0	17.9	17.1	12.0	8.5	15.4	0.9
	高齢期	26	23.1	34.6	30.8	15.4	3.8	7.7	0.0	19.2	7.7
	高齢者世帯	58	20.7	41.4	27.6	22.4	5.2	13.8	8.6	22.4	6.9
	その他	129	48.1	27.9	18.6	17.1	20.9	16.3	10.9	11.6	3.9

<調査結果>

町会・自治会へ加入していない理由について、「加入のメリットが感じられないから」の割合をライフステージ別に見ると、家族成長前期（51.1%）が全体より高く、家族成長後期（44.0%）が全体よりやや高くなっています。

「役員などになりたくないから」の割合をライフステージ別に見ると、家族成長後期（48.0%）が全体より高くなっています。

ライフステージが若年層では、「仕事・学業・家事などで忙しく参加する時間がないから」の割合が全体より高い傾向にあります。

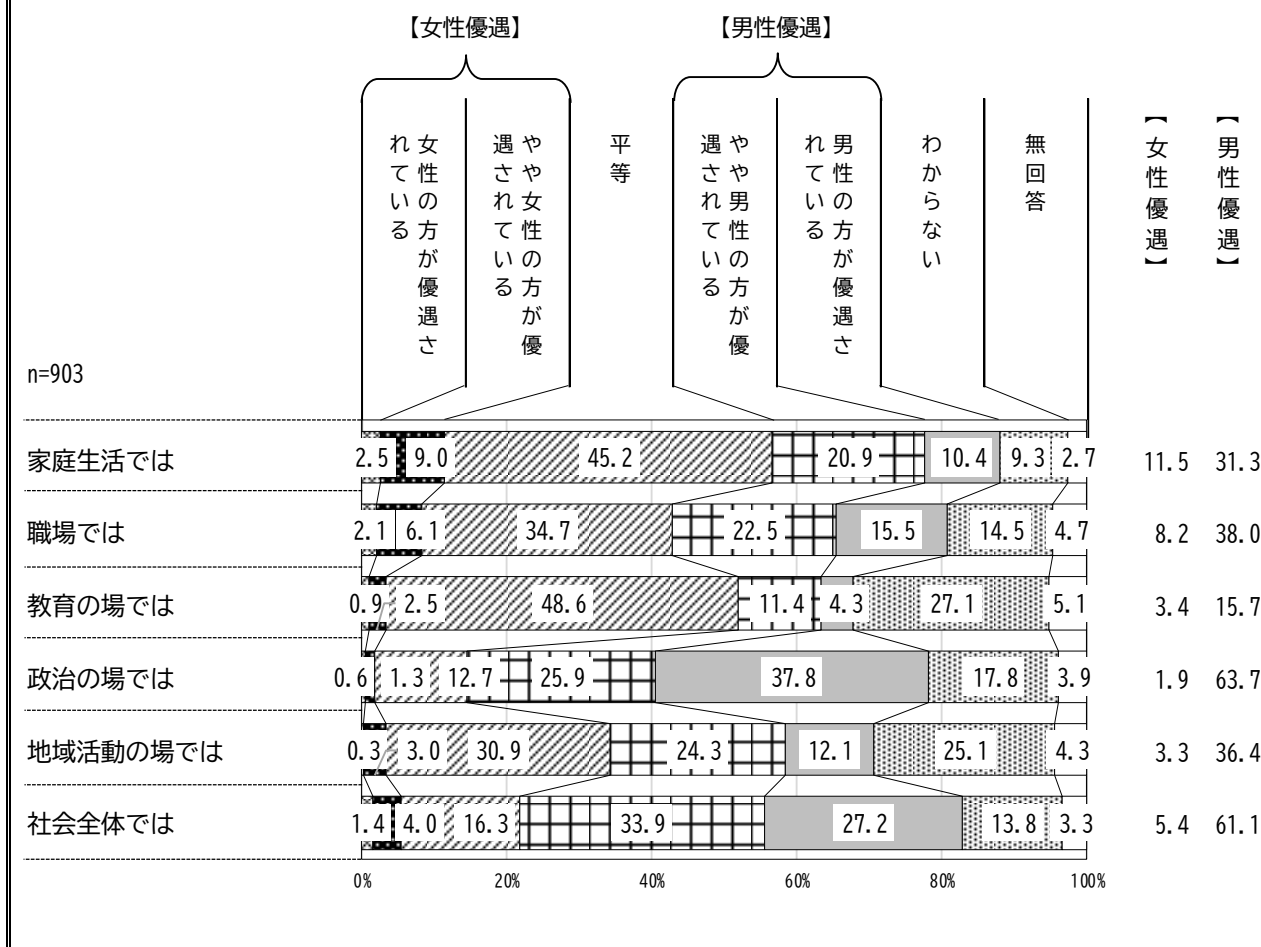
14 男女共同参画

(1) 男女の地位の平等感

問 47 あなたの身近なそれぞれの場において、男女の地位は平等になっていると思いますか。各項目について、それぞれ1つずつ番号を選んでください。

※その場にいない場合でも、周りを見て最も近いと感じるものをお選びください。

<図表 47-1>男女の地位の平等感



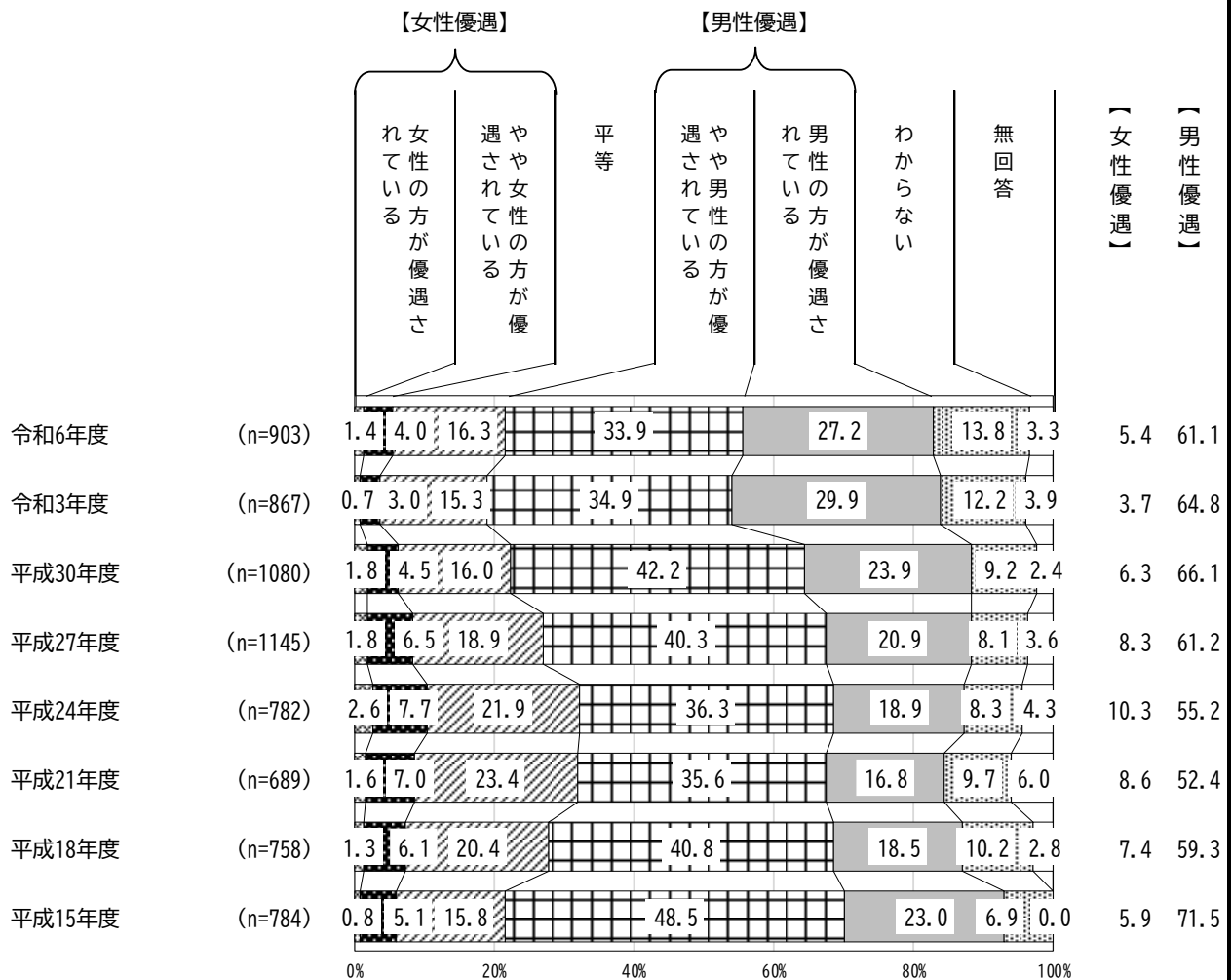
<調査結果>

男女の地位の平等感について聞いたところ、「平等」は、「教育の場では」(48.6%)が最も高く5割近く、次いで、「家庭生活では」(45.2%)、「職場では」(34.7%)となっています。

「女性の方が優遇されている」と「やや女性の方が優遇されている」を合計した【女性優遇】は、「家庭生活では」(11.5%)が最も高く1割を超えています。

「男性の方が優遇されている」と「やや男性の方が優遇されている」を合計した【男性優遇】は、「政治の場では」(63.7%)が最も高く6割を超えています。

<図表 47-2> 男女の地位の平等感「社会全体では」／過年度推移



<調査結果>

男女の地位の平等感「社会全体では」について、過年度推移を見ると、令和6年度は【男性優遇】(61.1%)が6割を超えており、令和3年度(64.8%)から3.7ポイント減少しています。また、【女性優遇】(5.4%)が令和3年度(3.7%)から1.7ポイント増加しています。

「平等」について、過年度推移を見ると、平成15年度(15.8%)から上昇を続けていたものの、平成21年度(23.4%)をピークに減少し、令和6年度(16.3%)では1割半ばとなっています。

<図表 47-3> 男女の地位の平等感／性・年齢別

		n	家庭生活では				
			【女性優遇】	平等	【男性優遇】	わからない	無回答
全体		903	11.5	45.2	31.3	9.3	2.7
性・年齢別	男性全体	381	13.9	52.8	19.9	12.3	1.1
	男性-20代以下	30	16.7	56.7	10.0	16.7	0.0
	男性-30代	38	15.8	60.5	10.5	13.2	0.0
	男性-40代	59	16.9	42.4	25.4	15.3	0.0
	男性-50代	69	18.8	40.6	24.6	14.5	1.4
	男性-60代	90	12.2	61.1	18.9	6.7	1.1
	男性-70代以上	94	8.5	56.4	20.2	12.8	2.1
	女性全体	487	9.7	40.5	41.3	7.0	1.6
	女性-20代以下	38	15.8	47.4	26.3	10.5	0.0
	女性-30代	54	11.1	53.7	31.5	3.7	0.0
	女性-40代	70	7.1	45.7	35.7	10.0	1.4
	女性-50代	95	9.5	38.9	47.4	4.2	0.0
	女性-60代	101	8.9	41.6	39.6	7.9	2.0
	女性-70代以上	126	9.5	30.2	49.2	7.1	4.0

職場では				
【女性優遇】	平等	【男性優遇】	わからない	無回答
8.2	34.7	38.0	14.5	4.7
11.8	41.5	30.4	13.1	3.2
13.3	60.0	6.7	20.0	0.0
21.1	47.4	28.9	2.6	0.0
18.6	32.2	33.9	13.6	1.7
20.3	42.0	31.9	5.8	0.0
5.6	53.3	31.1	7.8	2.2
2.1	27.7	35.1	25.5	9.6
5.5	30.6	44.6	15.6	3.7
13.2	39.5	31.6	13.2	2.6
11.1	29.6	42.6	14.8	1.9
5.7	40.0	48.6	4.3	1.4
6.3	43.2	36.8	13.7	0.0
3.0	22.8	57.4	14.9	2.0
2.4	20.6	41.3	25.4	10.3

		n	教育の場では				
			【女性優遇】	平等	【男性優遇】	わからない	無回答
全体		903	3.4	48.6	15.7	27.1	5.1
性・年齢別	男性全体	381	5.0	54.1	13.1	24.1	3.7
	男性-20代以下	30	6.7	50.0	6.7	30.0	6.7
	男性-30代	38	7.9	65.8	7.9	18.4	0.0
	男性-40代	59	6.8	54.2	8.5	27.1	3.4
	男性-50代	69	5.8	49.3	17.4	26.1	1.4
	男性-60代	90	5.6	65.6	12.2	14.4	2.2
	男性-70代以上	94	1.1	43.6	17.0	30.9	7.4
	女性全体	487	2.5	46.4	18.1	29.0	4.1
	女性-20代以下	38	7.9	57.9	10.5	23.7	0.0
	女性-30代	54	5.6	46.3	18.5	29.6	0.0
	女性-40代	70	2.9	55.7	15.7	22.9	2.9
	女性-50代	95	2.1	40.0	22.1	34.7	1.1
	女性-60代	101	1.0	49.5	19.8	25.7	4.0
	女性-70代以上	126	0.8	40.5	15.9	32.5	10.3

政治の場では				
【女性優遇】	平等	【男性優遇】	わからない	無回答
1.9	12.7	63.7	17.8	3.9
3.2	21.0	57.7	16.0	2.1
3.3	23.3	36.7	33.3	3.3
5.3	28.9	44.7	21.1	0.0
8.5	18.6	59.3	11.9	1.7
2.9	20.3	58.0	18.8	0.0
1.1	20.0	66.7	8.9	3.3
1.1	20.2	59.6	16.0	3.2
1.0	7.0	69.6	19.3	3.1
5.3	10.5	57.9	26.3	0.0
1.9	5.6	75.9	13.0	3.7
0.0	7.1	74.3	17.1	1.4
1.1	5.3	72.6	20.0	1.1
0.0	6.9	68.3	21.8	3.0
0.8	7.9	65.9	19.0	6.3

<図表 47-4> 男女の地位の平等感／性・年齢別

		n	地域活動の場では					社会全体では				
			【女性優遇】	平等	【男性優遇】	わからない	無回答	【女性優遇】	平等	【男性優遇】	わからない	無回答
全体		903	3.3	30.9	36.4	25.1	4.3	5.4	16.3	61.1	13.8	3.3
性・年齢別	男性全体	381	5.0	41.2	29.9	21.5	2.4	9.2	23.9	52.0	12.6	2.4
	男性-20代以下	30	0.0	50.0	20.0	26.7	3.3	16.7	26.7	20.0	30.0	6.7
	男性-30代	38	2.6	55.3	18.4	23.7	0.0	21.1	26.3	42.1	10.5	0.0
	男性-40代	59	6.8	45.8	23.7	22.0	1.7	15.3	20.3	50.8	11.9	1.7
	男性-50代	69	4.3	33.3	31.9	26.1	4.3	8.7	26.1	56.5	7.2	1.4
	男性-60代	90	8.9	36.7	37.8	14.4	2.2	4.4	23.3	60.0	8.9	3.3
	男性-70代以上	94	3.2	39.4	33.0	22.3	2.1	2.1	23.4	56.4	16.0	2.1
	女性全体	487	2.3	24.2	42.5	27.5	3.5	2.5	11.3	70.0	14.6	1.6
	女性-20代以下	38	0.0	31.6	28.9	39.5	0.0	2.6	23.7	55.3	18.4	0.0
	女性-30代	54	3.7	24.1	31.5	38.9	1.9	5.6	7.4	79.6	7.4	0.0
	女性-40代	70	2.9	24.3	47.1	24.3	1.4	4.3	10.0	72.9	11.4	1.4
	女性-50代	95	1.1	21.1	49.5	27.4	1.1	4.2	11.6	71.6	11.6	1.1
	女性-60代	101	1.0	21.8	49.5	24.8	3.0	0.0	7.9	73.3	17.8	1.0
	女性-70代以上	126	3.2	27.0	37.3	23.8	8.7	0.8	12.7	64.3	18.3	4.0

<調査結果>

男女の地位の平等感の「地域活動の場では」について、「平等」の割合を性・年齢別に見ると、男性全体（41.2%）が全体よりやや高くなっています。一方で、女性全体が24.2%となっています。

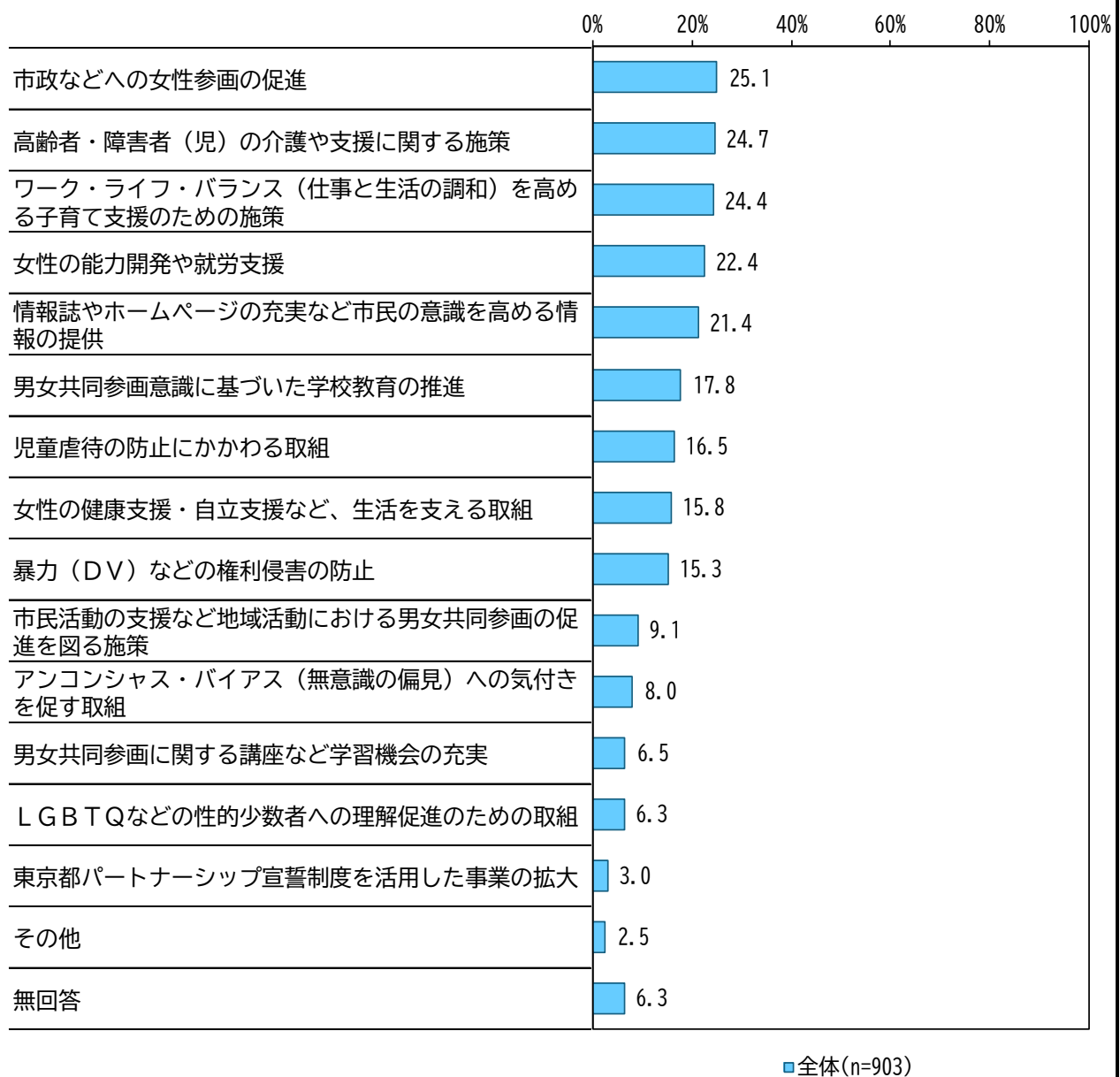
「社会全体では」について、【女性優遇】の割合を性・年齢別に見ると、男性-30代（21.1%）が全体より高く、男性-20代以下（16.7%）が全体よりやや高くなっています。一方で、【男性優遇】の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代から女性-60代にかけて、全体に比べて高い傾向にあります。

「教育の場では」の割合を性・年齢別に見ると、【女性優遇】・【男性優遇】ともに、全体と比べて10ポイント以上の差がある性・年齢は見られません。

(2) 男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべき取組

問 48 男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべきと思う取組はどのようなことですか。(〇は3つまで)

<図表 48-1>男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべき取組



<調査結果>

男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべき取組について聞いたところ、「市政などへの女性参画の促進」(25.1%)が2割半ばと最も高く、「高齢者・障害者（児）の介護や支援に関する施策」(24.7%)、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を高める子育て支援のための施策」(24.4%)もそれぞれ2割半ばとなっています。

<図表 48-2> 男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべき取組(上位 10 項目)／性・年齢別

		n	市政などへの女性参画の促進	高齢者・障害者（児）の介護や支援に関する施策	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を高める子育て支援のための施策	女性の能力開発や就労支援	情報誌やホームページの充実など市民の意識を高める情報の提供	男女共同参画意識に基づいた学校教育の推進	児童虐待の防止にかかわる取組	女性の健康支援・自立支援など、生活を支える取組	暴力（DV）などの権利侵害の防止	市民活動の支援など地域活動における男女共同参画の促進を図る施策
全体		903	25.1	24.7	24.4	22.4	21.4	17.8	16.5	15.8	15.3	9.1
性・年齢別	男性全体	381	28.3	22.6	24.4	16.8	26.0	19.2	16.8	9.7	15.7	12.1
	男性-20代以下	30	13.3	13.3	30.0	23.3	13.3	23.3	23.3	13.3	16.7	6.7
	男性-30代	38	15.8	13.2	39.5	13.2	21.1	18.4	31.6	5.3	23.7	5.3
	男性-40代	59	28.8	15.3	35.6	13.6	25.4	25.4	16.9	11.9	23.7	3.4
	男性-50代	69	27.5	20.3	24.6	15.9	30.4	14.5	17.4	8.7	8.7	8.7
	男性-60代	90	34.4	22.2	21.1	14.4	25.6	20.0	12.2	8.9	15.6	21.1
	男性-70代以上	94	33.0	36.2	12.8	21.3	29.8	17.0	12.8	10.6	12.8	14.9
	女性全体	487	23.6	27.1	24.2	27.1	18.3	17.5	17.2	21.1	15.0	7.4
	女性-20代以下	38	18.4	10.5	50.0	31.6	10.5	21.1	18.4	13.2	10.5	10.5
	女性-30代	54	18.5	16.7	50.0	38.9	7.4	14.8	16.7	25.9	16.7	5.6
	女性-40代	70	21.4	17.1	28.6	31.4	17.1	22.9	10.0	22.9	14.3	4.3
	女性-50代	95	22.1	30.5	27.4	28.4	16.8	25.3	17.9	15.8	18.9	2.1
	女性-60代	101	24.8	29.7	14.9	25.7	23.8	10.9	21.8	23.8	13.9	8.9
	女性-70代以上	126	28.6	37.3	7.9	17.5	23.0	14.3	17.5	22.2	13.5	11.9

<調査結果>

男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべき取組について、「市政などへの女性参画の促進」の割合を性・年齢別に見ると、男性-20代以下（13.3%）が全体よりやや低くなっています。

男性・女性ともに若年層では、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を高める子育て支援のための施策」の割合が高い傾向にあります。

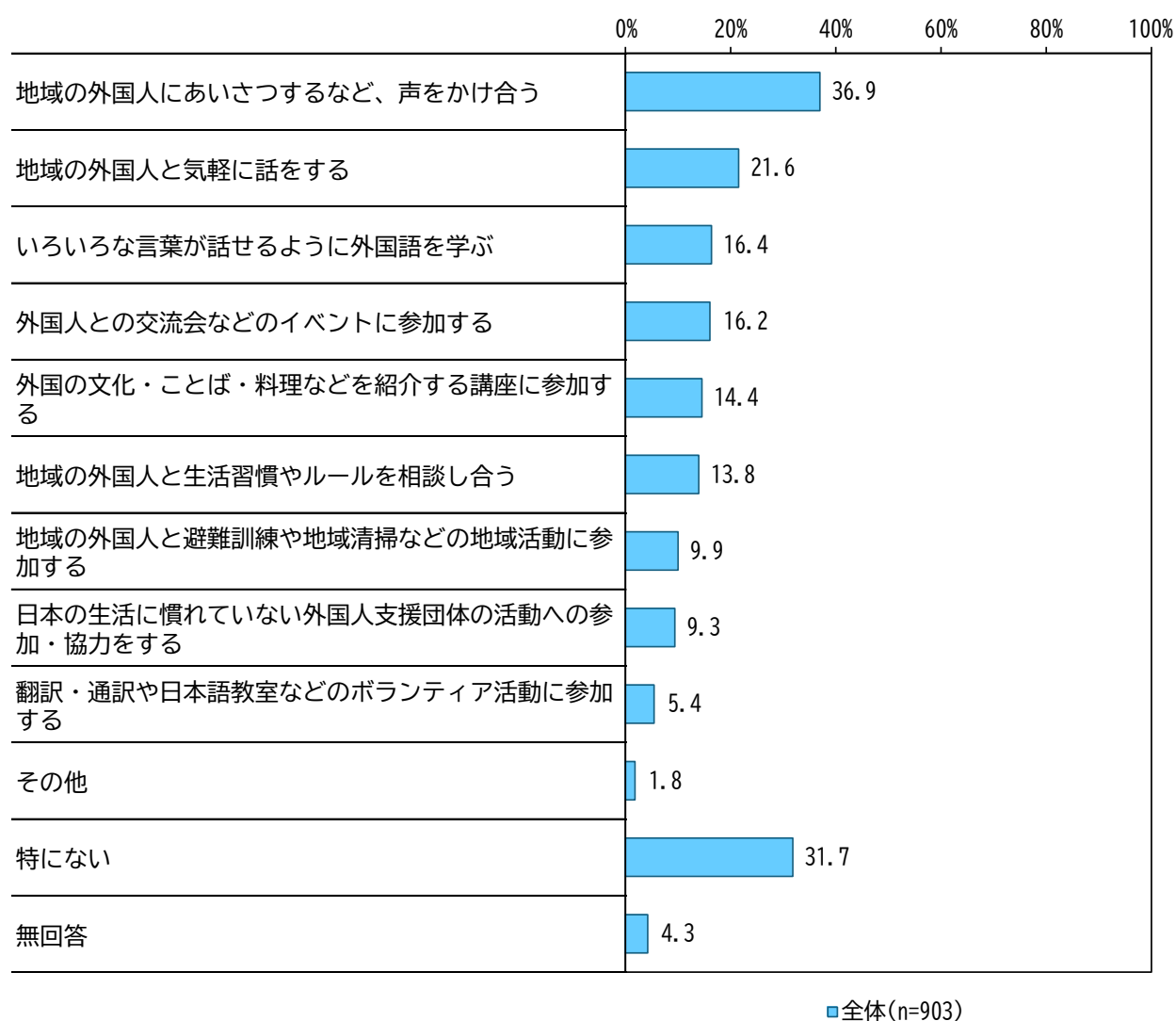
また、女性-30代と全体の割合を比較すると、「女性の能力開発や就労支援」（38.9%）、「女性の健康支援・自立支援など、生活を支える取組」（25.9%）の割合が、全体に比べて高い傾向にあります。

15 多文化共生

(1) 多文化共生の推進に向けてあなたができること・したいこと

問 49 多文化共生を進めていく上で、あなたができることや、したいと思うことを次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

<図表 49-1> 多文化共生の推進に向けてあなたができること・したいこと



<調査結果>

多文化共生の推進に向けてあなたができること・したいことについて聞いたところ、「地域の外国人にあいさつするなど、声をかけ合う」(36.9%)が3割半ばを超え最も高く、「地域の外国人と気軽に話をする」(21.6%)が2割を超えています。次いで、「いろいろな言葉が話せるように外国語を学ぶ」(16.4%)、「外国人との交流会などのイベントに参加する」(16.2%)、「外国の文化・ことば・料理などを紹介する講座に参加する」(14.4%)が1割半ばとなっています。

<図表 49-2> 多文化共生の推進に向けてあなたができること・したいこと(上位 10 項目)／性・年齢別

		n	地域の外国人と気軽に話を かける外国人にあいさつする など、声を	地域の外国人と気軽に話を する	いろいろな言葉が話せる ように外国語を 学ぶ	外国人との交流会などの イベントに参加 する	外国の文化・ことば・料 理などを紹介す る講座に参加する	地域の外国人と生活習慣 やルールを相談 し合う	地域の外国人と避難訓練 や地域清掃など の地域活動に参加する	日本の生活に慣れていない 外国人支援団 体の活動への参加・協力を する	翻訳・通訳や日本語教室 などのボラン ティア活動に参加する	その他
	全体	903	36.9	21.6	16.4	16.2	14.4	13.8	9.9	9.3	5.4	1.8
性・年齢別	男性全体	381	37.8	23.4	17.6	17.3	12.6	14.4	10.5	9.7	5.0	1.0
	男性-20代以下	30	40.0	26.7	16.7	16.7	20.0	0.0	13.3	0.0	10.0	0.0
	男性-30代	38	42.1	31.6	28.9	23.7	18.4	26.3	10.5	18.4	15.8	0.0
	男性-40代	59	35.6	25.4	15.3	27.1	15.3	16.9	15.3	8.5	5.1	3.4
	男性-50代	69	37.7	15.9	27.5	17.4	15.9	20.3	13.0	14.5	5.8	0.0
	男性-60代	90	38.9	25.6	11.1	14.4	7.8	8.9	7.8	8.9	2.2	1.1
	男性-70代以上	94	36.2	21.3	13.8	11.7	8.5	13.8	7.4	7.4	1.1	1.1
	女性全体	487	37.4	21.4	15.8	15.8	16.4	13.6	9.7	9.0	5.5	2.5
	女性-20代以下	38	28.9	21.1	39.5	26.3	13.2	15.8	18.4	7.9	13.2	2.6
	女性-30代	54	40.7	37.0	35.2	24.1	25.9	16.7	9.3	13.0	14.8	1.9
	女性-40代	70	35.7	32.9	11.4	25.7	21.4	15.7	14.3	5.7	10.0	4.3
	女性-50代	95	34.7	21.1	15.8	17.9	21.1	14.7	6.3	9.5	5.3	2.1
	女性-60代	101	40.6	15.8	12.9	7.9	12.9	8.9	5.9	11.9	2.0	2.0
	女性-70代以上	126	38.9	13.5	4.0	7.9	10.3	12.7	9.5	6.3	0.0	2.4

<調査結果>

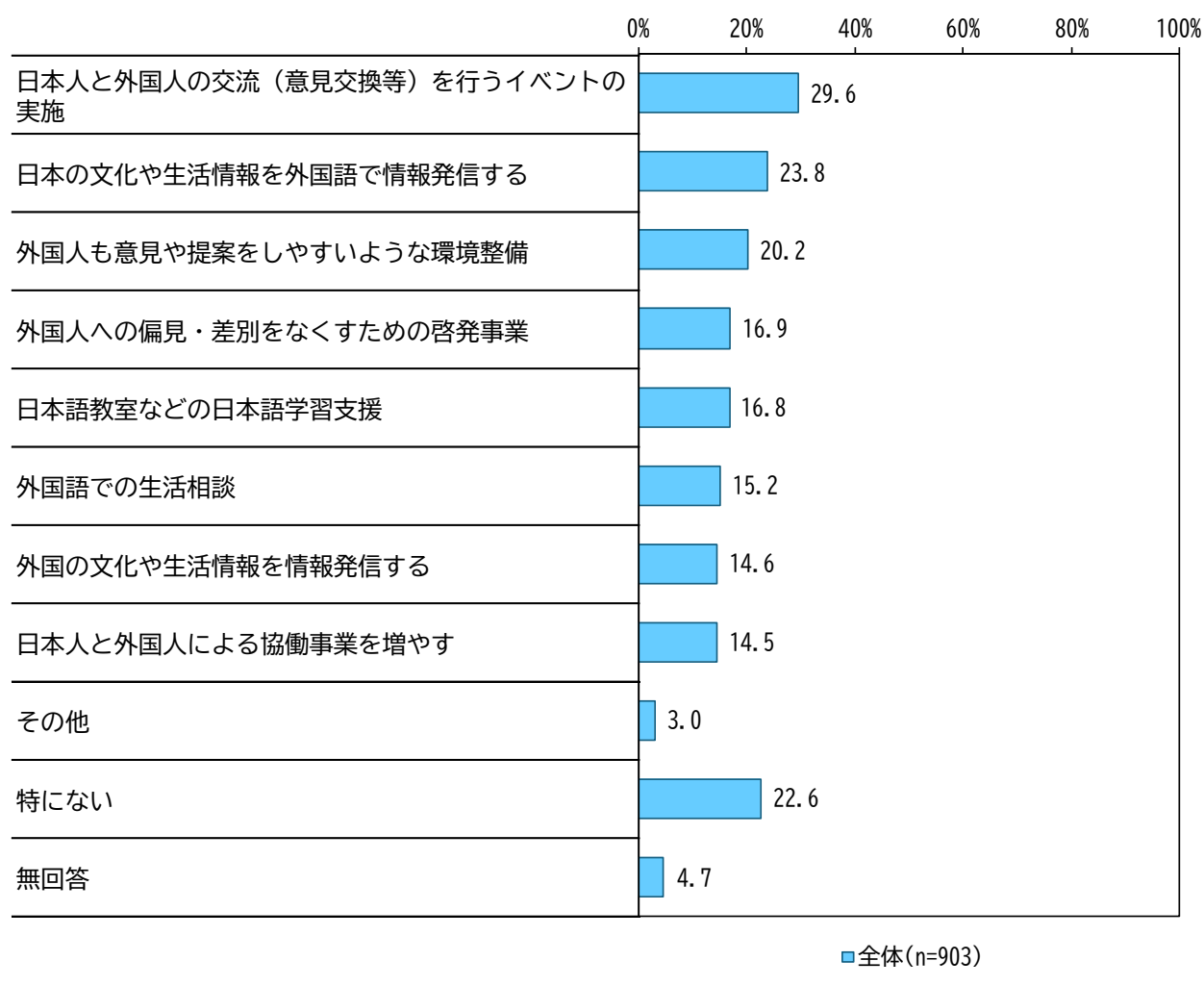
多文化共生の推進に向けてあなたができること・したいことについて、「地域の外国人と気軽に話をする」の割合を性・年齢別に見ると、女性-30代（37.0%）が全体より高く、男性-30代（31.6%）、女性-40代（32.9%）が全体よりやや高くなっています。

「地域の外国人と生活習慣やルールを相談し合う」の割合を性・年齢別に見ると、男性-30代（26.3%）が全体よりやや高くなっています。

(2) 多文化共生の推進に向けて特に力を入れるべき取組

問 50 多文化共生を進めていく上で、特に力を入れるべきだと思うことを、次の中から選んでください。(〇は3つまで)

<図表 50-1> 多文化共生の推進に向けて特に力を入れるべき取組



<調査結果>

多文化共生の推進に向けて特に力を入れるべき取組について聞いたところ、「日本人と外国人の交流（意見交換等）を行うイベントの実施」（29.6%）が約3割と最も高く、次いで、「日本の文化や生活情報を外国語で情報発信する」（23.8%）、「外国人も意見や提案をしやすいような環境整備」（20.2%）が2割台となっています。

<図表 50-2> 多文化共生の推進に向けて特に力を入れるべき取組(上位 10 項目)／性・年齢別

		n	日本人と外国人の交流（意見交換等）を行うイベントの実施	日本の文化や生活情報を外国語で情報発信する	外国人も意見や提案をしやすいような環境整備	外国人への偏見・差別をなくすための啓発事業	日本語教室などの日本語学習支援	外国語での生活相談	外国の文化や生活情報を情報発信する	日本人と外国人による協働事業を増やす	その他	特にない
全体		903	29.6	23.8	20.2	16.9	16.8	15.2	14.6	14.5	3.0	22.6
性・年齢別	男性全体	381	31.2	22.3	18.6	17.3	17.1	14.7	14.2	13.9	2.1	26.2
	男性-20代以下	30	36.7	13.3	20.0	13.3	20.0	10.0	10.0	3.3	3.3	30.0
	男性-30代	38	26.3	18.4	21.1	10.5	21.1	23.7	21.1	18.4	2.6	18.4
	男性-40代	59	37.3	23.7	18.6	18.6	15.3	10.2	13.6	10.2	3.4	25.4
	男性-50代	69	30.4	27.5	17.4	23.2	17.4	17.4	14.5	13.0	1.4	20.3
	男性-60代	90	31.1	25.6	18.9	18.9	11.1	13.3	16.7	16.7	2.2	25.6
	男性-70代以上	94	28.7	19.1	18.1	14.9	21.3	14.9	10.6	16.0	1.1	33.0
	女性全体	487	29.0	26.1	21.1	16.8	17.7	15.8	15.8	15.2	3.7	19.7
	女性-20代以下	38	36.8	18.4	18.4	21.1	34.2	18.4	13.2	13.2	0.0	18.4
	女性-30代	54	33.3	22.2	20.4	25.9	18.5	20.4	20.4	13.0	7.4	11.1
	女性-40代	70	31.4	25.7	18.6	12.9	17.1	17.1	20.0	15.7	7.1	18.6
	女性-50代	95	28.4	30.5	14.7	15.8	20.0	22.1	18.9	15.8	7.4	16.8
	女性-60代	101	24.8	36.6	28.7	15.8	14.9	17.8	14.9	15.8	0.0	14.9
	女性-70代以上	126	26.2	19.0	23.0	15.9	13.5	6.3	11.1	15.9	0.8	30.2

<調査結果>

多文化共生の推進に向けて特に力を入れるべき取組について、「日本の文化や生活情報を外国語で情報発信する」の割合を性・年齢別に見ると、女性-60代（36.6%）が全体よりやや高くなっています。一方で、男性-20代以下（13.3%）で全体よりやや低くなっています。

「日本語教室などの日本語学習支援」の割合を性・年齢別に見ると、女性-20代以下（34.2%）で全体より高くなっています。

